第十條　何某銀行何地支店ニ於テ本約條ニ基キ一時融通借ヲ請求スルトキ（至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テスルコトヲ得ヘシ）日本銀行大阪支店ニ於テ差支ナキニ於テハ第二條ノ極度額三分一ニ超過セサル金額マテ貸付スヘシ

但既ニ各種ノ取引アリテ約條金額ニ餘贏ナキトキハ貸付スルコト能ハサルヘシ

第十一條　前第十條ノ貸金ハ左ノ二種トシ其時々雙方協議ノ上之ヲ定ムヘシ尤返濟期間ハ何レモ百日以内タルヘシ

第一　返濟期日ヲ確約スルモノ

第二　返濟期限ヲ定ムルモ何某銀行支店ノ都合ニ依リ其期限内何時ニテモ返濟シ得ルコトヲ約スルモノ

第十二條　本約條取引貸借勘定ハ雙方トモ毎年五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲ爲スヘシ

第十三條　本約條ノ取引利子ハ雙方協議ノ上五月、十一月ニ更定スルモノトシ其利子勘定書ハ五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ雙方ヨリ送付照會シ而シテ其利金ヲ授受スヘシ尤利子ノ日割ハ雙方トモ現ニ其本金ヲ授受セシ日ヲ以テ勘定ヲ爲スヘシ

第十四條　本約條ノ取引ニ由リ受領スヘキ送金爲換割引等ノ手數料ハ現ニ之ヲ受領セシ方ノ所得タルヘシ

第十五條　諸手形ノ取付ヲ爲スニ方リ若其仕拂ヲ拒却セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ其旨ヲ急報スヘシ

第十六條　何某銀行何地支店ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返償ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利暨ヒ賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尚何某銀行ノ資產ヲ以テ之ヲ償却セシムヘシ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキハ何某銀行ハ其賣却手續價格暨ヒ費用等ニ付異議アルヘカラス又其賣却ヲ爲スニ當リ何某銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十七條　本約條ノ外日本銀行ト何某銀行トノ間ニ取結ヒタル國庫金取扱所事務代理約條上ニ於テ損失又ハ引負ヲ生シ其約條ニ依リ償還スルモ尚不足アリ何某銀行資產ヲ以テ償却セシメントスル場合ニ於テハ先本約條ニ依リ日本銀行ニ預リ置キタル根抵當品ノ餘贏ヲ以テ其償却ニ充ツヘシ

第十八條　本約條ハ明治十六年　月　日ヨリ明治十　年　月　日ニテ滿二年ヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上其借越アル方ニ於テ悉皆其金額ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ其約ヲ了スヘシ

第十九條　何某銀行何地支店ニ於テ本約條ニ違背セシ廉アル乎若クハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限内ト雖モ此約條ヲ解クコトヲ得ヘシ

但此場合ニ於テ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十八條手續ノ如クスヘシ

第二十條　本約條ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削スル事ヲ得ヘク尚又滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ確約シタル證トシテ雙方役員記名調印スルモノ也

明治十六年　月　日

日本銀行總裁　吉原重俊

同副總裁文書局長　富田鐵之助

同大阪支店長理事　外山修造

何某銀行頭取　何某

同　取締役　何某

同　支配人　何某

同何地支店長　何某

本約條書ハ本書一通正寫一通ヲ作リ其本書ハ日本銀行ニ保存シ其正寫ハ何某銀行ニ保存スルモノ也

明治十六年　月　日

書留書記

何　某

尚同月二十五日代理店保證品預手續ヲ規定シ同二十七日「コルレスポンデンス」根抵當預假手續ヲ定メ竝ニ根抵當承諾證書ノ式ヲ定メタリ而シテ七月十九日ニハ日本銀行ト横濱正金銀行トノ間ニ取結フ可キ「コルレスポンデンス」締約ノ許可ヲ得タリ即左ノ如シ

横濱正金銀行ヨリ「コルレスポンデンス」締約ノ儀申込有之候處同行ハ政府特別ノ御保護モ有之ニ付先般御許可相成候他銀行ト同樣ノ締約難相成場合モ有之ニ付別紙ノ通リ起草致シ該銀行ト内議相盡シ候處異議無之旨申聞候條之ヲ以テ締約ノ儀御許可被成下度日本銀行條例第二條ニ依リ此段奉願候也

明治十六年七月三日

大藏大臣松方正義代理

參事院議長　山縣有朋殿

（右指令）

願ノ趣聞屆候事

明治十六年七月十九日

日本銀行總裁代理

副總裁　富田鐵之助

大藏卿　松方正義

日本銀行ト横濱正金銀行トノ間ニ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ遵ヒ大藏卿ノ許可ヲ受ケ雙方協議ノ上決定シタル約條左ノ如シ

第一條　貨財ノ融通ヲ利シ業務ノ便益ヲ圖ラン爲メ日本銀行ト横濱正金銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約セルニ付自今兩銀行ノ間ニ於テ左ノ取引ヲ爲スヘシ

但通常ノ貸借割引預金等ノ取引ヲ爲スハ此外タルヘシ

第一　爲換取引ノ事

第二　商業手形取付ノ事

第三　代金取立ノ事

第四　横濱正金銀行へ一時融通貸ヲ爲ス事

第二條　日本銀行ヨリ前第一條各種ノ取引上ニ於テ横濱正金銀行へ貸付スヘキ金額ハ貳拾萬圓ヲ極度トス

但此極度額ハ日本銀行ノ都合ニ依リ前以テ其旨ヲ通知シテ一時之ヲ低減スル事アルヘシ

第三條　兩銀行ノ間ニ於テ前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付横濱正金銀行ハ豫メ實價拾五萬圓ニ相當スル根抵當品ヲ日本銀行へ差入レ置クヘシ其抵當品種類竝ヒ價格ハ日本銀行ノ定ムル所ニ從フヘシ

但前第二條但書ノ如ク日本銀行ニ於テ極度額ヲ低減スルトキハ之ニ準スル抵當品ヲ一時返却スヘシ

第四條　横濱正金銀行ニ於テ本條約ニ基ツキ日本銀行ヨリ振出シタル各種ノ手形ニ對シ支拂フヘキ金額ハ横濱正金銀行ノ借方ト爲リタル金額ニ止マルヘシ

但日本銀行ノ都合ニ依リ豫メ照會シ横濱正金銀行ノ承諾ヲ得ルニ於テハ本文ノ外尚振出スコトアルヘシ

第五條　前第二條ニ定メタル極度額ハ横濱正金銀行ノ貸借差引殘額ナルニ付横濱正金銀行ニ於テ返還ノ勘定ヲ了スルニ隨ヒ繰返シ極度額迄ノ取引ヲ爲スヲ得ヘシ

第六條　日本銀行ヨリ横濱正金銀行へ送金手形爲換手形ヲ振向ルニハ一口ノ金額貳萬圓ヲ超過セサルヘシ然レトモ爲換ノ都合ニ依テハ實際取引ノ勘定尻貸金額迄追掛振出スコトヲ得ヘシ

第七條　送金爲換ノ金額ハ一口百圓未滿ハ雙方共是ヲ振出スヘカラス

但公用ノ送金爲換ハ此限リニ非ス

第八條　送金爲換ハ雙方共一覽後定期拂ノ手形ヲ用ユヘシ尤モ其期限ハ一覽後三日以後タルヘシ

第九條　送金爲換ヲ振出シタルトキハ直チニ案内書ヲ其振向書へ送付スベク又現金支拂濟ノ上ハ振向書ヨリ直チニ其旨ヲ振出元へ通報スヘシ

第十條　前第一條ノ融通貸ヲ爲スニ方リ横濱正金銀行ノ便宜ニ依リ日本銀行ヨリ各地方「コルレスポンデンス」締約店へ宛テタル爲換手形ヲ以テ現金ト見做シ受取ランコトヲ請求セルトキ日本銀行差支ナキニ於テハ之ヲ承諾スヘシ

第十一條　前第一條ノ融通貸ハ返濟期限ヲ六箇月以内トシ其時々協議ノ上之ヲ定ムヘシ

但横濱正金銀行都合ニ依テ約定期限前ニ返済センコトヲ要シ其返済セントスル日ヨリ十日前ニ照會スルニ於テハ日本銀行ハ是ヲ承諾スヘシ

第十二條 本約條取引貸借勘定ハ雙方共毎年五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲ爲スヘシ

第十三條 本約條ノ取引利子ハ雙方協議ノ上五月、十一月ニ更定スルモノトシ其利子勘定書ハ五月、十一月ノ末日ヲ期トシ雙方ヨリ送付照會シテ其利金ヲ授受スヘシ尤モ利子ノ日割ハ雙方共現ニ其元金ヲ授受セシ日ヲ以テ勘定ヲ爲スヘシ

第十四條 本約條ノ取引ニ依リ受領スヘキ送金爲換割引等ノ手數料ハ現ニ之ヲ受領セシ方ノ所得タルヘシ

第十五條 諸手形ノ取付ヲ爲スニ當リ若其支拂ヲ拒却セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ其旨ヲ急報スヘシ

第十六條 横濱正金銀行ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返濟ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利暨ト賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尚ホ横濱正金銀行ノ資產ヲ以テ之ヲ償却セシムヘシ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキハ横濱正金銀行ハ其賣却手續價格及ヒ費用等ニ異議アルヘカラス又其賣却ヲ爲スニ當リ横濱正金銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十七條 本條約ハ明治十六年七月一日ヨリ明治十八年六月三十日迄滿二年ヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上其借越シタル方ニ於テ悉皆其金額ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ此約ヲ了スヘシ

第十八條 横濱正金銀行ニ於テ本條約ニ違背セシ廉アルカ若クハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限内ト雖モ此約條ヲ解クコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十七條手續ノ如クスヘシ

第十九條 本條約ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削スルコトヲ得ヘク尚ホ又滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ確定シタル證トシテ雙方役員記名調印スルモノナリ

明治十六年 月 日

日本銀行總裁
同 文書局長
横濱正金銀行頭取
同 取締役
同 支配人

本約條書ハ本書一通正寫一通ヲ作リ其本書ハ日本銀行ニ保存シ其正寫ハ何某銀行ニ保存スルモノナリ

明治 年 月 日

書留書記

更ニ八月九日ニハ各地「コルレスポンデンス」取引先送金手數料ノ割合ヲ定メ尋テ同月十七日荷爲換手形割引ヲ開始シ同時ニ之ニ關スル諸證書類ノ式ヲ定メタリ元來荷爲換ノ證憑ハ單ニ荷主ノ請取證書ノミニシテ危險少ナカラサルヲ以テ日本銀行ハ其割引ヲ取扱ハサリシカ斯クテハ金融ノ不便大ナルニ由リ自今之ヲ取扱フコト、シ且ツ其說明書ヲ添ヘテ各取引先ニ通知セリ

九月二十日定期貸付金ニ對スル抵當品交換竝ニ內金返濟等ノ證憑書式ヲ改正シ其二十八日ヲ以テ定期貸抵當品收支手續ヲ更メ十月二日同行送金爲換手形及ヒ通知表ヲ改定シ尋テ同三十日封緘竝ニ披封保護預リ手續ヲ規定セリ更ニ翌十一月九日ヲ以テ大阪支店ヘ逆爲換取扱心得ヲ示シ同二十二日ヲ以テ各銀行「コルレスポンデンス」約條書中ニ電信送金爲換竝ニ代金取立等取引追加ノ條項ヲ規定セリ蓋シ締約銀行中請求スルモノアリシニ由レリ而シテ十二月七日ニハ披封保護預及封緘保護預リノ取扱ヲ始メタリ

要スルニ同年ハ前年ニ比シ業務漸ク其歩ヲ進メ圖庫金ノ取扱造幣成貨拂渡銀行紙幣銷却等著々其緒ニ就キ又他ノ銀行會社ト「コルレスポンデンス」ノ締約ヲ爲シ送金爲換等ノ取引ヲ開始セシモノモ亦尠カラス然レトモ其業務ノ重ナルモノハ政府勸定ニシテ人民其他ノ勸定ハ尙ホ甚タ微々タリシ今其出納高ノ割合ヲ比較スレハ人民勸定ノ分ハ僅ニ政府ノ三分一ニ過キサリシナリ

明治十七年ハ前年ニ比スレハ官民ノ業務共ニ著シク進歩ノ狀ヲ呈シ殊ニ送金手形割引手形ニ於テ顯著ナリトス一月十一日宮城縣令ヨリ地方費收入金未納等ノ爲メ支拂上差支ユル場合ニ於テ會計主務官ニ對シ一時貸出ヲ得タキ旨照會アリシニ依リ二月十三日府縣會計主務官割引手形ノ書式ヲ定メ大藏卿ヘ上申シテ其許可ヲ得タリシカ其取扱ハ一般手形割引ノ手續ニ依ルコト、セリ

又同月十四日東京同盟銀行ノ依頼ニ由リ均融會社振出ノ手形ヲ日本銀行ニテ割引セシトキ期限中買戻ヲ望ムトキハ本行金融ノ都合ニ依リ割引手形其日數ノ半ヲ超ヘタルモノニ限リ最初割引セシ歩合ヲ以テ之ヲ買渡スコト、セリ蓋シ均融會社事業擴張ノ爲メ同盟銀行ニ割引ヲ求ムルコト漸次增加シ而シテ同會社貸付金ハ借主ノ都合ニ依リ返金スルトキハ期限前ト雖モ抵當品ヲ還付スルノ規定アル旨ヲ以テ同盟銀行ヨリ懇々依頼アリシカ爲メナリ

尋テ同月二十三日曩ニ宮城縣令ヨリ依頼アリシ會計主務官ニ對スル貸付金ノ件ニ付キ承諾ノ回答ヲナシ同時ニ手形割引ノ手續割引歩合及他所割引手數料ノ規定及手形書式ヲ回付シ更ニ同月三十一日ヲ以テ當座勸定貸科目ヲ設キ越ヘテ四月八日大藏卿ニ上申シテ「コルレスポンデンス」約條書ヲ更正セリ左ノ如シ

「コルレスポンデンス」約條書更正ノ儀ニ付願

國庫金取扱代理約條ニ連帶「コルレスポンデンス」締結約條書ノ儀ハ客年五月二十九日附ノ以テ御許可ヲ受ケ爾來右ヲ以テ約條締結罷在候得共本條約書中實際取引上差支ノ廉モ候間別冊掛紙ノ通リ更正仕度尤モ御許可ノ上ハ已ニ約條締結濟ノ分モ協議ノ上漸次更正可仕見込一付御許可被下度定款第三條ニ據リ此段奉願候也

明治十七年四月八日

大藏卿 松方正義殿

日本銀行總裁 吉原重俊

（右稟議）

顧之趣聞屆候事

明治十七年五月一日　　大藏卿　松方正義

「コルレスポンデンス」約條書

日本銀行ト何某銀行トノ間ニ於テ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ遵ヒ大藏卿ノ許可ヲ請ケ日本銀行ト何某銀行ト協議ノ上決定シタル約定左ノ如シ

第一條　貨財ノ融通ヲ利シ業務ノ便益ヲ圖ラン爲メ日本銀行ト何某銀行ト「コルレスポレデンス」ヲ締約セルニ付自今互ニ左ノ取引ヲ爲スヘシ

但通常ノ貸借割引預金等ノ取引ヲ爲スハ此外タルヘシ

第一　爲換取引ノ事

第二　商業手形取付ノ事

第三　代金取立ノ事

第四　何某銀行ヘ一時融通貸ヲ爲ス事

第二條　日本銀行ヨリ前第一條各種ノ取引上ニ於テ何某銀行ヘ貸付スヘキ金額ハ幾萬圓ヲ極度トス

但此ノ極度額ハ日本銀行ノ都合ニ依リ前以テ其旨ヲ通知シテ一時之レヲ低減スルヿトアル可シ

第三條　日本銀行ト何某銀行トノ間ニ於テ前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付何某銀行ハ豫メ實價幾萬圓ニ相當スル根抵當品ヲ日本銀行ヘ差入置クヘシ其抵當品種類暨ヒ價格ハ日本銀行ノ定ムル所ニ隨フ可シ

但前第二條但書ノ如ク日本銀行ニ於テ極度額ヲ低減スルトキハ之レニ準スル抵當品ヲ一時返却スヘシ

第四條　何某銀行ニ於テ本約條ニ基キ日本銀行ヨリ振出シタル各種ノ手形ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ何某銀行ノ借方トナリタル金額及第六條ニ掲載スル一ト口ノ金額迄ニ止ルヘシ

但日本銀行ノ都合ニ據リ豫メ照會シ何某銀行ノ承諾ヲ得ルニ於テハ本文ノ外尚振出スコトアルヘシ

第五第　前第二條ニ定メタル極度額ハ何某銀行トノ貸借差引貸殘額ナルニ付其何某銀行ニ於テ返還ノ勘定ヲ了スルニ隨ヒ繰返シ極度額迄ノ取引ヲ爲スヲ得ヘシ

第六條　日本銀行ヨリ何某銀行ヘ送金手形爲換ヲ振向ルニハ一ト口ノ金額幾千圓ヲ超過セサル可シ然レトモ爲換ノ都合ニ依テハ第四條ノ仕拂ヲ得ヘキ金額マテ追掛振出スコトヲ得ヘシ

第七條　送金爲換ハ雙方共一覽拂タル可シ

第八條　送金爲換ヲ振出シタルトキハ直ニ案内書ヲ其振向衙ヘ送付スヘク又現金仕拂濟ノ上ハ振向衙ヨリ直ニ其旨ヲ振出元ヘ通報スヘシ

第九條　何某銀行ニ於テ本約條ニ基キ一時融通借ヲ請求スルトキ（至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テスルヲ得ヘシ）日本

銀行ニ於テ差支ナキニ於テハ第二條ノ極度額三分ノ一ニ超過セサル金額迄ヲ貸付スヘシ

但已ニ各種ノ取引アリテ約條金額ニ餘贏ナキ時ハ貸付スルコト能ハサル可シ

第十條　前第九條ノ貸金ハ左ノ二種トシ其時々雙方協議ノ上之ヲ定ム可シ尤返濟期限ハ何レモ百日以内タルヘシ

第一　返濟期日ヲ確約スルモノ

第二　豫メ返濟期限ヲ定ムルモ何某銀行ノ都合ニ依リ其期限内何時ニテモ返濟スルコトヲ約スルモノ

第十一條　本約條取引貸借勘定ハ雙方共毎年五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲ爲ス可シ

第十二條　本約條ノ取引利子ハ日本銀行ニ於テ毎年五月、十一月ニ更定通知スルモノトシ其利子勘定書ハ五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ雙方ヨリ送付照會シ而シテ其利金ヲ授受スヘシ尤利子ノ日割ハ雙方トモ借方トナリタル當日ヨリ勘定尻返還ヲ了スル當日迄ノ利子ヲ仕拂フ可シ

第十三條　本條約ノ取引ニ由リ受領スヘキ送金爲換割引等ノ手數料ハ現ニ之ヲ受領セシ方ノ所得タル可シ

第十四條　諸手形ノ取付ヲ爲スニ當リ若シ其仕拂ヲ拒絶セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ其旨ヲ急報スヘシ

第十五條　何某銀行ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返償ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利及賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尚何某銀行ノ資産ヲ以テ之ヲ償却セシムヘシ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキハ何某銀行ハ其賣却手續價格竝ヒ費用等ニ付異議アルヘカラス又其賣却ヲ爲スニ當リ何某銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速ニ其手續ヲナス可シ

第十六條　本約條ノ外日本銀行ト何某銀行トノ間ニ取結ヒタル國庫取扱所事務代理約條上ニ於テ損失又ハ引負ヲ生シ其約條ニ依リ償還スルモ尚不足アリ何某銀行資産ヲ以テ償却セシメントスル場合ニ於テハ先ツ本約條ニ依リ日本銀行ニ預リ置キタル根抵當品ノ餘贏ヲ以テ其償却ニ充ツヘシ

第十七條　本約條ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上借越アル方ニ於テ悉皆其金額ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ其約ヲ了スヘシ

第十八條　何某銀行ニ於テ本約條ニ違背セシ廉アル乎若シクハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限内ト雖モ此ノ約條ヲ解ク事ヲ得ヘシ

但其場合ニ於テ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十七條手續ノ如クスヘシ

第十九條　本約條ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削スル事ヲ得ヘク尚又滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ確定シタル證トシテ本約條書正副二通ヲ作リ雙方役員記名調印ノ上正書ハ日本銀

行副書ハ何某銀行ニ保存スルモノナリ

明治何年何月何日

日本銀行總裁
日本銀行文書局長副總裁
何某銀行頭取
何某銀行取締役
何某銀行支配人
日本銀行支配役
書留書記

「コルレスポンデンス」根抵當價格ハ諸公債證書騰貴ニ付市中相場ヲ酌量シ五月十二日大藏卿ニ上申シテ左ノ如ク改定セリ

「コルレスポンデンス」根抵當品價格

種類	額面	現行價格	改正價格
金祿公債證書一割利付	百圓ニ付	九拾五圓	百圓
同　七分利付	同　七	拾八圓	八拾四圓
同　六分利付	同　六	拾九圓	七拾六圓
同　五分利付	同　六	拾壹圓	六拾八圓
起業公債證書	同	八拾壹圓	八拾參圓
新公債證書	同　六	拾七圓	六拾八圓
金札引換公債證書	同　九	拾五圓	九拾五圓
舊公債證書	實額金高四分ノ一ヨリ五分引		四分ノ一ヨリ二分五厘引
中山道鐵道公債證書			八拾六圓

六月三日ニハ印紙稅則ノ改正ニ從ヒ「コルレスポンデンス」約條書ノ印稅ヲ雙方ノ負擔トシ及奥書中正副ノ文字ヲ刪除シ尋テ同月三十日高島石炭賣上代銀貸三菱會社ヨリ大藏省ヘ買上ニ付該交換取扱ヲ命セラレ竝ニ其手續ヲ達セラル而シテ越ヘテ七月九日ニ至リ三菱會社ト日本銀行ト其取扱條規ヲ締結セリ之ヲ要スルニ本年ハ前年ニ比スレハ官民ノ業務共ニ著シク進歩ノ狀ヲ呈シ殊ニ送金手形割引手形ニ於テ顯著ナリトス然リ而シテ政府勸定ハ貸借共頓リニ膨脹スト雖モ人民預金ハ其割合甚タ低クシ是レ該銀行預金利子ノ低廉ナルト或ハ利子ヲ付セサモノアルトニ由ルナリ

明治十八年モ亦政府ノ勸定ニ屬スル出納ハ著シキ進歩ヲ顯ハスト雖モ人民勸定ニ於テ稍躑躅ノ狀ヲ示シ殊ニ諸預金ハ大ニ退歩セリ是又一般不景氣ノ影響ニ由ルモノナリ又割引手形ノ前年ニ對シテ甚シキ減額ヲ示スハ政府ト銀行ノ奬勵ニ依リ一時ニ過度ナル手形ノ流通ヲ促セシヨリ其弊動モスレハ空手形ヲ市場ニ觀ントスルノ勢アルヲ以テ同年ハ漸ク其貸出方ヲ引締メタルニ由ルナリ

同年一月二十七日舊金銀貨幣買上取扱手續ヲ達セラレ三月二十四日舊金銀貨幣買上事務ヲ金庫局預金課ニ屬シ竝ニ右買上手續書第二項ニ係ル時價標準ヲ定メ尋テ同月二十六日從來「コルレスポンデンス」締約取引利子ハ毎年五月及ヒ十一月ノ兩度ニ之ヲ更正シテ各條約店ニ通知スヘキモノナルモ斯クテハ金融ノ都合上不都合ノ點少カラサルノ故ヲ以テ之ヲ更正シテ爾來卽チ一年四度トナセリ而シテ從來日本銀行ハ營業取引上ノ抵當品ニハ金銀貨地金銀公債證書及政府手形政府保證ニ係ル證劵等ニ限リ預リ來リシカ該行事務ノ擴張ニ隨ヒ抵當品ノ種類區域モ亦從テ之ヲ擴張セサルヲ得ス卽チ五月四日副總裁富田鐵之助ヨリ左ノ如ク上申スル所アリ同月十三日ヲ以テ其許可ヲ得タリ

當銀行營業上諸取引ノ抵當品ハ定款ニ基キ金銀貨地金銀公債證書及政府手形政府保證ニ係ル證劵等ニ限リ相預リ來候處追々事務擴張致候ニ付隨テ抵當品ノ種類區域モ擴メ度存候就テハ横濱正金銀行日本鐵道會社ノ儀ハ政府特別ノ御監督御保護モ有之亦十五國立銀行ノ儀ハ政府ヘ御貸上金モ有之旁〻政府ヘ厚キ關係モ不尠モノニシテ何レモ確實ノモノト相信シ候ニ付以來右銀行會社ノ株劵ハ本行諸取引ノ抵當品保證品ニ相預リ可申存候蓋シ本行定款ニ於テハ其第二十二條ニ銀行會社ノ株劵ヲ抵當ニ預ル事ヲ禁止有之候得共政府帝室特別ノ御監督御保護有之分ハ一般ノ銀行會社共相異リ候間恰モ定款第二十一條ニ掲ケタル政府ノ御保證ニ係ル證劵ハ抵當ヲ預ルヲ得ルノ例ニ倣ヒ特別ノ處置ニ致度儀ニ有之候尤右ニ付定款內規ノ修正ハ重テ可相伺ト存候條先以テ假リニ御認可被下度此段相伺候也

明治十八年五月四日

日本銀行副總裁 富田鐵之助

大藏卿 伯爵 松方正義 殿

追テ本文株劵抵當價格ノ儀ハ時々賣買ノ相場ニ不拘劵面金額又ハ現拂込金額ニ超過セリル樣可致且又預リ後賣買ノ相場劵面又ハ現拂込金額ヨリ下落スルカ或ハ其銀行會社ニ不都合ノ聞エ有之本行ニ於テ懸念スル場合ニ至リ候ハヽ何時ニテモ他ノ品種ト引換可申取引人ト相約シ置候樣可相計心得ニ有之候間此段申添仕候也

（右稟合）

伺之趣聞屆候事

明治十八年五月十三日

大藏卿 伯爵 松方正義

尋テ六月十九日ニハ帝室ニ關スル勘定ヲ開始シ其計算科目ヲ定メ翌七月二十一日ニハ横濱同伸會社生絲保證付手形割引取引ヲ開始シ八月一日ニハ從來大藏省ヘ報告シ來リシ金銀貨及古金銀相場ノ外眞文小判其他ノ古金銀及純金相場毎日大藏省ヘ報告ノ取扱ヲ始メ尋テ同月六日ニハ三井銀行横濱分店ヘ割引保證ノ生絲監視ヲ委囑シ其手續書ヲ規定シ更ニ同月十九日ニハ日本銀行ヨリ貸付金抵當公債證書價格變更ノ儀ニ付左ノ如ク大藏卿ニ上申シテ其許可ヲ得タリ

本行貸付金抵當公債證書價格ハ定款第二十八條ニ據リ時價十分ノ八ヲ限リト致來候處是迄取引人ヨリ其價格割ヲ緩フセンコトヲ請フモノ少カラス畢竟一般ノ貸借抵當價格ニ比シ權衡ヲ得サル所有之樣被考候蓋シ貸付ノ抵當ハ其時價下落スルトキハ追徵スルコトヲ相約シ取引致候儀ニ付時價ノ變動ニ注目致居候得ハ敢テ損失ヲ來スノ懸念モ無之ト存候間以來時價十分ノ

九ヲ限リ致度候間此段御認可被下度候也

明治十八年八月十九日

日本銀行總裁代理
副總裁　富田鐵之助

大藏卿　伯爵　松方正義殿

（右指令）

上申ノ趣聞屆候事

明治十八年八月二十一日

大藏卿　伯爵　松方正義

明治十九年三月四日當座預金ニ特別利子ヲ付スルコトヲ定メ得意先預金ノ狀況カ日本銀行ニ利益ナル場合ニ於テハ特ニ利子ヲ付スルコト、セリ次テ五月三日ニ至リ第一國立銀行ニテ買入タル朝鮮砂金及支那規銀ヲ抵當トシ年二分ノ利息ニテ基金ヲ同銀行ヘ交付スヘキ旨ヲ達セラル五月二十六日陸軍軍用新式銃並ニ彈藥製造費貸上ノ命令ヲ受ケ尋テ六月九日明治十七年六月二十八日達高島石炭代銀貸買上取扱廢止ノ旨達セラレ其同年ニ於テハ特ニ記述スヘキモノヲ見ス其大體ノ景況ヲ概言スレハ同年ニ至リ取引總額ノ著シク增加セシハ公債地金銀爲換手形割引預金等ノ數項ニ由ル然レトモ本行ハ同年四月中大ニ帳簿ノ組織ヲ改革シ諸勘定ノ貸借振換記入ノナシタルニ由リ帳簿上ニ其出入少シク重複ノ虛額ナキヲ得ス又紙幣交換實施以來兌換銀行券ノ流通俄ニ增加ヲ來シ從テ其交換高頗ル巨額ニ上レリ是レ前年ニ比シテ大ニ懸隔アル所タリ國庫金取扱高ノ非常ニ增加セシハ同年新ニ正貨交換及大藏省證券海軍公債整理公債募集等ノ事務ノ加ヘタルニ由ルナリ而シテ同年ハ官民ノ勘定兩ナカラ增進シタリ

明治二十年ノ營業景況ハ前年ニ比スレハ亦概シテ盛況ニ赴ケリ乃チ一月二十七日ヲ以テ各取引先ト電信爲換取組開始ノ件ヲ議定シ尋テ「コルレスポンデンス」約定書追加案及電信符號取扱手續ヲ定メ而シテ翌二月十日ニハ假皇居御造營費ノ內ヘ金百四拾六萬八千貳百參拾壹圓五拾六錢五厘貸上ケノ命ヲ受ケ又三月十五日ニ至リ日本銀行本支店每月實際報告表ニ向後勘定貸借ノ金額ヲモ記載スヘキ旨ヲ達セラレ尋テ五月二十三日政府ヨリ諸官省等建築費ノ內ヘ金百貳拾八萬圓貸上ノ命令ヲ受ケ八月十五日ニハ橫濱同伸會社ヨリ差入レタル割引手形保證ノ生絲取扱手續書ヲ更正シテ同社ニ照會セリ

同年ノ營業カ前年ニ比シ概シテ盛況ナリシ所以ハ蓋シ日本銀行ノ營業ハ既ニ前年來逐次增進ノ狀ヲ呈シ兌換券ノ流通亦大ニ增加セシヲ以テ同年二月終ニ其株主總會ニ於テ株金增加ノ決議ヲナシ政府ノ許可ヲ得テ更ニ壹千萬圓ノ增株ヲナシタルカ爲メナリ

明治二十一年三月三十一日ニハ金銀地金買上取扱手續ノ內金銀地金並ニ金銀貨幣買上當分廢止ノ旨達セラレ越エテ九月十四日ニハ鐵道建築費ノ內ヘ金貳百萬圓貸上ノ命令ヲ受ケ十二月十一日九州鐵道會社拂込株金預入取扱ノ命令ヲ受ケタリ而シテ同月二十八日日本銀行預金勘定科目ノ內別段預金ハ當座預金及振出手形ノ二科目中ニ之ヲ組入レ止ムヲ得サル場合ノ外ハ特ニ同預金科目ヲ設ケス整理スルコトニ內定セリ

同年中營業ノ景況ヲ通覽スルニ其七月ニ兌換券條例ノ改正アリテ兌換券ノ發行愈增加ノ勢ヲ示シ又前年ニ引續キ各種會社ノ創設諸方ニ起リ資本ノ需用大ニ增加シ人民貸付高及爲換取組高モ隨テ增進シ預金高モ亦稍膨脹セリ然レトモ十二月末日ニ於テハ前年ニ比スレハ預金殘高並ニ貸

付殘高共ニ幾分ノ減少ヲ示セリ而シテ金利ハ前年ニ比スレハ漸次騰貴シ二十二年ノ末ニ至ルモ尙ホ低下ノ狀アルヲ見ス蓋シ同年ハ資金ノ運轉前年ニ比スレハ頗ル頻繁ナリシニ由リ乃チ此結果ヲ見ルニ至レリ

明治二十二年ハ官金ノ運動ハ前年來尙ホ漸次頻繁ノ景況ヲ呈セシモ人民勘定ハ割引手形ノ外貸付金預金爲換受拂等孰レモ其額頗ル減少セリ蓋シ同年ニ割引手形殊ニ外國手形ノ俄ニ巨額ニ達シタルハ同年十月橫濱正金銀行ト特約ヲ結ヒ主トシテ外國手形再割引ノ業務ヲ擴張センコトヲ期セシニ由ルナリ而シテ其他ノ業務ニ於テ大ニ閑散ノ狀ヲ顯ハシタルモノハ同年ハ一般ノ商況頗ル靜穩ニシテ金融モ亦更ニ變動ヲ見ルコトナカリシニ由ル可シ

同年一月十五日披封保護預リ假規定ヲ更正シ三月十四日東京海上保險會社ノ株券ヲ貸付金其他ノ抵當ニ受入ノ儀ニ付大藏卿ニ上申シ尋テ其許可ヲ得タリ又十月七日橫濱正金銀行所有外國爲換手形ノ再割引ヲ爲スコト、シ兩銀行ノ間ニ其約條ヲ締結セリ左ノ如シ

日本銀行

橫濱正金銀行所有ノ外國爲換手形再割引等ノ儀ニ付同行ト約條ノ件十月七日伺出ノ趣ハ第三條第四條第六條第七條第十一條第十三條第十四條第十五條及第十六條ヲ別紙掛紙ノ通修正ノ上認可候事

但倫敦里昂紐育在勤本邦領事ニ當省日本銀行管理官ノ事務囑託致置條ニ付右三箇所ヘ送付セシ爲換手形及取立代リ現金ノ出納ニ付テハ同領事ノ監督ヲ受クヘキ事

明治二十二年十月十一日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

橫濱正金銀行所有ノ外國爲換手形ヲ本行ニ於テ再割引致シ且又同銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシメ度存候ニ付テハ別冊ノ通リ同行ト約條締結仕度候條御許可被下度候也

明治二十二年十月七日　　大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

日本銀行總裁　川田小一郎

日本銀行ニ於テ橫濱正金銀行ノ所有スル外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又橫濱正金銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシムルニ付兩銀行ノ間ニ締結スル約條左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ橫濱正金銀行ノ所有スル外國ヨリ日本ヘ向ケタル又日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ノ再割引ヲナスヘキモノトス

但シ日本銀行ニ於テ一箇年間ニ再割引ヲ爲スヘキ金額ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ月割豫算ヲ定ムルモノトス尤モ其豫算額ハ實地貿易ノ景狀ニ從ヒ兩銀行協議ノ上增減變更スルコトアルモノトス

第二條　前第一條ノ爲換手形再割引ノ步合ハ年二分トシ再割引ノ日ヨリ爲換手形支拂期日迄ノ日數ニ應シ算出スルモノトス

但シ日本ヨリ外國ニ向ケタル爲換手形ノ支拂期日ハ其手形面ノ日數(英米國ハ之レニ三日ノ猶豫ヲ加フ)ニ左ノ郵便日數ヲ加ヘタルモノトス

一　倫敦　三十五日
一　里昂　三十四日
一　紐育　二十五日

第三條　此約條ニ依リ日本銀行ニ於テ再割引ヲ以テ買入タル爲換手形ハ横濱正金銀行ニ於テ代金ノ取立ヲナシ日本銀行ヘ戻シ入ル、ノ義務アルモノトス而シテ横濱正金銀行ハ代金取立ノ爲メ預リタル爲換手形ニ對シ預リ證書ヲ製シ日本銀行ヘ交付スヘキモノトス

但シ横濱正金銀行ハ日本銀行ニ對シ其本店ノ取扱ニ係ルモノハ本文預リ證書ニ横濱正金銀行監理官ノ認可ヲ求メ其證書ニ記載アル手形ノ相違ナキコトヲ證明シ其神戸支店ノ取扱ニ係ルモノハ其手形ヲ日本銀行大阪支店ニ持參シテ點檢ヲ受クヘキモノトス

第四條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲナシタル爲換手形ニシテ代リ金取立ノ爲横濱正金銀行ヘ預リタルトキ日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ハ横濱正金銀行ヨリ在外支店又ハ出張所ニ送付シ到達ノ上其支拂人ヨリ仕拂承諾ノ手續ヲ爲シ其明細表ヲ製シ其地ノ領事ニ差出シ該手形及取立現金ノ出納ハ同領事ノ監督ヲ受クルモノトス

又外國ヨリ日本ヘ向ケタル爲換手形及取立現金ノ出納ハ横濱正金銀行監理官ノ監督ヲ受クルモノトス

横濱正金銀行神戸支店ニ預リ入レタル爲換手形及該手形代金ヲ取立タル金錢ノ出納ハ日本銀行大阪支店ニ於テ監督スルモノトス

第五條　此約條ニ依リ横濱正金銀行ニ於テ代金取立ノ委託ヲ受ケタル爲換手形ハ其支拂ノ有無ニ拘ハラス期日ニ至レハ其代金ヲ横濱正金銀行ヨリ日本銀行ニ支拂フヘキモノトス

第六條　本約條ニヨリ日本銀行ニ於テ再割引ヲナシタル爲換手形ハ不渡リ又ハ其他如何樣ノ損失ヲ生スルモ其損失ハ總テ横濱正金銀行ノ負擔タルヘキモノトス

第七條　日本ヨリ外國ニ向ケタル爲換手形又外國ヨリ日本ニ向ケタル爲替手形ニシテ手形面ニ外國貨幣ヲ顯ハシ銀貨高ノ記載ナキモノハ左ノ假定相場ヲ以テ日本銀貨ニ換算シ日本銀行ハ其銀貨高ニ對シテ再割引ヲナシ横濱正金銀行モ亦銀貨高ヲ以テ取立代金トシテ日本銀行ニ支拂フヘキモノトス

但外國爲換相場ノ高低ニヨリ此假定相場ヲ更正スルモノトス

英貨　一磅ニ付日本銀貨六圓四拾錢

即チ壹圓ニ付三志一片二分ノ一

佛貨　一佛ニ付日本銀貨貳拾五錢

即チ壹圓ニ付四佛

米貨　一弗ニ付日本銀貨壹圓貳拾五錢

即チ壹圓ニ付八十仙

第八條　此約條ニヨリ横濱正金銀行ノ預リタル爲換手形ノ支拂人ニ於テ期日前支拂ヲ爲シタルトキハ其外國ヨリ日本ニ向ケタル分ハ横濱正金銀行ニ於テ其手形面ノ金額ヲ直ニ日本銀行ニ戻シ入レ年二分ノ割合ヲ以テ日數ニ應シ割戻シテ受クヘキモノトシ又其日本ヨリ外國ニ向ケタル分ハ其手形ノ取扱ヲ爲シタル横濱正金銀行支店出張所ハ次回ノ郵便ヲ以テ之ヲ其本店ニ報告シ其本店ハ直ニ其代リ金ヲ日本銀行ニ戻シ入レ其日ヨリ手形面ノ支拂期日迄ノ日數ニ應シ年二分ノ割合ヲ以テ日本銀行ヨリ割戻シヲ受クヘキモノトス

但支拂人ニ於テ期日前内入金ヲ爲スモ本文ノ手續ヲ爲サス金額支拂迄其金員ハ横濱正金

銀行ニ保護預リ金トナシ預リ置クモノトス

第九條　横濱正金銀行ハ日本銀行ノ爲メニ海外ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入スルノ義務アルモノトス而シテ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入シタルトキハ之ヲ日本銀行ニ交付シテ以テ取立爲換金ノ戻シ入ニ充テ若シ當時戻入期日ノ爲換ナキトキハ其代リ金ヲ受取ルヘキモノトス

但シ輸入スヘキ銀塊竝墨銀高ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ豫メ之ヲ定ムルモノトス

第十條　前第九條ニ依リ横濱正金銀行ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ日本銀行ニ交付スルトキハ墨銀ハ一弗ヲ以テ銀貨壹圓トシ銀塊ハ純銀三百七十四「ゲレーン」四〇(日本壹圓銀貨ニ含有スル量目)竝ニ鑄造費(目下ノ造幣規則ニ)(コレハ百分ノ一)トヲ以テ銀貨壹圓ノ計算ヲ爲スモノトス又其銀塊ノ場合ニ於テハ横濱正金銀行ハ之ヲ日本銀行大阪支店ニ送付シ同支店ノ受取證ニ假換算勘定書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ差出スヘキモノトス日本銀行ハ右受取證書ト假勘定書トヲ受取リタル日其假勘定書ノ金額ヲ以テ取立爲換金ノ戻入金ニ充テ又ハ其代リ金ヲ横濱正金銀行本店ニ交付シ追テ大阪造幣局ノ分析表ニ依リ其精算ヲナスヘキモノトス

第十一條　此約條ニヨリ横濱正金銀行ヨリ日本銀行ニ再割引ヲ請求スル爲替手形ハ荷爲換若クハ通常爲換等ノ種類ニ拘ハラス兩銀行ノ間ニ於テ通常爲換ト同樣ノ取扱ヲナスヘキモノトス

第十二條　横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ預リタル取立爲換手形及取立タル金錢ノ出納ニ付別ニ帳簿ヲ設置シ其出納ヲ明瞭ニ登記スヘシ

第十三條　日本銀行ハ此約條ノ業務ニ關スル横濱正金銀行ノ帳簿竝其預ケタル手形及金員ヲ

檢査スルノ權アルモノトス

第十四條　此約條ニ依リ日本銀行ニ於テ再割引ヲセシ爲換手形ノ代リ金取立及金錢ノ出納銀塊墨銀ノ購收回送其他此約條面ヨリ生スル事業ハ無手數料ニテ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第十五條　此約條期限ハ二箇年トス然レトモ雙方協議ノ上大藏大臣ノ認可ヲ經テ延期スルヲ得ルモノトス

第十六條　此約條ノ改正ヲ要スルトキハ雙方協議ノ上大藏大臣ノ允許ヲ請フヘシ

右ノ條々日本銀行、横濱正金銀行兩行協議ノ上大藏大臣ノ許可ヲ經テ約條候事

正金銀行カ買入タル外國爲換ヲ日本銀行ニテ再割引ヲナス歩合(別紙參照書ノ如クナルニ因リ)當分左ノ如ク相成候テハ如何

一　横濱ヨリ倫敦、里昂、紐育ヘノ爲換歩合ノ差ハ一箇年平均凡ソ三歩八厘四二六

一　倫敦ヨリ横濱ヘ爲換歩合ノ差ハ二種アリ(一)ハ一箇年平均凡ソ八歩〇五三六(二)ハ平均凡ソ五歩也

右ノ三處ヲ平均スレハ一箇年平均凡五分六厘三二〇六トナル右五分六厘三二〇六ノ内ニハ無手數料モアリ保險料モ自ラ含蓄セシモノ故是等ヲ凡二歩六厘三二〇六ト見込之レヲ控除シ殘リヲ年利凡二歩ニ當ルモノトシ此年利二分ヲ以テ日本銀行ニ於テ再割引ヲナスコト(本文内外ノ爲換歩ヲ平均スレハ凡五分六厘餘トナレトモ實際横濱ヨリ海外ヘ向ケ取組爲換高多クシテ海外ヨリ横濱ヘ向ケ爲換ノ方盛キハ目下ノ實況ナレハ日本銀行カ再割引ノナスモ横濱ニテ買入タル爲

換ノ方多カルヘシ隨テ利子モ三歩八厘餘ノ方ノ割合多キ數ナレハ旁平均年二歩ノ割引ニテ可然歟）

一　海外ニテ取立ツル再割引爲換ハ其期限ニ至リ日本銀行代理ノ資格ヲ以テ正金銀行支店又ハ代理店ニ於テ取立之ヲ同支店又ハ代理店ヘ保護預リ金トナスコト

但本文ノ監督及取締ハ領事ニ依頼スルコト

一　前項日本銀行カ海外ニテ得タル外國貨幣ノ内幾部分ハ再ヒ之ヲ大藏省ヘ賣リ政府ノ海外仕拂金ニ充ルコト（一政府ノ海外仕拂金ハ凡一箇年六七百萬圓ナリ）

一　前項海外貨幣ヲ政府ヘ賣ルトキハ參著相場タルヘキコト

一　内國ニ於テ取立ル爲換ヲ日本銀行ヘ再割引ニテ買入タルトキ正金銀行ハ日本銀行代理ノ資格ヲ以テ之レヲ取立保護預リヲナスモノトス

但本文ノ監督及取締ハ正金銀行監理官ニ依頼スルコト

一　本約條ニ依リ日本銀行ハ再割引ヲナシタル爲換金ニ就テハ正金銀行ニ於テ保險辨償ノ責ニ任シ如何樣ナル損失アルモ正金銀行ノ負擔トスルモノトス

横濱倫敦間爲換歩合左ノ如シ

第一　横濱ヨリ倫敦及里昂紐育ヘノ爲換ハ平均凡年三歩八厘四二六

第二　倫敦ヨリ横濱ヘノ爲換歩ニ二種アリ

甲ハ倫敦ニテ爲換取組ムトキ横濱ニテ銀貨ヲ受取ルコトニ確定セシモノハ銀塊相場ノ變動ヲ見込故ニ凡年八歩〇五三六ナリ

乙ハ倫敦ニテ取組ムトキ金貨爲換ニシテ横濱ヘ著セシ日ノ銀相場ニテ銀貨ニ換算スル

約束ノモノハ銀相場ノ變動ヲ受ケサル故ニ凡年五分ナリ

而シテ倫敦ヨリ横濱ヘノ爲換歩合ハ横濱ヨリ倫敦ヘノ爲換ニ比較シテ二歩又ハ五歩ノ高價ナルハ其原因三アリ（一横濱ニ共同倉庫ナク荷物陸上ケノトキ混雜シ多ク手數ト危險アリ（二）銀塊相場ノ變動多キ危險ナリ（三）爲換買埋方ニ困難ナルコト（買埋方ニ或トキハ香港等ニテ買埋スルコトアリト云フ）

右之趣ニ候也

横濱ヨリ倫敦ヘ

二十一年一月ヨリ二十二年五月迄ノ相場平均

參著相場三志〇片六九四三七

同　上

四箇月後拂相場三志一片一〇五一一

右ノ差〇片四一〇七四　年利三歩三厘五八ノ割

金百萬圓ニ付壹萬千百九拾參圓參拾參錢參厘ノ利子ニ當ル之ヲ一箇年ノ利子ニ積算スレハ百萬圓ニ付參萬參千五百八拾圓トナル即チ年三歩三厘五八ノ割ナリ

横濱ヨリ里昂ヘ

二十一年一月ヨリ二十二年五月迄ノ平均相場

參著相場三佛八十六山一七

同　上

四箇月後拂相場三佛九十山三三

右ノ差四山一六　年利三歩二厘三一七ノ割

金百萬圓ニ付壹萬七百七拾貳圓參拾參錢參厘ノ利子ニ當ル之レヲ一箇年ノ利子ニ積算スレハ百萬圓ニ付參萬貳千參百拾七圓トナル卽チ年三歩二厘三一七ノ割

横濱ヨリ紐育ヘ

二十一年一月ヨリ二十二年二月迄相場平均

參著相場七十四弗十六仙五二

同　上

四箇月後拂相場七十五弗三十八仙六

右ノ差一弗二十二仙〇八　年利四歩九厘三八一ノ割

金百萬圓ニ付壹萬六千四百六拾圓參拾參錢參厘ノ利子ニ當ル之レヲ一箇年ノ利子ニ積算スレハ百萬圓ニ付四萬九千參百八拾壹圓トナル卽チ年四分九厘三八一ノ割

右三箇所ヲ平均スレハ

金百萬圓ニ付壹萬貳千八百八圓六拾六錢六厘ノ利子ニ當ル之レヲ一箇年ノ利子ニ積算スレハ百萬圓ニ付參萬八千四百貳拾六圓トナル卽チ年三歩八厘四二六ノ割ナリ

倫敦ヨリ横濱ヘ

參著相場三志一片四分ノ三

六十日後拂相場三志一片四分ノ一

右ノ差〇片五　卽チ年利八分〇五三六ノ割

金百萬圓ニ付壹萬參千四百貳拾貳圓六拾七錢ノ利子ニ當ル之レヲ一箇年ノ利子ニ積算スレハ百萬圓ニ付八萬五百參拾六圓トナル卽チ年八分〇五三六ノ割ナリ

右ノ危險(一)其同倉庫ナク陸上ケノ混雜(二)銀相場ノ變動(三)買埋方ニ困難等ナク故ニ割合ニ歩合高シト云フ

又曰ク爲換歩合ヲ年五分ト見テ換算相場ヲ立テ横濱ヘ手形ノ著セシ日ノ相場ニテ銀貨ニ換ヘ受取ルモノアリ之レハ銀貨相場ノ變動ヲ受クルコト些ナシ故ニ五歩ナリ

一箇年間ニ海外ヘ送金高

一　金六百九拾六萬四千圓

參著平均相場三志〇片六九四三七

但二十一年一月ヨリ二十二年五月迄ノ相場ヲ平均セシモノナリ

此英貨百六萬四千七百四十八磅六志一片

四箇月後拂平均相場三志一片一〇五一一

但前同斷

此英貨百七萬六千六百六十六磅十二志二片

差　引

英貨一萬千九百十八磅六志一片

此通貨七萬七千九百五拾壹圓八拾貳錢貳厘

一　金六百九拾六萬四千圓

右金額四箇月前ニ横濱正金銀行ヘ交付スルモノトスレハ之レカ爲メ大藏省證券ヲ發行シ其利子左ノ如クニナル

金拾壹萬六千六拾六圓六拾六錢七厘

但年五分ノ割ニシテ四箇月分ナリ

證

今般本行ノ割引セシ外國爲換手形ヲ御行ヘ再割引被成下而シテ右御行ノ再割引被成下候爲換手形ハ之レカ取立方本行ヘ御依託相成候ニ付本行海外支店又ハ出張所ニ於テ取立方致候事ハ別紙約條書ヲ以テ御結約相成候處右御行ヘ再割引ニ被成下候爲換手形授受ノ順序ハ本行ニ於テ該手形裏面ヘ表書ノ金額日本銀行又ハ其差圖先ヘ可被相渡云々ノ裏書ヲ爲シ同時ニ又御行ヨリ該爲換手形裏面ヘ表書ノ金額ハ横濱正金銀行又ハ其差圖先キヘ可被相渡旨ノ裏書ヲ受ケ可申筈ニ候ヘ共斯クテハ手形ノ裏面ヨリ見レハ裏書ノ權利互ニ相殺シ兩行ノ間ニ於テ無益ノ手數ヲ勞スルノミナラス總テ外國爲換ハ專ラ海外ヘ郵便船出發ノ日ニ取組ムモノニ付其取組タル手形ヲ御行ヘ持參シ裏書ヲ受ケ本行ヘ持歸リ同日ノ郵船ニテ海外ヘ送付スルコトハ實際其時間無之差支ヲ生シ可申ハ必然ト存候旁御行ヘ再割引ニ被成下候手形ニ對シテ之レニ裏書ヲ爲サヽルモ本行ニ於テ裏書ヲ爲シタルモノト同樣ノ義務ヲ負擔シ該手形ニ就キ假令如何樣ノ損失ヲ生スルモ其支拂ノ期日ニハ本行ヨリ屹度辨償シ決シテ御損失相掛ケ申間敷候依テ爲後證如件

明治二十二年　月　日

横濱正金銀行頭取

日本銀行總裁　何　某宛

而シテ同月十一日ニ至リ該事務便宜ノ爲メ横濱正金銀行ヨリ徵スヘキ條約副書ヲ左ノ如ク伺定セリ

横濱正金銀行所有ノ外國爲換手形再割引ニ付約條書認可候處尙該事務便宜ノ爲メ該行ヨリ徵スヘキ約條副書ノ儀十月十一日伺出之趣認可候事

明治二十二年十月十二日

大藏大臣　伯爵　松方正義

横濱正金銀行所有ノ外國爲換手形ヲ本行ニ於テ再割引致候ニ付兩行ノ間ニ締結可致約定書御認可ヲ經候處該事務ノ取扱ヲ一層便ナラシムル爲メ別紙按文ノ證書ヲ該銀行ヨリ徵シ約定ノ副書ト仕度此段更ニ相伺候條御認可被下度候也

明治二十二年十月十一日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

證

今般本行ノ割引セシ外國爲換手形ヲ御行ヘ再割引被成下而シテ右御行ノ再割引被成下候爲換手形ハ之レカ取立方本行ヘ御依託相成候ニ付本行海外支店又ハ出張所ニ於テ取立方致候コトハ別紙約條書ヲ以テ御結約相成候處右御行ヘ再割引ニ被成下候爲換手形授受ノ順序ハ本行ニ

於テ該手形裏面ヘ表書ノ金額日本銀行又ハ其差圖先キヘ可被相渡云々ノ裏書ヲ爲シ同時ニ又御行ヨリ該爲換手形裏面ヘ表書ノ金額ハ横濱正金銀行又ハ其差圖先キヘ可被相渡旨ノ裏書ヲ受ケ可申筈ニ候ヘ共斯クテハ手形ノ表面ヨリ見レハ裏書ノ權利互ニ相殺シ兩行ノ間ニ於テ無益ノ手數ヲ勞スルノミナラス總テ外國爲換ハ專ラ海外ヘ郵便船出發ノ日ニ取組ムモノニ付其取組ミタル手形ヲ御行ヘ持參シ裏書ヲ受ケ本行ヘ持歸リ同日ノ郵船ニテ海外ヘ送付スルコトハ實際其時間無之差支ヲ生シ可申ハ必然ト存候旁御行ヘ再割引ニ被成下候手形ニ對シテハ之ニ裏書ヲ爲サヽルモ本行ニ於テ裏書ヲ爲シタルモノト同樣ノ義務ヲ負擔シ該手形ニ就キ假令ハ如何樣ノ損失ヲ生スルモ其支拂ノ期日ニハ本行ヨリ乾度辨償シ決シテ御損失相掛ケ申間敷候依テ爲後證如件

明治二十二年　月　日

日本銀行總裁　何　某宛

横濱正金銀行頭取　何　某

同月十五日横濱正金銀行本店及海外支店出張所ニ於テ右手形代金取立及戻入手續ヲ定メ之ヲ大藏省ヘ屆出タリ即左ノ如シ

今般御認可濟ノ上横濱正金銀行所有ノ外國爲換手形ヲ本行ニ於テ再割引致候ニ付テハ該銀行本店及海外支店出張所ニ於テ右手形代金取立及戻入手續別紙ノ通相定メ候條此段御屆仕候也

明治二十二年十月十五日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵松方正義殿

日本銀行再割引輸出手形代金取立竝ニ戻入手續

第一　横濱正金銀行ニ於テ外國ニ向ケタル爲換手形ノ再割引ヲ日本銀行ニ依頼スルニハ其手形(若シ第一券ハ既ニ其仕拂地ノ支店出張所ニ發送シアレハ第二券若クハ第三券)ノ横濱正金銀行監理官ニ示シ其手形ノ預リ證書(代金取立ノ爲メ)竝代金取立差圖書ニ認印ヲ受ケ其預リ證ハ日本銀行ニ差出シ其代金取立差圖書ハ其手形ト共ニ支拂地ノ支店又ハ出張所ニ送付スヘシ

第二　横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ第一項ノ手形竝ニ代金取立差圖書ヲ受取リタルトキハ直ニ其手形ニ對シ名宛人ノ承諾ヲ取リ(若シ其手形ノ第一券若クハ第二券ニ對シ既ニ承諾ヲ得タルトキハ其手形ヲ添ヘ)其代金取立差圖書ト共ニ同地ノ領事ニ呈出シテ其點檢ヲ受ク可シ

第三　横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ其預リタル手形ノ期日ニ至リ其支拂ヲ受ケタルトキハ領事ヨリ反對ノ通知ヲ得ルニ非サレハ其代リ金ハ横濱正金銀行本店又ハ神戸支店ニ於テ約條書第二條ニ據リ右期日ニ日本銀行ニ支拂フヘキモノナレハ則チ之ヲ拂込ミタルモノト見做シ(約條書第二條ニ據リ仕拂期日ニ至レハ手形取立ノ有無ニ拘ハラス横濱正金銀行ハ本店ニ於テ手形一個ノ金額ハ日本銀行ニ戻入ルモノ故之ヲ執行シタルモノトスレハ則チ右期限ニハ本手形ノ代リ金ハ横濱正金銀行ノ所有ニ振換ルヲ謂ナリ)其受取リタル金員ハ領事ノ許可ヲ得テ横濱正金銀行ノ所有ニ振換ヲナスヘシ然レトモ若シ領事ヨリ未タ其代リ金ヲ日本銀行ヘ戻入レサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ其手形ノ代リニ受取リタル金員ハ更ニ代リ金戻入濟ノ通知ヲ得ルマヽ日

本銀行ノ爲メ預リ置クヘシ

第四　若シ横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ期日前其手形金額ノ支拂ヲ受ケタルトキハ日本銀行ノ爲メ其金圓ヲ預リ置キ次回ノ郵便ヲ以テ其旨ヲ本店ニ通シ本店ヨリ代リ金戻入濟ノ報告ヲ得之ヲ領事ニ示シ其許可ヲ得テ其金圓ヲ横濱正金銀行所有金ニ振換ヲ爲スヘシ尤モ本店ヨリ代リ金戻入濟ノ報告ナキモ其手形ノ取立期日ニ至レハ第三項ノ手續ヲ爲シ其金圓ハ横濱正金銀行ノ所有ニ振換ヲナスヘシ

第五　横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ其預リタル手形ノ期日前ニ手形金額ノ一部分ヲ受取リタルトキハ殘額ヲ受取ル迄日本銀行ノ爲メ其金圓ヲ預リ置キ若シ期日前ニ殘額ヲ受取リタルトキハ第四項ノ手續ヲ爲シ又期日ニ至リ殘額ヲ受取リタルトキハ第三項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六　横濱正金銀行在外支店出張所ハ此取扱ニ關シ別ニ帳簿ヲ設ケ手形並ニ金圓ノ出納ヲ明瞭ニ記載シ時々監理官若シクハ領事ノ檢印ヲ受ケ且毎週一回計算報告書ヲ製シ領事並ニ本店ニ差出スヘシ

第七　此手續ノ外兩銀行契約書中ニ手續ヲ定ムルモノハ總テ其手續ニ從フヘシ

越ヘテ十二月十七日ニ至リ日本銀行ト横濱正金銀行トノ間ニ於ケル外國爲換手形再割引約條書追加トシテ横濱正金銀行神戸支店所有輸入爲換再割引手續ヲ定メタリ即チ左ノ如シ

日本銀行ニ於テ横濱正金銀行ノ所有スル外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又横濱正金銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシムルニ付兩銀行ノ間ニ締結シタル約條書追加

一　横濱正金銀行神戸支店ニ於テ所有スル輸入爲換手形ニ對シ日本銀行ニ於テ再割引ヲナスニハ輸入爲換再割引手形預リ證書ニ該手形ヲ添ヘ日本銀行大阪支店ヘ回付シテ其點檢ヲ受ケ之ヲ横濱正金銀行ヘ送付スヘシ

一　横濱正金銀行本店ハ其預リ證ニ依リ輸入爲換再割引申込書ヲ製シ之ニ該預リ證ヲ添ヘ日本銀行ヘ差出シ之ト引換ニ代リ金ヲ受取ルヘシ

一　日本銀行ハ該預リ證ヲ大阪支店ヘ廻シ横濱正金銀行神戸支店ヨリ該代リ金ヲ受取ルヘシ

明治二十三年ハ日本銀行ノ營業ニ非常ノ變動ヲ起シタルノ年ナリトス蓋シ同年ハ外國貿易ノ逆境ニ陷リタルノ結果トシテ銀貨ノ取付ヲ受クルコト殆ント千六百萬圓ノ巨額ニ達シ金銀貨變動ノ爲メ貯藏金塊ノ差損亦尠ナカラス然ルニ一方ハ彼ノ株式ノ下落米價ノ騰貴銀貨ノ變動等金融市場頗ル困難ナルヲ以テ兌換銀行券ヲ增進シ又ハ信用アル株券ニ限リ手形割引ノ擔保品ニ取リ以テ手形割引ノ道ヲ擴張スル等金融ノ便ヲ得タリ又同年四月以降ハ會計法並ニ金庫規則ノ規定ニ依リテ從來歲出入雜部金其他國債元利預金貨幣拂渡元金等數多ノ科目ヲ合併シタル國庫金勘定ノ内歲入出雜部金ハ之ヲ營業部ヨリ分離シテ中央金庫ニ移シ其他國債元利貨幣拂渡元金等ハ別ニ官金勘定ヲ設ケ之ヲ營業部ニ移シ以テ其間ニ判然區劃ヲ立ツルコトヽナレリ故ニ今其營業科目ノ景況ニ付之ヲ觀察スルニ官金勘定ヲ營業部ヨリ分離シタルカ爲メ預金ノ收支總額ニ於テ非常ノ增加ヲ顯ハシタルモ其殘高ハ大ニ減少ヲ告ケタリ而シテ當座預金ノ前年ニ比シテ殆ント五倍ヲ增加シタルハ元ト無利子ナリシニ此年ニ至リ利子ヲ附シタル者蓋シ其主因ナル可シ又貸付金ハ收支殘額共ニ非常ニ減少シタルモ割引手形ハ外國手形再割引ノ進歩セシト擔保品付手形

ノ割引ヲ許シタルトニ由リ前年ノ總額ニ比シテ殆ント五倍ノ增額ヲ示セリ

同年二月十四日、日本銀行ト横濱正金銀行トノ間ニ於ケル外國爲換手形再割引約定書ヘ追加ノ件ヲ大藏大臣ニ伺出テタリシカ一部追加ノ上之ヲ認可セラル卽左ノ如シ

日本銀行

客歲十月十一日附認可致候横濱正金銀行所有ノ外國爲換手形再割引等ノ儀ニ付同行ト約定書ヘ海外ニ於テ再割引手形期日前支拂ヲ受ケタルモノニ關シ追約ノ件二月十四日附第七八號ヲ以テ申出ノ趣左ノ一項ヲ增加ノ上聞屆ク

明治二十三年二月二十五日　　大藏大臣　伯爵　松方正義

第四項　此追加約定期限ハ明治二十三年十二月三十一日限リトス

第七八號

先般御認可濟ノ上横濱正金銀行所有ノ外國爲換手形ヲ本行ニ於テ再割引致居候處右手續取扱手續ヘ今般更ニ別紙文案ノ通リ追約可致存候此段上申仕候也

明治二十三年二月十四日　　日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

日本銀行ニ於テ横濱正金銀行ノ所有スル外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又横濱正金銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若シクハ墨銀ヲ輸入セシムルニ付兩銀行ノ間ニ締結シタル約條書追加

第一項　横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ再割引手形ノ期日前ニ支拂ヲ受ケタルトキハ該額ニ對シ最初返金ヲ約定シタル銀貨高ヲ顯ハシ且ツ假定返納期日ヲ期限トシタル別紙雛形ノ如キ手形ヲ調製シ之ヲ其地ノ領事ニ差出シ領事ノ承諾ヲ得テ其金額ヲ同支店出張所ノ所有ニ振換スルコトヲ得ヘシ

第二項　第一項ノ手形ヲ領事ニ差出スニハ之ニ其支拂ヲ受ケタル再割引手形ノ明細竝ニ其手形ニ對シ日本銀行ノ割引シタル銀貨高ヲ記載シタル書面ヲ添フ可シ

第三項　日本銀行ニ於テ第一項ノ手形ヲ領事ヨリ受取其旨ヲ横濱正金銀行本店ヘ通知シタルトキハ同本店ハ期日ニ至リ其金額ヲ返納シテ右金額ニ對スル再割引手形ノ決算ヲナス可シ

第四項　此追加約定期限ハ明治二十三年十二月三十一日限リトス

（手形雛形）

爲換手形

一　銀貨何圓

右ハ日本銀行再割引取立手形期日前入金額ノ內何貨何程受取候ニ付其代ハリ金トシテ前書ノ金額來ル何月何日限リ日本銀行ヘ御支拂別紙明細書ニ照シ再割引取立手形ノ御決算可被成候也

年　月　日

横濱正金銀行
何地支店又ハ出張所
主　　任印

横濱正金銀行頭取宛

尋テ三月十五日當座預金ニ利子ヲ付スルノ取扱ヲ始ム蓋シ一般銀行ノ預金ヲ奬勵シテ常ニ變時ニ備フルノ餘裕アラシメ又其利子ノ昂低ニ依リ通貨ノ伸縮ヲ自在ナラシメントノ意ニ出テタルナリ又當座貸越ノ制ヲ廢シテ當座貸ヲ當座預金ト分離セリ越エテ五月二十六日擔保品付手形割引ノ制ヲ施行シタリ是ヨリ先キ日本銀行總裁ハ春來金融逼迫ヲ告ケ市場一般困難ノ狀默視スヘカラサルモノアルヲ以テ豫テ大藏大臣ニ懇請スル所アリシカ遂ニ其許可ヲ得タルヲ以テ茲ニ之ヲ實施セシナリ尋テ六月九日在外國横濱正金銀行及在横濱外國銀行ニ向ケ發送スル手形類ノ署名例ヲ定メ同月十三日ニハ東京大阪間ノ取引ニ係ル爲換手形割引並爲換取扱ヲ假定シテ大阪支店ヘ通牒シ越エテ八月一日ニハ本行送金手形竝ニ振出手形ハ官廳ニ對スル者ヲ除クノ外營業局長ノ記名調印ヲ以テ振出スコトヽ定メ又送金手形案内ハ從來營業時間ノ終ニ於テ取纏メ封書ヲ以テ郵送セシメシカ即時端書ヲ以テ發送スルコトニ改メ竝ニ支拂濟手形報告雜勘定報告モ端書ヲ用ユルコトニ改正セリ

明治二十四年三月一日ヲ以テ日本銀行營業部勘定ト國庫部勘定トノ區別取扱ヲ始メ實際報告表式ヲ改正シ又銀行集會所ノ請求（二十三年十二月十二日及本年二月十五日照會）ニ應シテ東京交換所ノ交換尻振換決算取扱ヲ始メ（二十三年十二月二十九日及本年二月二十六日同答）更ニ當座勘定規定及當座預金規定ヲ施行セリ蓋シ昨年五月當座貸約定銀行ニ對スル貸借取扱ノ手續改正以來往々不便ヲ訴フルモノ少ナカラサリシモ未タ經驗ヲ積ムコト多カラサルヲ以テ暫ク之ヲ持續セシカ既ニ同日ヨリ東京交換所ノ交換尻決算ヲ取扱フコトヽナリシ上ハ愈其手續ヲ簡ニセサル可ラサルノ必要アリ去月二十七日ヲ以テ之レヲ議定シ同日ヨリ施行スルニ至リシ所以ナリ尋テ同月十一日ニハ本行發行ノ送金手形ハ從來差圖拂ノ一種ナリシカ持參拂ノ一種ヲ加フルコトヽシ其樣式ヲ定メ同月二十五日ニハ大阪支店取扱ノ當座勘定規定ヲ認許セリ

越エテ五月十一日ニハ割引手形擔保諸株式價格改正ヲ伺定シ尋テ其二十五日ヲ以テ内藏寮ヨリ日本銀行ヘ預ケ金手續ヲ達セラル更ニ又十月十五日横濱正金銀行所有外國爲換手形再割引約條繼續ノ件ヲ大藏大臣ヘ伺出テ同月二十三日其認可ヲ得タリ即チ左ノ如シ

横濱正金銀行所有外國爲換手形再割引等ノ儀ニ付同行ト締結約定書更定ノ上更ニ向二箇年間繼續履行ノ件本月十四日文第二八三號ヲ以テ伺出ノ趣認可ス

明治二十四年十月二十三日　　日本銀行

文第二八三號　　大藏大臣　伯爵　松方正義

本行ニ於テ横濱正金銀行所有外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又同行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシムル儀ニ付去明治二十二年十月御認可ヲ經テ兩行ノ間ニ締結致候約條ハ本月ヲ以テ滿期相成候處更ニ同約條繼續致度旨別紙甲號ノ通依賴申出候右ハ本行ニ於テモ異存無之候間別冊乙號ノ通訂正ノ上更ニ向二箇年間約條繼續仕度候條御認可被下度候也

明治二十四年十月十四日　　日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

追テ本文約條書ニ附屬シタル二十二年十月十一日御認可ノ約定副書竝同年十二月十九日及二十三年二月二十八日御認可ノ追約定書等ハ自然廢滅相成候儀ニ有之此段爲念添申候也

（甲號）

拜啓陳ハ本行ノ所有スル外國爲換手形ヲ貴行ニ就テ再割引ヲ請ヒ又本行ニ於テ貴行ノ爲メニ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入スル儀ニ關シ去明治二十二年十月十二日附ヲ以テ貴行ト本行ノ間ニ締結致候約條ハ本年十月期限ト相成候處本行ニ於テハ更ニ向フ二箇年間繼續相願度奉存候ニ付幸ニ貴行ニ於テ御異存無之候ハヽ、從前ノ通右約條繼續ノ儀御取計被成下候樣仕度候此段御依賴旁得貴意候也

明治二十四年十月

横濱正金銀行頭取　園田孝吉

日本銀行總裁　川田小一郎殿

追テ本行神戸支店所有ノ爲換手形ヲ貴行ニ就テ再割引ヲ請フニハ明治二十二年十二月五日附ノ追約定ニ據リ從來ハ單ニ輸入爲換手形ニ限リシモ本文御承諾ノ上ハ同店所有ノ輸出爲換手形ヲモ再割引ヲ請ヒ得ル樣御改正相願度又二十三年三月一日附ノ追約條ノ趣意ハ本約條書中ニ御書加ヘ被成下候樣願上候

（乙號）

日本銀行ニ於テ横濱正金銀行ノ所有スル外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又横濱正金銀行ノシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入シセムルニ付兩銀行ノ間ニ締結スル約條左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ横濱正金銀行ノ所有スル外國ヨリ日本ヘ向ケタル又日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ノ再割引ヲナスヘキモノトス

但日本銀行ニ於テ一箇年間ニ再割引ヲ爲スヘキ金額ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ月割豫算ヲ定ムルモノトス尤モ其豫算額ハ實地貿易ノ景狀ニ從ヒ兩銀行協議ノ上增減變更スルヿトアルモノトス

第二條　前第一條ノ爲換手形ノ再割引ノ步合ハ年二分トシ再割引ノ日ヨリ爲換手形支拂期日迄ノ日數ニ應シ算出スルモノトス

但日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ノ支拂期日ハ其手形面ノ日數(英米國ハ之レニ三日ノ猶豫ヲ加フ)ニ左ノ郵便日數ヲ加ヘタルモノトス

一倫敦	三十五日
一里昂	三十四日
一紐育	二十五日

第三條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲ以テ買入レタル爲換手形ハ横濱正金銀行ニ於テ代金ノ取立ヲナシ日本銀行ヘ戻シ入ルヽノ義務アルモノトス而シテ横濱正金銀行ハ代金取立ノ爲メ預リタル爲換手形ニ對シ預リ證書ヲ製シ日本銀行ヘ交付スヘキモノトス

但横濱正金銀行ハ日本銀行ヘ對シ其本店ノ取扱ニ係ルモノハ本文手形預リ證書ニ横濱正金銀行監理官ノ認印ヲ求メ其證書ニ記載スル手形ノ相違ナキコトヲ證明シ其神戸支店ノ取扱ニ係ルモノハ本文手形預リ證書ニ該手形ヲ添ヘ日本銀行大阪支店ヘ差出シ其檢印ヲ

得テ之ヲ證明スルモノトス

第四條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲ爲シタル爲換手形ニシテ代リ金取立ノ爲メ横濱正金銀行ヘ預リタルトキ日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ハ横濱正金銀行ヨリ在外支店又ハ出張所ヘ送付シ到達ノ上其支拂人ヨリ仕拂承諾ノ手續ヲナシ其明細表ヲ製シ其地ノ領事ニ差出シ該手形及取立現金ノ出納ハ同領事ノ監督ヲ受クルモノトス

又外國ヨリ日本ヘ向ケタル爲換手形及取立現金ノ出納ハ其本店ノ取扱ニ係ルモノハ横濱正金銀行監理官ノ監督ヲ受ケ其神戸支店ノ取扱ニ係ルモノハ日本銀行大阪支店ノ監督ヲ受クルモノトス

第五條　此約條ニ據リ横濱正金銀行ニ於テ代金取立ノ委託ヲ受ケタル爲換手形ハ其支拂ノ有無ニ拘ハラス期日ニ至レハ其代リ金ヲ横濱正金銀行ヨリ日本銀行ヘ支拂フヘキモノトス

第六條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲナシタル爲換手形ハ不渡リ又ハ其他如何樣ノ損失ヲ生スルモ其損失ハ總テ横濱正金銀行ノ負擔タルヘキモノトス

第七條　日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形又ハ外國ヨリ日本ヘ向ケタル爲換手形ニシテ手形面ニ外國貨幣ヲ顯ハシ銀貨高ノ記載ナキモノハ左ノ假定相場ヲ以テ日本銀貨ニ換算シ日本銀行ハ其銀貨高ニ對シテ再割引ヲナシ横濱正金銀行モ亦其銀貨高ヲ以テ取立代金トシテ日本銀行ヘ支拂フヘキモノトス

但外國爲換相場ノ高低ニ依リ此假定相場ヲ更正スルモノトス

英貨　一磅ニ付　日本銀貨　六圓四拾錢

即チ壹圓ニ付三志一片二分ノ一

佛貨　一佛ニ付　日本銀貨　貳拾五錢

即チ壹圓ニ付四佛

米貨　一弗ニ付　日本銀貨　壹圓[illegible]拾五錢

即チ壹圓ニ付八十仙

第八條　此約條ニヨリ横濱正金銀行ノ預リタル爲換手形ノ支拂人ニ於テ期日前支拂ヲ爲シタルトキハ其外國ヨリ日本ヘ向ケタル分ハ横濱正金銀行ハ其手形面ノ金額ヲ直ニ日本銀行ヘ戻シ入レ年二分ノ割合ヲ以テ日數ニ應シ割戻ヲ受クヘキモノトシ又其日本ヨリ外國ヘ向ケタル分ハ其手形ノ取扱ヲ爲シタル横濱正金銀行支店出張所ハ次回ノ郵便ヲ以テ之ヲ其本店ヘ報告シ其本店ハ直ニ其代リ金ヲ日本銀行ヘ戻シ入レ其日ヨリ手形面ノ支拂期日迄ノ日數ニ應シ年二分ノ割合ヲ以テ日本銀行ヨリ割戻シヲ受クヘキモノトス

但支拂人ニ於テ期日前内入金ヲ爲スモ本文ノ手續ヲ爲サス金額支拂迄其金員ハ横濱正金銀行ニ於テ保護預リ金トシテ預リ置クモノトス

第九條　横濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ再割引手形ノ期日前ニ支拂ヲ受ケタルトキハ該金額ニ對シ最初返金ヲ約定シタル銀貨高ヲ顯ハシ且假定返納期日ヲ期限トシタル別紙雛形ノ如キ手形ヲ製シ之ヲ其地ノ領事ヘ差出シ領事ノ承諾ヲ得テ其金額ヲ同支店出張所ノ所有ニ振換ユルコトヲ得ルモノトス

前項ノ手形ヲ領事ヘ差出スニハ之ニ其仕拂ヲ受ケタル再割引手形ノ明細表竝ニ其手形ニ對

シ日本銀行ノ割引シタル銀貨高ヲ記載シタル書面ヲ添フルモノトス

日本銀行ニ於テ第一項ノ手形ヲ領事ヨリ受取リ其旨ヲ横濱正金銀行本店ヘ通知シタルトキハ同本店ハ期日ニ至リ其金額ヲ返納シテ右金額ニ對スル再割引手形ノ決算ヲ爲スモノトス

第十條　横濱正金銀行ハ日本銀行ノ爲メニ海外ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入スルノ義務アルモノトス而シテ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入シタルトキハ之ヲ日本銀行ヘ交付シテ以テ取立爲換金ノ戻シ入ニ充テ若シ當時戻入期日ノ爲換ナキトキハ其代リ金ヲ受取ルヘキモノトス但輸入スヘキ銀塊竝ニ墨銀高ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ豫メ之ヲ定ムルモノトス

第十一條　前第十條ニ據リ横濱正金銀行ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ日本銀行ハ交付スルトキハ墨銀ハ一弗ヲ以テ銀貨壹圓トシ銀塊ハ純銀三百七十四「グレイン」四〇（日本壹圓銀貨ニ含有スル量目）竝ニ鑄造費（目下ノ造幣規則ニヨレハ百分ノ一）トヲ以テ銀貨壹圓ノ計算ヲナスモノトス又其銀塊ノ場合ニ於テハ横濱正金銀行ハ之ヲ日本銀行大阪支店ニ送付シ同支店ノ受取證ニ假換算勘定書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ差出スヘキモノトス日本銀行ハ右受取證書ト假勘定書トヲ受取リタル日其假勘定書ノ金額ヲ以テ取立爲換金ノ戻入金ニ充テ又ハ其代リ金ヲ横濱正金銀行本店ヘ交付シ追テ大阪造幣局ノ分析表ニヨリ其精算ヲ爲スヘキモノトス

第十二條　此約條ニヨリ横濱正金銀行ヨリ日本銀行ニ再割引ヲ請求スル爲換手形ハ荷爲換若クハ通常爲換等ノ種類ニ拘ハラス兩銀行ノ間ニ於テハ總テ通常爲換ト同樣ノ取扱ヲ爲スヘキモノトス

第十三條　横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ預リタル取立爲換手形及取立タル金錢ノ出納ニ付別

ニ帳簿ヲ設置シ其出納ヲ明瞭ニ登記スヘシ

第十四條　日本銀行ハ此ノ約條ノ業務ニ關スル横濱正金銀行ノ帳簿竝ニ其預ケタル手形及金圓ヲ檢査スルノ權アルモノトス

第十五條　此約條ニヨリ日本銀行ニ於テ再割引ヲナセシ爲換手形ノ代リ金取立及金錢ノ出納銀塊墨銀ノ購收回送其他此約條面ヨリ生スル事業ハ無手數料ニテ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第十六條　此約條期限ハ二箇年トス然レトモ雙方協議ノ上大藏大臣ノ認可ヲ經テ延期スルヲ得ルモノトス

第十七條　此約條ノ改正ヲ要スルトキハ雙方協議ノ上大藏大臣ノ允許ヲ請フヘシ

右ノ條々日本銀行横濱正金銀行兩行協議ノ上大藏大臣ノ許可ヲ經テ約定候事

明治二十四年十月

日本銀行總裁
同　文書局長理事
横濱正金銀行頭取
同　支配人

（手形雛形）

爲換手形

一　銀貨何圓

右ハ日本銀行再割引取立手形期日前入金額ノ内何貨何程受取候ニ付其代リ金トシテ前書ノ金額來ル何月何日限日本銀行へ御仕拂別紙明細書ニ照シ再割引取立手形ノ御決算可被成候也

年　月　日

横濱正金銀行

何地支店又ハ出張所

主　　任印

横濱正金銀行頭取宛

按スルニ明治二十四年ハ外國貿易ノ景況一變シテ輸出超過ヲ呈シ隨テ銀貨ノ受入高ハ壹千萬圓以上ニ達シタリ而シテ都會ノ地ハ往々商況ノ不振金融緩慢ノ嘆聲ヲ聞クモ全般ノ狀況ヨリスレハ平穩無事ヲ以テ終レリ故ニ日本銀行營業ノ景況ニ於テモ資本ノ運轉ハ前年ニ比シ三倍五割餘ノ增進ヲ顯ハシ稍進歩ノ觀アリシモ一般ノ業務ニ於テハ寧ロ間隙ノ狀アリ官金勘定ハ各種公債ノ償還及募集ノ爲メ前年ニ比シテ其取扱高頗ル巨額ニ達シタリ預金勘定ハ官民ヲ分割シタル爲メ大ニ減少セリ然レトモ特ニ當座預金ニ在テハ却テ增額ヲ顯ハセリ是レ同年三月以降東京手形交換所ノ同盟ニ加入シテ其交換尻ノ決算ヲ引受クルコト、ナリタルニ由ルナラン乎

又貸付金ハ定期貸ハ大ニ減少シタルモ當座貸ハ却テ非常ノ增進ヲ顯ハセリ蓋シ定期貸ノ減少ハ主トシテ定期貸カ擔保品付手形ノ割引ニ多ク移リタルニ由リ當座貸ノ增加ハ手形交換尻決算ヲ引受ケタルカ爲メ當座貸ノ出納頻繁ナリシニ因ル然リ而シテ割引事業ニ於テハ非常ノ減額ヲ來シ頗ル萎縮ノ狀アリ是レ一ハ日本銀行カ嚴ニ手形ノ良否ヲ調査シ容易ニ其割引ヲ許サヽリシト一ハ商業不振ノ結果トニ基クモノナルヘシ

明治二十五年二月一日日本銀行ハ其本支店間保證拂小切手ノ取扱ヲ開始セリ蓋シ東京組合銀行ノ請求（前年十二月二十三日及同年一月二十三日東京交換所寄請）ヲ容レ手形流通ノ進歩ヲ助ケ且ツ金融ノ便ヲ得セシメンカ爲メ該組合銀行大阪支店ヨリ同行大阪支店ヘ宛テ振出シタル當座小切手ニシテ他ノ一方ニ於テ仕拂ヲ受ケントスル者ハ同行本支店ノ間互ニ保證シテ仕拂ヲ爲スノ道ヲ開キシナリ蓋シ十二月一日當座預金拾萬圓以上ノ者ニハ利子ヲ付セサルコトトセリ先キニ明治二十三年金融逼迫ヲ告クルニ當リ預金奬勵ノ爲メ當座預金ニ日歩五厘ノ利子ヲ付スルコト、セシカ近來金融緩慢ニ預金過多ニ赴クノ傾キアルヲ以テ茲ニ之ヲ改正センナリ」

同年ハ外國貿易前年ヨリ一層ノ輸出超過ヲ呈シ日本銀行銀貨ノ受入高ハ千貳百萬圓ニシテ年末ニ至リ正貨準備ノ額實ニ八千貳百八拾餘萬圓ノ巨額ニ達ス蓋シ同年ハ金融緩慢商業沈靜ノ聲漸ク喧シク運貨大ニ增加シ各般ノ事業將ニ振興セントシテ尚ホ未タ其發動ヲ見サルニ由ルモノニシテ農工商業ノ衰退セシニアラス國家全般上ヨリスレハ寧ロ賀スヘキ事トス然レトモ日本銀行ニ就テ見ルトキハ正貨準備增加スルニ隨テ保證準備發行ノ兌換銀行券ハ勢ヒ減少ヲ來タシ又預金額ト流通資本ノ潤布スルニ隨ヒテ勢益膨脹シ貸金額ハ益收縮シ以テ大ニ其利益ヲ減少セサルヲ得ス然レトモ同年ニ於テ却テ其利益ノ前年ヨリ增加セシモノハ幸ニ所有金貨金塊賣却益金ノ影カラサリシニ由ルモノナリ

明治二十六年一月一日改正保證預規定ヲ施行シ尋テ二月二十七日同年四月一日ヨリ改正保證預規定ニ準シ其取扱ヲ實施スヘキ旨大阪支店ヘ通牒シ越ヘテ四月一日當座預金利子ヲ全廢セリ蓋シ當座預金ニ利子ヲ付スルコトハ去ル明治二十三年金融逼迫ニ際シ之ヲ創定セシカ爾來金融界

ノ面目漸ク一變セシヲ以テ前年十二月既ニ拾萬圓以上預金ノ利子ヲ廢シ是ニ至テ之ヲ全廢セリ以テ六月十七日「コルレスポンデンス」約定繼續竝ニ約條書修正ノ件ヲ伺定セリ左ノ如シ

日本銀行

明治二十六年六月十七日文第二百八號上申「コルレスポンデンス」約條續繼竝ニ約條書修正ノ件聽可ス

明治二十六年六月二十一日　　大藏大臣 渡邊國武

本行ト各銀行ト締約致居候「コルレスポンデンス」約條ノ儀本年六月三十日滿期ト相成候ニ付來ル七月一日ヨリ二十八年六月三十日迄滿二箇年間引續締約致度尤約定書文案ノ儀ハ御台ニ依リ此際別紙乙號ノ通修正致度候間至急御許可被成下度此段上申仕候也

明治二十六年六月十七日　　日本銀行總裁 川田小一郎

大藏大臣 渡邊國武殿

「コルレスポンデンス」約條書

日本銀行ト何々銀行トノ間ニ於テ「コルレスポンデンス」ヲ締結シ取引ヲ開クニ付日本銀行定款第二條ノ旨ニ遵ヒ大藏大臣ノ許可ヲ請ケ雙方協議ノ上決定シタル約條左ノ如シ

第一條　日本銀行ト何々銀行トノ「コルレスポンデンス」ヲ締約セルニ付自今日本銀行本店ト何々銀行何々地支店トノ間ニ於テ互ニ左ノ取引ヲ爲ス可シ

第一　爲替取引ノ事

第二　諸手形取付ノ事

第三　融通貸借ノ事

第二條　前第一條ノ取引上ニ於テ貸借スル金額ハ何萬圓ヲ極度トス

第三條　前第一條各種ノ取引ヲ開クニ付何々銀行ハ豫メ實價何萬圓ニ相當スル根抵當品ヲ日本銀行ヘ差入置可シ其抵當品種類及價格ハ日本銀行ノ定ムル所ニ從フヘキハ勿論公債證書又ハ株券等ヲ抵當品ト爲ス場合ニハ日本銀行ニ於テ第十條ニ從ヒ其賣却ヲ爲シ得ルカ爲メ何々銀行ハ豫メ其賣却委任狀等必要ノ書類ヲ抵當品ニ添付ス可シ

第四條　送金爲換ヲ振出シタルトキハ直チニ案内書ヲ其振向先ヘ送付ス可ク又現金仕拂濟ノ上ハ振向先ヨリ直チニ其旨ヲ振出元ヘ通報ス可シ

第五條　本約條ニ基キ電信爲換ハ勿論其他ノ取引上至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テスルモノトス尤モ電信誤記ヨリ生セシ損失ハ總テ其振出元負擔タル可シ

但電信ハ略語及符號ヲ以テスルモノトシ其略語及符號ハ日本銀行ヨリ廻付シ置ク可シ

第六條　本約條ニ基キ融通借ヲ請求スルトキハ豫メ照會ノ上一方ノ承諾ヲ受ク可シ

第七條　本約條取引貸借勘定ハ雙方共毎年五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ決算ヲナスヘシ

第八條　本約條ノ取引利子ノ割合ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ變更ノ都度通知スルモノトス其利子勘定書ハ五月、十一月ノ末日ヲ期トシテ雙方ヨリ送付照會シ而シテ其利金ヲ授受ス可シ尤モ利子ハ雙方共借方トナリタル當日ヨリ勘定尻返還ヲ了スル當日迄ノ利子ヲ仕拂フ可シ

第九條　諸手形ノ取付ヲ爲スニ方リ若シ其仕拂ヲ拒却セラレタルトキハ拒ミ證書ヲ受ケ互ニ

其旨ヲ急報ス可シ

第十條　何々銀行ニ於テ前第一條各種ノ取引上ニ於テ借方トナリタル金額其期限ニ至リ返償ノ義務ヲ果サヽルトキハ日本銀行ハ何々銀行ニ對シ通知ヲ要セス直チニ前第三條ノ根抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以テ其負債元利及賣却費用ヲ償ヒ若シ剩餘アレハ之ヲ返付シ不足アレハ尚何々銀行ノ資產ヲ以テ之ヲ償却セシム可シ

但日本銀行ニ於テ抵當品ヲ賣却シタルトキ何々銀行ハ其賣却手續價格及費用等ニ付異議アル可カラス又其賣却ヲ爲スニ當リ第三條ノ委任狀等ノ外ニ尚何々銀行ノ記名調印等ヲ要スルコトアレハ速カニ其手續ヲナス可シ

第十一條　本約條ハ明治二十六年七月一日ヨリ明治二十八年六月三十日マテヲ限リトス滿期ニ至レハ貸借決算ノ上其借越シアル方ニ於テ悉皆其勘定金ヲ償還シ日本銀行ハ根抵當品ヲ返却シテ此約ヲ了ス可シ

第十二條　何々銀行ニ於テ本約定ニ違背セシ廉アルカ若クハ其他ノ事故ニ依リ解約セサルヲ得サル場合ニ於テハ日本銀行ハ期限中ト雖モ此約條ヲ解クコトヲ得ヘシ

但其場合ニ於テハ貸借ノ決算ヲ爲ス等ハ第十一條ノ手續ノ如クスヘシ

第十三條　本約條ハ期限中ト雖モ雙方熟議ノ上ハ更正增削ヲ爲シ得ルノミナラス尚滿期後更ニ繼約スルコトヲ得ヘシ

右ノ條件ヲ締約シタル證トシテ本約條書二通ヲ作リ雙方役員記名調印ノ上一通ハ日本銀行ニ一通ハ何々銀行ニ於テ保存スルモノ也

明治二十六年六月　日

日本銀行總裁
同　文書局長理事
何々銀行頭取
同　取締役
同　支配人

越エテ十月四日横濱正金銀行所有外國爲換手形再割引約條繼續ノ件ヲ伺定シタリ左ノ如シ

明治二十六年十月四日

日本銀行

明治二十六年十一月一日

大藏大臣　渡邊國武

本行ニ於テ横濱正金銀行所有外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又同銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシムル儀ニ付去明治二十四年十月二十三日付御認可ヲ經テ兩行ノ間ニ締結致候約條ハ本月ヲ以テ滿期相成候處更ニ向二箇年間約條繼續致度尤約條書ハ此際別紙之通リ修正致度候間御認可被下度此段上申仕候也

明治二十六年十月四日

日本銀行總裁代理
理事　三野村利助

大藏大臣　渡邊國武殿

日本銀行ニ於テ横濱正金銀行ノ所有スル外國爲換手形ノ再割引ヲ爲シ又横濱正金銀行ヲシテ海外ヨリ銀塊若クハ墨銀ヲ輸入セシムルニ付兩銀行ノ間ニ締結スル約條左ノ如シ

第一條　日本銀行ハ横濱正金銀行ノ所有スル外國ヨリ日本ヘ向ケタル又日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ノ再割引ヲナスヘキモノトス

但日本銀行ニ於テ一箇年間ニ再割引ヲ爲スヘキ金額ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ月割豫算ヲ定ムルモノトス尤其豫算額ハ實地貿易ノ景狀ニ從ヒ兩銀行協議ノ上增減變更スルコトアルモノトス

第二條　前第一條ノ爲換手形再割引ノ歩合ハ年二分トシ再割引ノ日ヨリ爲換手形支拂期日迄ノ日數ニ應シ算出スルモノトス

但日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ノ支拂期日ハ其手形面ノ日數英米國ハ之ニ三日ノ猶豫ヲ加フ)ニ左ノ郵便日數ヲ加ヘタルモノトス

一倫敦　三十五日

一里昂　三十四日

一紐育　二十五日

第三條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲ以テ買入レタル爲換手形ハ横濱正金銀行ニ於テ代金ノ取立ヲナシ日本銀行ヘ戻シ入ル、ノ義務アルモノトス而シテ横濱正金銀行ハ代金取立ノ爲メ預リタル爲換手形ニ對シ預リ證書ヲ製シ日本銀行ヘ交付スヘキモノトス

但横濱正金銀行ハ日本銀行ヘ對シ其本店ノ取扱ニ係ルモノハ本文手形預リ證書ニ横濱正金銀行監理官ノ認印ヲ求メ其證書ニ記載アル手形ノ相違ナキコトヲ證明シ其神戸支店ノ取扱ニ係ルモノハ本文手形預リ證書ニ該手形ヲ添ヘ日本銀行大阪支店ヘ差出シ其檢印ヲ得テ之ヲ證明スルモノトス

第四條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲナシタル爲換手形ニシテ代リ金取立ノ爲メ横濱正金銀行ヘ預リタルトキ日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形ハ横濱正金銀行ヨリ在外支店又ハ出張所ヘ送付シ到達ノ上其支拂人ヨリ仕拂承諾ノ手續ヲナシ其明細表ヲ製シ其地ノ領事ニ差出シ該手形及取立現金ノ出納ハ同領事ノ監督ヲ受クルモノトス

又外國ヨリ日本ヘ向ケタル爲換手形及取立現金ノ出納ハ其本店ノ取扱ニ係ルモノハ横濱正金銀行監理官ノ監督ヲ受ケ其神戸支店ノ取扱ニ係ルモノハ日本銀行大阪支店ノ監督ヲ受クルモノトス

第五條　此約條ニ據リ横濱正金銀行ニ於テ代金取立ノ委託ヲ受ケタル爲換手形ハ支拂ノ有無ニ拘ハラス期日ニ至レハ其代リ金ヲ横濱正金銀行ヨリ日本銀行ヘ支拂フヘキモノトス

第六條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲナシタル爲換手形ハ不渡リ又ハ其他如何樣ノ損失ヲ生スルモ其損失ハ總テ横濱正金銀行ノ負擔タルヘキモノトス

第七條　日本ヨリ外國ヘ向ケタル爲換手形又ハ外國ヨリ日本ヘ向ケタル爲換手形ニシテ手形面ニ外國貨幣ヲ顯ハシ銀貨高ノ記載ナキモノハ左ノ假定相場ヲ以テ日本銀貨ニ換算シ日本銀行ハ其銀貨高ニ對シテ再割引ヲナシ横濱正金銀行モ亦其銀貨高ヲ以テ取立代金トシテ日本銀行ヘ支拂フヘキモノトス

但外國爲換相場ノ高低ニ據リ此假定相場ヲ更正スルモノトス

英　貨　一磅ニ付　日本銀貨　七圓貳拾五錢

卽チ壹圓ニ付二志九片

佛　貨　一佛ニ付　日本銀貨　參拾錢

卽チ壹圓ニ付三佛三十山

米　貨　一弗ニ付　日本銀貨　壹圓五拾錢

卽チ壹圓ニ付六十六仙

第八條　此約條ニ據リ橫濱正金銀行ノ預リタル爲換手形ノ支拂人ニ於テ期日前支拂ヲナシタルトキハ其外國ヨリ日本ヘ向ケタル分ハ橫濱正金銀行ニ於テ其手形面ノ金額ヲ直チニ日本銀行ヘ戻シ入レ年二分ノ割合ヲ以テ日數ニ應シ割戻シヲ受クヘキモノトシ又其日本ヨリ外國ヘ向ケタル分ハ其手形ノ取扱ヲ爲シタル橫濱正金銀行支店出張所ヨリ次回ノ郵便ヲ以テ之ヲ其本店ヘ報告シ其本店ハ直ニ其代リ金ヲ日本銀行ヘ戻シ入レ其日ヨリ手形面ノ支拂期日迄ノ日數ニ應シ年二分ノ割合ヲ以テ日本銀行ヨリ割戻シヲ受クヘキモノトス

但支拂人ニ於テ期日前內入金ヲナスモ本文ノ手續ヲ爲サス金額支拂迄其金員ハ橫濱正金銀行ニ於テ保護預リ金トシテ預リ置クモノトス

第九條　橫濱正金銀行在外支店出張所ニ於テ再割引手形ノ期日前ニ支拂ヲ受ケタルトキハ該金額ニ對シ最初返金ヲ約定シタル銀貨高ヲ顯ハシ且假定返納期日ヲ期限トシタル別紙雛形ノ如キ手形ヲ製シ之ヲ其地ノ領事ヘ差出シ領事ノ承諾ヲ得テ其金額ヲ同支店出張所ノ所有

ニ振換ユルコトヲ得ルモノトス

前項ノ手形ヲ領事ヘ差出スニハ之ニ其支拂ヲ受ケタル再割引手形ノ明細表竝ニ其手形ニ對シ日本銀行ノ割引シタル銀貨高ヲ記載シタル書面ヲ添フルモノトス日本銀行ニ於テ第一項手形ヲ領事ヨリ受取リ其旨ヲ橫濱正金銀行本店ヘ通知シタルトキハ同本店ハ期日ニ至リ其金額ヲ返納シテ右金額ニ對スル再割引手形ノ決算ヲナスモノトス

第十條　橫濱正金銀行ハ日本銀行ノ爲メニ海外ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入スルノ義務アルモノトス而シテ銀塊又ハ墨銀ヲ輸入シタルトキハ之ヲ日本銀行ヘ交付シテ之ヲ取立爲換金ノ戻シ入ニ充テ若シ當時戻入期日ノ爲換ナキトキハ其代リ金ヲ受取ルヘキモノトス

但輸入スヘキ銀塊竝ニ墨銀高ハ兩銀行ノ協議ヲ以テ豫メ之ヲ定ムルモノトス

第十一條　前第十條ニ據リ橫濱正金銀行ヨリ銀塊又ハ墨銀ヲ日本銀行ヘ交付スルトキハ墨銀ハ一弗ヲ以テ銀貨壹圓トシ銀塊ハ純銀三百七十四「グレイン」四〇(日本壹圓銀貨ニ含有スル量目)竝ニ鑄造費(目下ノ造幣規則ニ據レハ百分ノ一)トヲ以テ銀貨壹圓ノ計算ヲナスモノトス又其銀塊ノ場合ニ於テハ橫濱正金銀行ハ之ヲ日本銀行大阪支店ニ送付シ同支店ノ受取證ニ假換算勘定書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ差出スヘキモノトス日本銀行ハ右受取證書ト假勘定書トヲ受取リタル日其假勘定書ノ金額ヲ以テ取立爲換金ノ戻入金ニ充テ又ハ其代リ金ヲ橫濱正金銀行本店ヘ交付シ追テ大阪造幣局ノ分析表ニ據リ其精算ヲ爲スヘキモノトス

第十二條　此約條ニ據リ橫濱正金銀行ヨリ日本銀行ニ再割引ヲ請求スル爲換手形ハ荷爲換若クハ通常爲換等ノ種類ニ拘ハラス兩銀行ノ間ニ於テハ總テ通常爲換ト同樣ノ取扱ヲナスヘ

キモノトス

第十三條　横濱正金銀行ハ日本銀行ヨリ預リタル取立爲換手形及取立タル金錢ノ出納ニ付別ニ帳簿ヲ設置シ其出納ヲ明瞭ニ登記スヘシ

第十四條　日本銀行ハ此約條ノ業務ニ關スル横濱正金銀行ノ帳簿竝ニ其預ケタル手形及金員ヲ檢査スルノ權アルモノトス

第十五條　此約條ニ據リ日本銀行ニ於テ再割引ヲナセシ爲換手形ノ代リ金取立及金錢ノ出納銀塊墨銀ノ購收廻送其他此約條面ヨリ生スル事業ハ無手數料ニテ横濱正金銀行ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第十六條　此約條期限ハ二箇年トス然レトモ雙方協議ノ上大藏大臣ノ認可ヲ經テ延期スルヲ得ルモノトス

第十七條　此約條ノ改正ヲ要スルトキハ雙方協議ノ上大藏大臣ノ允許ヲ請フヘシ

右ノ條々日本銀行横濱正金銀行兩行協議ノ上大藏大臣ノ許可ヲ經テ約定候事

明治二十六年十月　日

而シテ從來大阪支店ニ配置シタル資本金ハ十二月三十一日限リ之ヲ廢止シ爾後本店勘定ニ繰込整理スルコトヽセリ

明治二十六年ハ歳首以來貿易ノ盛況ヲ受ケテ上半季間ノ銀貨受入高ハ其取付高ニ對シ貳百萬圓ノ超過アリ加フルニ一方ユハ公債ノ償還アリ乃チ金融ノ緩慢ハ之ヲ前年ニ比シテ一層ヲ加ヘタリ之カ爲メ當座預金ハ膨脹シテ止マサルノ狀アリ隨テ從來其日歩五厘ナリシ規定ヲ無利息ニ改正シタルカ如キ其一斑ヲ察スヘシ十月以降ニ於テハ市場俄ニ活氣ヲ呈シタルト生絲不捌ノ結果トニ依リ大ニ其貸付金ヲ增加シ歳末ニ接シテハ正貨準備ハ漸次減少シテ保證準備之ニ代テ增加シ殆ント其制限高ヲ超ユルニ至レリト雖モ利益ノ割合ハ遂ニ之ヲ前年ニ比シテ數歩ヲ讓ラサルヲ得サリキ

明治二十七年一月十九日九州同盟銀行ノ請求ヲ容レ西部支店ニ於テ振換勘定ヲ以テ該同盟銀行相互ノ貸借ヲ決濟スヘキ取扱ヲ始メタリ而シテ三月七日本年一月以降三箇月毎ニ全國通貨流通ノ概況ヲ報告スヘキ旨達セラレ越ヘテ六月二十三日函館第百十三國立銀行外四行ノ申請ニ因リ北海道ノ金融ヲ緩和スルカ爲メ該五銀行東京本支店ノ割引取引ヲ擴張シ之ニ對スル金員ヲ本行函館出張所ヨリ直ニ該五銀行ニ交付スルノ取扱ヲ始メ又札幌函館兩出張所ノ運用ニ供スルカ爲メ未曾有兌換劵ヲ配賦シ其取扱手續ヲ通牒セリ

同年ハ前年ニ引續キ金融ハ繁忙ヲ以テ起リ次第ニ盛況ヲ示サントセシカ俄然日清交戰ノ事アリ爾來經濟社會ノ浮沈朝夕ヲ測ル可ラサルモノアリ隨テ市場ノ媒介タル兌換銀行劵ノ景狀ヲ察スレハ其資本ニ供給サル、モノハ頗ニ減シタルニ拘ハラス銀貨ノ取付ヲナスモノ愈〻多クシテ毎ニ其受入高ニ超過シ特ニ軍費トシテ銀貨ノ支出サル、モノニ至テハ殆ント其底止スル所ヲ知ラス遂ニ軍事公債ノ募集アリ繁忙ハ更ニ一層ノ氣勢ヲ加ヘタリ而シテ一方ヲ顧レハ輸入ハ大ニ輸出ニ超過シ之レカ爲メ正貨ノ流出スルモノ亦尠ナカラス是ニ於テ六月以來屢〻金利ヲ引上ケソ資金回收ヲ勉メタリト雖モ年末ニ及テハ遂ニ制限外兌換銀行劵四百拾九萬七千五百四拾九圓ノ發行ヲ見ルニ至レリ之ヲ要スルニ本年ハ多忙ヲ以テ經過シ隨テ出入金預金貸付割引等ノ如キ亦之ヲ

前年ニ比スレハ總テ膨脹セサルモノナシ故ニ純益金モ大ニ增加スルニ至レリ

明治二十八年七月十六日横濱正金銀行神戸支店振出ノ小切手ニシテ本行大阪支店ノ仕拂證書ヲ經タルモノニ對シ現金支拂ノ取扱手續ヲ定メ又同月三十一日横濱正金銀行上海出張所ヨリ本行西部支店ニ宛テタル送金手形ノ取扱方ヲ定ム翌八月二十四日ニハ横濱正金銀行上海出張所發本行西部支店宛ノ電信爲換取扱ヲ承諾シタリ

明治二十八年ハ上半期ニ在テ尙ホ戰爭ノ餘勢ヲ受ケ社會一般警戒ノ期ニ屬シ商勢沮喪ノ傾向ヲ以テ終レリ而シテ七月ニ至リ日本銀行カ利息歩合ヲ引下ケ多少緩和ノ策ヲ執レルト戰後諸種ノ原因トニ因リ市場ノ景況俄ニ一變シ玆ニ經濟社會進運ノ端緒ヲ發キ外國貿易ハ七月以後生絲賣行ノ好況ニ伴ヒ著シキ輸出超過ヲ示シ金銀回收ノ氣運將ニ發セントスルノ好望ニ引立テラレ諸會社ノ新設增資ハ殆ント驚クヘキノ巨額ニ達シ之ヲ一二ノ統計ニ徵スルモ外國貿易輸出入總額ニ於テ前年ヨリ一割五分ヲ增シ東京同盟銀行貸出平均殘高ニテ前年ヨリ七分餘ヲ增シ東京交換所手形交換高ハ前年ニ比シテ五割六分ヲ增シ其軍事公債拂込諸會社拂込高ニ於テ著シク增加スル等實ニ未曾有ノ進歩ニシテ其影響延テ通貨流通上ニ現ハレ年首紙幣流通高ハ壹億六千五百萬圓餘ヲ存スルニ至レリ是ニ由テ之ヲ觀レハ經濟社會ノ發達實ニ驚クヘキノ趨勢ナルヲ以テ日本銀行ハ之ニ應處センカ爲メ資本金ノ增加ヲナシ北海道支店ヲ設ケ普ネク資金ノ供給ヲシテ其需要ニ應スルノ策ヲ執レリ斯ノ如キ時期ニ際シ日本銀行ハ廣ク通貨ヲ供給シ事業ノ發達ヲ扶掖スルコトヲ勉メタルヲ以テ貸出金ノ巨額ナル割合ニ其利益金ハ甚タ多カラス是レ蓋シ日本銀行カ國家事業ニ重キヲ置キ務メテ戰後經濟社會ヲ抑揚調和シタルニ由ルモノナリ

明治二十九年ニ於ケル上半季ハ金融概ネ平穩ニシテ下半季ハ概シテ繁忙ナリシカ如シ一二月ノ頃ハ金融引締ノ傾向ナリシカ其後稍緩和トナリ六月ニ至リテ生絲製茶生產ノ季節ニ向ヒ且ツ諸會社株金ノ拂込モ亦益多キヲ加フルニ依リ資金ノ需要大ニ起リ又一方ニ於テ外國貿易ハ貨物ノ輸入每ニ輸出ニ超過シ上半季中ニ已ニ貳千六百萬圓餘ノ輸入超過トナリ金融稍繁忙ヲ感スルニ至レリ然レトモ曩ニ償金取扱事務ヲ政府ヨリ任命セラレタルニ依リ其事務ヲ正金銀行倫敦支店ニ代理委任セシヲ以テ幸ニ該支店ニ收容償金ノアルカ故ニ之カ爲換資金ニ充テ以テ正貨流出ヲ防止シ加之其回送ニ依リ却テ金銀輸入超過ヲ來セリ此輸入金銀ハ國庫ニ收マリテ更ラニ市場ノ流通資金タルヲ得サルヲ以テ市場ノ通貨ハ益減少シテ金融逼迫ノ勢ヲ釀セリ是ニ於テ政府ハ國庫ノ現在金ヲ日本銀行ニ預託シテ以テ市場資金ノ需要ニ運用スルコトヲ許シタリ然レトモ日本銀行ハ此預託ノミニテハ事業勃興ノ際前途ヲ慮リ九月ニ於テ貸出金利息歩合一厘ヲ引上ケタリ其後天災ノ警報續出シ株金拂込益加ハリ外國貿易愈逆運トナリシヲ以テ金融繁忙ヲ告ケ其結果大阪ニ於テ一二銀行ノ支拂停止トナリ手形交換所手形賣買ノ不整理ヲ來シ東京ニ於テモ手形不渡等種々ノ異相ヲ現出セシト雖モ是レ固ヨリ一局部ノ不幸ニシテ經濟社會全體ヨリ之ヲ觀察スレハ毫モ重大視スルニ足ラスト雖モ之ヲ自然ノ成行ニ放任スルトキハ或ハ其餘弊ノ大事ヲ釀生スルニ至ランコトヲ虞レ日本銀行ハ大阪ニ於ケル手形賣買ノ整理ニ就テ特別ノ取扱ヲナセリ爾來市場ハ平穩ヲ以テ年ヲ終レリ

思フニ此年ハ各般ノ事業伸張ノ時期ニ際シ外國貿易ノ如キ諸銀行取引ノ如キ皆前年ニ比シ增進セサルハナク加フルニ物價騰貴等ノ爲メ通貨ノ需要モ亦勢增加セサルヲ得ス故ニ日本銀行ノ取

引高モ自然ノ情勢トシテ益〻增大トナリ隨テ其純益モ亦前年ヨリ多少增加シタルヲ見ルナリ

明治三十年一月一日北海道支店小樽派出所ニ於テ從來取扱タル金庫及ヒ國債事務ノ外更ニ爲換貸付割引等一般ノ業務ヲ開始シ尋テ同月十三日同行營業報告ヲ毎週一回官報ニテ公告スルコトニ定メ越ヘテ四月一日京都出張所ニ於テ從來取扱ヒタル金庫及ヒ國債事務竝ニ爲換業務ノ外更ニ貸付割引等一般ノ業務ヲ開始セリ尋テ六月十四日一個人取引ニ對スル利率ヲ銀行取引利率ト區別スルコト、シ又擔保割引ヲ廢シ同時ニ保證品ヲ改定シ越ヘテ十一月爾來日本銀行營業上ノ取引ハ厘位ヲ切捨ツルコト、シ本店及西部北海道兩支店札幌小樽兩出張所ハ同月一日ヨリ大阪名古屋兩支店及京都臺北兩出張所ハ十二月一日ヨリ之ヲ實施セリ

同年ハ外國貿易ノ逆衝物價ノ騰貴資金ノ急需幣制改革等經濟社會ニ大變動ヲ與ヘタリ此際ニ方リ日本銀行ハ金融ノ中央機關トシテ能ク其金融調和ノ任務ヲ全フセンコトニ力ヲ用ヒ專ラ行務ノ擴張及整理ヲ圖レリ即チ同年一月ヨリ毎週營業報告ヲ官報ニ公示シ以テ世人ヲシテ金融ノ趨勢ヲ知ラシメ又津派出所ヲ廢シテ新ニ名古屋ニ支店ヲ設置シ小樽派出所ヲ擴張シテ小樽出張所トナシ六月ニハ個人取引利率ヲ區別シ擔保割合ノ制ヲ廢シ保證品ヲ改定シ同時ニ貸付及貸越利息歩合各二厘ヲ引上ケタリ然レトモ資金ノ需要ハ益〻多キヲ加ヘタルヲ以テ七月下旬ニ於テ兌換銀行券ノ制限外發行ヲ決行シタリ而シテ政府ハ八月ニ至リテ其發行稅率ヲ六分ノ割合ニ引上ケ同時ニ日本銀行モ亦銀行取引ニ係ル貸付及ヒ貸越利息竝ニ割引日歩各一厘ヲ引上クルノ已ムヲ得サルニ至レリ然レトモ資金ノ需用ハ少シモ衰ヘス制限外發行ハ益〻增加スルヲ以テ十一月一日ニ於テ政府ハ其稅率ヲ七分ノ割合ニ引上ケタリ斯ノ如キ情勢ナルヲ以テ日本銀行ノ取引尚モ自

然ノ結果トシテ益〻增大トナリ隨テ純益金モ前年ニ比シテ金銀較差勘定ヨリ生シタル利益ヲ除キ百九拾九萬六千七百參拾圓ヲ增加シタリ

明治三十一年ノ經濟社會ハ數年來ノ變態ヲ繼續シ其趨勢ハ殆ント極度ニ達シ春季金融緩和ヲ告クヘキノ時ニ際スルモ尙ホ少シモ融和スルコトナク外國貿易ハ益〻逆衝ヲ加ヘ貸出資金ハ愈〻缺乏ヲ告クルノ狀勢ナリシヲ以テ日本銀行ハ豫メ警戒ヲ加フヘキノ必要アルヲ認メ二月及ヒ二月ノ兩度ニ於テ利率ヲ改正シ貸出金利息各一厘ツヽヲ引上ケタリ爾來金融ハ愈〻壅塞シ諸般ノ事業ハ殆ント中止ノ有樣ヲ呈シ有價證券ノ價格ハ概ネ低落ヲ告ケ銀行會社ノ困難漸ク甚シカラントス此時ニ際シ自然ノ大勢ニ放任スルトキハ或ハ其禍害益〻大ナラントスルノ虞ナキニアラサルヲ以テ政府ハ經濟社會ヲ救濟スルノ策ヲ定メ勸業債券ノ募集ニ應シ又ハ日本銀行ヲシテ公債ヲ買入レシムル等市場ノ資金ヲ裕ニセンコトヲ計レリ加フルニ偶〻五月ニ於テ清國償金皆濟ノ事アリ彼是市場ノ金融ヲ緩和スヘキ要素トナリ玆ニ經濟社會ハ漸ク一變セントスルノ兆ヲ呈シ尋テ下半季ニ及テハ愈〻資金ノ需要ヲ減スルノ傾向ヲ現ハシ金融漸ク緩和セントシ且米作ノ豐穰生絲輸出ノ增加等ノ爲メ日本銀行ニ於テモ亦從來ノ警戒ヲ緩メ遂ニ十月及十二月ノ兩度ニ於テ貸出金利息各二厘ツヽヲ引下ケタリ金融ノ大勢既ニ此ノ如シ故ニ日本銀行ニ於ケル貸出金及兌換銀行券發行高モ亦稍〻減少シ即チ三十一年末ノ貸出金ハ政府貸上金ヲ除キ八千四百參拾七萬餘圓ニシテ前年末ノ壹億四百九拾七萬餘圓ニ比スレハ貳千六拾萬餘圓ヲ減シ兌換銀行券發行高ハ壹億九千七百參拾萬餘圓ニシテ前年末ノ貳億貳千六百貳拾萬餘圓ニ比スレハ貳千八百九拾萬餘圓ヲ減セリ蓋シ此ノ事實ハ以テ資金需要ノ減少ヲ見ルニ足ル可シ而シテ日本銀行ノ利益金ハ四百六拾九

萬餘圓ニシテ前年ノ利益金中ヨリ金銀較差益金七百七拾參萬餘圓ヲ控除スルモノトスルモ尚ホ百拾五萬餘圓ヲ減少セリ是レ重ニ所有公債證書ノ價格下落ノ爲メ利益金ノ內ヨリ之ヲ銷却シ且兌換銀行券制限外發行稅ヲ仕拂ヒタルモノ少ナカラサリシニ由ルヘシ又利益金配當ノ割合ハ三十一年上下兩半季ヲ通シ定例割賦金竝ニ再割賦金ヲ合セ平均年ニ一割一分强ニ當リ前年ヨリ二分弱ヲ減セリ是レ蓋シ重ニ拂込資本金ノ增加シタルニ由ルナリ

元來日本銀行ノ主業トスル所ハ手形割引ニアリ而シテ正貨吸收ノ爲メ外國手形ノ割引又ハ購入等ハ最モ其主眼トスル所ナレハ最大ノ注意ヲ茲ニ加ヘサルヲ得ス夫レ一國貨幣市場ノ繁榮ハ其國主要物產ノ性質貿易ノ景況民間慣習ノ決算期公租ノ納期公債元利支拂期等ノ如キ經濟上財政上ノ原因ニ因リ左右セラル、ハ固ヨリ論ヲ俟タス我國從來ノ經驗ニ據レハ春季ニ於テ金融甚タ緩慢七八月ノ頃ヨリ漸ク忙ハシク年末ニ迫マリ最モ繁忙ヲ告クルヲ通例トス是レ主トシテ生絲貿易ノ影響スル所ナリ故ニ日本銀行ハ平素通貨屈伸ノ方法ヲ定メ能ク市場ノ景況ニ應セサルヲ得ス通貨屈伸ノ方法ハ道理上利子割引步合ノ增減ニアルハ敢テ疑ヲ容レス而シテ泰西諸國ニアリテハ强國其境ヲ接シ市場互ニ接近シ財務ノ機關亦能ク整フヲ以テ步合增減ノ效驗著シク市場ニ顯ハルト雖モ我邦ニ於テハ地理上ノ關係大ニ異ナリ其效驗彼カ如ク著シキコト能ハス必スヤ中央銀行流通ノ彈力ヲ以テ其需供ヲ整理セサルヲ得ス今試ニ我金利甚タ高クシテ倫敦ヨリ現金ヲ呼ヒ入ルノ度ニ達シ電信ヲ以テ其事ヲ倫敦ニ通シ同所ヨリ直ニ金貨ヲ輸送スルトスルモ其同所ヨリ出テショリ橫濱ニ到著スル迄ハ殆ント四十日ヲ要ス故ニ我物價貿易港ニ滯積スト雖モ外商資金ヲ得ルノ道ナク其本國ヨリ資金ヲ取寄セサルヲ得サルモノトセハ右ノ四十日間ハ我カ物品

ヲ輸出スル能ハス其間支那印度伊太利等ノ競爭國ハ忽チ間ヲ得テ外國市場ヲ押領シ我貨物ヲ驅逐スルハ敢テ疑ヲ容レス豈ニ寒心セサルヲ得ンヤ然ルニ不幸ニシテ外國貿易ノ衝ニ當ル我銀行ハ獨リ橫濱正金銀行アルノミ其他外國銀行ナキニアラスト雖モ其資力能ク我輸出入貿易一億參千萬圓ノ媒介ヲナスニ足ラス中央銀行此間ヲ媒介シ一方ニ於テハ國立銀行等ヲ助ケテ產地ヨリ貿易港ヘ物品ヲ誘導シ一方ニ於テハ輸出手形ヲ再割引又ハ購入シテ彼等ヲシテ我物品ヲ購入スルノ便ヲ得セシメサルヲ得ス是レ我輸出貿易ヲ奬勵シ同時ニ日本銀行ノ庫中ニ正貨ヲ吸集スルノ策ナリ而シテ春季金融緩慢ノ期ニ於テ徐ニ流通ヲ減縮シテ秋冬ノ繁忙ニ備ヘサルヲ得ス是レ我市場ニ處スルノ道ニシテ日本銀行ノ執ル所ノ方針ナリ而シテ外國爲換取扱ノ如キハ其危險ト費用トヲ避ケ橫濱正金銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシメ不渡等ノ損失ハ皆同行ノ負擔トシ特ニ割引步合ヲ低下シテ此勞費ニ報スルモノナリ

明治三十二年ニ於ケル日本銀行營業ノ景況ヲ見ルニ同年三月法律第五十六號ヲ以テ兌換銀行券發行ニ課稅スルト同時ニ第五十五號ヲ以テ保證準備發行高ヲ擴張シタルヲ以テ兌換券保證準備發行高ハ從前ニ比シ參千五百萬圓ヲ增加スルニ至レリ而シテ曩ニ政府ニ於テ一千萬磅ノ英貨公債ヲ倫敦ニ募集スルニ方リ日本銀行ハ政府ヨリ其取扱事務ヲ命セラレシカ日本銀行亦自ラ進テ二百萬磅ノ應募ヲナセリ是レ一方ニ於テハ外國債ヲ募集スルニ方リ其募集條件ニ關シ彼ト協商上良結果ヲ收メンコトヲ勉メ又他ノ一方ニ於テハ兌換制度ノ擁護上何時ニテモ外國市場ニ於テ正貨ニ換フヘキ國債券ヲ所有スルノ必要ヲ認メタルニ由ルナリ明治三十二年中ノ金融ヲ見ルニ前年末ニ於ケル金融緩和ノ傾向ヲ受ケテ年首ヨリ愈〻緩和ヲ告ケ市場金利ハ漸ク低落セリ是ヲ以

テ日本銀行モ二月ヨリ七月ニ至ルマテ四回金利ヲ引下ケタリ其後生絲輸出ノ季節ニ向ヒ歐米市場ハ恰モ景氣上進ノ時ニ際會シタルヲ以テ生絲ノ賣行活潑ニ隨テ相場モ愈騰貴シ八九月ノ頃ニ至テハ輸出貿易ノ增進著シク一般經濟社會ノ景氣回復ノ氣運ニ向ヒ物價ハ漸ク騰貴シ資金ノ需用大ニ起リ金融繁忙ナラントスルノ兆ヲ現ハセリ故ニ日本銀行ハ將來ニ備フルノ必要ヲ認メ十一月後三回ノ金利引上ヲナセシモ市場ノ景況益繁忙ヲ加ヘ年末ニ至リテハ保證準備ヲ擴張シタルニ拘ラス兌換銀行券ノ制限外發行高貳千萬圓餘ノ巨額ヲ見ルニ至レリ

明治三十三年ニ於ケル日本銀行營業ノ景況ヲ見ルニ同年ハ外國貿易常ニ逆勢ニシテ金融市場警戒ヲ解クノ機ナク一般商工業者等大ニ困難ノ地ニ陷レリ蓋シ三十三年ハ前年ニ引續キ物價益騰貴シ輸入益多キヲ加ヘ之レニ反シテ輸出ハ英杜戰爭米國大統領選擧等ニ基ク諸國市場不振ノ影響ヲ受ケテ大ニ減退シ正貨ノ流出日ヲ逐フテ夥シク資金漸次缺乏ヲ感スルノ大勢ニ迫レリ是ニ於テ銀行ハ金利ヲ引上ケ貨物ハ澁滯シ有價證券ハ下落シテ商估ノ困難ヲ感スルモノ多ク棉花綿絲營業者ノ痛苦殊ニ甚タシカリシカ六月ニ至リ北清事變起リシカ爲メ軍資ノ需要ヲ豫想シテ市場ハ更ラニ警戒ヲ嚴ニシ金融益緊縮シ間々商家破綻ヲ見銀行ノ窮狀ヲ聞クニ至レリ一般經濟社會ノ景況斯ノ如キニ際シ日本銀行モ亦之レニ應スルノ方針ヲ採リ前年末ニハ其貸出高壹億壹千萬餘圓ナリシモ市場ノ狀勢ニ鑑ミ勉メテ回收ヲ謀リ二三月ノ頃ハ七千萬圓臺ニ下リシカ正價流出ハ漸々增加シ前途憂慮スヘキモノアリシカ故ニ利息ノ引上ヲ行ヒタリシモ六月ハ例年貸出高ノ增加ヲ見ルノ季節ナルニ加ヘ北清事變ノ警報ニ接シ一層資金ノ需用ヲ增シ貸出高ハ俄ニ增加シテ壹億千餘圓ニ上レリ尋テ七月ニ入リ更ニ利息引上ヲナシ爾來資金漸ク回收ノ方向ニ赴キ十

月ニハ再ヒ七千萬圓臺ニ下リシモ其後歲末ニ近キ市場ノ形勢一轉シ再ヒ資金ノ需用ヲ喚起シ年末ニハ貸出高又壹億千萬圓ニ上リタリ三十三年日本銀行ノ利益ハ所有證券價格下落ノ爲メ貸出金ノ多額ナルニ伴ハスト雖モ前年ニ比スレハ貳拾六萬餘圓ヲ增加シ配當割合ハ前年ト同シク一割二分ナリシモ積立金ト後期繰越金トハ稍增加セリ

明治三十四年ハ經濟上顧ル多難ノ時運ニシテ市場一般遂ニ警戒ヲ解クノ遑アラスシテ終レリ蓋シ上半期ニ於テハ貿易市場前年來ノ餘波ヲ承ケ貨物ノ輸入超過尙ホ夥シク正貨流出亦少ナカラサリシヲ以テ一般ノ警戒ハ前年ヨリ一層深キヲ加ヘ銀行者ハ只管資金ノ回收ヲ圖リ商工業者ハ取引上信用ノ程度ヲ減縮スルニ至レリ斯ル形勢ナリシヲ以テ平素資力不相應ノ取引ヲ爲ン來レル者ハ個人ト會社トニ論ナク勢ヒ打擊ヲ蒙ラサルヲ得ス歲首ヨリシテ往々困難ニ類スルモノアルヲ耳ニセシカ一月末ヨリ二月ニ亘リテ九州各地ニ銀行預金ノ取付ヲ續出シ其勢ヒ急劇ニシテ之ヲ自然ニ放任セハ其影響ノ及フ處殆ント測ル可ラサルモノアリ是ヲ以テ日本銀行ハ之カ救濟トシテ相應ノ資金ヲ供給シ且ツ重役特ニ出張シテ之カ前後ノ方法ヲ講究スル等夫々應急スル處アリ遂ニ甚タシキ破綻ヲ生スルニ至ラスシテ止ミヌ然レトモ爾來世人ノ銀行ニ對スル恐怖心ハ益深ク些細ノ批評モ直チニ預金取付ノ勢ヲ釀生シ四月ニ入リテハ大阪、奈良、熊本等ヲ首トシ其他二三ノ地方ニ於テ續々支拂停止ノ悲境ヲ現ハシ五月ニ入リテハ京都ヲ中心トシ近傍各地ニ於テ急激ノ取付起リ其勢ヒ殆ント停止スル處ヲ知ラサルノ有樣ナリシカ幸ニ有力同業者ノ救助スルアリ本行モ亦事情ノ許ス限リ夫々應急ノ處置ニ力メタリシカ爲メ到底救フ可カラサルモノ數者ヲ除クノ外概シテ破綻ノ厄ヲ免レタルハ不幸中ノ幸ナリトス斯ル悲況ノ間ニ上半季ヲ終リシカ

爾來經濟界モ漸ク靜定ニ趣キ其間時々銀行會社ノ破綻ヲ見サルニアラサルモ敢テ一般ノ人心ヲ動カスニ足ラス有力ナル銀行預金ハ却テ增加シ救濟ノ爲メニ貸出シタル本行ノ資金モ漸次回收ノ途ニ付ケリ然シテ貿易市場モ春來ノ形勢ヲ一變シ正貨ハ上半期ノ終ヨリ已ニ輸入ノ超過ヲ來シ貨物ハ消費ノ減少ト生絲羽二重等ノ盛況トニ原因シテ十月以後著シキ輸入超過ノ趨勢トナリ續テ米穀ノ收穫亦豐饒ノ事實ヲ確メ又清國償還金問題モ略ヽ決定セラレテ前年來外交上ノ事變モ茲ニ一段ヲ告クルニ至レリ斯ク人心ヲ緩和スヘキ事實眼前ニ顯ハレタルニモ拘ハラス大勢尙ホ持重ノ方針ヲ保チ市況寂寞ノ間ニ年ヲ終ヘリ

市場ノ大勢已ニ斯ノ如キヲ以テ日本銀行貸出殘高ノ消長モ亦之ニ伴ハサルヲ得ス前年末ノ市場貸出殘高ハ壹億九百萬圓ヲ超ヘシカ明治三十五年ニ入リテハ逐月減少ノ大勢ヲ現ハシ六月末ノ決算期ニ於テモ七千參百四拾萬圓餘ニ過キス下半季ニ至テハ其減少益ヽ甚タシク十二月中ニ於テハ時々參千八九百萬圓臺ニ下リシコトアリ年末ニ頻シ頓ニ增加セシモ亦五千參百六拾七萬圓餘ニ過キメ之ヲ前年末ニ比スレハ更ニ其半數ニモ充タス市場沈靜ノ狀亦以テ想像スルニ堪ヘタリ唯政府貸上金ハ全ク之ニ反シ年首ノ越高ハ壹千貳百萬圓ナリシカ爾後漸次ニ增加シテ年末ニハ遂ニ四拾萬圓ニ達シ市場貸出ノ減少彼カ如クナルニ拘ラス尙ホ貳千貳百七拾參萬圓餘ノ制限外發行ヲ爲スノ止ムヲ得サルニ至レリ明治三十五年ニ於ケル經濟界ノ大勢ハ極メテ平穩ナリシトヽ雖モ金融緩和ニシテ商工業ハ未タ振興スルニ至ラスシテ年ヲ終レリ蓋シ上半期ニ於テハ前年來ノ趨勢ヲ受ケテ資金ノ回收スルモノ少カラス加之貿易上正貨ノ流入ハ月ヲ逐フテ益ヽ多ク世上漸ク金融緩和ヲ感スルニ至レリ然レトモ久シク沈睡ニ傾ケル市場ハ之カ爲メニ容易ニ振興スルニ

至ラス偶日英同盟協約ノ發表アリ爲メニ人氣ヲ揚ケ株式市場ノ如キ一時氣配ヲ上進セシモ尋テ春夏ノ交晩霜霖雨ノ災アリ世人養蠶及春作ノ結果ヲ憂慮シ爲メニ却テ一層ノ沈靜ヲ來セリ下半期ニ入リテハ生絲ノ輸出非常ノ盛況ヲ呈シ爲メニ正貨ノ流入愈ヽ多ク歐米諸國ニ對スル爲換相場ハ爾來稀有ノ騰貴ヲナスニ至レリ獨リ清國ニ對スル貿易ハ銀貨下落ノ爲メ少カラサル阻碍ヲ蒙ムリ綿絲石炭及ヒ海產物ノ如キ專ラ同國ニ輸出セラルヽ商品ハ之カ爲メニ悲況ニ陷レリ又一般市場ノ沈靜ト國民節約ノ結果各銀行ハ大ニ其預金ヲ增加シ加フルニ十月初旬政府ハ日本興業銀行ヲ經テ公債五千萬圓ヲ倫敦市場ニ賣却シ經濟界ノ氣配ハ多少發揚ノ觀アリシモ植付以來一般ニ懸念シタリシ米作ハ晩秋數度ノ風水害ニヨリテ遂ニ平作ニ達スルノ望ヲ絕テルヲ以テ商工業者ハ既往ニ鑑ミテ容易ニ警戒ヲ解カス經濟社會ハ依然沈靜ヲ繼續セリ經濟界ノ大勢斯ノ如クナリシヲ以テ日本銀行ハ明治三十三年以來維持セシ金利ヲ引下クルニ決シ三月以來六月、十月、十二月ニ於テ前後四回ノ引下ケヲナセリ而シテ民間ニ對スル貸出高ハ時々消長アリシト雖モ其大勢ハ減少ノ一方ニシテ前年末ヲ以テ一時五千參百餘萬圓ニ達セシ貸出高ハ二月ニ至リ參千餘萬圓ニ減シ六月ハ半季決算及生絲製產ノ爲メ多少ノ資金ヲ要シ參千九百餘萬圓ニ增加シタリシ雖モ生絲ノ賣行非常ニ良好ナリシヲ以テ資金ハ忽チ回收シ八月以來ハ其貸出高逐月減少シ唯年末ニ頻シテ例ニヨリ資金ノ需要ヲ生シ貸出高ハ四千參百餘萬圓ニ上リタリト雖モ旬日ニシテ概ネ回收ノ途ニ就ケリ又比年逆衡ナリシ外國貿易ハ本年ニ至リ殆ント其常道ニ復シ貿易上自然ノ作用トシテ正貨ノ流入ハ著シク增加シ同行ノ正貨準備ハ之カ爲メ七千百餘萬圓ヨリ壹億九萬餘圓ニ達シ大ニ兌換制度ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタリ今本年ヲ以テ前年ニ比スレハ諸般ノ取引ハ概シテ

增加シタリト雖モ貸出割引ノ著シク縮少シタル爲メ利益金ニ於テハ却テ幾分ノ減少ヲ來メシ幸ニ株主ヘノ配當ヲ減スルニ至ラサリシモ積立金ニ至リテハ貳拾萬圓ヲ減少セリ

以上ハ日本銀行ノ營業ニ關係アル事項中稍重要ナル事項ヲ摘錄シ而シテ交ユルニ其概報ヲ以テセシニ過キス素ヨリ營業ノ一斑ヲ示スニ止マルト雖モ左ニ掲クル所ノ數表ト對照スルニ於テハ其景況ノ大要ヲ窺フコトヲ得ヘシ

日本銀行金銀出納額及諸預金諸貸付金高

年次	金銀出納額	國庫預金	諸預金 政府	諸預金 人民	諸貸付金 政府	諸貸付金 人民
	円	円	円	円	円	円
明治十五年	一、六三五、七二四	〇	〇	六四七、六一一	〇	九三五、一〇〇
同 十六年	一五七、六〇九、二四	〇	三九三、〇〇〇	九二九、三六〇八	一五〇、〇〇〇	四、八二七、五〇
同 十七年	五八五、五八八、三八〇	五五、二六六、七九五	六四、六三六、七二五	一、八八九、一九三	一〇〇、〇〇〇	六、一九八、七四
同 十八年	八八三、一五八、三四	一一九、六九〇、一〇二	七二、一〇四、一三六	一四〇、二一六、四一	二四、六五五、二〇五	一二、二八八、五六
同 十九年	一、二八七、九五六、五八七	三九四、九〇二、七二七	四八、一二、二〇六	三〇、七二、二六八	四、九八、三三六	一九、一六六、〇七六
同 二十年	二、六五七、六五九、〇六〇	五九八、六三〇、六一〇	四四、〇四〇、二〇九	一、七五四、九〇一	二、九二、〇八一	六〇、六七六、八〇
同 二十一年	二、七九二、二九一、四五四	五五一、〇八六、八四六	六一、〇〇七、〇一五	一九、九九七、七九二	一九、七一四、九七三	九五、〇一一、五六
同 二十二年	三、六七七、五一六、〇二	五二九、四一七、二〇〇	一一三、五六四、一五	一九、八七六、九八〇	二、〇六一、二三四	九一、八八五、一三四
同 二十三年	二、二二、三二九、八二一	一四五、三九二、八七七	四〇、六六三、〇八六	一九、六三〇、三〇八	三〇〇、〇〇〇	八六、六五〇、八六六
同 二十四年	一、九四四、二八二、二八	四六、〇六八、四六九	五七、六三二、九五三	二、二二七、二五四	一一、〇七〇、〇〇〇	二七四、二八〇、二八四
同 二十五年	二、八八八、〇八八、五三五	五〇、二五二、二二三	五〇、二五二、二二三	二、九三五、五五五	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇七、〇二一、九六六
同 二十六年	一、八二二、六六六、九〇〇	〇	〇	一、九二、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇八、四八八、〇七一
同 二十七年	二、二九、二二、八七、〇七〇	七〇、五九二、八九七	七〇、五九二、八九七	七二、一四二、〇四九	四三、五〇〇、〇〇〇	一九二、二九七、六四一
同 二十八年	二、〇一二、九二、二二二	〇	二、一八、八二二、六〇	四、一、八五二、〇〇七	七、一五〇、〇〇〇	二五七、〇二五、六九六
同 二十九年	五、二二、二五二、一八五	四二、二二、七三三、〇〇	九六四、八三五、六〇〇	一、二九、〇三二、八一五	二九、〇三二、八一五	三八九、二七七、二九一
同 三十年	九、五六〇、〇八四、二六四	九、二五、二、二、六二	九、八二二、四五二	八九、〇五〇、八二八	八九、〇五〇、八二八	五八八、五九六、〇四〇
同 三十一年	九、〇一二、九二〇、二二二	七二、〇二二、九七一九	五、一二九、〇〇六	七二、八五二、二二二	七二、八五二、二二二	七二、二二六、五一九
同 三十二年	九、二二、二、九二〇、七五四	五四〇、四九八、九、五二	八、一二七、〇八三〇	二二〇、〇〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇、九八、九二九
同 三十三年	九、七四八、九八七、一九二	二、一七、五、二四三、二	一、一五六、六二、一六七	二八、〇〇〇、〇〇〇	五二、二八五、二一四、二	二二、二七、八〇、二八四
同 三十四年	二、九二七、〇二六、二二八	三七四、〇八九、二二四	二、二六、七二、九九七	九、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	二二、二七、八〇、二二一
同 三十五年	一四、〇九二、六四六、九九六	三四六、五五五、二六八	一、二四八、六〇五、七一	九九、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二七四、二八〇、二八四

備考

本表中二十三年ノ國庫預金ハ同年三月迄ノ預高ニシテ其以後ハ營業部ヨリ分離シ中央金庫ニ移セリ又金銀出納高モ同樣ニシテ同年三月迄ハ國庫金ノ出納ヲ含ムト雖モ以後ハ總テ營業部ノミノ高ナリ二十六年ニ至リ官金部ト營業部ノ勘定ヲ分離セシニヨリ金銀出納ハ營業部ノ出納高ヲ掲ク又三十年ハ官金部ヲ營業部ニ編入セリ

日本銀行諸預金及諸貸付金年末現在高

年次	國庫預金	政府諸預金	人民諸預金	政府諸貸付金	人民諸貸付金
	円	円	円	円	円
明治十五年	〇	〇	〇	〇	〇
同十六年	四、三六四、四三五	四三、〇〇〇	一、七〇九、六五一	一、〇〇〇、〇〇〇	六九一、七〇〇
同十七年	一〇、九二三、八一四	二四、七一四	七五九、一一九	〇	一、四一二、七九五
同十八年	一六、一三〇、〇一五	一五、四一一、六〇二	一、二六九、一四三	一二、四〇四、二〇五	二、六一七、八一九
同十九年	二五、八三四、一六	六五九、五四九	二、二九、九二八	一五、七四五、三七二	四、〇一一、一九〇
同二十年	二四、五三〇、四一八	六、六七六、九〇五	六七七、九八一	一〇、二六二、四七〇	二六、七七四、〇五五
同二十一年	一六、八四五、一〇一	八、七二七、四〇〇	六、六五、八六五	七、二二一、一五四	一五、五八二、八四一
同二十二年	一九、六七二、四一一	二一、九六、〇〇七	一四二、八〇七	七七四、七一八	一七、〇七一、八八四
同二十三年	〇	八、一一、二二九	九、二一、九、一八六	二二、〇〇、〇〇〇	一五、八二一、八二一
同二十四年	〇	二、四八三、七〇一	三、二四六、七九二	二二、〇〇、〇〇〇	一一、七四七、五六一
同二十五年	〇	四、〇八五、四四四	四、七〇八、九七三	二二、〇〇、〇〇〇	八、四六〇、〇三九
同二十六年	〇	一、六一八、三二七	一、九六九、五七八	二二、〇〇、〇〇〇	一〇、〇六〇、四二七
同二十七年	〇	三一九、一二二	一、七二六、二九一	三三、五〇〇、〇〇〇	一六、五六四、八一二
同二十八年	〇	四、七一四、五三九	一、九二九、一〇	六三、五〇〇、〇〇〇	一九、三二七、四一八
同二十九年	〇	一九、〇七〇、九二五四	一、四〇八、二二六	七二、〇〇〇、〇〇〇	四二、二四三、六四一
同三十年	〇	七四、二八八、〇六〇	三、八二二、九二五	七二、九〇二、三五四	九、九七六、〇二二
同三十一年	〇	二五、七一二、四一二	一、四九七、一一六	二二、〇〇、〇〇〇	二二、七〇、五七〇
同三十二年	〇	六九、七三二、八五二	四、九三八、七一五	二二、〇〇、〇〇〇	一六、七二一、九七九
同三十三年	〇	二二、二〇、七九〇	二、〇二七、二一四	二四、〇〇〇、〇〇〇	一四、四七七、六七五
同三十四年	〇	一七、五九九、二九二	二、五五七、七九二	六二、〇〇〇、〇〇〇	九、三四八、八〇二
同三十五年	〇	一五、五二四、四一一	三、三六、一三八八	五〇、〇〇〇、〇〇〇	五、三二一、一七八

備考

人民諸貸付金ノ内ニハ當座預金貸越高ヲ組込ム政府諸貸付金ノ内ニハ御用立換金、國庫部貸付金ノ二科目ヲ組込ム國庫預金ノ内ニハ成貨拂渡元金、正貨交換元金、銀貨買入元金、國庫假預金、紙幣交換元金ノ五科目ヲ組込ム政府諸預金ノ内ニハ定期預金、當座預金、振出手形ノ外ニ中山道公債證書事務ノ諸預金ヲ組込ム又二十三年以後ハ國債元利預金、貨幣拂渡元金、紙幣交換元金ヲ算入セリ

人民諸預金ノ内ニハ定期預金、當座預金、別段預金、振出手形ノ四科目ヲ組込ミ又二十三年以降ハ右ノ外前項ノ政府定期預金、政府當座預金、政府振出手形ヲモ之ニ組込ム

日本銀行諸手形

年次	送金 政府 振出高	送金 政府 受込高	送金 民 振出高	送金 民 受込高	送金 當所	送金 他所
明治十五年	〇円	〇円	〇円	〇円	五二八〇〇円	〇円
同十六年	〇	二八五、五〇〇	七八九、三九一	一〇七六、三四六	一六、二三七〇〇	九〇、〇〇〇
同十七年	一、〇八〇、〇〇〇	二、五二二、五三三	二四八九、六六九	六〇一〇、八一七	一〇、三八九、七五三	七三四、二五二
同十八年	九〇〇、〇〇〇	四、〇三八、六六四	二四七六、二一〇	四、八七六、二一〇	五七〇〇、〇三五	三一五、八三三
同十九年	五、三九〇、〇〇〇	八、六四五、七二一	二、一九二、一〇六	五、八九九、八九〇	九、六九九、一八六	一、一七一、一七一
同二十年	七、八五九、五〇〇	一、一〇二、二七一九	四、九二二、二二五	〇、七八九、八八六	二、二二二、一五二	二、〇七二、二二
同二十一年	五、五〇五、七四九	八、〇六九、二二一	七、二五九、六〇三	九、一五四、六八	二、二四九、六八八	二、二四、一六六
同二十二年	五、二二四、〇〇二	〇、九六六、五五七	三、九八〇、九二四	一、二二七、一〇五	二、四九、二二六六	一、二二六、四四六
同二十三年	〇	一、六二四、一七八	六、二七九、四二一	七、九八七、八七七	五四、九六七、四一七	二、三五九、〇八七
同二十四年	〇	〇	八、八八五、六三三	一、五四〇、二七〇	五七、六五二、七六八	一、九〇七、〇六四
同二十五年	〇	〇	二、八八三、五二六	一、三三九、三五六	四六、一一一、五六二	一、七〇六、二四九
同二十六年	〇	〇	四、八三二、〇七四	一、六八二、四三三	五九、八〇三、九四七	一、八〇三、七四〇五
同二十七年	〇	〇	一〇、三一一、八九	一、二六七、二四九五	九六、一二四、九九五	一、六三四、二四五
同二十八年	〇	〇	二、二一三、四四五	二八、五三〇、二二二	一、一一九、九八四、一八	六、一一七、一六八七
同二十九年	〇	〇	二、五九五、四二九	一、一二五、六〇四六	一七二四、二二四、一五	八、〇七一、七六四
同三十年	〇	〇	三、一二一、〇五八	八、一七二四、二九八	二三、三九、〇九八	一、六、一四一、二五
同三十一年	〇	〇	四二、六七八、〇四二	七、〇九三、九、八二四	二四、三、八八五、五六五	二、一、七七

明治二十二年以後横濱正金銀行ト日本銀行トノ特約ニ係ル外國手形ヲ割引セシモノヲ區別スレハ左ノ如シ

年次	輸入手形	輸出手形	年次	輸入手形	輸出手形
明治二十二年	一、五三〇、九七七、〇八〇円	五、四五一、〇五九、八八〇円	明治二十九年	一〇、四二〇、三〇二、七八〇円	二一、六七五、四八六、六八〇円
同二十三年	五、〇〇六、一二二、一二〇	一三、六八一、一二二、九五〇	同三十年	一、二七九、七三七、〇二〇	一九、三八八、三三五、八一〇
同二十四年	一、二二六、一三六、〇九〇	一六、六一六、九五六、四六〇	同三十一年	七、二八八、四八三、四〇〇	二四、六九八、六一三、〇八〇
同二十五年	一、八二三、七二三、六四〇	一五、六七五、二一六、三二〇	同三十二年	二、八一六、一四一、二九〇	二七、九二三、八二七、四二〇
同二十六年	一、三八二、二七九、五三〇	一五、九三〇、七〇一、九九〇	同三十三年	〇	三五、一四四、六六七
同二十七年	二、三〇三、五八三、七八〇	一三、〇三六、四九一、六九〇	同三十四年	〇	三〇、九六四、六一七
同二十八年	〇	一二、五六二、五一六、九五〇	同三十五年	〇	三四、三八四、九九六

日本銀行利益割合

年期	資本金	積立金	純益金	割賦金	資本金積立金百圓ニ對スル純益	一株ノ割賦
	円	円	円	円	円	円
明治十五年下半季	二七〇〇〇〇〇〇	〇	一八〇八三八	〇	〇・九四一	〇
同 十六年上半季	二九九九八〇〇	〇	二〇〇三七〇	八六〇六六六	三〇・六七九	一三〇〇〇〇
同 年下半季	三〇〇〇〇〇〇	三八〇〇	一四三二九八	一三六〇六六六	三〇・六三七	一三〇〇〇〇
同 十七年上半季	四〇〇〇〇〇〇	六〇五〇〇	一八一〇五七八	一六六〇六六六	三〇・八二七	一二〇〇〇〇
同 年下半季	五〇〇〇〇〇〇	一〇〇五〇〇	二四一四九一六	二〇〇〇〇〇〇	八〇・三八一	一〇〇〇〇〇
同 十八年上半季	五〇〇〇〇〇〇	一九〇一二八	四〇一六〇四	二〇〇〇〇〇〇	七〇・七三三	内帝國人民 一〇〇〇〇〇
同 年下半季	五〇〇〇〇〇〇	三七二〇七〇〇	二四五〇六二九	二〇〇〇〇〇〇	四〇・五七〇	同 一〇〇〇〇〇
同 十九年上半季	五〇〇〇〇〇〇	三八〇〇七〇〇	三一八〇三三	二〇〇〇〇〇〇	五〇・九一四	同 一〇〇〇〇〇
同 年下半季	五〇〇〇〇〇〇	四四五〇七〇〇	三五一〇四五五	二二五〇〇〇〇	六〇・四五四	同 一二〇〇〇〇
同 二十年上半季	七五〇〇〇〇〇	一〇四三一〇〇	四一〇四一九八	二七五〇〇〇〇	四〇・二二四	同 一四〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四〇六二〇〇〇	七八四〇五四	四〇〇〇〇〇〇	五〇・四八三	同 一六〇〇〇〇
同 二十一年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四二〇四〇〇〇	一〇〇二〇四七四	六五〇〇〇〇〇	七〇・六六九	同 一八〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四四九四〇〇〇	一一五〇三三一	六五〇〇〇〇〇	七〇・九四	同 一八〇〇〇〇
同 二十二年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四六〇一四〇〇〇	一二〇〇七〇二二	六七五〇〇〇〇	八〇〇二〇	同 一八〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四七五九〇〇〇	一二〇六四〇九七二	六七五〇〇〇〇	八〇〇九〇二	同 一八〇〇〇〇
同 二十三年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	四九四〇〇〇〇	一二五〇二三九	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	五〇二四〇〇〇	一二六四〇四五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十四年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	五五六〇〇〇〇	一二八〇二八〇	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	五九一〇〇〇〇	一二九〇七二四	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十五年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	六二〇〇〇〇〇	一二九〇三四一	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	六三五〇〇〇〇	一二九〇九七五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十六年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	六七八〇〇〇〇	一二九〇七二〇	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	六八八〇〇〇〇	一二九〇三三四	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十七年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇〇	一二九〇三四六	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	七二五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十八年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	七五五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	八一五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 二十九年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	八六〇〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	八八八〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 三十年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	九二五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	九五五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 三十一年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇五〇〇〇〇	一二九〇七二五	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇二〇〇〇〇〇	一二八〇三八七	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 三十二年上半季	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇四〇〇〇〇〇	一二八〇三六八一七	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇
同 年下半季	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇五〇〇〇〇〇	一二八〇二七七四六一	七五〇〇〇〇〇	一〇〇〇九〇二	同 二〇〇〇〇〇

明治三十三年上半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一四、〇〇〇、〇〇〇 円	二、九九六、七二八 円	二、八〇〇、〇〇〇 同	六、八一一 円	一一、〇〇〇、〇〇〇 円
同 年下半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一四、六〇〇、〇〇〇	三、一六五、五一六	二、八〇〇、〇〇〇	七、〇九八	一一、〇〇〇、〇〇〇
同 三十四年上半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、三〇〇、〇〇〇	二、七九〇、八四〇	二、八〇〇、〇〇〇	六、一六一	一一、〇〇〇、〇〇〇
同 年下半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、七〇〇、〇〇〇	二、八二三、五四三	二、八〇〇、〇〇〇	六、一七八 同同	一一、〇〇〇、〇〇〇
同 三十五年上半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、一〇〇、〇〇〇	二、六四六、一一一	二、八〇〇、〇〇〇	五、七四〇 同同	一一、〇〇〇、〇〇〇
同 年下半季	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一六、三五〇、〇〇〇	二、七四八、〇二九	二、八〇〇、〇〇〇	五、九二九 同同	一一、〇〇〇、〇〇〇

備考

明治二十年上下半季ニ於テ餓然積立金ノ增加シタルハ同年資本金ヲ增加スルニ方リ舊株ノ實價ヲ標準トシ一株貳百圓ノ拂込金ヲ百七拾五圓トナシテ新株ヲ募集シ此附帶金每一株七拾五圓ノ悉ク積立金トナシタルニ由ル

二十八年上半季ニ於テ純益金及割賦金ノ餓ニ增加シタルハ金銀較差勘定ヨリ得タル利益金五百五拾萬圓ヲ併算セルニ依ル尤モ右利益金ノ內五百萬圓ハ特別割賦金トシテ增株拂込金ニ充用セルモノナリ

三十年下半季ニハ金銀較差益金七百七拾參萬千七百五拾貳圓アルモ純益金ヨリ之ヲ省ケリ又特別配當金七百五拾萬圓アルモ配當金額ニハ之ヲ含マス

日本銀行貸付金利息高低

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治十六年 最高	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 〇〇	割引歩毛 一〇〇	割引歩毛 一〇〇	割引歩毛 一〇〇	割引歩毛 一〇〇	割引歩毛 一〇〇	割引歩毛 一〇〇
同 十七年 同	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	八〇〇
同 十八年 同	九〇〇	一〇〇	一〇〇	九〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
同 十九年 同	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	六三〇	六三〇	六一〇	六一〇	六一〇	六一〇	六一〇	六一〇
同 二十年 同	七〇五	五五〇	五五〇	五五一	五五〇	五五一	五八一	五五四	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇
同 二十一年 同	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五八〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
同 二十二年 同	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
同 二十三年 同	七三〇	七三〇	七三〇	七三〇	七三〇	七二八	七一一	七一〇	七〇二	七二〇	七三九	七二〇
同 二十四年 同	七四八	七四八	七四八	七四五	七一七	七一一	七一一	六九一	六四七	六四七	六四七	六四七
同 二十五年 同	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六	六六六
同 二十六年 同	六三〇	六三〇	六一一	六一二	六一二	六一二	六一二	六一二	六一二	六一二	六一二	六一二
同 二十七年 同	七二〇	七五六	七五六	七五六	七五六	七五六	七九二	八二八	八二八	八二八	八二八	八二八
同 二十八年 同	八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	八四〇	八〇三	八〇三	八〇三	八〇三	八〇三
同 二十九年 同	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二	七九二
同 三十年 同	八二八	八二八	八二八	八二八	八二八	九〇八	九〇六	九三六	九三六	九三六	九七二	九七二
同 三十一年 同	九七二	一〇七二	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四	一〇四四
同 三十二年 同	九〇〇	九〇〇	八六四	七九二	七五六	七五六	七二〇	七二〇	七二〇	七二〇	八二〇	八六四

日本銀行割引歩合高低

年次		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治十六年	最高	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
	最低	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同十七年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同十八年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同十九年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十一年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十二年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十三年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十四年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十五年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十六年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
明治二十三年	最高	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
	最低	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十四年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十五年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十七年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十八年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十九年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十一年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十二年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十三年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十四年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十五年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘

同二十七年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十八年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同二十九年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十一年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十二年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十三年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十四年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘
同三十五年	同	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘	一銭〇厘

日本勸業銀行

第八章　日本勸業銀行

第一節　創立ノ趣旨

本邦經濟上ノ事業ハ維新以來漸次著シキ進歩ヲ爲シ殊ニ金融機關ノ如キ輓近ニ至テ益〻長足ノ發達ヲ示シ商業上ニ於ケル資本流通ノ途ハ殆ト完備ノ域ニ達スルニ至レリ然ルニ翻テ農工業ノ狀態ヲ察スレハ未タ充分ニ改良發達セリト謂フ可ラス富源ノ開發國力ノ充實ニ於テ尙ホ大ニ勉ムヘキモノ多々在ラ存ス土地ノ開墾道路堤防ノ修築排水灌漑ノ事業農具肥料ノ改良天然力ノ利用製造所ノ設備等諸般改良發達ヲ圖ルヘキモノ擧テ數フヘカラス而シテ農工ノ事業ハ概ネ其成果ヲ期スルコト多年ノ後ニ在ルヲ以テ其資金ノ運轉ハ勢ヒ遲緩ナルヲ免レス從テ資本ノ利率低廉ニシテ期限ノ長キヲ要スルコト彼ノ朝ニ之ヲ投シテ夕ニ其利ヲ收ムル商業上ノ資本ト同日ニ論スヘキニ非ス然ルニ普通銀行若クハ一般資本家ニアリテハ概ネ敏速ノ運轉ヲ尙ヒテ固定的ノ放銀ヲ好マス資本ノ配賦常ニ商業ニ偏重シテ農工業ニ向フモノ尠ナク其間頗ル平衡ヲ失スルノ傾キアリ爲ニ農工業者ハ改良發達ヲ圖ルヘキ事業眼前ニ横ルニモ拘ラス低利ノ資本ヲ得ルヿト難クシテ其目的ヲ達スル能ハス資本家ハ亦目前ノ利益ニ懇々タルノ餘リ勤モスレハ進ンテ投機ニ向ハントスルノ傾向アリ是ニ於テカ資本家ト農工業者ヲ媒介シ其利害ヲ調和シ以テ互ニ氣脈ヲ通セシムルニ適當ナル信用機關ヲ創設スルコトハ焦眉ノ急務ニシテ明治三十年日本勸業銀行ノ設立ヲ見ルニ至ラシメタリ而シテ勸業銀行ノ設立ニ關シテハ已ニ明治十五年大藏卿松方正義我國商業上ノ一大金融機關トシテ中央銀行設立ノ建議書中ニ記述シタル所アリ今其要領ヲ左ニ摘

載セン

（前略）今此說明ヲ畢ルニ臨ミ姑ク一言ヲ要スルコトアリ何ソヤ興業銀行及貯蓄銀行ノ件是ナリ興業銀行ハ土地家屋等ヲ抵當トシテ起業資本ヲ貸付ケ或ハ田野ノ開墾ヲ勸メ或ハ地質ノ改良ヲ翼ケ或ハ製絲鑿溝築港等ノ事業ヲ振作スルヲ目的トスルモノナリ貯蓄銀行ハ細民日常ノ賃金ヨリ其幾分ヲ貯蓄セシメ他日就產ノ道ヲ得セシムルヲ旨トスルニ在リ凡ソ一國ノ富ヲ成スモノハ勞働ト節儉トニアリ貯蓄銀行ノ細民ニ於ケルハ其節儉ヲ助クルモノナリ興業銀行ノ農工ニ於ケル中央銀行ノ商業ニ於ケルハ皆其勞働ヲ助クルモノナリ此三者ハ組織營業固ヨリ相異ナリト雖モ亦相須チ相扶ケ以テ一國ノ富ヲ養成スルモノナレハ之ヲ全國理財ノ鼎足ト謂ヘルモ可ナリ

且ツ夫レ興業銀行ノ事業ハ極メテ重大ニシテ且ツ之ヲ永遠ニ期スヘキモノトス故ニ政府ハ特別ニ條例ヲ制シ保護監督ノ法ヲ設ケサル可ラス（中略）今ヤ我國農工ノ事業日ニ進ミ月ニ盛ンニ隨ツテ其資本ヲ要スル巨大ナルヲ以テ速ニ興業銀行ノ設立ヲ要スルヤ言フヲ俟タス（中略）今中央銀行設立ノ際ニ當リ一時ニ事ヲ擧クルハ蓋シ國家理財ノ得策ニ非サルヘシ將サニ他日ヲ待ツテ興業銀行條例ヲ草シ以テ政府ノ裁定ヲ仰クアラントス

爾來政府ハ意ヲ所謂興業銀行ノ設立ニ注キ其條例ニ就テハ明治十七八年以來案ヲ立テ草ヲ起スコト一再ニ止マラサリシト雖モ當時經濟界ノ事情ハ直ニ之ヲ實施スルニ便ナラサリシヲ以テ政府ハ更ニ歐米諸國不動產抵當銀行ノ制度組織ヲ調査シ而シテ後徐ニ之カ條例ヲ制定シ機ヲ見テ發表スヘシトノ方針ヲ執リ即チ明治十八年大藏省銀行局長加藤濟ヲ獨逸及佛蘭西ノ兩國ニ遣シテ之カ制度ヲ調査セシメ或ハ獨佛伊諸國ノ書類ニ依テ熱心ニ其利害得失ヲ攻究シテ其案ヲ起シ更ニ明治二十三年一月獨逸人「ブロフエッソル、ドクトル、ウ、エッゲルト」ヲ財務顧問ニ傭聘シテ其說ヲ聽キ以テ遺漏ナカランコトヲ期セリ當時「エッゲルト」カ命ニ應シテ提出シタル意見書及日本興業銀行竝ニ農業銀行ノ條例草案ニ就テノ意見書ハ孰レモ參考ニ資スヘキモノナレハ左ニ其全文ヲ掲載スヘシ

日本ニ農業的信用機關ヲ設クル事ニ就テ

甲　緒言

第一　信用ノ種類

信用ノ方法ハ往昔ヨリ今日ニ至ルマテ重ニ商業社會ノ爲メニ用立チタリ而シテ其目的ハ商業ノ爲ニ資本ノ融通ヲ謀ルニアリ夫レ商業上ノ利用ニ應スヘキ信用ハ自カラ商業上ノ取引ノ遲速繁閑ニ適當スルノ性質ヲ有セリ又有セサルヘカラス故ニ該信用方法ハ商人カ物品ヲ仕入レ之ヲ消費者ニ賣却シ消費者ヨリ物品代價ノ仕拂ヲ受クルマテノ區域內ニ於テ其信用ヲ制限スルヲ以テ融通ノ法トス是ヲ以テ該信用ノ性質ハ自カラ定レリト謂フヘシ即チ此種ノ信用ハ多クハ爲換的ノ信用ナルヲ以テ數月ヲ出テスシテ精算ニ至ルモノナリ

前述ノ如キ短期ノ融通法ハ生產ノ事業上分業法ノ發達スルニ從テ工業上ニ於テモ亦タ之ヲ利用スルコト、ナリテ當初專ラ商業上ノ目的ニ供セシ融通法ハ今ヤ各般ノ工業上ニモ其必要ヲ感スルニ至レリ貨物ノ未タ全製ニ至ラサル前即チ未タ消費者ノ手ニ渡ラサル前ニ各所獨立ノ製作場ヲ通過スルハ之レ皆ナ現時分業法ヨリ生スル結果ト知ルヘシ此ノ如ク一物品ヲ全製ス

ルニモ前後各種ノ段階アルモノニシテ後段ノ製造者ハ前段ノ製造者ニ報酬ヲ出シテ其製造品ヲ受取リ暫時ノ期日ヲ經過シタル後チ更ニ其後段ノ製造者若クハ遂ニ商人卽チ製造品販賣人ノ手ニ渡ルモノナリ是ヲ以テ各後段ノ製造者ハ前段ニ於テ製造セル物品ヲ得ントスレハ必スヤ之ヲ購求セサルヘカラス前段製造者ハ之ニ反シテ其自己ニ屬スル暫時ノ製造期限ヲ經過スレハ其後段製造者若クハ商人ニ對シ其製造品ノ代價ヲ受取ルノ權アリ勢ヒ是ニ至レハ後者ハ前者ノ要求ヲ滿足セシムルノ地位ニ在ルモノナリ然レトモ後者ハ往々其資本ヲ調達シテ直チニ前者ノ要求ニ應シ得サルコトアリ此場合ニ於テ後者ハ自身ニ屬スル製造期限中信用ヲ利用シテ前者ニ仕拂ヲ爲スコトヲ得ハ非常ノ便益ト云ハサルヲ得ス右ノ次第ナルヲ以テ分業ノ法著々其歩ヲ進メ以テ分業製造者ノ員數倍、其增多ヲ見ルニ至ラハ之レニ從テ分業製造期限ヲ愈、短縮スルコトヲ得ヘシ左スレハ當初信用ハ特ニ商業家ノ迅速活潑ナル取引ニノミ用ヰラレタレトモ今日ニ在リテハ分業ニ依リテ製造期限ノ短キ工業上ニモ亦之レヲ利用スルヲ得ルコトトハナレリ

然レトモ生產事業ノ性質ニヨリ充分ノ分業ヲ行フ能ハサルカ若クハ縱令之ヲ行ヒ能フヘキモ分業ノ法未タ其完全ナル發達ヲ見ルニ至ラサル國又ハ多額ノ資本一個人ノ囊裡ニ堆積シ小ナル製造者ハ大ナル工業家ノ爲メ其獨立ヲ失フカ如キ地方ニ在テハ是迄既ニ發生シタル商業上ノ信用ヲ利用スル能ハサルヲ通例トス斯ノ如キ場合ニ於テハ物品抵當貸若クハ長期ノ信用法ヲ施行シテ別ニ其處其時工業上ノ發達ノ度ニ適合スル信用機關ヲ設ケ以テ工業上ノ信用ヲ補足スヘシ

各國人民ノ健全ナル發達ト通常國民ノ多數カ依テ以テ生息スル所ノ生產卽チ農業ニ係ル信用ノ方法ハ從來微々トシテ單ニ其效力ヲ一小部分ニ止メタリ農業ト雖モ幾分カ商業的短期ノ信用ヲ利用シ得サルニアラス例ハ農產物ノ急ニ腐敗ニ傾カサルモノ(歐洲諸國ニ於テハ酒精、毛類等ノ如キ)ノ如キハ物品抵當貸付法ノ行ハルヽモノアリ然リト雖農業固有ノ性質ニ適當スヘキ融通法ハ到底他ノ種類(商業上ノ信用ニ對シテ云フ意ナラン)ヲ採用セサルヘカラス抑、商業上ノ信用ハ物品ノ急速ナル運轉若クハ短期ノ生產ニ適合スルモ多クノ日子ヲ要スル農業ノ生產ハ長期ノ信用ヲ肝要トス殊ニ農業上ノ諸費用ハ其年限リニ償却シ得ヘキモノハ其一部分ニ止マルヲ以テ長期ノ信用ハ尙ホ更ニ必要ナリト云ハサルヲ得ス種物代勞銀ハ其年ニ得ル所ノ收穫高ヲ以テ充分ニ償フコトヲ得ヘシト雖モ肥料ニ至テハ歐洲ノ例ニ據レハ數年若クハ數々年ニ至ラサレハ其全額ヲ償フ能ハス又獸畜飼養料及ヒ土地改良費ノ如キハ數年經過ノ後ニアラサレハ之ヲ償フ能ハサルナリ是ヲ以テ總テ是等ノ費用ハ一農作期ノ終リニ臨ミ其農產物ヲ販賣シテ其全額ヲ償フ能ハサルヲ以テ彼商業上ニ於ケルカ如ク物品ノ販賣ノ後若クハ工業上ニ於ケルカ如ク半製品又ハ全製品ヲ賣渡ノ後直ニ支出額ヲ償ヒ得ヘキモノトハ自ラ其趣キヲ異ニスルナリ故ニ農業上ノ信用ハ一生產期(假令ハ一年)ノミニ限ルヘカラサルナリ左スレハ農業上ノ信用ハ資本ノ振向方如何ニヨリテハ餘程長期ノモノナラサルヘカラス蓋シ急速ナル督促ヲ受ルカ爲ニ農家ノ害トナリ却テ利ヲ打消スカ如キコトナキヲ期スルコト肝要ナリ

以上ハ對物信用ニ關スル事柄ニシテ信用ノ長期ヲ貴フ所以ヲ陳述シタルモ尙ホ其外ニ商業上及工業上缺クヘカラサル對人信用ヲモ多少之ヲ利用スルノ道ナキニアラス蓋シ此對人信用ハ

多クハ爲換的ノ信用ニ類似ノ方法ニヨリ之ヲ利用スルヲ得ヘシ尤農業經濟ノ整頓シタル地方ニアラサレハ實行スルコト容易ナラサルヘシ而シテ信用ノ期限ハ生產期限間卽チ播種期ヨリ收穫期ニ至ルノ間ニ制限スルヲ通例トス

第二　農業上信用ノ必用ヲ生スル原因

普通ノ原因トハ獨リ農業ニノミ限ラス他ノ營業ニモ同シクアリ得ヘキ原因ヲ云フ今其原因ヲ略言スレハ凶作若クハ人間ノ薄運ニ由テ生シタル窮困、生產ノ擴張及ヒ多ク入費ヲ要スル農業上ノ改良(此事ハ今後日本ニ於テ農業的信用法ノ必要ヲ生スルノ原因トナルニ相違ナシ)或ハ又農民ノ經濟其當ヲ得サルニ歸スヘキコトモアルヘシ又社會上及ヒ法律上ヨリ生スル弊害ニ歸スヘキコトモアルヘシ例ハ高利貸ノ流行利子ノ步合非常ニ高キ等卽是ナリ

前記ノ原因ニ就テハ日本モ歐洲諸國モ共ニ同一ノ狀況ヲ呈スルヲ以テ亦均シク同一ノ制度ヲ設ケテ之カ備ヘヲナスハ必シモ不可ナラスト雖モ兩國ノ進步自ラ其趣ヲ異ニスルカ故ニ農家ニ於ケル負債ノ原因モ亦自ラ同一ナラス從テ農業上ノ信用及ヒ此信用ノ必要ヲ生スル原因モ亦自ラ其趣ヲ異ニスルヲ見ルヘシ歐洲ハ歐洲ニ特別ナル原因ノアルアリテ歐洲ノ農業的信用ト其組織トヲ發達セシメタリ予ハ農業的信用方法ノ最モ早ク獨逸國ニ於テ其發達ヲ顯シ又如何ナル效力ヲ呈スルヤヲ遞フルニ先タチ一般ニ歐洲諸國ニ於テ農業的信用方法ノ設置ヲ促シタル原因ヲ特ニ左ニ示定スルヲ必要ト認ム何トナレハ日本國ニ於テ農業的信用方法ヲ設立スルノ必要ハ歐洲諸國ト同一ノ原因ヲ有スルヤ如何ヲ考フルニ予カ從來ノ經驗ニ依レハ唯一二ノ點ニ就テノミ同一ナリシノミニシテ恐ラク將來ニ至テモ亦然ラサルヲ得サルヘシト想像スルカ故ニ日本ハ日本ニ適スルノ農業的信用方法ナカルヘカラスト信スレハナリ

歐洲諸國ニ於テ百年以來通貨經濟(ルヒヤイトレヤフト物品經濟卽チ現物交換ニ對シ用ユル語ニシテ通貨ヲ以テ交換ノ媒介價格ノ標準ト爲スコトヲ云フ)ノ行ハレタルカ爲ニ人民ヲシテ土地ニ資本力アルコトヲ知ラシメタリ羅馬法律ノ入リ來ルニ及ヒテ土地ヲ賣却シ及ヒ分割シ得ヘキコト竝ニ遺產ヲ受クル權利ハ同等ナルコト等ノ主義ハ漸ク社會ノ是認スル所トナリ昔時分割スヘカラス又無價値ナリシ家族ノ所有物(卽チ土地)ハ今ハ變シテ一種ノ貨物トナリ資本ト同シク賣買讓與分割自由勝手トハナレリ是ニ於テカ土地ハ遺產分配ノ資料有力ノ抵當物トハナレリ而シテ人口漸ク繁殖シ農產ノ需要漸ク增加シ交通運搬ノ具益〻發達シ土地ノ價格ハ益〻騰貴スルニ從テ土地ノ負債モ亦年一年ニ增加ヲ呈シタリ又斯ノ如ク土地ノ價格ハ年一年ニ騰貴シ又騰貴スルノ望ミアリシニ依テ起リタル負債ハ累年ノ凶作若クハ戰亂其他ノ不幸アル時ニ往々土地所有主ノ破產ヲ惹起セリ

右ノ如キ事情ハ卽チ李國ニ於テ初メテ農業的信用ノ道ヲ設クルノ原因トナレリ而シテ最初ハ重ニ大土地ノ困難ヲ救フノ主意ナリシモ當世紀ノ初メニ當リ土地ノ賣買讓與ニ關スル種々ノ制限ノ解除セラレシ以降ハ漸ク之ヲ中小ノ土地ニモ及ホスコト、ナレリ

前記諸般ノ原因(今日モ矢張昔日ト同一ノ働キヲ有ス)ハ西洋諸國ニ於ケル農業的信用方法ニ特種ノ性質ヲ與ヘタリ然レトモ予ノ知ル所ヲ以テスレハ日本ニ於テハ右等ノ原因ハ極メテ微弱ナルカ如シ故ニ日本ハ日本ニ適當スルノ仕組ヲ立ツルノ必要アルヘシ又日本ニ於テ今日尙ホ專ラ行ハル、所ノ家族世襲法(長子相續法)ハ遺產分配上ヨリシテ起ル負債ノ重ナル原因ヲ防止スルニ足ルヘシ而シテ日本ノ如キ小區域ノ土地ノ存在スル國ニ在テハ歐洲ノ如ク遺產同樣(分

派相續法ト譯スルモ可ナリ)ノ制ナキハ極メテ幸福ト云ハサルヲ得ス若シ土地ノ所有ニ關シテ從來ノ相續法ヲ變更スルカ如キコトアラハ之レカ爲メニ大害ヲ釀シ遂ニ社會ノ健全ナル發達ヲ妨クルニ至ルヤ必セリ

然ラハ即チ歐洲ニ於テ農業的信用方法ノ設立ヲ要セシ大原因ハ日本ニ取リテハ甚タ微弱ナル勢力ヲ有スルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ大資本ノ必要ヲ感スル場合例ヘハ大區域ノ土地ヲ墾ム北海道ノ如キ地方ニハ將來之レカ採用ヲ見ルコトアルヘシ何トナレハ歐洲ニ於テ此等ノ信用方法ヲ設立シタルノ目的ハ從來負フ所ノ負債ノ負擔ト償還トヲ容易ナラシムルニ出タリト雖モ日本ニ於テハ之ヲ將來大區域ノ土地ヲ耕耘シ及ヒ改良スル爲メニ大ナル資本ヲ得ルノ一手段トシテ利用スルコトヲ得レハナリ

乙 獨逸國ニ於ケル民立農業的信用方法

第一 民立農業的信用方法

(一) 大區域ノ土地所有ノ爲ニスル組合信用方法

歐洲ノ開化漸ク進ミテ商業及ヒ工業ノ時期ニ達セシ以降高利ヲ以テ其商業及工業部內ニ專有セラレタル資本ヲ農業上ニモ移シテ以テ之カ利益ヲ計ラント欲シ百方其術ヲ講スルハ世ノ問題トナレリ抑〻土地ヲ變シテ動產同樣ノ働キヲ有セシメントスルノ方略ハ「アスギル」氏及殊ニ「ジョンロー」氏ノ主唱ニ出ツル所ニシテ土地ノ價格ヲ土臺トシテ紙幣ヲ發行スルニアルハ世人ノ知ル所ナリ該方略ハ屢〻失敗ヲ爲シタル後チ伯林ノ一商人「ビユーリング」ナルモノアリテ大地主ノ組合ヲ組織シテ債主ノ都合ヲ以テ償還ヲ請求スル能ハサル資本ヲ借入レ之ヲ低利ニテ農家

ニ貸付スルノ方法ヲ提出セリ前述ノ方略ハ是ニ至テ初メテ實地ノ功ヲ生セリ畢竟此目的ハ七年戰爭ノ爲メニ淪落ヲ極メタルシユレジエン州ノ地主ヲ救濟スルニ在リテ「ビユリング」氏カ此仁術ヲ發明シテヨリ獨リ此方法ノ獨逸國ニ行ハレシノミナラス尙ホ他ノ歐洲諸國ニ於テモ多少之ニ變更ヲ加ヘ之ヲ利用スルニ至レリ是レ即チ歐洲各國ニ於ケル諸般農業的信用方法ノ基礎ニシテ歐洲各國人民ノ幸福ヲ進ムルニ於テ大ニ與リテ力アルコト、ハナレリ

抑〻「ビユーリング」氏ノ考案ハ連帶責任ヲ有スル負債者ノ組合ハ獨立ノ一私人ヨリモ容易ニ且ツ低利ニテ債主ヲ見出スコトヲ得ヘシト云フノ一點ニアリ而シテ爾後此考案ノ愈〻實地ニ的中センコトヲ認メタリ「ビユーリング」氏ハ此考案ヲ土臺ニ置キ之ニ加フルニ賣買讓渡シ得ヘキ負債證券(其額面金高例ハ百「ターレル」(一「ターレル」ハ凡ソ我七拾五錢ニ當ル)ヲ發行シ債主ハ負債者ヲ煩ハサス時ノ相場ヲ以テ之ヲ賣却スルコト得負債者債主ハ其必要ナル年月ノ間資金ヲ利用スルコトヲ得ルノ考案ヲ提出セリ

シユレジエン州ノ大地主ハ「ビユーリング」氏ノ考案ニ基ツキ遂ニ千七百六十九年組合ヲ組織シテ「ランドシヤフト」ト名ケタリ「フリードリッヒ」大王モ漸ク該組合ノ必要ヲ感シ親カラ之レニ二十萬「ターレル」ヲ投シ其設立ヲ贊助セリ

該組合員ハ其組合ニ對シ其所有地ノ地價半額以下ノ金高ヲ貸與セリ而シテ當初其利子ハ五分ト定メタレトモ後漸次低落シテ三分乃至三分五厘マテニ及ヘリ素ト此組合即チ「ランドシヤフト」ハ自ラ射利ノ目的ニ出タルニアラス管理費サヘ支辨スルヲ得レハ可ナリ故ニ負債者タル地主等利子ノ減少スレハ減少スル程自己ノ利得ト云ハサルヲ得ス

夫レ「ランドシヤフト」ノ盛衰ハ其組合其者ノ信ヲ確フスルニアリ而シテ其業務ニ關シテハ獨立ノ管理權ヲ有スルカ故ニ若シ其組合員ニシテ利子及ヒ償還金高拂込又ハ其土地ノ管理上ニ關シ其規約ヲ怠タリ遂ニ犯則ヲナスニ至ルモノアレハ之ニ對シテ强行權ヲ執行ス加之ノミナラス「ランドシヤフト」ハ此强行權ヲ以テ進ンテ怠慢者ノ土地ヲ差押フルコトヲ得タリ

「ランドシヤフト」ハ世間ニ對シテ負債金高利子等支拂ノ義務ヲ有ス該組合カ組合員ノ爲メニ資本ヲ得ンカ爲ニ發行スル所ノ負債證券ハ賣買讓渡シ得ヘキ手形ナリ故ニ證券所有者ニ於テ現金ノ必要アルトキハ組合若クハ組合員ヲ煩ハサスシテ何時タリトモ之ヲ賣却スルヲ得ヘシ「ランドシヤフト」ノ信用ノ鞏固ナリシハ次ノ一例ヲ以テ知ルヘシ即チ彼ノ千八百四十八年ノ騷亂ニ際シ宇國公債證書ノ類ハ六十九ニ低落シ又宇國銀行手形ハ六十三ニ低落シ加之ノミナラス鐵道株券ハ三割乃至四割ノ下落ヲナシタリト雖モ之ニ反シテシユレジエン州及ヒポンメルン州ノ「ランドシヤフト」負債證券(三分五厘利付)ハ九十三ノ價格ヲ有シウエストフアーレン州ノ分ハ八十三ヲストプロイセン州ノ分ハ九十六ポーゼン州ノ分(四分利付)ハ百〇一及ヒメツクレンブルグ州ノ分ハ百〇三ノ價格ヲ有セリ

該負債證券ノ非常ニ安固ナルト「ランドシヤフト」ニ係ル業務ノ其當ヲ得タルトハ政府ノ信用ト雖モ尚ホ之ニ一歩ヲ讓ラサルヲ得サルニ至リタルヲ以テ其資金ニ對シ意外ノ利益アルヲ見タリ是ヲ以テ組合員中ノ負債者カ拂込ム利子ノ幾分(證券ノ所有者即チ組合ニ對スル債主ニ拂フ利子ハ組合員カ拂込ム利子ヨリモ低クアリシ故ニ)ヲ以テ償還基金ヲ設ケ毎年一定ノ證券額ヲ抽籤シテ漸次組合員ノ負債ヲ銷却セントスルノ念ヲ惹起セリ

「ランドシヤフト」ハ漸次流行シテ宇國ノ諸州其他獨逸ノ諸國、墺國、露國、丁抹、白耳義、阿蘭及ヒ佛國ニ於テモ之ヲ設置スルニ至レリ而シテ佛國ニ在テハ彼ノ有名ナル經濟學者「ウオロスキー」之ヲ輸入セシカ奈翁第三世ノ時代ニ至リ彼ノ中央集權的相場的ノ興業銀行(クレディーホンセー)ヲ設立スルノ基トナレリ此ノ如ク「ランドシヤフト」各國ニ蔓延スルニ方テハ勢ヒ之ニ多少ノ變更ヲ來タサヽルヲ得サリシト雖モ前記ノ原則ニ至テハ依然トシテ變更ヲ見サルナリ「ランドシヤフト」ノ仕組ノ變更ニ關シ特ニ陳辯ヲ要スルモノハ前記償還基金ノ事ナルモ尚ホ其外ニ一二特ニ陳辯ヲ要スルモノハ該方法ノ利用ヲ地方豪族ノ土地ニ限ラスシテ大百姓ノ土地ニモ及ホシタルコト貸付金高ノ區域ヲ漸次擴張シテ土地現價ノ五割ヨリ六割迄ニ至リタルコト特別償還資金ヲ設ケタルコト抽籤シタル債券ノ價格ノ外ニ償金ヲ支拂フコト及ヒ「ランドシヤフト」ニ於テ定メタル資金ヲ以テ其負債ヲ銷却シタルトキハ直ニ證券組合員ニ引渡スコト(其他ハ略ス)述ヘテ茲ニ至レリ日本ニ於テモ是等ノ方法ニ據リ大地主(メンドリーフインハベッツ)カ土地抵當(チツト)信用組合ヲ設置センコトヲ希望セサルヲ得ス日本ニ於テ該組合ノ營業ノ爲メニ必要ナル資財ヲ募集スルハ敢テ難事トスルニ足ラサルヘシ而シテ歐洲各國ノ農業上有益ノ融通方法ヲ日本現時ノ狀況ニ適當セシメテ以テ利ヲ作サンコトヲ望ム

(二) 小區域ノ土地所有ノ爲ニスル組合信用方法

夫レ小區域ノ土地ハ數百年間概シテ分割スヘカラサル世襲ノ家產ニシテ遺產分配上ノ負債ハ殆ントナカリシモ該制ハ當世紀ノ經過中ニ其效力ヲ失ヒ而シテ近世通貨經濟法ノ影響尚ホ延ヒテ小土地ニモ波及スルコト、ナリ又舊來ノ農業經營法ハ一變シテ縱令費用ハ多ク要フルコ

トアルモ其收入モ亦割合ニ多額ナル近世耕作法ト市場需要ノ變遷トニ適應セサルヲ得サルニ至レリ是ニ於テ小區域ノ土地モ亦信用ノ必要ヲ感スルコトヽナレリ

前陳(ランドシャフト)ノ設置ハ小農社會ノ經濟上ニ限リテハ殆ント其用ヲ爲サヽリシコトハ大銀行ノ設置增加ハ小工業家小商人等ニ取リテハ事實ニ於テ用ヲ爲サヽリシノミナラス法律上ニ於テモ制限ヲ受クルト同樣ナリキ之ニ加フルニ當世紀社會ノ進步ハ小農小工小商ヲシテ大農工商業ト競爭スルニ於テ困難ヲ覺ヘシムルコト年一年ニ甚タシ夫レ大業ハ大業固有ノ利益ヲ見ルノミナラス容易ニ生產上日進ノ藝術ヲ利用シ得ルヲ以テ小業ハ日ヲ追テ競爭スル能ハサルコトヽナリシノミナラス諸般ノ事業中ニ於テ小業ヲ壓倒セリ

斯ノ如ク世運ノ變進ハ自然ノ結果トシテ之ヲ是認スルモ可ナリト雖モ小業ヲ以テ日々ノ生計ヲ爲ス數多人民ノ獨立ヲ維持シ又社會上望マシキノミナラス生產法上ニ於テモ必シモ不利ナラサル小農社會ヲ保持スルハ現時ノ一問題ナリ

數十年以來非常ニ增加シタル資本ハ容易ニ大業ノ利用ニ供セラレス株式會社ノ方法ヲ以テ小額ノ資本ト雖之ヲ利用スルノ道開ケタリト雖モ資本家ハ兎角安心ナラサル小業家ニ資本ヲ供スルヲ忌避シ假令之ヲ供スルモ高利ヲ請求セリ是ヲ以テ小業家ハ常ニ高利貸ニ依賴セリルヲ得サリシナリ尤法律上高利貸ヲ禁シ或ハ利息制限法等ヲ設ケタリト雖モ總テ其效ヲ奏ヘルコト能ハサリキ

斯ノ如キ事情ナリシヲ以テ彼ノ既ニ百年前ヨリ大地主カ低利ノ資本ヲ得ルノ方法ヲ設ケタルカ如キ方法即チ負債者ノ連帶責任組合ヲ設ケテ低利ノ資本ヲ得ント欲スルノ念ヲ惹起セリ

當世紀ノ中頃ニ至リ小業ノ爲ニスル前記ノ考案ヲ實行スルニ就テ同時ニ二種ノ方法コソ世ニ出テタリ而シテ結果ハ今日吾人カ目擊スル如ク彼ノ「ピューリング」氏ノ考案ニ係ルト同一ナリ」

該方法ノ獨リ獨逸國ニ行ハレシノミナラス尙ホ漸次ニ其他ノ歐洲諸國ニモ採用セラレシヲ以テ見レハ其效力ノ大ナルト其必要ノ多キハ言ハスシテ自ラ明瞭ナルヘシ

前記組合方法ノ一種ハ即チ「シユルツ、デリッツ」氏ノ創立ニ係ル小民銀行(フォルクスバンク)トス此銀行ハ重ニ小工商社會ニ向テ漸次其效用ヲ增加シタリト雖其他ノ社會ニ對シ取引ヲ爲サスト云フニハアラス

該小民銀行ハ大ナル銀行ノ例ニ倣ヒ株式法ヲ以テ之ヲ設立セリ社員ハ少ナキモ小額ノ株券一株ヲ有セサルヘカラサルノ義務アリ(金高ハ多クモ五「ターレル」)而シテ漸次之ヲ拂込マシムルノ定メナリ又其借入レ資本ニ對シテハ組合連帶責任ノ義務ヲ有セリ而シテ銀行ニ於テ其資本ヲ社員ニ貸付スルト否ラサルトハ該銀行理事員ノ意見ニ據テ之ヲ決定セリ尤モ此理事員ハ社員ノ選擧ニ出テ每年若クハ時宜ニ依テ交代セラル、モノニシテ資本ノ貸付ヲ請求スル社員及ヒ該社員ノ保證人トナル二名ノ社員ノ身元性質等ヲ審定ス資本ノ貸付ヲ請求スル社員ノ信用力ノ多少ハ其財產ノ大小ニ關スルノミナラス其能力勉强力性質ノ實著如何等ニモ大ニ關係ヲ有セリ本行ノ仕組ハ只ニ經濟的ノ便利ヲ與フルノミナラス尙ホ道德上ノ利益ヲ與フモノト知ルヘシ何トナレハ前述ノ如ク資本ヲ借リ得ル力ノ大小ハ其者ノ勉强力貯蓄心經濟上ノ能力品行如何ニ大關係ヲ有スルカ故ニ社員連中ハ競テ是等ノ事ニ注意シ以テ自己ノ信用ヲ博セントスルノ念ヲ惹起セリ又該組合ノ組合員ハ重ニ小區域ノ一地方ニ限ルヲ以テ組合員相互ヒニ保護監督スルコトヲ得其借入レタル資本ヲ經濟的ニ利用セサルカ如キコトナカラシム是ヲ以テ銀

行ノ事務執行上ニ於テ不注意怠慢アリ若クハ近親ノ情實ニ引カレ不慥ナル借金ヲ爲シ若クハ借金ノ延期長キニ失スル等ノ事ヨリシテ損失ヲ招ネクハイサシラス其他ノ原因ニ由リ損失ヲ醸セシコト殆ント稀ナリ然ルノミナラス該銀行本分ノ事柄タル社員ニ資金ヲ供スルノ點ニ於テ充分ノ目的ヲ達シ得タルハ勿論株主ニ對シテハ毎年多額ノ配當金ヲ交付シタリ斯ノ如キ次第ナルヲ以テ小民銀行ハ近來ニ至リテハ取モ直サス普通ノ小銀行ト同樣ノモノトナレリ殊ニ社員ハ五十株マテヲ所有スルコトヲ得多額ノ配當金ヲ受クルカ故ニ其資產ノ一部ヲ意外ニ能ク利用スルコト、ハナレリ

該銀行ノ仕組ハ無限責任ナリシヲ以テ其株主トナルコトハ富民ニ取リテハ兎角好マシカラサリシモ前年帝國カ發布シタル法律ニ據テ有限責任トハナレリ

抑小民銀行ノ貸付ハ重ニ其會社ノ社員ヲ募集シタル社會ノ者ニ適合スルノ性質ヲ有スルハ論ヲ俟タス小工小商等ノ爲ニ必要ナル貸付ハ其生產期中ヲ期シテ足レリトス故ニ爲換手形ト同樣三箇月乃至六箇月ノ猶豫ヲ與ヘ又時宜ニ依テハ更ラニ三箇月ノ猶豫ヲ與ヘルコトモアリ故ニ該銀行ハ殆ント一小工業銀行ニ彷彿タルモノナリ然レトモ農業社會ノ人ヲモ其社員中ニアルヲ見ル蓋シ其投下シタル資本ヲ回收スルノ至テ緩慢ナル農業ニ取テハ右ノ如キ短期ノ貸付ヲ利用スル能ハサルカ如シト雖モ尙幾分カ小額ナカラモ對人信用ノ行ハレ得ルヲ以テナリ

然リト雖トモ農業的信用方法トナルヘキモノハ小民銀行ト同時ニ起リタル彼ノ「ライファアイゼン」氏ノ貸付金庫ナルモノ是レナリ當初此金庫ハ萊因州內ノ二三ノ村落ニ於テ設立セラレソレヨリ諸方ニ流行セリ

前記「シユルツエ」小民銀行ハ現今ノ組織ニ就テ云フトキハ普通ノ小銀行ニ外ナラスト雖ライファアイゼン」氏ノ首唱ニ係ル仕組ハ營利的ノ性質ヲ有セス重ニ慈善的ノ性質ヲ有ス「ライファアイゼン」氏ハ該組合ヲ設立セント欲スル地方ニ於テ其土地ノ富裕者ヲ勸告シテ貧民社會ノ利益ノ爲ニ貧民ト共ニ其組合ニ加入セシメ連帶責任ヲ以テ貧民ノ信用ヲ補助セシムルコトヲ努メタリ最初ノ金庫ハ「ウイード」侯ノ助力ヲ得テ之ヲ設立シタリ金庫設立地方ノ最貧ナル住民ト雖該組合員タルコトヲ得セシメンカ爲ニ假令小額ナカラモ株券ノ所有上ニ於テ「シユルツエ」銀行ト同樣ノ便宜法ヲ設クルコトヲ爲サ、リシ組合員ノ營業ノ性質既ニ異ナルカ故ニ該組合員ニ對スル貸付ハ小民銀行ノ貸付ノ如ク短期ノモノニアラスシテ極メテ緩慢ナルモノナリ又之ヲ延期スルモ亦彼ヨリハ容易ナリ組合ノ事務執行上ニ關シテハ重ニ名譽職員ヲ用ユルノ點ヲ除ケハ別段ニ異ナルコトナシト雖モ其組合員相互ニ保護監督スルノ點ニ至テハ小民銀行ヨリモ尙ホ一層熱心ヲ增セリ其他「ライファアイゼン」氏貸付金庫ハ「シユルツエ」氏ノ小民銀行ノ如ク營利的ノ働キヲ有セサルモ其地方ノ共益ヲ增進シ及ヒ慈善ノ目的ヲ達スルニ至テハ其效力極メテ顯著ナリシヲ以テ總テ其管區內ノ經濟上ノ進步ヲ助ケ淳良ナル風習ヲ涵養セシムルニ於テ大ナル效驗ヲ顯シタリ

夫レ小民銀行及ヒ貸付金庫ノ各一得一失アルコト前記ノ如シト雖モ各般ノ組合會社ノ神髓トナリテ漸次後世ニ及ホセシ所ノ利益ハ最初ノ方法ニ一步ヲ讓ラサルヲ見ルヘシ

「シユルツエ」氏ノ小民銀行ノ餘澤ハ重ニ村落若クハ都市ニ住スル小工小商ニ及ホシ小農モ其短期ノ貸付ヲ幾分カ利用セサリシニアラスト雖「ライツファアイゼン」氏ノ貸付金庫ハ重ニ小農社會

ヨリ其組合員ヲ募集セリ故ニ其貸付ハ數年間延期スルヲ得セシメタリ加之其組合員ニハ土地抵當ノ貸付ヲモ爲シタリ此ノ如ク貸付金庫ハ其社員ニ經濟上充分ノ保護ヲ與ヘ竟ニ之ヲシテ彼ノ高利貸社會ノ羈絆ヲ脫出シ再ヒ經濟上ノ獨立ト其職業上ヨリ生スル所ノ快樂ヲ合セテ之ヲ享有セシメタリ

信用的業務ヲ掌トル前記兩種ノ仕組(「シユルツエ」氏及ヒ「ライフアイゼン」氏ノ仕組)ニ隨伴シテ種種ノ共濟的目的ヲ有スル仕組起レリ今其仕組ニ就キ二三ノ例ヲ擧クレハ前貸組合、消費組合(コンスーム(ルアイン))、原料組合、生產組合、家屋建築組合、物產販賣組合等是レナリ蓋シ此等ノ組合ハ之レヲ日本ニ設立セハ小農及ヒ小工ノ爲メニ其便益少ナカラサルヘシ是等ノ組合ハ勞力ヲ生產的ニ利用シ及ヒ生產品ノ販賣ヲ便宜ナラシムルノ外ニ尙彼等社會ノ生產及ヒ生計ニ係ル費用ヲ節減シテ其經濟上ニ餘裕ヲ生セシメ其餘裕ノ金高ヲ蓄積スルコトヲ得セシム現ニ日本ニ行ハル、貯金法ノ如キ民ニ餘力ナキトキハ其效ナカルヘシ其效ヲ望マハ先ツ其民ニ餘力アラシムヘシ貯蓄ヲルカ爲ニ其既ニ低度ナル生計ト國民ノ勞働トヲ害スルコトナキノ日ニ至テ初メテ其效ヲ奏スルニ至ルヘシ但シ日本ニ於テ今後益〻發達スル分業ハ愈〻多數人民ノ消費ノ增長ヲ促スコトナランカ此事ハ我輩ノ思想外ニ置キ斯クハ斷言スルナリ(但シ以下原文少シク了解シ難シ)

「シユルツエ」氏小民銀行法及ヒ「ライフアイゼン」氏ノ貸付金庫法ニ依リ組織シタル組合ノ過半ハ相聯合シテ各〻一ノ聯合本部ヲ設ケ外部ニ對シテハ本部長ヲシテ法律上及政事上各組合ヲ代表セシム而シテ事ノ各組合ニ通シテ改良變更等ヲ爲スノ必要アルトキハ聯合本部ヨリシテ各組合ニ傳達シ其實施ヲ爲サシムルニ於テ頗ル便利ナルヲ見ル又聯合ハ孰レモ其聯合ニ屬スル各

組合ノ金融ヲ媒助スル一種ノ金融本部ヲ有ス「シユルツエ」氏小民銀行ノ金融本部ハ在伯林ノ獨逸組合銀行ニシテ「ライフアイゼン」氏ノ貸付金庫ノ金融本部ハノイウキードノ一大銀行ナリ獨逸國ニ於テ設立シタル總テノ組合ハ多少トモ創業者「シユルツエ」氏若クハ「ライフアイゼン」氏ノ主義ヲ採用セリト雖其內聯合ノ孰レカニ屬スルモノハ過半數ニ及ハス

千八百八十六年ノ終リニ獨逸國ニ現在ノ組合ヲ計算スレハ總計四千五百個ニシテ其內ノ細別スレハ則チ左ノ如シ

前貸組合及ヒ信用組合	二千百三十五個
消費組合	六百九十六個
原料調達組合(生產組合及ヒ販賣組合)	千五百七十二個
家屋建築組合	三十五個

尙ホ其他ニ組合アレトモ此レハ重ニ農業組合ナリ

組合ノ取引ハ組合員ニ限ル殊ニ組合員中ニテ身元ノ慥カナル者ニ限ル然レトモ其事務ノ整頓シタルト其地方ニ名望アル事務役ニ對スル信用ハ遂ニ組合ヲシテ其組合員ニアラサル者ニ對シテモ亦一種ノ小ナル銀行貸付及ヒ貯金庫ノ働キヲ爲スニ至リタルノミナラス組合員外ノ者ヨリシテ集マリタル資本ヲ以テ組合本分ノ運用ヲ爲シ得テ殆ント不足ヲ感セサル程ナリ

千八百八十六年ノ終リニ「シユルツエ」氏ノ信用組合ノ數ハ合計八百八十一ニ達シタリト雖モ組合員カ出金セシ金額ハ僅カニ總金高ノ百分ノ三十二零四ニ出テス又「ライフアイゼン」氏ノ貸付

金庫ニ於テモ其組合員ノ出金額ハ總資金高ノ百分ノ六半ニ過キスシテ其餘多額ノ資金ハ組合員外ノモノヨリシテ出タルコト、知ルヘシ

前既ニ述タルカ如ク數多ノ組合ハ其主義ニ於テハ同一ナリト雖モ聯合ヲ組織スルモノハ全數ノ半數以下或ハ三分ノ一位ナリ而シテ聯合本部ハ各其年報ヲ以テ聯合ニ係ル諸般ノ事項ヲ掲載スルノ定メナリ今茲ニ參照ノ爲メ獨逸國ニ於テ組織セル組合ノ一覽表ヲ掲クヘシ

私立組合ノ聯合

	(甲)「シュルツエ」氏ノ主義ニ係ルモノ (千八百八十七年)	(乙)「ライフアイゼン」氏ノ主義ニ係ルモノ ノイウヰード聯合 (千八百八十五年)	ウセン聯合 (千八百八十六年)	バーナン聯合 (千八百八十六年)	ウュルテンベルク聯合 (千八百八十七年)
組合ノ數	八百八十六個	二百四十五個	七十九個	千十一個	百五十二個
組合員ノ數	五百十五名	百名	九十名	百二十七名	九十名
毎年分頭運用金	六千四百八馬克	二百三十三馬克	七百九十七馬克	五百六十二馬克	四百十六馬克
分頭株金高	二百四十二馬克	八馬克	二十四馬克	三十六馬克	不明
毎年分頭利益金高	十一馬克五十布	三馬克九十布	五馬克十布	五馬克八十布	二馬克
管理費分頭高	十三馬克二十布	四馬克七十布	四馬克五十布	三馬克七十布	一馬克二布

近世農業上ノ凶變ハ獨逸國ニ於テ「ライフアイゼン」氏ノ貸付金庫ノ非常ナル增加ヲ促シタリ又獨逸國ニ於ケルカ如ク小農ノ夥多ナル諸國卽チ墺國、伊國、丁抹、白耳義、阿蘭瑞典等ニモ流行スル

ニ至レリ又佛國ニ於テモ獨逸流ノ貸付金庫ノ必要ハ世ノ問題トナレリ然ルノミナラス英國ニ於テスラ既ニ世人ノ注意スル所トナレリ

前述ノ組合ハ既ニ四十年ノ經驗ヲ積ミタリ而シテ其經驗ニ據レハ其引起シタル損害ハ彼ノ株式會社ノ損害ニ比シ頗ル僅少ナルモノナリ金融切迫若クハ戰亂ノ際ニ方テモ該組合ノ信用ハ毫モ之カ爲ニ影響ヲ被ムルコトナカリキ

獨逸國新制(本年ノ冬)組合法ニ據レハ未タ實施ニハナラサレトモ組合ノ連帶責任ニ對スル非難ノ點ヲ排除シタリ卽チ該組合法ハ彼ノ地方富豪家ノ加入ヲ妨ケタル無限責任法ノ外ニ尙ホ有限責任法ヲ以テ組合ヲ設立スルコトヲ許シタリ而シテ組合カ其義務ニ堪ヘサル場合ト雖モ其責任延ヒテ一個人ノ私有財產ニマテ及ホスコトヲナサス其不足金高ハ之ヲ組合員全體ニ分擔セシムルノ道ヲ開キタリ右ノ外新法ヨリ起ル事ノ變更ハ各組合員ハ必ス多少ノ株金ナカルヘカラスト定メタル義務是ナリ斯ノ如キ義務ハ是迄「ライフアイゼン」氏ノ仕組ニ於テ見サル所ナリ尤モ株金ノ拂込ヲ數回ニ分割スルコトヲ許シテ以テ便宜ヲ與フルナリ又新制ノ組合法ハ從來組合ノ取引ハ重ニ其組合員ニ限リタルモ今後ハ其組合員ノ外ノ者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得セシメタリ尤モ其事ハ豫シメ之ヲ組合規約ニ規定シ置カサレハ之ヲ爲スコト能ハス

組合上有限責任法ノ許サレタル一事ハ彼ノ社會ニ對シ裨益多キ組合ハ富裕社會ノ連中ヨリ多數ノ贊助加入者ヲ得ルハ疑ヲ容レサルナリ是迄ハ富裕社會ノ者ハ自己ノ利益上ヨリシテハ進ンテ之ニ加入スルノ必要ナカリシモ今後ハ道德心ヨリスルノミナラス利益ヨリモ亦加入スルコトナルヘシ又近世獨逸國ノ如キハ殊ニ彼ノ社會黨ノ困難アルヲ以テ富豪家自ラ奮ツテ組合

員トナリ其組合中ノ貧困ナル者ヲ提携奬勵シテ彼ノ社會黨カ現今ノ社會ノ制度ヲ破壞センカ爲メ其貧困社會ヲ煽動シテ其目的ヲ達スルノ方便ニ供セントノ念ヲ斷タシムルヲ以テ其富豪家ノ道德上ノ義務トナスノ氣運ニ傾向セリ

組合ノ目的ハ組合員相互ノ救援幫助ニ依リ組合員中其孤立シテ信用ヲ得ル能ハサル者ヲシテ信用ヲ得セシムルニアリ又其同ノ目的及相互ノ責任ニ依テ低利ヲ以テ資本ヲ募集スルニアリ又組合員ヲシテ貯蓄ノ餘力アラシメンカ爲ニ生產費用節減(生計ノ品位ヲ惡シクスルコトナクシテ材料原料器具及ヒ生計需用品安買物產ノ販賣上都合好キ市場ト都合好キ時機トノ撰定方法ヲ設クルニアリ要スルニ組合員相互ニ協心同力シテ其固有ノ精力ト固有ノ責任ヲ以テ能ク今日政事上及社會上獨立ノ生活ニ必要ナル經濟的獨立ヲ保維發達スルニアリ」

予ハ今第二段ニ於テ資本家カ營利ノ目的ヲ以テ農業ヲ助ケンカ爲ニ設立スル所ノ信用方法ニ就キテ陳辯セント欲ス而シテ丙部ニ至リ彼ノ尋常ナラサル目的ト全國一般ノ經濟上ノ發達ノ目的トヲ以テ設立スルノ官立信用方法ヲ述ヘント欲ス

第二　土地信用株式會社

彼ノ「ランドシャフト」ト稱スル廣大ナル信用方法ノ興起セシ時代ニ當リテハ小資本ハ重ニ商業上ノ利用ニ應スルヲ目的トセリ故ニ第十九世紀ノ末ニ於テスラ小財產家ノ如キハ組合ヲ組織スルニアラサレハ融通ノ道ナキノ有樣ナリ

中等ノ地主及ヒ富裕ナル農民ハ二種ノ信用法(ランドシャフト及來氏ノ貸付金庫ヲ指スナラン)ノ恩惠ニ與カルコトヲ得ス然ルニ是等ノ社會モ亦夫ノ大地主ト同樣分派相續若クハ抵當上ヨリ來ル土地ニ屬スル負債其他土地ノ改良耕作法ノ變更或ハ農作ノ側ラ更ニ農業ニ屬スル他ノ事業ヲ營ム等ニヨリ最早信用法ヲ等閑ニ付シ置ク能ハサルノ場合ト爲レリ

中等地主及富裕ナル農民ノ有樣已ニ右ノ如クナルヲ以テ遂ニ此社會ノ爲メニ農業信用會社ヲ設立スルニ至レリ而シテ此四五十年以來非常ニ增加シタル資本ハ其利用ニ供セラレタリ

是等ノ株式信用銀行(アクチエンバンクルンゲン、クレディートバンクン)(土地信用銀行(ヒポテーケンバンクン)又ハ抵當銀行トモ云フ)ハ株主ノ拂込ミタル株金ヲ貸付資本トシテ運用スルコトハ殆ント稀レニシテ或ハ之ヲ運用スルモ一小部分ニ過キスシテ其實ハ資本ノ貸付ヲ望ム土地所有者ト土地ヲ抵當ニ取リテ資本ヲ安全確實ニ運轉セント欲スル資本家トノ間ヲ媒介シ所謂周旋ノ業ヲ取リ

地主ニ於テ資本ヲ借入ント欲スルトキトハ先ツ某所ノ土地信用銀行ニ至リ其事ヲ申込ミ銀行ハ直ニ本人ノ所有地ノ段別種類等ヲ取調ヘテ地價及收益ノ度ヲ評定シ合セテ借手ノ農業上ノ勤怠巧拙等ヲ稽査シ然ル後其貸付ノ定度割合ヲ定ムルナリ而シテ其定度割合ノ如キモ通例夫ノ「ランドシャフテン」ニ比スレハ其額頗ル多シ殊ニ其借手ナル土地所有者ハ勤儉ニシテ農術ニ長スル農民ナルコト明カナルトキハ其貸付ノ定度割合ハ銀行ニヨリテハ地價百分ノ七十乃至七十五ニ達ス左スレハ是等銀行カ貸付ヲ爲スノ方法ハ單ニ對物信用ノミナラス亦多少對人信用ヲ爲スモノト云フヘシ今此銀行カ資本家ヲ求ムル方法ヲ案スルニ先ツ銀行ハ借手ニ與ヘタル信用ノ高ニ應シテ負債證券ヲ發行シ之ヲ一枚百ターレル(其他ニ分チテ市場卽チ取引所ニ於テ夫々所望ノ資本家ヘ賣ルノ仕組トス而シテ銀行ハ此證券ノ買手ニ對シテハ自ラ利子支拂及其他證券ノ確實安全等ニ付其責ニ任セサルヘカラス債主負債主トハ毫モ直接ノ關係ヲ有セス

且雙方迭ニ其何人タルヲ知ラスト云フ又株主カ拂込ミタル資本ハ一種ノ準備金タルニ外ナラス故ニ苟モ銀行カ其事業上ニ於テ普ク世人ノ信用ヲ博スルニ至リタル以上ハ株金ヲ以テ事業ノ擴張ヲ計ラントスルカ如キ考ヘ此種ノ銀行ニ取リテハ抑〻間違タル考ト云ハサルヲ得ス銀行ノ性質都テ以上掲クル仕組ナルヲ以テ土地所有者ノ必要ト資本家ノ所望トカ相俟チテ始メテ(尤モ此間ニ政府カ何ニモ制限セサル場合ニ限ル)銀行ハ其營業ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルナリ此銀行ノ株主ノ重モナル利益ハ其銀行ニ拂込ミ何時ニテモ容易ニ貨幣ニ交換スルヲ得ヘキ所有ノ株式ニ對スル利息ノ外復タ借手ナル土地所有者カ銀行ニ支拂フ利息額ト銀行カ負債證券所有者ニ支拂フヘキ低度ノ利息トノ間ニ生スル利子ノ差額ナリトス

此銀行ノ便利ハ夫ノ「ランドシャフテン」ト同樣債主ト負債主トカ自ラ諸事貸借上ノ手數煩勞ヲ採ルニ及ハス且ツ貸借用談等ノ爲ニ人ノ好マサル夫ノ借金ノ祕事ヲ世間ニ發露スル等ナキコト並ニ利子ノ外ニ隨意ニ償還元金ヲ拂込ミ抽籤ニヨリテ銷却シタル證券ヲ受出スコトヲ得ルコト等其他枚擧ニ遑アラス否ナ此銀行ハ夫ノ「ランドシャフテン」ト同樣ノ便利ヲ有スルノミナラス之ヨリ一層ノ便益ヲ與フルナリ之ヲ列擧スレハ第一此銀行ハ中及小土地ニ對シテモ亦貸付ヲ爲スコト第二市街宅地ニ對シテモ貸付ヲ爲シ家屋建築費ヲ貸付クルコト第三貸付定限ノ寛ナルコト並ニ正實勉勵ナル農民ニハ其財產ニ對スル貸付定限ニ超過スル貸付ヲナシ一種ノ對人信用貸ヲ爲ス等ノコト是レナリ

前述ノ便益ト密接ノ關係ヲ有スル弊害アリ今之ヲ指摘シテ讀者ノ參考ニ供セン一種ノ對人信用ヲ混用シ貸付定限額以上ノ貸付ヲ爲スカ故ニ其土地所有者カ不意ニ變換シタルトキハ紛擾ヲ惹起シ凶年或ハ農產物ノ價格下落若クハ雹害畜疫等ノ災害ヲ受クルトキハ往々ニシテ利子ノ拂込停滯スルノミナラス拂込ヲ爲ス能ハサルニ立至ルコトアリ或ハ運賃低廉ニシテ速力ノ快迅ナル交通器機汽車汽船等ノ類)ニヨリ更ニ他國ニ農產地開ケ內地農產物ノ價格下落シ從テ地價低落スル等ノ場合ニ於テモ同樣ノ困難ヲ免レス此事ハ近世西歐羅巴ニ於テ其實例ニ乏シカラスコレヨリ尙ホ一層危險ノ甚タシキハ此種ノ銀行カ都會ノ地ヲ抵當トシテ貸出ヲ爲シタルコト是レナリ

夫ノ「ランドシャフテン」ノ創立者ナル「ピューリング」氏ハ既ニ千七百八十七年ニ當リ都會ノ地所ニ對シテモ亦貸付ヲ爲スヲ可トセリ獨逸國ノ土地信用銀行及佛國ノ興業銀行ハ之ヲ以テ其重ナル營業トナシ其後ハ更ニ一歩ヲ進メ都會ノ地所ニ限ラス此數十年以來都會ノ家屋益增加シ殊ニ大都會ノ如キハ其家屋ノ數愈〻增多ナラントスルニ當リ都會ノ家屋ニ對シテ巨額ノ貸出ヲナシ是カ爲メ都會ノ土地及ヒ家屋ニ奇利ヲ賭セントスル投機心ヲ起サシメタルコト實ニ甚タシク然ルニ大都會住民ノ歸去往來ニハ定數ナク幾多ノ家屋幾多ノ土地モ或ハ時トシテ全ク無住荒廢ニ歸スルカ如キ衰況ヲ呈シ其極土地ハ抵當流トナリ家賃ハ下落シ銀行ノ發行シメル負債證券ノ不信用ヲ來タシ甚タシキハ往々支拂ノ途ニ差支ヲ生スルカ如キ苦境ニ陷リシコトアリ

抑〻此種ノ銀行ハ株主ノ利益ヲ目的トシ負債者ヨリハ可成多額ノ利息ヲ收得セント欲スルノ傾キアルカ故ニ之ヲ組合的銀行ニ照シテ論スルトキハ勢ヒ危險ト云フヲ得サルモ多少ノ不利ナキヲ得ス之ニ反シテ組合的銀行ハ唯營業上ノ經費ヲ償フノミナルヲ以テ其利子ノ如キ一極メ

テ低廉ニシテ殆ント銀行カ自ラ借入ル、金利ト殆ント同一ノ利子ヲ以テ負債主ニ貸付ヲ爲スモノナリ

第三　抵當保險銀行（ヒポテークシフェルヴァヘルングスバンケン）

土地信用株式銀行（アクチエンヒポテークンバンク）ニ附帶スル危險ハ到底免カルヘカラサルノ事實ナリシヲ以テ此危險ヲ防禦セント欲シテ彼ノ有名ナル「エンゲル」氏ハ保險策ヲ工夫シ千八百五十八年ドレスデン府ニ於テ保險銀行ナルモノヲ設立セントシタリ此銀行ハ千ニ對シ二ノ割合ノ保險料ヲ以テ抵當地公賣ノ場合ニ際シ其貸金高ニ係ル不足ノ保險ヲ引受ケタリ然レトモ余ノ知ル所ヲ以テスレハ此種ノ保險法ハ一般ノ採用スル所トナラサリキ殊ニ當時歐洲ニ於テ地價ノ變動常ニ益〻甚タシキハ以テ彼ノ平均地價ヲ準度ト爲サ、ルヲ得サル銀行ヲシテ盛ンナルヲ得サラシメタル原因ト知ルヘシ

第四　手形銀行ニ附帶スル土地抵當信用（イプテークニツトヒポテカールクレヂット）

私立會社ニ對シ不償手形ヲ發行スル特權ヲ交付シタルハ政府カ銀行ニ對シ義務ヲ負擔シタルコトニ基クモノ多シ英蘭銀行其他往時ヨリノ設立ニ係ル手形銀行ノ如キ卽チ是ナリ又此種ノ銀行中ニモ北米合衆國ノ例ノ如ク必ス其資本金ノ内若干額ヲ公債證書トナシ以テ政府ニ對スル信用ヲ保持スルモノアリ獨逸國ニ於テハ政府ノ至高權ニヨリ各私人ニ前記ノ特權ヲ許與シタルト同時ニ亦種々ノ義務ヲ負ハシムル事アリ例ヘハ銀行ノ資本金ノ内若干額（百分ノ四十若クハ五十等）ヲ低利ニテ（年四分内外）長期（例之三十年四十年若クハ五十年期）抵當信用ニテ農業上ノ使用ニ供スルノ義務ヲ有セシム殊ニ獨逸國中大地主ナク（ランドシャフテン）ノ設立ヲ實行シ

能ハサリシ地方ニ於テハ資金ノ缺乏ヲ訴フル農民ヲ保護スヘキ前記ノ方法ハ益〻廣ク行ハル、ニ至レリ例之バイエルン國抵當兼手形銀行（ウエキセルバンク）ノ類是ナリ

第五　私立對人信用銀行附不動產書入銀行（アリヴァート、インスチツト、フエル、ダンヘルソナールクレヂット、ゲル、ウンドツイルデルロンメルトクレヂット）

前段記載スル所ノ私立ニ係ル信用ノ機關ハ重ニ不動產抵當ヲ以テ農民ニ貸付ヲ爲スニ止マレリ對人信用ノ行ハル、範圍ニ至テハ曩ニ陳述セル私立信用銀行ノ場合ト同シク特ニ老練正實ナル農民ニ對シテハ幾分カ定限ニ超過スルノ貸付ヲ爲スニ過キス

借テ土地外ノ物件ト雖モ容易ニ腐敗又ハ毀損セサル農產物ハ債主ニ對シ短期貸付上充分ナル抵償品タルヲ得ヘシ其他又價額ノ變動餘リ甚タシカラサル物品ニシテ販路ノ廣キモノ亦然リ此種ノ諸農產物中殊ニ品質不同ナラスシテ假令分量ハ多クトモ各個人カ容易ニ鑑定シ得其監督又ハ保存等ノ費用モ少クシテ永ク抵當トシテ保藏シ得ヘキモノ、如キハ最モ恰當ノ抵償品タルヘシ獨逸國ノ東部地方ニ於テハ毛類酒精類及砂糖ノ如キモノヲ以テ右ノ抵償物トス

此種ノ抵當貸ヲ本業トスル銀行モアルヘシト雖資本ノ多少大ナル銀行ハ時宜ニ依リ勞フ此種ノ貸付ヲ安全ナル範圍内ニ於テ取扱フコトアリ獨逸帝國銀行（ドイチツチエライヒスバンク）ノ如キモ往々此種ノ貸付ヲ要求セラル、コトアリ此頃帝國銀行條例ノ會議ニ際シテモ農民ハ該銀行ヲシテ此種ノ營業ヲ尙ホ擴張セシメント欲スルノ念ヲ絕サルコトヲ知ルニ足レリ

又帝國銀行ノ爲換的信用ヲ擴張シテ大農社會ニ及ホサンコトヲ希望スルモノ多シ蓋シ農民ニ係ル對人信用ハ其性質多少爲換的信用ノ方法ヲ以テ實行セラル、ニ因ルナリ故ニ爲換的信用又ハ有限ノ帳簿信用（アツカクレヂット）ヲ以テ貸出ヲ爲シ來レル諸銀行及貸金家ハ概ネ皆ナ農家ノ爲ニ對人信用

ヲ行フニ至レリ尤モ此對人信用ハ對物信用ニ比スレハ其貸付金額ノ割合少ナルハ勿論ナリ中小ノ土地ニ對シテハ曩ニ陳述セシ小組合ニ於テ多少ノ對人信用貸ヲ爲スカ故ニソレニテ充分ナリ殊ニ借手ノ身元性質等ニシテ組合ニ能ク知ラレ居ルトキハ此點ニ於テ便利ヲ得ルニ安カルヘシ

丙　獨逸國官立ニ係ル與農信用ノ機關

第一　土地義務解放銀行（レンテンアブローツングスバンク）

獨逸國ニ於テハ遠ク封建時代ヨリ近年ニ至ル迄小土地ニ就テ種々ノ義務繼續シ來レリ蓋シ此義務ハ封建侯伯領主ノ土地領有權又ハ國家ノ土地ニ對シ負ハシメタル幾多ノ負擔ニ因由セリ而シテ當世紀ノ初ヨリ此義務ヲ解放セント欲シテ屢〻命令ヲ發シタリト雖モ一ツモ奏效ヲ見ルコトナカリシニ通貨經濟ハ益〻發達シテ是迄物品若クハ勞力ヲ以テ負擔シタル義務ハ一變シテ金錢ヲ以テ負擔スルコト、ハナレリ撒孫王國ニ於テハ此小土地ノ負擔ヲ解放セント欲シ政府自ラ土地義務解放銀行（レンテンアブローツングスバンク）ナルモノヲ設立セシニ獨逸國中尚ホ同樣ノ義務ノ存在スル各地方ハ普ク此方法ヲ採用シ大ニ其效用ヲ見ルニ至レリ抑此銀行ノ性質ハ先ツ政府カ權利者ト義務者トノ中間ニ立チ兩者ノ關係ヲ斷ツノ仕組ニシテ政府ハ權利者ニ對シテハ公債證書ト政府ノ保證シタル土地義務解放證券即チ公債證書ト同シク安全ナルモノヲ交付シ其券面額ハ義務者ノ毎年支拂フヘキ金額ヲ標準トシテ之ヲ定メ且ツ之ヲ無記名證書トシテ容易ニ賣却スルヲ得セシムルノ法トナセリ此證券タル政府之ヲ保證スルヲ以テ他ノ公債證書ト同シク頗ル世人ノ信用ヲ博シ加之政府ハ他ノ證券ト同樣利子ヲ付シタルヲ以テ其利率ノ低廉ナルニ拘ハラス頗ル財

本家ノ意氣ニ投スルヲ得タリ蓋シ此證券面ノ金額ハ毎歲若干ツ、ヲ抽籤ヲ以テ漸次銷却スルノ方法ナリ

政府ハ農民ニ對シ舊債主ニ代リ新タニ債主權ヲ有スルコトソレ此ノ如シ故ニ政府ハ毎歲農民ヨリシテ彼等カ舊債主ニ對シ支拂ニ來リタル金額ヲ取立ツルナリ農民等若シ此金額ヲ亦來ノ債主ニ對シ仕拂フトキハ何十年ノ後ト雖モ元金其額ヲ減少スルコトナシト雖モ之ヲ政府ニ仕拂フトキハ漸次其負債高ヲ減少スルヲ得テ數十年ノ後ニ至レハ全ク之ヲ償還スルコトヲ得ヘシ蓋シ政府ハ負債主ヨリ毎年受取ル所ノ金額ヲ以テ舊債主即チ今日ノ證券所有者ニ規定ノ利子ヲ支拂フナリ而シテ此利子ハ一私人カ拂フ利子即チ今トナリテハ農民カ政府ニ拂フ利子ヨリモ低シ加之ニ政府ハ媒介ノ勞ヲ取リ毫モ是カ爲メ利益ヲ收得セス唯媒介事務ニ係ル經費ヲ償フノミナルヲ以テ義務解放證券所有者ヘ利子支拂ノ後尚ホ毎年少許ノ金額殘留スルモノナリ此殘留金額ハ乃チ漸次增殖シテ銷却資金トナリ此資金ヲ以テ次第ニ義務解放證券ヲ購入銷却スルモノトス今獨國ノ利子ノ割合ヲ標準トスルトキハ義務者ニ苦痛ヲ增サス權利者ニ損失ヲ與ヘス負債全額ヲ銷却スルニ至ルマテニハ凡ソ六十年間ヲ要スルナリ

余ハ嘗テ經濟協會ニ於テ政府ハ別段ノ費用ヲ要セスシテ日本農民ヲシテ負債ヲ銷却セシムルヲ得ル所以ヲ演說シタルコトアリ余ノ見ル所ヲ以テスレハ先ツ小地主等ヲシテ其負債ヲ免カレシメ而シテ信用ヲ得ルノ位置ヲ保タシムルハ目下ノ急務ト信スルナリ

第二　土地改良銀行

土地改良銀行ハ最近ノ創設ニ係ル獨逸國ニ於テハ漸ヲ以テ盛行スルニ至レリ抑モ此制度ハ政

府ヨリ貸付タル資金ノ償還方法ヲ立ツルニアリ此種ノ銀行ハ千八百六十一年撒孫國ニ於テ耕地ノ排水及灌漑又ハ河流改築等ヲ容易ナラシメンカ爲メ始メテ國費ヲ以テ設立セラレ次テ他ノ獨逸諸邦ニ於テ種々之ニ模倣シ從テ其目的モ漸ク區域ヲ擴メ造林開拓其他農業ノ改良牧場設置等ノ爲メニモ貸付ヲ爲スニ至レリ加之老練熟達ノ土木家カ土地改良ノ爲ニ資本ヲ要スルトキハ時宜ニヨリテハ其求ニ應スルコトアリ

借入タル資金ニ對シテ毎年利子ノ外豫約ノ金額ヲ年賦ニテ政府ニ償還セシムルモノトシ而シテ此負債ヲ全部銷却スルニ至ルマテニハ毎年ノ償還金額如何ニ依リ凡ソ四十年乃至六十年ヲ要スルノ割合ナリ

此四十年乃至六十年間ハ政府ヨリ借入レタル負債額ニ對シテハ其土地カ一番抵當トナル左スレハ他ノ負債ハ之レカ爲ニ外觀上押除ラレタルカ如シト雖モ其實ハ然ラス何トナレハ負債ヲ起シタルハ素ト其土地ヲ改良スルノ目的ニ出テタルヲ以テ其負債ノ爲メニ地價ハ(政府ヨリ借入レタル資本ハ唯土地改良ニノミ供スルノ故ヲ以テ)其負債以上ナラサルモ通例其負債丈ケ價位ヲ增シタルノ理ナレハ今外觀上ニ於テ從來ノ債主ニ對シテ其土地ハ二番抵當ノ如キ觀アルモ其實ハ改良前即チ價格ノ幾分カ低キ土地カ依然一番抵當ナリ尤土地改良ノ爲ニ貸付スル資本ニ對シテハ一番抵當ハ最モ安全ト云ハサルヲ得ス

孛國ニ於テハ千八百七十九年ニ撒孫國ニ摸倣シ此種ノ銀行ヲ設立セシカ其效用ハ今日ニ至ルマテ未タ甚タ盛ナリト云フヲ得ス余今其理由ヲ尋ヌルニ夫ノ海外農產物ト內國農產物ト競爭ノ爲メ農家ノ有樣ハ極メテ困難ニ陷リ內國ノ農業自然不活潑トナリシニ職由スルヲ發見シタリ又民間ノ資本充分ナルカ故ニ政府ノ補助ヲ煩ハサヽルモ農業上ノ利用ニ供スル資本ニ乏シカラサルコトコソ其原因ナリト云フ說アリ

日本ニ於テハ右第二ノ如キ原因ハナカルヘシ左スレハ日本ニ於テハ此種ノ銀行ノ效用ノ廣キハ余ノ固ク信シテ疑ハサルトコロナリ

丁　日本ニ於ケル農業上ノ信用

予ハ既ニ獨逸國ニ於ル農業上ノ信用ニ關スル機關ヲ陳述スルニ當リ日本ニ於テハ之ヲ如何ナル目的如何ナル度合ニマテ利用スルヲ得ヘキヤヲ時々注意シ置ケリ

予ノ鄙見ヲ以テスレハ彼ノ興業銀行(クレディー、ホンシエー)ヲ獨逸國ノ「ランドシヤフト」ニ模倣シテ設立シタルト一般獨逸國ニ於ル諸信用機關中其孰レヲ問ハス直チニ移シ來リテ之ヲ日本ニ設置スルヲ得サルハ論ヲ俟タスシテ自ラ明カナルヘシ日本ハ日本特有ノ農業經營法農業上土地所有ノ關係及ヒ資本融通區域ノ狹隘ナル等ノ事ニ注意セサルヘカラス又日本ノ耕地ハ僅カニ日本全地ノ百分ノ十二ニ過キスシテ山林ハ非常ニ廣大殊ニ多クハ氣候上其他ノ關係ヨリスルモ之カ維持ヲ必要トセサル場所ニ散在スル等諸般ノ特別ナル點アリテ自ラ歐洲ト其趣キヲ異ニスルカ故ニ今日本國ニ諸信用ノ機關ヲ設立スルニ方テハ次ノ二條件ニ注意シ採擇ヲ決セサルヘカラス(第一)現時日本ノ農業ニハ如何ナル組織ヲ有スル信用法ヲ要スルヤ(第二)日本ノ本部竝ニ北海道ニ於テ農業ヲ擴張スルニハ如何ナル信用法ヲ設置シテ可ナルヤノ點是レナリ

第一　現時日本ノ農民ノ爲ニスル信用方法

夫レ日本ト西洋トノ農業ニ就キ其差異ノ極メテ大ナルモノヲ擧レハ日本ノ農ハ概シテ小農ナ

ルコト、其小農多クハ極メテ多額ノ負債ヲ有スルカ故ニ信用ヲ得ル能ハサルコト且ツ其負擔ノ税額極メテ大ナル是レナリ其他日本ノ土地ハ最早法律上ニ於テハ賣買讓與自由ナリト雖モ所有者ノ轉動至テ稀ニシテ其實ハ矢張リ尚ホ未タ世襲家產(日本ノ幸福ト云フ可シ)タリ故ニ分割セラル、コトナク又分派相續ニ依リ負債ヲ負フコト少クシテ將來ニ傳ヘ行クモノト知ルヘシ

然ラハ卽チ日本ニ於テ問題トナル所ノ土地所有社會ハ其歐洲ニ於ケルモノト同シク信用力ノナキモノナリ(此處原文少シク了解シ難シ)彼等ハ尚ホ今日ト雖モ利益ノ薄弱ナル舊來ノ耕作法ニ依ル何トナレハ新法ニ據ルノ手段ナケレハナリ此點ニ於テハ經濟上歐洲ノ小農ニ數歩ヲ讓ラサルヲ得ス其他火災或ハ種々ノ天災ニ備フル保險ノ制ナク又利子ノ非常ニ高キカ爲メ農民ハ些細ノ障害ニヨリテ忽チ困難ニ陷ラサルヲ得サルノ事情アリ

日本ニ農業的信用方法ヲ採用スルニ當リ或ハ甲法ヲシテ不適當ナラシメ或ハ乙法ヲ採用スルニ難カラシムル普通ノ原因トシテ尚ホ一二注意スヘキモノアリ卽チ資本家ハ兎角收益ノ多キ諸般ノ實業ニ其資本ヲ運轉スルコトヲ好ンテ利益ノ薄弱ナル農業社會ニ對シ抵當貸ヲ爲スヲ好マスソレ故ニ農民ハ不經濟ナカラモ非常ノ利子(危險ノ補償料ヲ含ム)ヲ拂フニアラサレハ資本ヲ得ル能ハス殊ニ貸付期限モ多クハ短期ナルヲ以テ數年ヲ要スル農地ノ改良耕作ノ新法等ヲ施スコト能ハス

是ヲ以テ日本ノ農業ニ取テ特ニ主要ナル點ハ低廉ノ利率ト時日ノ緩慢ナル辨償期限トヲ有スル資本ヲ得ルニアルナラン否ナ斷シテ此ノ如クナラサルヘカラス

然リト雖モ日本ハ資本融通區域狹隘ニシテ且ツ農民ノ經濟裕カナラサルヲ以テ彼等個々獨立シテ右ノ如キ資本ヲ得ルコトハ到底望ムヘカラサルナリ

前述ノ目的ヲ達スルニ足ルノ金額ハ決シテ小額ナラサルヲ以テ政府カ一時金額ヲ貸下ルノミニテハ到底充分ナラサルヘシ政府ハ無利息或ハ低利ノ貸金ヲ以テ之ヲ保護スルハ到底免カルヘカラサルヘシ然レトモ農民ハ兎ニモ角ニモ從來ノ如ク個々分立スルコトヲ爲サス必ス一村若クハ尚ホ區域ノ大ナル一地方相團結シテ連帶保證ノ責ニ任セサルヘカラス組合員ノ無限是ニ於テ予以爲ラク日本ニ於テハ前記(乙)ノ(二)ニ陳述セル「ライフアイゼン」氏ノ貸付金庫ノ方法ノ一部ヲ採用スル最モ可ナリ然シ日本ニ於テハ資本未タ裕カナラサルヲ以テ政府ヨリ資金ヲ貸與シ組合ヲ保護セサルヘカラス例ヘハ一縣內ニ中央貸付金庫ヲ設置セシメ更ニ該縣內各地ノ貸付金庫ト業務上相互ノ聯絡ヲ通セシメ政府ハ中央貸付金庫ニ資本ヲ貸與シテ組合ヲ保護シ以テ公衆ヲ鼓舞シ其節約金ヲ是等ノ金庫ニ預入レシムルコトヲ奬勵スヘシ而シテ此中央貸付金庫ヲシテ驛遞貯金庫其他ノ貯金庫等ト聯絡ヲ通セシムルモ亦極メテ良策ナルヘシ

曩ニ貸付金庫ノ制ヲ陳辯シタルトキニ既ニ注意ヲ促シタルカ如ク貸付金庫ニ附帶シテ他ノ共濟的組合ヲ立ツルコト頗ル緊要ナルヘシ卽チ相協同シテ肥料、農具、家具、獸畜等廉價ヲ以テ一手ニ仕入レ又農產物ヲ一手ニ販賣スル等ノ事ナリ是等ノ方法ヲ實行スルトキハ農業上ノ生產入費ヲ減少シ利益ヲ增加スルヲ得ヘシ是ニ於テカ眞ニ貯金ヲ爲シ得ヘシ一方ニ勞力ノ生產力ヲ增加スルコトナクシテ何程貯金ヲ奬勵スルモ恐ラクハ效力ナカルヘシ貯金スルカ爲ニ却テ既

ニ低度ニ位スル農民ノ生計ヲシテ益〻降沈セシムルカ如キハ決シテ得策ニアラサルヘシ

前記貸付金庫ヲ設置スルト同時ニ政府ハ負債ノ爲メニ沈淪セル小地主ヲシテ其負債ヲ償還シ其舊位ニ復シ再ヒ其信用ヲ得セシムルノ方法ヲ施サヽルヘカラス而シテ此目的ヲ達スルニハ上文(丙)(一)ニ記載シタル土地義務解放銀行ニ倣フ時ハ別ニ政府ノ費用ヲ要セスシテ小地主ノ負フ處ノ義務ヲ解放スルヲ得ヘシ尤負債高ノ多寡ニ隨ヒ順序ヲ定メテ償却ヲ爲スハ勿論ナリ而シテ各地主ヲシテ貸付金庫ノ組合員タラシムルノ一策トシテ右ノ方法ニ依リ負債ノ償却ヲ免カル、者ハ必ス貸付金庫ノ組合ニ加入セサルヘカラスト云フ義務ヲ負ハシムヘシ或ハ又農民ニ對スル債主等ヲ轉シテ組合ニ對スル債主ト爲スコトヲ得ヘシ左スレハ組合ハ此ノ如キ手段ヲ用ユルトキハ政府ヨリ直接ノ保護ヲ受クルノ外ニ政府ノ保護金ニ依リ稍〻高キ利子ヲ以テ資本家ノ資本ヲ得テ利用スルヲ得ヘシ

又(丙)ノ(第二)ニ掲ケタル土地改良銀行卽チ撒孫王國ニ設立セシ土地改良銀行ノ如キモノヲ官設シ耕地ノ灌漑、排水、堤防造築、新地開拓、造林等ノ爲ニ資本ヲ貸付スルコトハ日本ニ於テモ頗ル必要ナルヘシト雖モ此種ノ官立銀行ハ先ツ組合的信用方法ノ發達ヲ待ツヲ得策ト信スルナリ

然リト雖モ此種ノ銀行ハ原野其他北海道ノ如キ土地ヲ開拓スルニハ業ニ已ニ其必要アルモノナリ如何トナレハ此等ノ土地ハ從來社會ノ發達ニ伴フテ毫モ負債ヲ有セサレハナリ

日本ノ農業ヲシテ從來ノ如ク將來モ亦國民ノ進歩發達ノ基礎タラシメント欲セハ彼ノ封建時代ニ起因シテ今日既ニ時勢ニ不適當トナリタル地租ハ困難ナルニモ拘ハラス到底輕減セサルヲ得サルヘシ地租ヲ輕減シ租稅ノ賦課ヲ改良スルトキハ農民ノ信用力ヲ增進スルハ疑フシト

雖モ此等ノ事項ハ予カ問題ノ範圍外ニ亘ルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第二　大農地ノ爲ニスル信用方法

大農地ニ關スル問題ハ日本ノ如キ其富源未タ充分ノ利用ニ達セサル國ニ取リテハ農業ノ改良及ヒ此改良ニ供用スル農業的信用ニ係ル問題ト密著ノ關係ヲ有スルハ論ヲ俟タサレトモ是等ノ問題ハ目下差迫リタル事柄ニアラサルヲ以テ之ヲ略ス然シ必要ノ場合ニ於テハ(乙)ノ(一)ニ陳述シタル組合的信用ハ大ニ參考トナルヘシ

又曩ニ論述シタルカ如ク彼ノ「ランドシヤフト」ノ仕組ニ據レハ大農カ大ナル農業上ノ起業資金及ヒ改良資金ヲ要スルニ當テ債主ノ都合ヲ以テ償還ノ請求ヲ受ケサル借入ヲ爲スヲ得シ日本ニ於テ此ノ如キ大農地ノ必要ハ識者ノ是認スル所ナリ尙ホ財政上及ヒ經濟上ヨリ觀察ヲ下スモ農地ノ擴張特ニ大農地ノ出來ルコトハ世ノ最モ渴望シテ止マサル所ナリ其方法ハイサ知ラス苟モ大農地ノ出來ルモノトスレハ先ツ之カ維持及ヒ擴張ニ必要ナル起業資金及ヒ改良資金ヲ調達スルハ極メテ必要トス而シテ既ニ其費用ノ負擔ニ堪ヘサル日本政府カ爲シ得ヽキ補助ノ外ニ彼ノ「ランドシヤフト」コソ最モ必要ナル信用方法ナルヘシ又此場合ニ於テ資本ヲ大地主ニ供用セシムルニハ內國市場ニ於テ資本充分ナラハ負債證券ヲ發行スヘシ(此ヲ得スハ政府ノ保證ヲ以テ外國ノ市場ニ於テ資本ヲ募ルモ可ナリ)此新事業ニ就テ種々ノ準備ノ必要ナルハ論ヲ俟タスト雖本論主旨トスル處ハ大農地ノ發達ノ爲ニハ農業的信用方法ナクハ其事ノ容易ナラサル所以ヲ述フルニ過キサルナリ

日本ニ於テ農業ノ改良ヲ增進スル爲メニ種々ノ農業的信用機關ヲ設置スルコト

ニ關スル考案ノ大要

獨逸ノ農業的信用諸機關ニ關スル報告竝ニ該機關ニ關スル質問ヲ説明シタル答案ニ於テ明白ナルカ如ク種々ノ農業的信用機關ハ數年ヲ經テ漸次ニ成立シタルモノニシテ現時獨逸ニ於ケル總テノ農業的事業ニ大ナル便利ヲ與ヘタルヤ疑ナシ彼ノ獨逸ニ模倣シテ同樣ノ機關ヲ設立シタル地方ニ於テモ亦然リトナス

日本ニ於テ之ニ類スル信用機關ヲ設立セントセハ先ツ第一ニ如何ナル點マテ此等ノ諸信用機關ヲ總括スルヲ得ヘキヤ又如何ナル點迄諸機關ノ聯絡ヲ實行シ得ヘキヤヲ熟考セサル可ラス

余ハ今「ライフアイゼン」氏貸付金庫大ナル「ランドシャフト」及ヒ近時ノ設立ニ係ル農業改良銀行ヲ比較論究セントス

余カ既ニ以前ノ報告ニ於テ述ヘタルカ如キ數多ノ支店ヲ有スル「ライフアイゼン」流ノ貸付金庫ハ日本現時ノ事情ニ最モ適當ナル機關ト謂ツヘシ何トナレハ日本ニ於ケル農民ノ大多數ハ小土地ヲ有スルモノ、ミニシテ其社會ニ於テ信用ノ必要ヲ感スルハ勿論ノコトナルヲ以テナリ農業改良銀行ハ新地開拓組合的ノ疏水工事森林構築河流經理等ニ最モ適當スルモノナリ又新ニ改良事業ヲ起シ或ハ適宜ニ耕地ヲ擴張スル等ノ如キハ最モ重大ナル改良ニシテ全ク封建制度ノ餘習ヲ一掃スルモノナレハ其改良ヲ實行スルニ當リ資金缺乏ノ爲ニ延滯ヲ來スヲ免レサルカ故ニ該銀行ハ此ノ如キ場合ニ於テ各地主若クハ一地方地主ノ團體ニ對シテ甚タ必要ナルモノトス而シテ此等ノ改良事業ハ余カ希望ヲナシ且ツ實行シ得ヘシト信スル處ノ地租ノ改正竝ニ輕減ト關係ヲ有スルヤ否ヤニ至テハ本論ニ於テ説明スヘキ限リニ非ス尤モ余ハ後日日本ノ土地改正ト題スル書ニ於テ地租ノ改正竝ニ輕減ニ關スル方法ヲ明示スヘシ

前ニ述ヘタル二個ノ機關卽チ「ライフアイゼン」氏貸付金庫竝ニ農業改良銀行ハ日本現時ノ農業上ノ事情ニ適セリ殊ニ「ランドシャフト」ノ如キハ未タ日本ニ成立セサル所ノ大ナル土地所有ニ對シテ其效用顯著ナルモノトス尤モ日本ニ於テモ後來北地ニ於テハ大ナル土地所有ヲ重ンスルニ至ルヤ疑ヒナシ是レ耕作ニ適スル未開地ニ於テハ農業上ノ便利ヨリシテ自然ニ大ナル土地所有ヲ生スルニ至ルヲ以テナリ而シテ現今ハ大ナル土地所有ハ米作ニ適セサルヲ以テ唯其地方ノ習慣ニ從ヒ小土地ヨリ僅少ノ利益ヲ收ムルニ過キサル所ノ地方ニ西洋ノ改良法ヲ輸入セシムル爲メニ最モ緊要ナル實際上ノ模範トナルニ至ラン是ニ由テ之ヲ觀レハ「ランドシャフト」ヲ設立スルコトハ畢竟將來ノ目的ニ供スルニ外ナラサルナリ尤モ日本ニ於テモ亦土地ニ附帶スル重キ負債ヲ償還セシムル爲メニ「ランドシャフト」ヲ利用スルヲ得ヘシ然レトモ余ハ僅少ノ手段ヲ以テ容易ニ實行スルヲ得ヘク且ツ大ニ改良ノ目的ヲ達スヘキ方法ハ前記ノ日本ノ土地改正ト題スル書ニ於テ述ヘタル意見ノ如クナラサル可ラスト信ス是レ普國及ヒ撒孫國ノ土地義務解放ノ方法ニ倣ヒ政府ノ土地義務解放機關ノ助力ニ依テ日本ノ小ナル土地負債ノ償還ヲ完了スルヲ得ヘキカ故ナリ

日本ニ於テ以上ノ三機關卽チ「ライフアイゼン」氏貸付金庫「農業改良銀行及ヒ「ランドシャフト」ヲ設立スルニ於テハ此等ノ諸機關ノ間ニ密接ナル聯絡ヲ設ケサル可ラス吾人カ獨逸ニ於ケル諸信用機關ノ發達上ニ實見スル如ク中央機關ナル者ハ「ライフアイゼン」氏貸付金庫竝ニ普國ノ「ランドシャフト」ニ於テ自然ニ發生セシカ故ニ日本ノ如ク此ノ如キ諸機關ヲ全ク新設セントスル

國ニ於テハ初メヨリ必ス一ノ中央機關ヲ設クルヲ得ヘシ余ヲ以テ之ヲ考フルニ日本ニ於テ一ノ中央機關ヲ設クルニハ必ス先ツ政府ヨリ該機關ニ對シテ必要ナル保護ヲ與ヘサル可ラス彼ノ最初設立セラレタル「ランドシャフト」ハ政府若クハ國王ヨリ低利貸付ノ保護ヲ受ケテ成立シ且ツ此保護ノ爲メニ其發行ニ係ル負債證券ヲシテ資本社會ノ信用ヲ博セシムルヲ得タリ余カ記憶スル處ニテハ「ライフアイゼン」氏貸付金庫ハ「ヴイート」侯ヨリ金錢ノ保護ヲ受ケテ成立シサクソン國ニ於テ初メテ成立シタル農業改良銀行モ同樣ニ政府ノ貸付金ヲ利用シタリ日本ニ於テハ人民ノ資本充分ナラス且ツ其資本モ大ニ希望アル商業就ニ工業ニ投セラレタルヲ以テ到底政府ノ補助ナケレハ此等ノ信用機關ヲ設立スルコト能ハサルヘシ尤モ該機關ノ成立ニ關スル信用カ一度確實堅固トナルヤ否ヤ民間ノ資本モ此機關ニ集合スルニ至ルヤ必然ナリ何トナレハ地方ニ於ケル「ライフアイゼン」氏貸付金庫ハ組合員及ヒ地方人民ノ貯金所ノ如キ有樣ヲ呈シ或ハ「ライフアイゼン」氏貸付金庫ト關係ヲ有スル組合(卸賣價ニテ賣買ヲナス組合等ノ如シ)ノ爲メニ益貯金ヲ增加シ或ハ組合員ニ對スル從來ノ債主ハ更ニ組合ノ債主トナルカ故ナリ農業改良銀行ヲシテ政府ノ貸付金ヲ利用セシムルコトニ就テハ余ハ一言ノ注意ヲ乞フコトアリ即チ英國ト雖モ其例ナシトセス假令ハ穀物輸入稅廢止ノ後疎水其他ノ工事ヲ實行セシムル爲メニ巨額ノ金員ヲ低利ニテ土地所有者ニ貸付シタルカ如シ

余ハ信ス今ヤ一ノ官立中央機關ニ於テ貳參百萬圓ヲ有スレハ前記ノ三機關ヲ設立スルニ充分ナルヘシ何トナレハ「ライフアイゼン」氏貸付金庫及ヒ「ランドシャフト」ハ漸次ニ獨立スルヲ得ルニ至ルヘシ全國ノ爲ニ貳參百萬圓ヲ該機關ノ用ニ供スルハ敢テ不可ナラサルヘシ尤モ政府ハ

「ランドシャフト」ヨリ發行スル負債證券ニ對シテ數年間利子保證ヲナスノ必要アルヘシ償金付ノ抽籤法ヲ以テ此負債證券ヲ償還スルトキハ彼ノ安全ノ度ニ於テハ公債ニモ讓ラサル農業改良銀行負債證券ニ於ケルカ如ク公衆ノ利益心ヲ起スコトヲ得ヘシ尤モ農業改良ノ爲ニハ他ノ二機關(來氏貸付金庫及ヒ農業改良銀行ナラン)ヲ以テ充分ナルヘシ故ニ該目的ノ爲ニ政府ノ貸付金ヲ得ルノ必要ハ殆ント之レナカルヘシ

官立中央銀行ハ日本ニ於テハ目下最モ必要ナル「ライフアイゼン」氏流ノ組織ニ倣フテ設立セラルヘキ小信用機關ニ對シ主トシテ利益ヲ附與スルヲ必要トス又將來ハ組合ニ於テ爲ヘキ事柄ニシテ今日既ニ政府カ爲シ居ル事柄少ナカラス彼ノ茶業及生絲業ノ者ニ與フル政府ノ補助ハ將來ハ全ク各地方組合ニ於テ爲スヘキ事柄ナリ而シテ獨逸ニ於ケル生產組合ニ於ケルカ如ク「ライフアイゼン」氏金庫ト聯絡ヲ有スルコト必要ナルヘシ此等ノ組合ノ目的ハ經濟上獨立ヲナスニアルヲ以テ該金庫カ獨立スルコトヲ得ル以上ハ早晚政府ノ貸付ヲ要セサルニ至ラン貸付金庫ニ係ル組織ハ余ハ既ニ之ヲ辯明シタリ即チ此金庫ノ重ナル場所ハ縣ノ首市ヲ以テスルコト及ヒ縣下各地方ニ支部ヲ設ケテ組合員ノ身元如何ノ監督ヲナサシメ其他ノ事件ニ就テハ縣金庫ノ支配ヲ受クルコト而シテ縣金庫ハ全國首府ニ於テ總テノ農業的ノ機關ヲ統轄スル所ノ中央機關ニ支配ヲ受クルコト等是レナリ

「ランドシャフト」ニ關スル質問ニ就テノ答案

「ランドシャフト」

第一問

「ランドシャフト」ノ近時ノ方法殊ニ其業務如何

答

余カ既ニ農業的ノ信用ニ關シテ說明シタル如ク「ランドシャフト」ハ重ニ大ナル大土地所有ノ便利ノ爲メニ設ケラレタルモノニシテ其組合員モ最初ハ唯貴族ノ地主ノミニ限ラレシカ年數ヲ經ルニ隨ヒ或ル「ランドシャフト」ニ於テハ大農ノ地主ヲモ其組合員ニ加フルニ至レリ

「ランドシャフト」ノ貸付金ハ最初土地ノ登記臺帳若クハ其評定價格ノ半額或ハ其三分ノ二ニ過キサリキ而シテ該「ランドシャフト」ヨリ發行スル負債證券ハ「ランドシャフト」ノ區域其區域內ニ成立スル所ノ大ナル土地ノ價格ニ隨テ一定セリ是レ抵當證券ハ最初重ニ負債金額ニ對シテ定約セラレタルモノナレハナリ現今「ランドシャフト」ノ多數ハ其負債償還基金ヲ設ケタリ此場合ニ於テハ負債者ハ其負債證券三分半ノ利子ヲ付シ且ツ該負債償還分割拂込額千分ノ五乃至千分ノ十トシ之ヲ每年拂込マシメ以テ三十年乃至五十年間ニ充分ニ其負債償還ヲ完了スルモノトス然レトモ此負債法ニ從テ負債ヲ償却スルコトハ各負債者ノ隨意ニ出ツルモノニシテ余モ亦之ヲ以テ至當ナリト思考ス

「ランドシャフト」ハ私立ノ土地抵當銀行ノ所爲ニ反シ自己ノ利益ヲ目的トセサルモノニシテ舊時ノ「ランドシャフト」ニ於テハ其營業費ニ供センカ爲メニ負債者ヲシテ每年其負債額ノ千分ノ四ヲ拂込マシメタリ各負債者ヲシテ營業費ヲ別段ニ分擔セシムル方法ハ近時ニ於テ全ク消滅ニ屬シ唯利子ヲ以テ營業費ニ充ツルニ至レリ尤モ此利子ノ割合ハ漸次ニ低落シ多ケハ政府ノ利子割合ヨリモ低キモノトス之ヲ以テ若シ利子ノ割合ニ多少ノ變更ヲ生シタル今日ニ於テ「ランドシャフト」ハ其債主ノ爲ニ負債證券ニ對シテ三分半ノ利子ヲ付シ「ランドシャフト」ハ「ランドシャフト」ニ對シテノ組合員三分ト八分ノ五乃至三分ト八分ノ六ノ利子ヲ拂込ムトキハ「ランドシャフト」ノ受取ルヘキ利子ハ其支拂フヘキ利子ヨリモ多キカ故ニ此利子ノ殘餘金ヲ以テ其營業費ニ供シ兼テ些少ノ準備金ニ充ツルヲ得ヘシ

次ニ掲クル所ノ表ハ「ランドシャフト」ノ發達及其事業ノ概略ヲ示スモノナレトモ唯僅カニ千八百四十八年マテノ統計ヲ掲クルニ過キス是レ余ハ今日本ニ於テ近時ノ統計ヲ得ル能ハサルヲ以テナリ

シュレシエンニ於ケル舊時ノ「ランドシャフト」

年次	新債ニ係ル金額	舊債ノ償却ニ係ル金額	負債超過額	償却超過額
千八百十五年乃至二十五年	九、八一〇、九六〇 ホーレル	二、四九八、九九三 ホーレル	七、三一一、九六七 ホーレル	
千八百二十五年乃至三十五年	五、三七六、七三〇	二、八二五、〇〇五	二、五五一、七二五	
千八百三十五年乃至四十五年	二、九六九、九九五	六、五一〇、九二〇		三、四五〇、九二五
千八百四十五年乃至四十八年	五三六、八〇五	一、八四六、三九〇		一、三〇九、五八五
合計	一八、六九四、四九〇	一三、六一八、三〇八	九、八六三、六九二	四、八五〇、五一〇
負債超過額			四、八五〇、五一〇	
差引負債殘金			五、〇一三、一八二	

但一「ターレル」ハ大略日本ノ壹圓ニ相當ス

負債證券ノ金額ハ地價ノ騰貴及ヒ所有轉換等ノ爲メニ前十年紀ニ於テ著シク增加シタリ而シテ土地ノ評定價格ハ大ニ差異アリテ毫モ一定スルコトナシ

第二問

「ランドシャフト」ノ區域ヲ制限スルハ如何ナル必要アルヤ現今一般ニ一州內ニ於ケル「ランドシャフト」ノ數ハ幾何ナルヤ亦一「ランドシャフト」ノ區域ノ範圍ハ如何ナルヤ

答

「ランドシャフト」ハ漸次ニ成立シタルモノニシテ彼ノ七年戰爭及ヒシュレシエンニ於ケル大地主ノ困難ニ由リ初メテシュレシエンニ於テ一ノ「ランドシャフト」設立セリソレヨリ各州各地方ニ於テ「ランドシャフト」ノ設立ニ從事セリ

「ランドシャフト」ノ設立ニ關スル此等ノ歷史上ノ基礎ハ今日尙ホ存スルモノナリ若シ日本ニ於テ「ランドシャフト」ト同一ノ信用機關ヲ設立セントセハ一縣ヲ以テ一區域ト爲スモ決シテ不便アルコトナシ或ハ大ナル信用機關ハ大ナル區域ヲ要スルトセハ數縣ヲ集合シテ一區域トナスモ妨ケナカルヘシ現今日本ニ於テハ大土地ノ發達ヲ奬勵スルカ故ニ此ノ如キ事業ハ「ランドシャフト」(假令ハ北海道ヲ第一集合體トナシ本島ノ北部ヲ第二集合體トナシテ「ランドシャフト」ヲ組織スルカ如シ)ノ助力ニ據ルヲ得策トナス尤モ此事ハ大土地ノ發達ニ充分ナル面積及ヒ地味ヲ有スル土地カ現在スル場合ノミニ限ルヘシ

第三問

抵當トシテ受領スル土地ニ價格ヲ付スル標準如何、土地評價ノ爲ニ雇ハル、評價人ハ如何ナル資格ヲ要スルヤ

答

物品ノ抵當ニ對シテ貸付スヘキ金額ハ其評定價格ノ五割乃至六割六分三分ノ二ナリトス此評定價格ハ地方ノ賣買價格ニ由テ定マリ該賣買價格ハ其基礎ヲ地租ニ取ルモノナリ抑モ「ランドシャフト」ノ特別役員ハ「ランドシャフト」ノ委員ノ助力ニ由リ政府委員ノ監督ヲ受ケテ評定價格及ヒ貸付割合ノ限界ヲ判定シ又土地ノ改良ヲ充分ニ實行スル爲メニ負債證券ヲ要スル場合ニ於テハ此改良事件ヲモ吟味スルモノトス彼ノ貸付割合ノ低下ナル限界(地價ノ五割)ハ土地ノ實價ニ比スレハ少シク差異アルヲ免カレス是レ土地ノ實價ハ相場ノ變動即チ農業的ノ生產其他ノ價値上ニ間斷ナキ變動ヲ生スル所ノ影響ヲ蒙ムルヲ以テナリ然レトモ抵當證券機關ノ信用上ニ關シテハ以上ノ差異アルモ毫モ不便アルコトナシ

第四問

政府カ行フ所ノ監督ハ如何ナル種類ナルヤ

答

余カ既ニ第三ノ答案ニ於テ述ヘタル所ノ政府委員ハ凡ソ信用組合ノ維持上竝ニ該組合ノ目的ノ實行上ニ關シテ必要ナルモノヲ悉ク注意シテ組合ヲ補助誘導ス即チ「ランドシャフト」ノ事務其金庫ノ出納貸付ノ當否等ニ就テ政府ハ充分ノ監督ヲ行フモノトス

第五問

「ランドシャフト」ハ信用ノ使用即チ借受金ノ使用方法ニ對シ如何ナル監督ヲ行フヤ

答

「ランドシャフト」ノ負債者ハ該組合ヨリ借受ケタル金額即チ其所有地價ノ半價乃至三分ノ二ニ相當スル負債金ヲ隨意ニ使用スルヲ得ヘシ

此等ノ信用機關ハ最初ハ其甚タ困難ヲ極ムル大地主ヲシテ其負債ヲ低利ノ貸付金ニ變換セシムルヲ以テ目的トナセシモ近時ニ及ヒテハ此負債金ヲ以テ土地改良ノ資金子供ノ教育竝ニ獨立ニ要スル資金及ヒ確實ナル運用ニ供スルヲ得ルニ至レリ即チ土地抵當ニ對スル貸付金額ハ評定地價ノ五割乃至六割三分三分ノ二ニ過キサルヲ以テ該信用機關ハ何レノ場合ニ於テモ充分返濟ナキ貸付金ヲ取戻ス方法ヲ有スルカ故ニ地主ヲシテ隨意ニ其貸付金ヲ使用スルヲ得セシメタリ地主ノ方ニ於テハ貸付ケ得ヘキ限界(地價ノ五割乃至六割六分六分ノ二)ニ達スルマテ「ランドシャフト」ノ助力ヲ要求シ之レヲ以テ前ニ述ヘタル種々ノ目的ニ使用スルカ或ハ他ノ方法假令ハ農業改良銀行ノ如キモノニ向テ低利ノ資金ヲ借受クルヤヲ決スルニアリ

第六問

「ランドシャフト」カ負債者所有地ノ糶賣若クハ取押ニ關シテ有スル特權ハ如何ナル程度ニマテ實行セラルヽヤ

答

土地抵當ニ對スル貸付ニ就キ第一ニ生スル問題ハ利拂ハ毎一年ナルヤ將タ毎半年ナルヤノコト即チ是レナリ抑モ負債者自己ノ罪ニアラサル不時ノ災害生シタル時ハ必ス事情ヲ酌量シテ臨時ノ處分ヲ爲サヽルヘカラス假令ハ戰爭ノ時ニ負債者カ非常ノ負擔ヲ蒙ルコト數十月ノ久シキニ亘リタル場合殊ニ此ノ如キ時節ニハ地價一般ニ低落シ之カ爲メ土地ヲ賣却スルモ尚ホ「ランドシャフト」ノ損害ヲ償フ能ハサルカ故ニ事情酌量ノ事最モ必要ナリトス其他ノ災害ニ至テハ吾人ハ成文ヲ以テ豫メ貸付前ニ成ルヘク之ヲ防拒セサルヘカラス假令ハ負債金連續スル間ハ負債者ヲシテ其抵當不動產ニ火災保險ヲ付セシメテ以テ損害ヲ未然ニ拒クカ如シ即チ尙ホ每年ノ利子拂込ミ遲滯スルコトアラハ能ク負債者ノ一身上ノ關係ヲ調査シ該負債者カ後年ニ及ンテ利子拂込ヲ完了スヘキ見込存在スルトキ初メテ利子拂込ノ延期ヲ許可スルヲ得ヘシ然レトモ負債者カ經濟的ノ堪能ヲ有セサルコト顯著ナルトキ或ハ故意ニ利子ノ拂込ヲ延期シタルトキ或ハ奢侈ナル生活ノ爲メ利子ノ拂込ヲ延期スルニ至リタルトキハ其不動產ヲ取押フルモノトス尤モ「ランドシャフト」カ其要求ニ對シテ充分ナル償還ヲ得ルヤ否ヤ直ニ此取押ヲ止ムヘキハ勿論ノ事タルヘシ

「ランドシャフト」カ負債者ヨリ抵當ニ取リタル土地ノ價格非常ニ下落シタルトキ或ハ他ノ債主カ該負債者ヨリ充分ノ償還ヲ得サルトキニ負債者ノ土地ヲ糶賣スルコトアリ前者ノ場合ハ甚タ稀ナリ後者ノ場合ニ於テハ「ランドシャフト」ハ其第一抵當權ニ依リ(地價ノ五割乃至六割六分三分ノ二マテノ貸付ニ對シ)充分ノ賠償ヲ得ルモノトス

第七問

「ランドシャフト」ト他ノ農業的機關ノ間ニ如何ナル關係アルヤ

答

「ランドシャフト」及ヒ他ノ農業的信用機關ノ發達ヲ見ルニ獨逸ニ於テハ毫モ其間ニ關係ヲ存ス

ルコトナシ是レ「ランドシャフト」ハ既ニ百年前ヨリ成立シタルモ他ノ信用機關ハ漸ク前十年紀ノ設立ニ係レルヲ以テ其歴史上ノ沿革ニ大ナル差異ヲ生シ且ツ種々ノ機關カ其作用範圍ヲ異ニスルニ原由セリ抑「ランドシャフト」ハ最初貴族地主ノ便利ノ爲メニ設立セラレシモノナルカ近時ニ至リテハ大ナル農民ニモ其便利ヲ及ホスニ至レリ而シテ土地抵當株式銀行ハ右ノ中地主ニ對シテ緊要トナリ「ライフアイゼン」氏ノ機關ハ小地主ノ爲メニ設立セラレタリ「シュルツエ」氏ノ機關モ幾分カ小地主ノ爲メニナレリ

日本ノ如ク未タ此等ノ諸機關ノ設立ナキ國ニ於テ該諸機關ヲ同時ニ設置スルニ當テハ其間ニ聯絡ヲ設クルコトヲ得ルハ勿論ノ事ナルヘシ

第八問

「ランドシャフト」ノ組合員カ其負債ヲ起ズニ方リ他ヨリ抵當ニ取リタル不動産ヲ更ニ自己ノ抵當即チ第二抵當ノ姿トナシテ「ランドシャフト」ニ引渡スコトハ何レノ場合ニ於テモ爲シ能ハサルヤ

若シ第二抵當ノ姿トナシ得ルトセハ不動産所有者ハ第二抵當ヲナシタル「ランドシャフト」ノ組合員カ其負債ヲ償還スル能ハサルトキニ方リ該組合員ニ代リ「ランドシャフト」ニ對シテ新負債者トナルコトアルヤ

答

前記ノ問題ハ恐ラクハ土地抵當貸付銀行事務ノ範圍外ナル抵當貸付事務（ロンバルドケセフト）ニ屬スルモノナルヘシ

「ランドシャフト」ノ組合員ハ登記臺帳ノ證明ニ據リ其自己ニ屬スル土地ニ限リ「ランドシャフト」ヨリ發行スル證券ニ對スル抵當ト爲スコトヲ得ルモノナリ

右組合員ハ「ランドシャフト」ノ證券ヲ以テ他ノ證券ノ受戻ヲナスヲ得又「ランドシャフト」ハ組合員ニ對シ其所有地カ他ニ解除スヘカラサル物件上ノ權利（地役ノ類ヲ意味スルナラン）及ヒ義務ヲ有スルニモ拘ハラス尚ホ之ニ對シテ其證券ヲ交付スルヲ得ヘシ而シテ其交付ヲ爲メニ當テハ何レノ場合ト雖モ各「ランドシャフト」ニ於テ土地ヲ抵當ニ取ルトキ其地價ノ二分ノ一若クハ三分ノ二ト定メタル貸付區域ヲ超過スルヲ許サヽルナリ其他抵當付負債ニシテ償還期限ニ定マリアルモノハ抵當所有者ニ相當ノ便益アレハ償還期限ニ定マリナク且ツ多クハ低利ナル「ランドシャフト」ノ證券ヲ以テ之カ解除ヲ爲スヲ得ヘシ

第九問

一個人ニ貸付クヘキ金高ニ就テハ如何ナル制限ヲ設クルヤ

答

「ランドシャフト」ハ專ラ土地ノ信用即チ農業地及ヒ林業地ニ必要ナル土地ニ限リ貸付ヲナスモノナリ

其貸付區域ハ曩ニ數回陳辯セシカ如ク各個ノ「ランドシャフト」ニ於テ抵當ニ取ルヘキ土地ノ價格ノ五割乃至六割六分ト三分ノ二ニ限ルカ若クハ千八百七十三年ニ於テ李國ニ設置シタル中央「ランドシャフト」ノ定款第九條ニ據ルヘシ尤其詳細ナルコトハ（第十一）ノ答辯ニ讓ラントス該

申込ノ借用金高ハ土地カ私權上ノ條項ニ關シ附帶セシメラレタル賦稅、傭役及地役ノ事ヲ調査シタル上其土地ヨリ生スル每年ノ純收益ノ十五倍以下ニ當ル割合ヲ以テ標準トスヘキ事

日本ニ於テモ「ランドシャフト」ノ如キ信用機關ヲ設ケ之ヨリ資本ノ貸付ヲナスニ至ラハ地租ニ依テ調査シタル土地ノ純收益ヲ根據トナシ利子變動ヲ酌量シ每年其純收益ノ六倍乃至八倍ノ金高ヲ貸付クルコトヽ定ムルハ蓋シ其當ヲ得タルモノナルヘシ果シテ斯ノ如クシテ貸付ヲナスニ至ルトキハ先ツ其地租ヲ著シク輕減セサルヘカラス

第十問

信用ハ如何ナル種類ノモノニ對シテモ之ヲ與フヘキヤ

答

夫「ランドシャフト」ハ對物信用ニ依テ資本ノ貸付ヲナスカ故ニ彼ノ「シュルツエ」氏及ヒ「ライフアイゼン」氏ノ信用機關カ專ラ對人信用ヲ以テ資本ノ貸付ヲナスト異ニシテ敢テ其人ノ身元性質如何ニ顧慮スルコトナシ是レ抵當物ニシテ安固確實ナルトキハ「ランドシャフト」ヲシテ危險ニ陷ラシムルノ虞ナキヲ以テナリ

往昔佛國ノ「ランドシャフト」ハ官有卽チ往昔國王ノ)地及ヒ市街地ニ就テハ全ク資本ノ貸付ヲナサヽリシ蓋シ官有地ニ貸付ヲナスニ至ラハ政府ノ信用及ヒ議會ノ監督ニ屬スル國家經濟ハ遂ニ之カ爲ニ危害ヲ被ルヲ以テナリ而シテ市街地ニ就テハ今日ニ於テ土地抵當株式銀行特ニ佛國ノ如キハ「クレヂーボンシー」ニ於テ重モニ之ニ貸付ヲナスト雖モ素ト「ランドシャフト」ノ目的ハ農業的ノ土地ニ限リ貸付ヲナサントスルニ在ルヲ以テ此種ノ土地ニ就テ貸付ヲナサヽリキ

然レトモ(若シ規約ヲ改ムレハ)該市街地ト雖モ貸付ヲナスヲ得サルニアラサルコトハ「ランドシャフト」ノ創立者ナル「ビューリング」氏ノ發議ニ據リ之ヲ徵スルニ足ルヘシ

大ナル團體及ヒ聯合モ衙モ一ノ法人タル資格上ヨリ土地ヲ所有スル以上ハ「ランドシャフト」ノ信用ヲ得ヘキハ勿論ノコトヽス尤モ獨逸國ノ地方團體卽チ市郡及ヒ州ハ多クハ政府ニ上申シテ其認可ヲ經一定ノ制限內ニ在テ協同ノ利益ヲ計ルノ目的ヲ以テスレハ政府ノ債券ト等シク無記名債券ヲ發行スヘキ權ヲ得タリ

土地ノ改良、河川ノ修築、道路ノ開鑿及ヒ森林ノ開拓ヲナスニ方テハ前記ノ團體ハ一私人ト同シク土地改良銀行(ランドスクルツールレンテンバンク)ヨリ其資本ヲ借入ル、コトヲ得尤モ是等法人タルノ資格ヲ有スル團體其自己ノ債券ヲ發行シテ以テ前記ノ事業ヲ爲スニ足ラサル時ニ土地改良銀行ノ貸付ヲ求ムハヲ通例トス

第十一問

中央「ランドシャフト」ト州ノ「ランドシャフト」トノ關係及ヒ州ノ「ランドシャフト」ト其支店及ヒ代理店トノ關係ハ如何

答

百年以前ヨリ漸次ニ佛國ニ設置シタル九個ノ「ランドシャフト」ハ千八百七十三年ニ於テ土地所有者ノ信用ノ程度ヲ「ランドシャフト」各自ニ發行シタル證券ノ代リニ中央證券ヲ發行セリ此中央「ランドシャフト」ノ事務ハ佛國中央「ランドシャフト」理事局ニ於テ之ヲ管理セシメ其役員ニハ聯合シタル各「ランドシャフト」ノ高等管理役各一名ヲ以テ之ニ充テタリ

中央「ランドシャフト」ハ「ランドシャフト」中央證券ナル名ヲ付シタル債券ヲ發行セリ

資本ノ貸付ヲナストキハ前記ノ聯合ニ屬シタル各「ランドシャフト」ノ規程ニ據リ其管理區ニ屬スル土地ノ價格ヲ調査スルモノニシテ其資本ノ貸付程度ハ該「ランドシャフト」ノ定款ニ準ス而シテ中央「ランドシャフト」ハ常ニ「ランドシャフト」中央證券ヲ償還スルカ爲メ毎年少クモ負債高ノ千分ノ一(五厘)ノ拂込ヲ受クヘキモノトス

「ランドシャフト」中央證券ハ中央「ランドシャフト」理事局ノ名義ヲ以テ某地ノ「ランドシャフト」ノ請求ニヨリ其局員中該地ノ「ランドシャフト」ヲ代表スル主任局員及ヒ中央「ランドシャフト」ノ保證ニ依テ發行セラルヽモノトス

「ランドシャフト」中央證券所有者ヲ安固ナラシムルニハ州「ランドシャフト」及セ此「ランドシャフト」ニ關係アル土地所有者ノ基金ノ外尚ホ中央「ランドシャフト」ノ基金(即チ運轉上ヨリ生スル收益、期滿得免トナリタル證券ノ利子、剩餘金、準備金及ヒ聯合シタル「ランドシャフト」ノ預リ金等)ノアルアリ

前記聯合本部タル中央「ランドシャフト」ノ設置アルニモ拘ハラス之ニ聯合シタル各個ノ「ランドシャフト」ニ於テハ其固有ノ定款ニ從ヒ證券發行スヘキ權ニ就テハ毫モ變更ヲ來タスコトナカリキ而シテ土地所有者ニ於テハ所有地ノ存在スル州ノ「ランドシャフト」ノ證券ヲ請求スルモ又「ランドシアフト中央證券ヲ請求スルモ該所有者ノ隨意ニ任シタリ尤州ノ證券ハ無手數料ニテ中央證券ト引換フルコトヲ得セシメタリ

前ニ陳辯セル千八百七十三年三月二十一日ノ法律ノ要點ニ就テ之ヲ考フルニ諸州ノ「ランドシャフト」ハ其代表者ヲ以テ管理スヘキ中央「ランドシャフト」ヲ設置シテ以テ市場ニ流通スル各種異樣ノ證券ヲ一樣ニシテ證券ノ市場ヲ擴張(內國ニ限ラス)シ市場ノ擴張ニ依リ中央「ランドシャフト」ノ資金ハ僅少ナルニモセヨ尚ホ一層從前ヨリモ低利ノ信用ヲ組合員ニ對シ貸付セント欲スルノ目的ナリシコト明カナリ

州ノ「ランドシャフト」ニ就テハ他ニ支局トモ稱スヘキモノアラサルヲ以テ玆ニ之ヲ贅セス

「ライフアイゼン」氏貸付金庫ニ關スル質問ニ就テノ答案

第一問

貸付金庫ノ區域ヲ制限スルノ必要如何、一般ニ此區域ノ範圍如何、此種ノ組合ハ同區域內ニ二ツ以上成立スルヲ得ヘキヤ、若シ成立スルヲ得ルトセハ此等信用組合間ニ生スル關係如何

答

貸付金庫ノ區域ヲ制限スルノ必要ハ重ニ組合員ヲ容易ニ監督スルコトヲ得又其信用力如何ヲ精密ニ了知スルヲ得ルカ爲ナリ抑モ該貸付金庫ノ組合員ハ重ニ對人信用ニ依リテ事ヲ爲スカ故ニ金庫ハ其組合員タルモノヽ一身上ノ關係及其貸付金ノ運用方ヲ充分ニ了知セサル可ラス若シ組合員ノ經濟上ノ有樣變更スルカ又ハ其措置ニ不經濟ノ事アルトキハ金庫ハ組合員ノ貸付ヲ制限シ若クハ之ヲ引上クルヲ得ヘシ

「ライフアイゼン」氏金庫ハ重ニ農業ニ關スルカ故ニ一町村ヲ以テ自然ノ一貸付區トナセリ若シ町村極メテ狹少ナルトキハ數町村ヲ結合シテ一組合區トナスモ可ナリ尤モ數町村結合スルコトハ組合員相互ノ間ニ充分ノ監督ヲ爲シ得ヘキ見込アルトキニ限ルヘシ

前述ノ次第ナルヲ以テ一ノ小ナル同區域内ニ於テ金庫カ相互ニ競爭スルカ如キハ已ニ制限セラル、所ナリ余ノ知ルトコロヲ以テスレハ我獨逸國ニ於テハ未タ嘗テ此ノ如キ競爭ノ例アルヲ見ス殊ニ此金庫ノ利益ハ極メテ僅少ナルカ故ニ余ヲ以テ之ヲ見レハ日本ニ於テモ此ノ如キ競爭ヲ生スル憂ハ決シテナカルヘシ若シ此ノ如キ競爭日本ニ於テ起ルノ憂アリトセハ一金庫ニ於ケル組合員ノ人員何人以上ニ達セサレハ該金庫ノ設立ヲ許サスト規定シ此規定ノ人員ニ達スルニ非サレハ同區域内ニ類似ノ金庫ヲ新設スルヲ得ストスルモ妨ケナシ或ハ隨意ニ之ヲ新設スルヲ得ルトセハ餘分ナル金庫ニ對シテハ縣金庫カ縣下ノ各地金庫ニ附與スル利益ヲ附與セサルコト、ナスモ不可ナカルヘシ日本ノ狀況ヨリ見レハ余ハ貸付金庫ヲ設立スルニ當リテハ各縣ニ小ナル縣中央金庫ヲ設ケ此中央金庫ト縣下ノ各地金庫トハ事務上互ニ聯絡スルヲ以テ得策ナリト信ス其他此貸付金庫ヲシテ人民ノ信用ヲ得セシメ且富民ヲシテ其組合員タラシメント欲スルニハ政府ヨリ低利若クハ無利息ノ貸組ヲ爲スヲ可トス此貸付金ハ縣中央金庫(此縣中央金庫ハ同時ニ縣下ノ各地金庫ノ資格ヲ兼ヌルモ可ナリ)ニ下付シ縣中央金庫ハ此下付金ヲ以テ縣下各地金庫ノ設立ヲ補助シ以テ競爭ヲ試ミント欲スルカ如キ金庫ノ設立ヲ妨止スルヲ得ヘシ斯ク縣中央金庫ハ縣下ノ各地金庫ニ貸付ヲ爲スヲ以テ之ヲ監督シ之ニ反シテ該中央金庫ハ政府ヨリ貸付ヲ受クルヲ以テ縣廳ノ監督ヲ受クルモノトス此場合ニ於テハ縣廳ハ縣内ニ著名ナル官吏ノ内熟練ナル會計官一名ヲ選ミ縣金庫ノ事務ヲ關渉セシムルヲ以テ良策トス而シテ總テノ金銀取引殊ニ預リ金ノ運轉公債證書ノ購入竝ニ貸付等ニ就テハ縣金庫ヲ以テ縣下各地金庫ノ中央金庫トナシ縣下各地金庫ヲシテ著シク其勞力ヲ省クヲ得セシムヘシ惟フニ此仕組ハ縣下各地ニ於テ熟練堪能ナル實務家ヲ得タル場合ニ於テハ其效用愈以テ顯著ナルヘシ要スルニ縣下各地金庫ハ當ニ其土地ノ住民ノ貯金所トナルニ過キス故ニ縣下各地ノ金庫ハ其所ノ住民ヘノ貸付ニ關シ縣金庫ニ對シテ責任ヲ有シ縣下各地ノ金庫ノ組合員二名ノ保證ハ組合員ヘノ貸付ニ關シ縣下各地金庫ニ對シテ充分ノ抵當トナルモノナリ蓋シ此方法ニ依ルトキハ縣下各地金庫ノ信用ハ益厚キヲ加ヘ遂ニハ組合員外ノ者モ漸次心ヲ傾ケテ其餘金ヲ縣下各地ノ金庫ニ預託スルニ至ルヘシ

以上記載シタル余ノ考案ハ獨逸國ニ於テ貸付金庫ヲ設立スルニ當リ通常施シタル順序トハ全ク前後スル所アリ抑モ獨逸國ニ於テハ最初ニ各地金庫ノ設立アリ然ル後チ縣中央金庫ノ設立ニ及ホセリ然レトモ獨逸國ニ於テモ縣下各地ニ於テ能ク事務ニ熟練セル職員ヲ得ルコト極メテ困難ナリシカ故ニ縣下各地金庫ノ管理上ニ往々非常ノ困難ヲ感シタリ惟フニ日本ニ於テハ此困難獨逸國ニ於ケルヨリモ尚ホ一層甚シキモノアラン左レハ小ナル各地金庫ノ事務ハ務メテ之ヲ省キ此金庫ヲシテ單ニ大ナル縣金庫ノ支金庫トナスヲ可トス斯ク云フトキハ縣下各地金庫ハ全ク無用物タルカ如シト雖モ組合員ノ身元ヲ檢査シ始終之ヲ監督スルニ至テハ縣下各地金庫ヲ設立スルニ非サレハ決シテ能ハサルナリ

其他余カ考案ヲ獨逸國ノ實例ト對照スルトキハ稍其趣ヲ異スル點アリト雖モ之レ決シテ故ナキニアラス何トナレハ獨逸ニ於テハ四十年以來村ヨリ村ト漸次ニ該金庫ヲ設立シ別ニ政府ノ補助ヲ仰ク等ノ事ナクシテ其成功ヲ見タルモ日本ニ於テハ各縣卽チ全國一時ニ之ヲ設立スヘク且ツ當初ハ是非トモ政府ノ貸付金ナクンハ設立シ難カラントト思考スルカ故ニ初メヨリシテ

中央金庫トヲ支金庫トヲ設定スルハ容易ナルノミナラス能ク日本ノ需用ト情勢トニ適當ナル方法ト思惟スルナリ

第二問

組合ノ資金ハ如何ナル者ナルヤ資金ハ如何ナル方法ニ依テ募集セラル、ヤ組合員ト資本家ノ間ニ如何ナル區別カ存スルヤ

答

余カ「ライフアイゼン」氏貸付金庫ニ係ル記事中已ニ陳述シタル如ク該金庫ノ最初ノ設立ハ「ノイウキード」侯ノ貸付資金ニ依テ保護セラレタリ其後「ライフアイゼン」氏カ貸付金庫ヲ設立スルニ當リテハ豪族ニ請求スルニ仁惠ノ主意ニ基キ貸付金庫ニ利益ヲ與フル目的ニテ組合員トナランコトヲ以テセリ既ニシテ世人カ該金庫ノ便宜ナルコト及ヒ安全確實ナルコトヲ充分ニ認知スルニ及ンテ始メテ地方富民ヲシテ其組合員トナラシムルコト甚タ容易ナルニ至レリ蓋シ組合員殊ニ豪族ヲシテ組合員トシテ連帶責任ヲ負ハシムルカ故ニ組合員外ノ者ト雖モ頗ル此方法ノ確實ナルヲ信シ進テ其餘金ヲ投入スルニ至リタルヲ以テ別ニ强制シテ組合員中ヨリ資金ヲ徵セサルモ充分ノ資本ヲ得タリ又此金庫ハ毎年ノ利益ノ全額ヲ配當スルコトナク其利益ノ幾分ヲ準備金及ヒ營業資本トシテ積立ルコト、セリ之レニ反シテ「シユルツエ」氏ノ小民銀行ノ組合員ハ最初ヨリシテ株主ナリ尤モ其株ノ金高ハ概シテ甚タ小額ナリ一株凡ソ日本ノ五圓位ニ過キス而シテ此組合ヲシテ單ニ純然タル資本家ノ組合タルヲ防カンカ爲メ組合員一名ノ持株ハ十株或ハ五十株或ハ百株以上ニ過クヘカラサルコトニ規定シタリ「ライフアイゼン」氏ノ貸付金庫モ過般帝國法律ニヨリ其組合員ヨリ小額ノ株金ヲ募集スルコト、ナリタレトモ貸付金庫ニ加入スルニハ一時ニ持株ノ全額ヲ仕拂フニ及ハス之ヲ數年間ニ分割シテ拂込ムヲ得ルコト、ナセリ日本ニ於テモ此方法ニ倣ヒ組合ノ株金ヲ一株五圓ト定メ之ヲ數年ニ分割シテ拂込シムル時ハ貧困ノ者ト雖モ組合ニ加入シテ其義務ヲ盡スヲ得ヘシサレハ組合ノ資本金ハ組合員ノ株金竝ニ政府補助金(卽チ貸下金)ヨリ成立スルモノト知ルヘシ

若シ縣中央金庫ニモセヨ縣下各地金庫ニモセヨ其所務ノ完全ナルト預託金ノ安全確實ナルトニ據リ資本家ノ信用ヲ得ルニ至ラハ組合員外ノ資本家社會ヨリ其所有金殊ニ小金額ノ運用ヲ預託セラル、ニ至ルヘシ彼ノ富裕ナル組合員ノ如キハ其餘金ヲ該金庫ニ預託スルニ至ルハ勿論ノ事ナリ其他普通ノ組合員竝ニ員外者ノ如キモ其貯金ヲ此金庫ニ投入スルニ至ルヘシ何トナレハ郵便貯金預所ハ其設置ノ箇所ノ小數ナルト他ノ理由トニヨリ全國各地ニ設ケタル縣下各地金庫ノ如ク貯金預込上ニ利益ヲ與フルコトナケレハナリ

第三問

組合員トナルニハ如何ナル資格ヲ要スルヤ

答

組合員ニ加入スルヲ得ル者ハ概シテ品行方正ニシテ職業ニ勤勉ナル者トス尤モ信用ヲ置ク能ハサル者ト雖モ敢テ拒絕スルニモ及ハサルナリ何トナレハ組合員ニ對シ貸付ヲ制限スルハ組合ノ權内ニアリ又或ル組合員ノ性質身元ノ慥カナル事ヲ知ル能ハサル間ハ該人ニ對シテハ貸付ヲ許サ、ルモ亦組合ノ權内ニアルヲ以テナリ是ヲ以テ假令ヒ組合ハ此ノ如キ不信用者ノ加

入ヲ許スモ此等ノ者ニ貸付ヲナサヽル限リハ毫モ損害ヲ蒙ムル事ナカルヘシ而シテ此等ノ不信用者ハ其組合ニ加入スルモ組合ノ利益即チ低利貸付ヲ受クル事ナク唯單ニ株金拂込ヲ爲スニ過キサレハ組合ハ其加入ヲ拒マサルモ不信用者ハ強テ之ニ加入スルノ必要ヲ感セサルヘシ」此等ノ組合ハ最初農業社會ノ爲メニ設立セラレタルモノナレト地方ノ小ナル製造人等ノ如キモ之ニ加入スルヲ得ルナリ殊ニ農業ノ傍ニ工業ヲ爲スニ過キサルモノニ取リテハ至極便利ナルヘシ

第四問

負債者ハ組合ノ貸付金ヲ如何ニ使用スルヤ貸付金ハ重ニ小農家ノ所有地ヲ改良スル爲メニ使用セラル、ヤ、組合ハ負債者ヲシテ貸付金ヲ最良ノ目的ニ使用セシムル爲メニ如何ナル監督ヲナスヤ

答

負債者ハ重ニ其事業ニ關スル經濟上ノ地位ヲ改良スル爲メニ貸下金ヲ使用セサル可ラス土地ノ改良播種ノ準備農具、牧場改良等ニ要スル費用ニ供スルカ如キ即チ是レナリ其他此貸下金ヲ以テ重キ負債ヲ償還シ或ハ不幸ナル場合ノ後ニ要スル種々ノ改良竝ニ新創ノ準備ニ消費スルヲ得又負債者カ病氣等ノ爲メニ金圓ヲ要シタル場合ニハ高利ノ金錢ヲ借ラスシテ安全ニ其財ヲ維持スル爲メニ此貸下金ヲ使用スルヲ得ヘシ

負債者ヲシテ其貸下金ヲ正當ニ使用セシムル爲メニ組合頂取タル者ハ能ク貸下請求者ノ一身上ノ事情ヲ了知セサルヘカラス殊ニ如何ナル場合ニ於テモ組合ニ對シテ貸下請求ノ保證人トナルヘキ組合員二名ノ保證ヲ取リ疑ハシキ人ニ對シテハ貸付金ノ程度ヲ制限シ或ハ短期ノ貸付ヲナシ延期返濟ヲ禁シ若クハ返濟期限ヲ短縮シテ之ヲ監督スルモノトス

第五問

最初正直ナリシ組合員カ後ニ至テ其義務ヲ怠ルニ當リ組合ハ之ニ對シテ如何ナル制裁ヲ行フヤ

答

既ニ第四問ニ對シテ説明シタル答案ヲ參考スヘシ

貸付金ノ延期返濟ヲ禁シ或ハ怠慢ナル負債者ノ身上ニ對シ責任ヲ有スル特別保證人二名ハ該怠慢者ニ對シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六問

各個人ニ附與スヘキ貸付金額ニ制限アルヤ貸付金額ノ程度如何

答

抑貸付金庫ハ通常ノ銀行信用及ヒ爲換的信用ヲ利用スル能ハサルモノヽ爲メニ設ケタルモノナルカ故ニ其組合員ニ貸付スル金額ノ小ナルハ論ヲ俟サルモノナリ而シテ組合員ニ貸付スル金額ハ貸下請求者ノ身元如何ニ屬スルヲ以テ其金額ニ差異ヲ生スルハ必然ナリ其他此貸付金額ハ組合ノ資本額ノ多少及ヒ組合員カ毎年組合ニ對シテ貸付ヲ請求スル金高ノ平均額如何ニ關係スルモノナレハ此等ノ事情ニ隨ヒ貸付金額モ決定セサルヘシ是ヲ以テ諸組合ニ於テハ貸幣市場ノ情況及ヒ組合ノ身元如何等ニ依テ貸付ヲ爲スカ故ニ其貸付金額大ニ不同アルヽ免レ

スサレハ貸付金額ハ各銀行事業ニ於ケルト同樣ニ決シテ一定スルヲ得サルモノナリ尤モ大金ノ貸付ヲ爲スニハ(之レニモ差異アリ)大ナル機關ヲ要スルハ勿論ノ事ナリ予ヲ以テ之ヲ考フルニ日本ニ於テハ最高金額ヲ百圓位トシ之ヲ短期ニ貸付ケ五拾圓ヲ永期ニ貸付ルモノト規定セハ能ク日本現時ノ事情ニ適スルナラン尤モ當時組合ノ資金不充分ナルトキハ此貸付ヲ適度ニ減少セサルヘカラス

第七問

「ライフアイゼン」氏ノ組織ニ依ルトキハ如何ナル場合ニ土地抵當ニ對シテ貸付金ヲ爲スヤ

答

組合カ爲ス貸付ハ重ニ對人信用ニシテ余カ知ル所ニテハ組合ハ土地抵當ニ對シテ貸付ヲナスコトナシ

余ヲ以テ之ヲ考フルニ日本ニ於テモ此等ノ組合ヲ設立スルニ當リ土地抵當ニ對シテ貸付ヲナスハ巨額ノ金圓ヲ要スルヲ以テ之ヲ許可セサルヲ可トス尤此事ハ若シ余カ獨逸ニ於ケル土地義務解放ノ方法ニ從ヒ採用セラレンコトヲ希望スル所ノ負債義務解放ノ爲メ負債ニ沈ム農民ヲシテ其負擔ヲ免レシムルニ至ラハ土地抵當ニ對シテ貸付ヲナスモ妨ケナカルヘシ

生產的信用ハ「ライフアイゼン」氏金庫カ貸付スル所ノ對人信用中ノ重ナルモノニシテ之ニ依テ以テ負債者ノ經濟上ノ働キヲ增進スルヲ得ヘシ若シ斯ノ如キ信用カ土地抵當ノ負債トナルトキハ利子低廉ナルカ爲メ負債者ノ經濟上ノ地位ヲ改良スルニ至ルヤ疑ヒナシ然レトモ此場合ニ於テハ信用ハ生產資金トシテ使用セラレタル者ニアラサルナリ

今日日本ニ於ケル實際ノ狀況ヲ察スルニ組合ニ依テ貸付セラル、信用ハ全ク從來ノ高利ノ土地抵當負債ヲ變シテ低利ノ負債トナスニ使用セラル、ニ止リ新ニ事業ヲ起シ或ハ現在ノ事業ヲ改良スルニ付テハ決シテ餘力ナカルヘシ若シ其餘力アルヲ望ムトキハ「ライフアイゼン」氏金庫ノ設置ニ要スル資金(日本ニ於テハ政府ノ貸付ニ係ル資金)ハ莫大ナラサル可ラサルヲ以テ該金庫ヲシテ殆ト設置セシムルヲ得サルニ至ラン

日本農民社會ノ經濟稍ヤ整頓シタル上ハ唱宜ヲ計リテ貸付金庫ノ補助ニ依テ組合員ノ土地抵當負債其他ノ負債ヲ償還スルノ方法ヲ案スルモ可ナリ然レトモ初メヨリシテ負債償還銀行土地抵當銀行ノ働キヲ重ニ生產的信用ヲ貸付スル所ノ「ライフアイゼン」氏貸付金庫ニ混入スルハ策ノ得タルモノニアラサルナリ

以上ノ答案ハ第九問卽チ「ライフアイゼン」氏金庫ニ依ルトキハ農業上ノ諸改良ニ對シ貸付ルノミニシテ負債償還ノ爲ニハ貸付ヲ爲サヽルヤノ問題ニモ應スルモノナリ

第八問

中央銀行ト其支部銀行トノ關係如何

答

千八百七十七年以來「ノイヴヰード」ニ於テ株式會社トシテ成立スル所ノ農業的中央貸付金庫竝ニ「シユルツエ」氏金庫ノ爲ニ同樣ノ仕組ヲ以テ伯林ニ於テ設立サレタル獨逸組合銀行ノ如キ中央銀行ハ小ナル地方銀行ニ對シテ有機的ノ連絡ヲ有スルコトナク殊ニ其成立モ小ナル地方銀行ノ設立ニ比スレハ數年ノ後ニアリ小ナル地方銀行ハ必スシモ該中央銀行ニ限ラス他ノ確實

ナル諸銀行ト業務上ノ取引ヲナシ以テ其金融ノ便利ヲ計ルコトヲ得故ニ此場合ニ於ケル連絡ハ一私人若クハ小銀行カ稍大ナル銀行ニ對スル連絡ニ外ナラサルモノト知ルヘシ卽チ前者ハ其餘金ヲ後者ニ預託シテ其利用ニ供シ其代リニハ後者ヨリシテ多少ノ信用ヲ受クモノナリ

中央銀行ハ小ナル貸付金庫ノ設立ノ數年後ニ成立シタルモノニシテ「シュッエー」氏及ヒ「ライフアイゼン」氏ノ如キ設立者ノ指揮ニ係ル組合ノ過半カ組織シタル組合聯合ト密接ノ關係ヲ有セリ抑此組合聯合ノ重ナル目的ハ社會上及法律上各組合ヲ代表シ又各組合ヲ保護監督シ又實際上ノ問題ヲ生スルニ當リテハ組合聯合本部ヨリ各組合ニ忠告助力ヲ爲シ或ハ時期ニ適當スル改良ヲ施行セシムル等ニアリ而シテ斯ク組合聯合本部ヲ設クルノ便宜ナルト同シク金融上ニ於テモ能ク各組合ノ事情ヲ了知シ金融上ニ充分ノ注意ヲ爲シ其運轉ノ媒介ヲナス一ノ特設中央銀行ノ必要ヲ見ルニ至レリ

此ノ如ク中央銀行ノ設立ヲ促シタル原因ハ全ク事ノ便宜ニ出テタルモノニシテ初メヨリ機關的ノ連絡ヲ有セシニアラサルナリ

余カ既ニ第一問ニ對シテ充分ニ說明シタル意見ノ如ク日本ニ於テハ事實大ニ獨逸ト異ナリ獨逸ノ町村ニ於テハ其必要上ヨリ三四十年ノ久シキニ亘リテ漸ク組合ヲ組織シ其發達時機ノ終リニ當リ初メテ中央銀行ノ設置アリシモ此中央銀行ハ嘗テ地方銀行ト有機的ノ結合ヲ有スルコトナシ然ルニ日本ニ於テハ農業的ノ貸付金庫組合ヲ最初ヨリシテ政府ノ保護ヲ以テ設立スル以上ハ初メヨリシテ秩序ノ發達ヲ設クルヲ必要トス

余カ既ニ第一答案ニ於テ說明シタル意見ニ據ルトキハ縣金庫ハ小ナル地方ノ中心トナリ總テノ地方支店ハ唯金銀ノ受取方ト拂出方ヲ掌リ組合員ノ身元如何ヲ認知スルニ必要ナル部局タルニ過キス而シテ眞ノ銀行事業ノ働キハ縣金庫ニ存スルモノトス此縣金庫ニ對シテ生スル自然ノ中央銀行ハ東京ニ於ケル大銀行ナルヘシ而シテ此中央銀行ハ大藏省若クハ農商務省ノ監督ニ係ル獨立銀行ナルカ或ハ日本銀行ノ支店ニシテ營業上獨立銀行ナルモノトス

此中央銀行ニ於テハ農業改良銀行ヲ兼スルモ或ハ得策ナルヘシ何トナレハ農業的貸付金庫聯合ノ支部ハ諸方ニ散布スルカ爲メ總テノ町村ニ於ケル農業上ノ改良卽チ河流經理溝渠設築灌漑疏水等ノ如キ必要ヲ最モ能ク認知シ且ツ附與シタル信用ノ監督ヲ施行スルヲ得ヘシ

日本ニ於テハ早晩耕作地面ノ擴張ヲ要スルモノナレハ民間ニ於テ農業改良銀行ノ必要ヲ感スルニ至ルハ必然ナラン殊ニ新地開拓及ヒ耕作法ノ改良其他ニ必要缺ク可ラサル貸付金ハ其期限永キヲ要スルニ由リ貸付金庫ハ通常此ノ如キ永期ノ貸付ニ向テ資金ヲ投スルコトナキヲ以テ若シ此等ノ貸付金庫カ密接ノ連絡ヲ有スル東京中央銀行ニ於テ農業改良銀行ノ事ヲ執ルアラハ土地改良ノ爲メニ一個人カ銀行ニ請求シテ借受ケタル金圓ヲ適當ニ使用スルコトノ監督ヲ爲スニ甚タ好都合ナルヘシ尤モ此監督ハ「ライフアイゼン」氏ノ模範ニ據リ諸町村ニ分置セル貸付金庫ヲ以テ之ヲ爲ス得然レトモ右ノ外ニ出ツル關係ハ其目的ヲ異ニスル諸銀行(卽チ「ライフアイゼン」氏金庫及農業改良銀行)間ニ有セシメサルコトニ致シタリ何トナレハ業務上各特別ノ性質アリテ「ライフアイゼン」氏金庫ノ重ナル資金ハ其固有ノ組合員ノ資金及預リ金殊ニ短期ノ貸付ヲ以テ其基礎トセサル可ラサルモ農業改良銀行ハ其資金ヲ政府ノ貸付ヨリ得ルモノナレハナリ

第九問

「ライフアイゼン」氏ノ組織ニ據ルトキハ農業上ノ諸改良ニ對シ貸付ルノミニシテ負債償還ノ爲ニハ貸付ヲ爲サルヤ

答

此問ニ對スル答ハ既ニ大概第七問ノ場合ニ合著セラルヽヲ見ルナリ而シテ假令ヒ二三ノ場合ニ於テハ「ライフアイゼン」氏金庫ノ助ケヲ以テ重キ負債ヲ轉換スルコトアリト雖モ秩序的ニ農民ノ負債ヲ償還スルコトハ勿論該金庫ノ事業ヨリ別物ニセサル可ラス蓋シ日本ノ農民ハ始終深ク其負債ニ沈淪スルノ今日ニ於テ之ヲ救濟スル爲メニ此金庫ヲ應用セントセハ其要スル所ノ資金非常ノ巨額ニ達シ(余カ考案卽チ普國ノ土地義務解放ノ方法ニ據テ負債ヲ償還スルトキハ此ノ如キ巨額ノ金圓ヲ要スルコトナカルヘシ)「ライフアイゼン」氏金庫固有ノ目的ニ供スヘキ資金ハ毫モ存セサルニ至ラン

余カ既ニ陳述セシ如ク「ライフアイゼン」氏金庫ハ重モニ生產的信用ヲ取扱フモノナリ現今ノ農民カ其困難ヲ免レンカ爲メニ已ヲ得ス金貸者流ニ向テ其身ヲ投セサル可ラサル場合ニ於テモ後來ハ此組合ノ貸付ノ爲メ一層低廉ノ貸付金ヲ得ルニ至ル可シ夫レ農民ハ啻ニ災害ノ後或ハ一時金融恐惶ニ際シテノミナラス其經濟ニ於ケル改良ノ爲メニモ必ス此低廉ニシテ容易ニ得ラル可キ貸付ヲ要ムルニ至ルハ必然ニシテ田畠改良及排水灌漑其他ノ爲メニスル貸付ノ如キモ實ニ以上ノ目的ト密接ノ關係アリテ相離ルヘカラサルモノトス蓋シ此ノ如クスルトキハ「ライフアイゼン」氏金庫ト農業改良銀行トハ動モスレハ互ニ競爭ヲ生スルニ至ランモ計リ難シ日本ニ於テハ兩者ノ業務ノ間ニ判然區別ヲ立ツルヲ必要トス

此等ノ兩機關カ獨逸ニ於テ互ニ相併立スル所以ハ其資產ノ割合種々ニシテ一樣ナラサルニ原由スルコトハ吾人カ獨逸ニ於テ實見スル所ナリ元來「ライフアイゼン」氏金庫ハ小民ニシテ信用ナキモノヽ爲メニ設立セラレタルモノニシテ第一ノ農業改良銀行ノ實行ヨリモ二十年乃至三十年前ニ既ニ其成立ヲ見タリキ然ルニ農業改良銀行ハ中等及ヒ大ナル土地所有者ノ爲メニ興リシモノナリ是レ大ナル土地所有者ハ其田畑ノ爲メニ巨額ノ費用ニ達スル改良ヲ爲スヒノナレハ其下ス所ノ資本モ亦其期限甚タ永キヲ要スレハナリ而シテ「ライフアイゼン」氏金庫ノ組合員カ其土地ノ爲メニ折々施行スル小改良ハ今日尙ホ該金庫ノ貸付ニ係ル貸付金ヲ以テ充分ニ實行サルヽ所ナリ

日本ニ於テハ小土地所有者ノ利害甚タ重要ナレハ將來併立シテ興ルヘキ「ライフアイゼン」氏金庫ト農業改良銀行トノ働キ判然區別シ甚シキ費用ヲ要セサル通常ノ土地改良ハ「ライフアイゼン」氏金庫ニ依賴シテ之ヲ行ヒ巨額ノ費用ヲ要スルモノ殊ニ廣濶ナル新地等ノ開墾ハ農業改良銀行ノ助力ニ依テ之ヲ行フニ至ラシムヘシ又農業改良銀行ノ助力ハ疏水灌漑及ヒ沼池溝渠等ノ如キ或ル町村ヲ擧テ廣濶ナル土地改良ヲ爲スノ時ニ要スルモノトシ其他此銀行ノ助力ハ將來ニ於テ大農地ヲ增加スルニ就テ莫大ノ效力ヲ有スヘシ

以上ノ答案ハ第十問卽チ疏水工事若クハ灌漑溝渠等ニ關スル工業ヲ起スヲ以テ目的トスル所ノ町村ノ聯合ニ對スルコトナク唯各個人ノミニ對シテ貸付ヲ爲スヤノ問ニ對シテモ充分ナリトス

第十一問

組合ノ株金ハ唯富有ノ組合員ノミニ限ルコトナク普通ノ組合員ヨリモ之ヲ募集スルコトノ便否如何

答

元來「ライフアイゼン」氏金庫ノ組合員ハ營業株金ヲ拂込ムノ義務ナキモノトス蓋シ其理由ノ重ナルモノハ此組合員タルモノハ概シテ無資産者ナレハナリ尤モ最近ノ獨逸會社法ニ依レハ假令ヒ些少タリトモ拂込ヲ爲シ殊ニ分割拂込法ヲ以テナリトモ拂込ヲ爲サヽル可ラストノセリ「ライフアイゼン」氏ハ其金庫ノ性質タル最初ヨリ公共ノ便利ヲ計ルニアルヲ以テ此性質ノシテ彼ノ專ラ割賦ノ多カランコトヲ目的トスル株式ト結合セシムルコトヲ欲セサルカ故ニ營業利益ト雖モ尚且配賦スルコトナク漸次ニ之ヲ準備金ニ組入レタリ然ルニ一二ノ金庫ハ組合員ヲシテ株金ヲ拂込シムルノ方法ヲ設ケシカ此法ハ今日一般ノ通例トナレリ準備金及ヒ組合固有ノ財産ヲ作ルコトハ小町村ノ區域内ニ限ラレタル營業取引ニ於テ其タ緩慢ナルヘキハ自然ノ勢ナリ然レトモ假令ヒ些小ノ財産タリトモ組合員ノ連帶責任タルヲ以テ一旦損害ノ生スルアレハ此連帶責任アルカ爲メ損害ノ費用ヲ此組合固有ノ財産ニテ充スヲ得ルカ故ニ此等組合ノ財産ハ甚タ必要ナルモノナリ

多額ノ割賦上ニ於テ行ハル、資本家ノ投機ハ若シ株券ノ金高甚タ高額ナラス且ツ一人ノ株主カ所有シ得ヘキ株數ヲ制限スルヲ以テ之ヲ防クコトヲ得ヘシ其他「ライフアイゼン」氏ノ模範法規ニ於ケルカ如ク豫メ制規ヲ立テ割賦ノ額ヲ制限スルヲ以テ之ヲ防クヲ得ヘシ今此模範法規

二九節ニ據テ一例ヲ擧ケンニ割賦ハ決シテ組合貸付ノ利子ニ手數料ヲ込メタルモノニ超過スヘカラサルモノトシ其殘額ハ之ヲ準備基金中ニ繰リ込ムモノトス

日本現時ノ資本ノ恐慌ヲ救濟スル意見ノ大要

第一章　總論

現時ノ資本ノ恐慌ハ日本ニ於テ種々ノ有用ナル企業勃興セシモ之ヲ實行スルニ足ルヘキ充分ノ資本カ當時日本ニ存セサル爲メ自然ニ生シタル結果ナリ

方今日本ノ經濟社會ノ狀況ヲ考フルニ恰モ貨幣經濟ノ有樣ニシテ且ツ分業法行ハル、ニ從テ諸經濟的企業モ各自分立スルノ有樣ナルヲ以テ各經濟ノ要素卽チ第一榮養品竝ニ諸原質ヲ全ク產出スル土地ト第二自然ニ生シタル物品若クハ自然ノ助ケニ由テ生シタル產物ヲ經濟的ノ貨物ニ變更スル勞力トノ二要素ノ外ニ尙ホ第三ノ經濟的要素存在セサル可ラス而シテ第三ノ經濟的要素トハ經濟的生活ニ關スル前記ノ二要素ノ生產物ヲ賣買讓與シ得ヘキ支配權ノ有スルモノヲ云フナリ此第三ノ經濟的要素卽チ資本ノ助ケニ由テ吾人ハ土地ノ生產物竝ニ勞力ノ生產物ヲ支配スルヲ得ヘシ故ヲ以テ資本家ハ此支配權ヲ實行スル爲メニ每年ノ國產物ノ一部ヲ支配セサル可ラス吾人ハ通常每年ノ國產ニ對スル要求權ニ向テ利子ヲ拂ヘリ蓋シ此利子ハ資本家ノ支配ニ屬シ且ツ每年ノ國產若クハ從前ヨリ存スル貨物ヨリ資本家ノ要求權ニ相當スル部分ヲ金力ヲ以テ買ヒ取ルヘキ權力ヲ資本家ニ與フルモノナリ是ヲ以テ資本家ノ利子愈〻大ナレハ其一部ヲ每年報酬(利子等ノ如シ)ヲ生スヘキ事業ニ投スルコト愈〻容易ナルニ至ルヘシ現時ノ貨幣經濟ノ社會ニ於テハ斯ク事業ニ投スル金額ヲ資本金額卽チ貨幣資本ト稱ス彼ノ資本

家カ勞力的生產物勞働力竝ニ貨物ヲ支配シ之ヲ自己ノ新生產企業ニ使用スルヲ得ルニ至ルハ全ク此貨幣資本ノ助ケニ由レリ日本現時ノ發達時期ニ於テハ企業者若クハ企業組合ハ每年ノ國產物(一定ノ資本額ニ於テ明示サレタルモノ)ニ對シテ前ニ述ヘタル如キ要求權ヲ有スルヲ以テ內外國ノ貨物從來ノ勞力的生產物竝ニ將來ノ勞働力ノ如ク新企業ニ必要ナルモノヲ支配スルヲ得ヘシ而シテ斯ノ如キ新企業起ルコト愈〻多ケレハ之ニ供スル金額若クハ斯ノ如キ新企業ノ資本ニ充用スヘクシテ直接ノ消費ニ適セサル收入モ愈〻大ナラサル可ラス故ヲ以テ日本ニ於ケル未製品竝ニ勞働力ハ如何ニ多ク存在スルモ斯ノ如キ新企業ノ利益ハ如何ニ多ク潤澤ナルモ之ニ供スヘキ資本存在セサルトキハ之ヲ實行スルコト能ハサルハ勿論ノ事タルヘシ

余カ既ニ簡單ニ述ヘタル如ク資本ハ每年ノ國產ノ一部ニ對スル要求權ナリ又資本ハ各生產者ノ要求權ト云フモ過言ニ非サルヘシ何トナレハ現時ノ分業社會ニ於テ各生產者ハ單ニ一種ノ貨物ヲ生產シ而シテ之ヲ賣却スルコトニ由テ自己ノ需用ニ必要ナル所ノ他人ノ生產物ニ對シテ要求權ヲ生スレハナリ若シ各生產者カ每年ノ國產ニ對スル要求權ヲ最早自己ノ爲メニ使用セサルトキ或ハ使用セサルヘキトキハ他人ニ此要求權ヲ附與シテ其需用ヲ滿足セシムルヲ得ヘシ此方法ニ由テ各生產者ハ他人ノ勞力的生產及ヒ勞働力ニ對シテ支配權ヲ得ルモノト云サル可ラス何トナレハ此勞力的生產及ヒ勞働力ハ生產者カ自己ノ生產事業ニ適用スルヲ得ヘク若クハ之ヲ他人ニ附與シテ每年報酬(利子等ノ如シ)ヲ取ルコトヲ得レハナリ是ヲ以テ將來放下スヘキ資本ハ生產者固有ノ事業若クハ其財產ヨリ得タル貨物ノ剩餘ト云フヲ得ヘシ尤モ此工業若クハ財產ハ資本ノ姿トナルヲ以テ國產ニ對シテ其固有ノ要求權ヲ有スルハ勿論ノ事ナリ

故ニ一國ニ於テ斯ノ如キ剩餘ヲ生スヘキ財產愈〻多ク存スルカ若クハ企業ノ收入愈〻多ク生スルトキハ余カ前ニ述ヘタルカ如ク現時ノ經濟事業ニ必要ニシテ缺クヘカラサル資本モ愈〻多ク生スヘキヲ以テ之ヲ使用シテ生產事業ヲ擴張スルヲ得ヘシ

日本ニ於ケル財產ノ分配稍〻平均ヲ得タルコトハ社會政治ノ點ヨリ觀察スルトキハ重要ナルモ急速ニ資本ヲ蓄積スル點ヨリ觀察スルトキハ不適當ナリト云ハサル可ラス財產ノ分配斯ノ如キ有樣ナルヲ以テ大ナル收入ヨリ稍ヤ蓄積シタル金額アリト雖モ大ニ望ミアル新事業ニ充分ニ放下スヘキ內國資本ヲ得ルコト困難ナルハ勿論ノ事ナルヘシ是レマテハ大名及ヒ豪商ノ收入就中政府ノ貸付金アリテ此等ノ新企業ヲシテ成立セシメタリシモ近來ニ及ヒテハ此財源モ殆ト盡キタルヲ以テ新企業ヲ起シテ大仕掛ニ實行スルコト最早能ハサルニ至レリ是ヲ以テ此等ノ新企業ノ存廢ハ殆ト全ク舊時ヨリ存在スル企業カ新ニ年々殘ス所ノ剩餘金如何ニ屬スルモノナリ會社(是レマテハ從來ノ企業ト同一ノ方法ヲ以テ設立サレシモ)ノ設立モ之ニ必要ナル資本カ既ニ設立セラレタル事業ヨリ供セラルヽ時ノミ成功スルノトス

利子ノ割合高ク且ツ現企業ヨリ生スル利益大ナルヲ以テ日本ニ於テ急速ニ資本ヲ集合スルコト極メテ容易ナルカ如シト雖モ惜ラクハ之ニ由テ利益ヲ收得スル人民ハ甚タ少ナク且ツ其放下シタル資本モ人民中ノ大多數ヲ占ムル社會ニシテ其工業生活ハ最モ壓制セラルヽ所ノ農業社會ニ比較スルトキハ僅少ナルヲ如何セン歐洲ノ土地改良地方ニ於テハ土地生產ノ價値高ク農業地ノ生產力ハ增加シ且ツ土地ノ賣買價格騰貴シタルヲ以テ土地所有者フシテ資本ヲ蓄積シ且ツ之ヲ將來發達スヘキ工業ニ充分ニ放下スルヲ得セシメタリ然ルニ日本ニ於テハ土地所

有ノ突然自由ニナリタル以來未タ歲月ヲ經ルコト永カラサルヲ以テ歐洲ニ於ケル如ク資本ヲ得ルコト能ハサルヘシ況シテ日本ニ流行スル小所有ハ年々漸ク日本農民ノ生計ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ與フルニ過キス且ツ土地ヨリ生スル收入ノ些少ナルコト及ヒ金錢上竝ニ社會上ノ點ヨリ農民ニ生スル關係ノ不幸ナルコトハ農民ノ進歩ヲ妨礙スルヲ以テ其資本ヲ得ルコト能ハサルハ勿論ノ事タルヘシ

日本カ非常ニ有益且ツ必要ナル企業ニ要スル資本ヲ間斷ナク增加スルコトハ唯日本人民ノ大多數ヲ占ムル農民ヲシテ資本ヲ放下スルコトヲ得セシムル時ノミニ限レリ故ヲ以テ資本ノ恐慌ヲ救濟スルハ世人カ唱導スル如ク商工ヲ改良スルニ非スシテ寧ロ國家ノ富强ニ最モ重要ナル基礎即チ土地及ヒ農民ヲ保護シテ近時ノ種々ナル改良方案ヲ實行スルニアルコトヲ記憶セサル可ラス實ニ農業ノ利益增加スレハ資本ヲ得ルコト蓋シ容易ナルヘシ

第二章　現時ノ恐慌

吾人カ既ニ先キニ述ヘタル如ク現時ノ恐慌ハ重ニ資本ノ恐慌ニシテ畢竟許多ノ企業新設セラレシモ此等ノ企業ヲ實行スルニ足ルヘキ資本カ充分ニ日本ニ存在セサリシ結果タルニ外ナラス而シテ此等ノ企業ノ多數ハ疑ヒナク正當ナルモノニシテ且ツ日本ニ於ケル經濟上ノ進歩ニ緊要ナルモノト云フヘシ然レトモ此等ノ企業ヲ設立スルニ當リ之ニ供スヘキ充分ノ資本日本ニ存在セサルコト及ヒ此資本ヲ得ルニハ歲月ヲ要スルコトヲ忘却シテ設立スルニ至リシハ實ニ遺憾ノ至リト云ハサル可ラス因テ日本政府ハ新企業ノ設立ヲ許可スル場合ニ於テハ設立ノ許可後即時若クハ暫時ニシテ必要ナル資本ノ過半ヲ拂込マル、企業ノミニ許可ヲ附與スヘク

注意スル責任ヲ有スルモノトス若シ然ラサル時ハ新企業ハ全ク企業者ノ投機心ニ由テ設立セラル、ニ至ルヲ以テ企業者ハ唯一身ノ爲メ一時ニ莫大ノ利益ヲ博スルヲ專ラトシ企業ノ將來ニ關スル運命竝ニ資本市場ノ困難ニ就テハ毫モ顧ミルナキニ至ラン故ヲ以テ政府カ前述ノ政略ヲ實行スルトキハ其結果ハ經濟的ノ生活ヲシテ遲緩ナルモ健全ニ發達セシムルヲ得ヘシ然レトモ之ヲシテ急速ニ發達セシメント欲セハ唯直接若クハ間接(政府ノ借入金)ニ外資ヲ輸入シテ以テ此目的ヲ達スルニアルノミ若シ外資ノ輸入ナクンハ經濟的ノ進歩甚タ遲緩ナラサル可ラサルハ余カ確信スル所ナリ

第三章　困難ヲ受ケタル企業

余カ曩ニ困難ヲ受ケタル企業ニ就テ提出シタル質疑ニ對スル答辯ニ基ツキ左ニ簡單ニ現今ノ情勢ヲ述ヘントス

夫レ明治二十年以來新企業ニ要シタル資本金額ハ殆ト壹億四千萬圓乃至壹億五千萬圓ニ達セリト雖モ其內實際拂込ミヲ了シタル金額ハ僅カニ四千萬圓ニ過キサルヲ以テ尙ホ其拂込ニ要スル金額ハ殆ト壹億萬圓餘ニ達セリ而シテ壹億萬圓餘ノ金額ハ舊來ヨリ巨額ノ資本ヲ有スル諸國ニ於テハ決シテ多額トナスニ足ラサレトモ日本ニ取テハ非常ノ巨額ナリト云ハサル可ラス

是レ此金額カ日本諸銀行ノ資本額竝ニ預金額ト殆ト同額ナルヲ以テ非常ノ巨額ナルコトヲ證明スルニ足ルヘシ今日ノ資本恐慌ヲ救濟スルノ困難ナル所以ハ畢竟之ニ原因セスンハアラス目下日本ニ於テハ內國ニアル正當ノ財源ハ既ニ汲盡シタルヲ以テ資本恐慌ノ災害ヲシテ經濟

社會ノ全區域内ニ波及セサラシムル爲メニ新ニ資本ヲ得ントスルモ勢ヒ歳月ヲ要セサル可ラス尤モ非常ノ手段ヲ用ユルトキハ此限リニアラス余カ質疑ノ答辯中ニ記載セル新企業ノ種類竝ニ已ニ拂込ミタル資本及ヒ未タ拂込マサル資本ニ關スル表目ニ就テ見ルトキハ株金ニ對スル拂込金額ノ割合寡少ナルヲ以テ尚ホ多額ノ資本ヲ要スルモノハ重ニ鐵道ナルカ如シ即チ鐵道ノ株金額ハ殆ト五千七百萬圓ニ達セシト雖モ明治二十年乃至二十二年間ニ其拂込ヲ爲シタル金高ハ僅カニ參百萬圓餘ニ過キス故ニ殆ト五千四百萬圓ハ未タ拂込ヲ爲サヽルモノナリ

右ノ外新ニ工業及ヒ營業興起シテ前三箇年(明治二十年ヨリ二十二年マテ)間ニ此等ノ新企業ノ爲メニ金融市場ニ於テ四千七百萬圓ヲ募集セシト雖モ實際拂込ミタル金額ハ千貳百五拾萬圓ニ過キサルヲ以テ尚ホ此等ノ新企業ニ對シテ參千四百五拾萬圓ノ拂込ヲ要スルモノトス

夫レ新事業ノ爲メニ今日尚ホ拂込ムヘキ金額ハ殆ト壹億萬圓乃至壹億貳千萬圓ニ達セリ而シテ其内ニ鐵道竝ニ工業ニ對シテ拂込ムヘキ金額合計八千八百五拾萬圓ヲ含有スルモノトス是ヲ以テ今日ノ資本恐慌ヲ來タシタルハ多クハ此等鐵道及ヒ諸工業ヲ速カニ竣工セシメンカ爲メニ資本ヲ吸收シタルニ源因スルモノヽ如シ實ニ鐵道ニ關シテハ吾人カ其設立ヲ許可シタルノ時ニ大ニ不注意ヲナシタリト云ハサル可ラス何トナレハ其株金ハ五千七百萬圓ナリシト雖モ今日マテノ拂込金高ハ僅カニ參百萬圓ニ過キサルヲ以テナリ

前記鐵道及ヒ工業ノ兩企業ハ日本經濟的ノ進歩ニ對シテ最モ重要ナルモノトス而シテ之ヲ彼ノ商業ノ目的ニ供スル銀行、商業會社及ヒ運輸會社ニ比スルトキハ遙カニ其必要ヲ感スルモノナリ是レ此兩個ノ企業ハ生産上ノ目的ノ爲メニ其效力極メテ大ナリト雖モ商業ハ此目的ニ關

スル效力ニ就テ該企業ニ對シテ素ヨリ一歩ヲ讓ラサル可ラサルヲ以テナリ而シテ余ニ下付セラレタル表中ニ記載シアル漁獵會社、鑛山會社及農業的企業ノ如ク小資本ヲ有スルモノニ限リ尚ホ之ヲ右兩個ノ企業内ニ算入スルモノトス

銀行、運輸會社及ヒ商業會社ハ前三箇年(明治二十年乃至二十二年)間ニ概ネ千六百六拾萬圓(千五拾萬圓竝ニ千九百萬圓)即チ合計四千六百萬圓ノ金額ヲ要セシト雖モ其拂込金額僅カニ八百五拾萬圓(參百五拾萬圓竝ニ六百萬圓)即チ合計千八百萬圓ニ過キサルヲ以テ此種ノ企業ニ就テハ尚ホ殆ント貳千六百萬圓ヲ要スルモノトス

今吾人カ前記ノ大工業即チ株金四千七百萬圓ヲ要シタレトモ殆ト參千四百五拾萬圓ノ不足ヲ告タルモノ、加フルニ之ト同種ナル小企業即チ漁獵、鑛山會社及ヒ農業的企業(此等ノ企業ノ株金高ハ九百萬圓ナレトモ此内六百五拾萬圓ハ未タ拂込ナキモノナリ)ヲ以テスルトキハ此等ノ諸企業ノ爲メニハ合計五千六百萬圓ノ株金ヲ要スルモノナリ然レトモ此株金ノ拂込ハ今日ニ至ルマテ僅カニ千五百萬圓ニ過キサルヲ以テ尚ホ殆ト四千百萬圓ノ拂込ミヲ要スルモノトス

前記株金拂込ノ割合ヲ表ニテ示ストキハ左ノ如シ

稱類	株金高	拂込金高	未拂込金高
鐵道	五千七百萬圓	參百萬圓	五千四百萬圓
狹義ノ工業的及ヒ生産的企業	五千六百萬圓	千五百萬圓	四千百萬圓
廣義ノ商業的企業	四千六百萬圓	千八百萬圓	貳千六百萬圓

右ノ表ヲ熟見スルトキハ廣義ノ商業的企業ハ割合ニ多ク利益ヲ得タルモノニシテ就中銀行ノ如キハ其最モ利益ヲ占メタルモノナリ是レ運輸會社及ヒ商業會社ニ在テハ千五拾萬圓及ヒ千九百萬圓ノ株金ヲ募集シテ其拂込金ハ漸ク其三分ノ一即チ參百五拾萬圓及ヒ六百萬圓ニ過キサリシト雖モ銀行ニ至テハ殆ト千六百萬圓餘ノ株金ヲ募集シテ其拂込金額ハ少クモ其二分ノ一即チ八百五拾萬圓ニ達シタルヲ見テ其利益アリシヲ知ルヘキナリ

拂込金額カ株金高ノ三分ノ一以下ニ過キサルモノハ工業的ノ企業ナリトス彼ノ鐵道ノ如キハ其拂込金額ハ僅カニ株金高ノ十九分ノ一ニ過キス是レ政府カ此種ノ企業ニ對シテ特權ノ附與スルノ必要アル所以ナリ

第四章 內國ニ於テ實際施行シ得ヘキ救濟法ノ概略

第一節 著手シタル企業ヲ制限スルコト

當初大ナル計畫ヲ以テ著手シタル企業ト雖モ實際存在スル資本ニ準シテ該企業ニ制限ヲ加フルハ自ラ其當ヲ得タルモノナリ

然レトモ此ノ如キ自然ノ制限ヲ加フルニ當テハ實際諸般ノ障碍生スルモノナリ

企業ノ制限ハ先ツ專ラ企業ノ種類ニ依テ之ヲ加フヘシ殊ニ當初ヨリ大ナル計畫ヲ以テ著手シタル企業ニシテ之ニ充ツルノ費用足ラサルカ若クハ其制限ヲナスモ別ニ企業ニ大ナル障碍ヲ來タサヽル場合ニ於テハ勉メテ速ニ制限ヲ加フルヲ可トス銀行ノ如キハ即チ其適例ナリ夫レ銀行ハ實際唯其現在資金ヲ利用シテ將來ノ營業ヲ繼續スルヲ得ルモノナレハ其本來ヨリ企圖シタル業務ノ擴張ニ至テハ株主カ其負擔ニ係ル一定ノ金高ヲ拂込ミタル後ニ於テ初メノ擴張ニ著手スルモ決シテ不可ナカルヘシ殊ニ余カ第三章ニ於テ既ニ說明セシ如ク銀行ノ總株金高ハ千六百六拾餘萬圓ニシテ之ニ對スル拂込金高ハ八百五拾萬圓即チ平均五割以上ニ達シタルヲ以テ實ニ銀行ハ明治二十年乃至二十二年間ニ設立セラレタル企業中其拂込金高最モ多額ナリト云ハサル可カラス尤モ一銀行ニ於ケル拂込ハ此平均額ニ超過スルコトアルモ他ノ銀行ニ於ケル拂込ハ之ニ達セサルコトアルハ勿論ノコトナリ而シテ銀行ノ事務費ハ他ノ企業ニ比スレハ割合ニ多額ヲ要セサルヲ以テ其株金高ヲ是マテノ拂込金額ニ省減シテ營業ヲナスヿト極メテ容易ナルヘシ蓋シ斯ノ如ク省減ヲナスモ唯從來ノ營業免許狀及ヒ株券ニ變更ヲ加フルマテニシテ別ニ其他ニ手數ヲ要スルコトナカルヘシ尤モ拂込金高極メテ少額ナル銀行ニ對シテモ尙ホ斯ノ如ク株金ヲ省減スルヲ得ヘキヤ否ヤハ其場合ニ依テ之ヲ定メサル可ラス或ル場合ニ於テハ獨立ノ營業ヲナス能ハサル數多ノ小銀行ヲ聯合スルヲ可トスルコトアリ而シテ此等ノ小銀行カ各地方ニ散在スルトキト雖モ亦之ヲ聯合スルヲ必要トス是レ其各地方ニ散在スルハ通常唯其事務上ニ便宜アルニ過キスシテ却テ其資本ノ少額ナルカ故ニ事務費ヲ增加スルノ恐レアルヲ以テナリ

右銀行ニ就テ說明シタル事項ハ尙ホ其他ノ商業會社及ヒ運輸會社ニモ之ヲ適用シ得ヘキヲ以テ此等ノ會社カ當初見込ミタル資本金額ヲ徵收スル能ハサルトキハ其企業ニ制限ヲ加ヘ當初計畫シタルヨリモ一層其區域ヲ縮小セシムルヲ第一ノ救濟法トナス

前記セル如ク既ニ著手シタル企業ヲ制限スルトノ主義ハ企業ノ第二類即チ狹義ノ工業的及ヒ生產的企業ニ就テハ極メテ狹小ナル區域ニ在テノミ之ヲ實施スルヲ得ルモノナルヲ以テ綿絲

紡績場、製紙場、絹絲紡績場、器械絹織場、鑛山事業等ノ如キハ其事業上大ニ制限ヲ加フルコト能ハサルナリ而シテ從來此等ノ工業ニ對シテ拂込ミタル株金(余カ前ニ示シタル表ニ據レハ募集金高ノ三分ノ一以下ニ當ル)豫シメ之ヲ土地買上金建築費及ヒ器械購求費ニ差向ケタルヲ以テ若シ强テ其企業ニ制限ヲ加ヘンカ必スヤ一方ニハ其企業ニ充テタル資本ノ一部ハ無用トナリ一方ニハ資銀、材料ノ供給其他ニ要スル資本ニ缺乏ヲ告クルヲ以テ此資本ヲ銀行及ヒ富豪家ヨリ非常ノ高利ニテ借入レサルヲ得サル場合トナリ遂ニ此種ニ屬スル企業ノ健全ナル發達ニ妨害ヲ與フルカ如キ危殆ノ地位ニ陷ルニ至ルヘシ是ヲ以テ彼ノ廣義ノ商業(前ニ記載セル表中ノ第三列)ニ在テハ其現在資本ノ金高ニ從ヒ其營業ニ制限ヲ加フルモ敢テ之カ爲メニ障碍ヲ及ホスコトナカルヘシト雖モ此第二種ノ工業ニ在テハ恐ラクハ制限ヲ加フルコト能ハサルヘシ若シ之ニ制限ヲ加フルトスレハ此種ノ企業ヲ中絶セシメ且ツ多クハ之ニ差向ケタル資本ニ損害ヲ生セシムルニ至ルヘシ然ルトキハ此損害タル獨リ其株主ノミニ止マラス尚ホ日本經濟上ノ發達ニ少小ナラサル障碍ヲ來スモノトス之ヲ要スルニ日本ニ於テハ工業ニ供スル材料潤澤ニシテ且ツ勞力ノ賃銀モ割合ニ廉價ナルヲ以テ大ナル工業ヲ起シテ日本ノ進歩ヲ促カシ廉價ナル製造品ノ輸入ニ對シテ競爭ヲ試ミ且ツ日本ヲシテ萬國貿易ノ仲間ニ入ラシムルコト極メテ肝要ナリ

困難ヲ受ケタル企業ノ第三種即チ鐵道(前ニ記載セル表ノ第一列)ハ制限ヲ加フルモ殆ト全ク其弊害ナカルヘシ實ニ鐵道ニ在テハ其株金五千七百萬圓ニ達シタリト雖モ其拂込金高ハ僅カニ參百萬圓ニ過キサルカ故ニ此ノ如キ少額ノ拂込金ヲ以テ速カニ其效功ヲ見ントスルモ到底能ハサルコトニシテ唯僅カニ其鐵軌及ヒ器械ヲ購求スル費用ニ供スルニ過キサルヘシ而シテ鐵道敷地ノ如キハ未タ殆ト企業ノ爲メニ購求スル場合ニ至ラス唯其讓受ニ關シテ契約ヲ取結ヒタルニ過キサレハ若シ敷地ヲ購求スルノ場合ニ至レハ賣主ノ爲メニ非常ノ利益ヲ壟斷セラルルニ至ルハ疑ヒヲ容レサル所ナリ此ノ如キ有樣ナルヲ以テ恐ラクハ其賣主ニ對シ實際ノ損害ヲ被ムラシムルコトナクシテ此讓受契約ノ取消ヲナシ得ヘキカ故ニ鐵道ノ資本ニ對シテモ格別ノ損耗ヲ及ホスコトナクシテ此等鐵道企業ヲ中止スルヲ得ヘシ又一小鐵道線路ト雖尚モ困難ヲ受ケタル鐵道企業ナル題目中ニ算入シ得ルモノナレハ必スヤ其竣工ヲ見ルニ至ルヘシテハ尚多少ノ費用ヲ要スルモノナリ而シテ此費用タル更ニ徵收セサルヲ得サルハ論ヲ俟タスシテ明ナルヲ以テ總テ此種ノ企業ヲ中止スルモ經濟社會ニ對シ毫モ影響ヲ及ホスコトナカルヘシト云フモ決シテ過言ニアラサルヘシ

第二節　同種類ノ諸企業ヲ聯合スルコト

數多ノ小企業ニシテ資金ノ缺乏セルカ爲メ自ラ獨立シテ營業スル能ハサルモノハ之ヲ聯合スヘシトノコトハ余嘗カ既ニ前節(第四章ノ第一節)ニ於テ銀行及ヒ商業的企業ニ關シテ論述シタル所ナリ而シテ此種ノ企業モ其外部ノ關係即チ資金ノ缺乏セルカ爲メ聯合ノ必要ヲ感スル場合ニ於テハ之ヲ聯合スルコト極メテ容易ナルヘシト雖モ企業ノ何レノ種類ニモ聯合ヲ適用スルコトハ到底能ハサルヘシ然リト雖モ其株主モ(最早拂込ヲナスヘキ見込アラサルトキ)聯合ノ出來ル場合ニ於テハ聯合ヲナスコトニ對シテ決シテ異議ヲ唱ヘサルヘシ殊ニ聯合ノ爲メ株主カ從來拂込ミタル株金ヲ維持シ且ツ假令ヒ些少ニテモ之ヲ利用シ得ヘキ企望ヲ有スルーキハ

倍マス其聯合ヲ贊成スルニ至ルハ必然ナリ此場合ニ於テハ聯合シタル諸企業ハ支部トナリテ各地方ニ成立スヘシ若シ支部トナリテ成立スル能ハサルトキハ其資本ヲ或ル一會社ニ集合セシムヘシ蓋シ此ノ如クシテ聯合ヲ爲スハ此種ノ企業ニシテ多額ノ營業費及ヒ企業費ヲ徵集シ得サルトキニ愈其容易ナルヲ見ルヘシ

右ノ如ク聯合ヲナシテ困難ヲ救濟スルコトハ尙ホ鐵道ニ就テモ或ル程度ニ達スルマテ之ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ該鐵道企業ニシテ其敷地買上契約ノ取消ヲナシ得ルカ或ハ未タ其土木工事ニ著手セサルカ或ハ之ニ著手シタリトスルモ其一小部分ニ限ルカ又ハ株金ノ一部ヲ其鐵軌及ヒ諸器械ノ調達ニ差向ケルニ過キサルトキハ未タ拂込資本ニ損害ヲ蒙ラサル諸會社ヲ聯合セシムルヲ得ヘシ而シテ鐵軌及ヒ諸器械ニ夥多ノ剩餘アルモ更ニ之ヲ複線ニ用ヒハ可ナリ若シ之ヲ用フル能ハサレハ僅カノ損失ヲ以テ既ニ設立シタル會社ニ讓與ヲ爲スモ敢テ不可ナカルヘシ

然レトモ鐵道工事稍其歩ヲ進メタルモノニ就テ聯合ヲ行フコトノ極メテ困難ナルハ余カ言フヲ俟タスシテ明白ナリ日本ニ於テハ鐵道企業ノ爲メニ株金五千七百萬圓ヲ募集セシモ其拂込金ハ僅カニ貳參百萬圓ニ過キサルカ如キ現況ナレハ唯其一二ノ線路ニ就テノミ聯合ヲ行フヲ得ヘシ是ヲ以テ工事ノ最モ進歩シタル線路ニ就テ聯合ヲ行フニ方テハ極メテ之ニ注意ヲ加フヘキハ論ヲ俟タサルナリ

凡ソ聯合ヲ實施スルニ方リテハ諸般ノ困難ヲ惹起スヘキハ勿論ノ事ナリ然レトモ此聯合法ニ依ルニアラサレハ既ニ著手中ノ鐵道企業ノ爲メニ其資本ヲ得ルニ途ナキトキハ(國債ヲ募集スルカ若クハ直接ニ外資ヲ輸入スルハ別問題ナリ)余カ意見ヲ以テスレハ假令ヒ幾多ノ困難羣起スルコトアルモ實際該聯合法ヲ施行セサル可ラスト信ス尤モ此際政府ノ委員タル者鋭意嚴密ニ施行ヲ監督セサル可ラス

工業ハ殆ト聯合ヲ利用スルコト能ハサルヘシ蓋シ此種ノ企業ノ爲メニ土地ノ買上、家屋ノ建築竝ニ器械器具及ヒ其他ノ材料ヲ調達シタルハ多クハ從來拂込ノ資本ヲ以テ之レニ充テタルモノナレハ之ト性質ヲ異ニスル所ノ他ノ企業ト聯合スルコトハ到底爲シ能ハサルモノナリ夫レ此ノ如ク此種ノ企業ニハ其營業上ニ制限ヲ加フルコト殆ト難ク且ツ之ヲ聯合スルコトハ全ク能ハサルヲ以テ余ノ意見ヲ以テスレハ之ニ補助ヲ與フルヲ最モ肝要トス

右ノ理由ノ外特ニ此種ノ工業ヲ補助スルノ必要アリト認ムヘキ要項アリ即チ之ヲ左ニ掲ク

既ニ陳述セシ如ク日本ニ於テハ諸般ノ手職業ヲ轉シテ更ニ器械的ノ營業ニ爲サシムルヿト輸入品ト競爭シ且ツ萬國貿易ノ仲間ニ加入スヘキカ爲メ高價ノ原料ヲ利用シテ器械的ニテ夥多ノ物品ヲ製造シ而シテ其製造シタル物品ヲ廉價ニ販賣スルコト、特ニ廉價ナルモ遲緩若クハ不充分ナル勞働力ヲ使用スルコト及ヒ困難ニ陷リタル諸般ノ企業ニ取リテ特ニ要件ト認ムヘキ勞働問題等ハ前記ノ要項中ニ屬スルモノナリ

凡ソ銀行及ヒ商業ハ其營業ニ供スヘキ資本ニ關シテハ毫モ勞働力ヲ要セサルヲ以テ殆ト此勞働力ニ就テハ關係ヲ有セサルカ如シ而シテ鐵道ニ在テモ亦唯其敷設中ノミ夥多ノ勞働者ヲ要スレトモ其後ニ至ツテハ之レカ必要ヲ感セサルニ至ルヘシ之ニ反シテ工業ハ其創業竝ニ營業ノ際ヲ問ハス終始勞働者ノ必要アルモノトス日本ニ於テハ各般ノ企業ノ爲メニ雇使スル勞働

者ノ員數ヲ其企業ニ充タル資金ニ比スレハ極メテ多數ナルカ如シ余カ質疑ニ對シテ附與セラレタル表ニ就テ必迫ニ陷リタル工業ニ於ケル勞働者ノ員數ノ多寡ヲ見ルニ如何ニセン其取調ノ不充分ナルカ爲メ余ハ精細ノ調査ヲナスヲ得サリキ然レトモ實際ノ事實ニ依テ之ヲ徵スレハ其人員ノ割合ニ多キヤ疑ヒナキヲ以テ別ニ其明細ナル證明ヲ要セサルナリ

抑モ工業カ其資本ノ缺乏ヨリシテ引續テ其業ヲ營ムコト能ハサルトキハ啻ニ其企業ニ關係ヲ有スル者ニ損害ヲ來サシメ且ツ內國ノ爲メニ必要ナル工業上ノ進步ニ妨碍ヲ與フルノミナラス尙ホ從來些少ノ收益ヲ以テ職業ヲ營ミタル數多ノ勞働者モ之カ爲メニ其生活ノ途ヲ失フニ至ルヘシ是ヲ以テ今日ニ於テ苟モ資本ノ必迫ヨリ困難ニ陷リタル諸般ノ企業ヲ振興セントスルノ方策ヲ講スルニ方テハ工業ノ如キハ前記諸般ノ理由アルヲ以テ勉メテ速カニ之レヲ救濟スル方案ヲ求メサル可ラス

第三節　內國ノ資本ト信用トヲ以テ困難ヲ受タル諸會社ヲ救濟スルコト

余カ質問ニ對スル答案ニ據ルトキハ銀行竝ニ民間ノ資本家ハ最早計畫サレタル企業ニ對シテ貸付スヘキ資力ナキカ如シ是レ銀行ノ資本ハ民間ノ有價證券ニ對シテ殆ト全ク貸付セラレタルヲ以テナリ而シテ彼ノ國立銀行ノ重ナル業務ハ動產及ヒ不動產ノ抵當ニ對シテ資本ヲ貸付スルニアルカ如ク見ユルヲ以テ銀行ノ多數ハ其資本竝ニ預金ヲ概ネ有價證券及ヒ不動產ニ對シテ貸付シ商業竝ニ割引ノ業務ノ方ニハ割合ニ唯其資本ノ一小部分ヲ向ケルニ過キサルナリ

新設會社ノ株金モ最初ハ此等ノ銀行カ民間ノ有價證券ニ對シテ貸付スル金額ヨリ拂込ヲレタリシモ爾後銀行カ其資本ノ缺乏ヨリシテ最早他ノ有價證券(一割若クハ一割五分ノ高利ニテ斯

ノ如キ有價證券ノ抵當ニ對シ資本ヲ貸付スヘキ場合アルニモセヨ)ニ對シテ貸付スルコト能ハサルヲ以テ株金拂込ノ道壅塞スルニ至レリ

此等ノ事情アルヲ以テ日本銀行ハ金融ヲ圓滑ニセン爲メニ過般鐵道株券、北海道炭鑛等ノ抵當ニ對シテ貸付スルコトヲ許可シタルヲ以テ恐ラクハ一時金融市場ヲ沈靜スルノ結果ヲ生シタリ又日本銀行カ無稅ニテ兌換券千五百萬圓ヲ發行スルヲ許可サレタルカ故ニ其大半ハ他ノ諸銀行ノ金融ヲ圓滑ニスル爲メニ使用セラルヘキヲ以テ諸銀行ハ之ニ由テ尙ホ新設會社ニ對スル拂込ニ要スル資本ヲ貸付スル手段ヲ得ヘシ然レトモ中央銀行カ斯ノ如キ目的ノ爲メニ其擴張サレタル權限ヲ如何ナル點マテ利用スルヤニ就テハ素ヨリ不明ニ屬ス余ヲ以テ之ヲ考フルニ國立銀行竝ニ私立銀行ハ一方ニハ其業務ヲ安全ニ實行スル爲メニハ抵當ニ對シテ總テ資金ヲ貸付スルコトヲ避ケサル可ラス又一方ニハ其抵當貸付ノ利子ヲ引上ケテ許多ノ一私人カ尙ホ其現有スル有價證券ヲ抵當トシテ成ルヘク多額ノ金圓ヲ借入セントスルコトヲ妨ケサル可ラス余ハ信ス新ニ發行サレタル兌換券ノ半額乃至三分ノ二ハ困難ヲ受ケタル諸會社ノ爲メニ漸次ニ使用セラルヘシ殊ニ最初計畫サレタル規模ニ從テ著手中ノ企業ハ最早中止ス可ラサルヲ以テ成ルヘク之ヲ繼續シテ成效セシメサル可ラスト余ノ意見ニテハ既ニ事業ニ著手シ若クハ殆ト充分ニ準備シタル工業的企業ハ吾人カ前ニ述ヘタルカ如ク其事業ニ制限ヲ加ヘ若クハ同種ノ企業ト聯合ヲナシテ其困難ヲ救濟スル能ハサルヲ以テ此ノ如キ企業ハ其目的ヲ實行シ若クハ其事業ヲ繼續スル爲メニ出來ル丈ケ新資本(新ニ發行スヘキ兌換券ヲ云フ)ノ補助ヲ受ケサル可ラス彼ノ銀行商業的企業竝ニ計畫ニ係ル鐵道ノ如キハ工業ニ一步ヲ讓ラサルヘカラサ

ルヲ以テ新ニ增發シタル兌換券ヲ借入レテ充分ニ之ヲ使用スルヲ得サルモノトス

新ニ發行スヘキ兌換券千五百萬圓ノ內ヨリ抵當貸付ノ目的ニ使用セラルヲ得ヘキ金額八百萬圓乃至千萬圓ヲ以テ重ニ最モ必要ナル工業的企業ヲ善良ニスル目的ニ供セラルヽト假定スルモ前ニ記載シタル如ク此種ノ新企業ニ對スル拂込未濟ノ金額ハ四千百萬圓ナルヲ以テ尙ホ著シキ不足ヲ生スルモノトス故ヲ以テ他ノ救濟方案ヲ發見シテ此不足金ヲ補ハサル可ラス實ニ此等ノ企業ノ計畫ニ係ル株金ヲ出來ル丈ケ充分ニ省減スルコト會計ヲ嚴ニシ節儉ヲ勉メ設立者ノ收得ヲ制限シテ數百萬圓ヲ節減スルコト此等ノ企業ノ多數ハ單ニ計畫ニ止マリ未タ事業ニ著手セサルモノナルヲ以テ容易ニ企業ヲ中止スルヲ得ルコト及ヒ一ノ企業ト之ニ類似スル他ノ企業トヲ合併スルコト等ニ由テ幾分カ資本ヲ得ルハ必然ナレトモ尙ホ恐クハ千五百萬圓乃至貳千萬圓ノ不足ヲ生スヘキヲ以テ此等ノ都合ヨキ假定ニ係ル計算ノ如ク實行スル後ト雖モ此不足額ハ尙ホ早晩補ハサル可ラサルモノナリ若シ强テ此等ノ許多ノ企業ヲシテ中止セシムルトキハ株主ニ對シテ利子ト他ノ損失ヲ及ホスト雖モ次年ノ一年間ニ日本ニ於テ蓄積セラルヘキ資本ヲ使用スルヲ得ヘキ希望ナキニアラサルカ如シ然レトモ此希望ハ全ク空想ニ過キサルヘシ何トナレハ新企業(而シテ日本ハ次ノ十年紀ニ於テ尙ホ新企業ニ適當ナル豐饒ノ土地ヲ所有セリ)カ絕ヘス興起シテ年々生スヘキ資本ヲ其目的ニ使用(恐クハ舊時ノ社會ヨリモ尙ホ一層利益アル見込ヲ以テ使用スルコト)スルニ至ルヘキヲ以テナリ

吾人カ唯假定上ニ豫期シタル所ノ總テノ都合ヨキ計算ニ依ルモ此等ノ工業的企業ニ對シテ尙ホ殆ト貳千萬圓ノ不足ヲ生ス況シテ其他銀行ト商業的企業ニ貳千六百萬圓(鐵道ニ五千四百萬圓ノ不足アルヲ以テ之ニ應スル策全クナシト云ハサル可ラス

政府カ此等ノ大問題ニ對シテ事實上著シキ所爲ヲナシ得ルヤ否ヤ余カ甚タ疑惑スル所ナリ彼ノ紙幣ヲ增發スルカ如キハ唯幸ニ撲滅ニ歸シタル紙幣經濟ノ弊害ヲ再燃スルニ過キサルナリ」是ニ由テ之ヲ見レハ日本ニ現存スル救濟手段ハ到底現時ノ恐慌ニ困シム貨幣市場ヲシテ全ク緩慢ノ狀況ニ歸セシムルコト能ハサルハ吾人カ信スル所ナリ殊ニ歲月ノ經過スルニ從テ自然ニ日本ニ幸福ヲ來スヘキ新企業興起シテ益資本ヲ要スルニ至ラン斯ノ如キ狀況ナルニ關セス日本ハ何故ニ國民ノ誤解シタル感情ニ拘泥シテ世界ノ諸國諸國カ同樣ニ自國ヲ高慢スルニ關セス)カ其國ノ經濟的ノ進步ニ使用スルヲ得ヘキ財源ヨリ現時ノ資本恐慌ノ救濟ニ要スル資本ヲ輸入セサルヤ是レ余カ甚タ了解セサル所ナリ余ハ日本ノ利益ノ爲メニ外國人ノ移住ヲ許可セヨト云フニ非ラス唯余ハ外國資本カ充分ニシテ低利ナルヲ以テ之ヲ巧ミニ利用セシメントスルニアルノミ若シ日本カ次ノ十年紀ニ於テ外資ニ依賴スルコトナク獨立獨行スルニ於テハ其資本財產ノ增加ハ甚タ遲緩ナルヘシ且ツ今日ノ經濟的ノ進步ニ必要ナル新企業モ甚タ儉約シテ以テ之ヲ起サヽル可ラサルハ自然ノ結果ナリト云ハサル可ラス然ルトキハ東洋ニ獨立スル日本ハ經濟上ノミナラス政治上ニ於テモ舊世界ト米國及濠洲ノ新世界トノ間ヲ連絡スル關節トナリテ働クヘキ權力ヲ失フニ至ラン然レトモ總テノ內國ニ於ケル救濟手段(假令ヒ其一部分ハ外國資本ヨリ成立スルニモセヨ)充分ニ準備スルトキハ萬國貿易上ノ重要ナル權力モ自然ニ日本ニ歸スルニ至ルヘシ且ツ斯ノ如クシテ拮据勉勵止マサルトキハ東洋ニ於ケル競爭者ノ先進者トナルハ疑ヲ容レサル所ナリ之ニ反シテ唯日本固有ノ資本ノミニ依賴スルトキハ日本

經濟ノ發達ハ極メテ緩慢トナリ其結果モ極メテ些少トナルハ自然ノ勢ナリ

此確實ナル救濟方案(唯內國ノ資本ト信用トヲ以テ困難ヲ救濟スル方案ヲ云フ)ヲ實行スルコトハ遠見ニシテ愛國ナル政府カ瞬時モ忘レサル所ナリ然レトモ之ト共ニ尙ホ今日ノ恐慌ニ必要ナル資本ヲ供給スル方案アルヲ以テ吾人ハ之ヲ直ニ次キニ論辯スヘシ若シ此方案ナクンハ金融市場ニ於テ回復ノ望ミナキ混亂ハ日本全國ノ經濟ニ波及シ數年ノ後ニ及ンテハ日本ノ經濟上ノ發達(余カ前ニ述タル如ク政治上ノ發達ニモ)ニ云フニ忍ヒサル結果ヲ生スルニ至ルハ疑ヒヲ容レサル所ナリ

第五章　外資ノ輸入

甲　外國債ノ手段ニ由テ外資ヲ輸入スルコト

日本現時ノ公債ニ對スル利子ハ殆ト政府ノ歲入ノ三分ノ一ヲ占ムルカ故ニ日本ニ於テ國債ヲ起シ其元利金ノ仕拂ヲ負擔スルコトハ非常切迫ノ時ノミニ限リ且ツ其金額モ成ルヘク小額ナルヲ策ノ得タルモノトナス何トナレハ公債愈〻多ケレハ不平均ニ拂フ所ノ納稅者ニ愈〻不正ニシテ愈〻壓制ナル負擔ヲ加フルニ至レハナリ而シテ日本ニ於テハ租稅殊ニ舊封建時代ニ於ケル高キ地稅ノ改正ヲ實行セサル間ハ斯ノ如キ負擔ノ重ナル部分ハ日本固有ノ小農者ノ頭上ニ落ツルモノトス

此ノ如ク納稅者ニ偏重ノ負擔ヲ來スニ於テハ巨額ノ外債ヲ募集スルコト甚タ不得策ナレトモ納稅者ニ負擔ヲ來スコトナクシテ利益ヲ生スル生產事業ニ向テ外債ヲ使用スルトキハ不得策トナス可ラス假令ハ將來利益ノ望ミアル鐵道敷設ニ外債ヲ使用スルカ如シ日本ニ於テハ既ニ許可ヲ受ケタル鐵道ノ株金ハ五千七百萬圓ナルモ今日マテニ拂込ミヲ了シタル金額ハ僅カニ參百萬圓ニ過キサルヲ以テ若シ此鐵道ノ大半ヲ政府ニ引受クルトスレハ五千萬圓餘ノ外債ヲ此目的ニ供スルヲ必要トス而シテ此金額ハ人民ヨリモ容易ニ政府ニ由テ得ラル、ヤ疑ヒナシ是レ政府ノ保證殊ニ政府ノ財源ノ抵當假令ハ四百萬圓乃至五百萬圓ソ收入ヲ生スル輸入稅ヲ抵當トスルトキハ必ス低利ニテ五千萬圓位ノ外債ヲ募集スルコト容易ナルヘキヲ以テナリ又鐵道ヨリノ收入ハ外債(政府ノ財產ヲ抵當トシテ外債ヲ起スニセヨ)ニ支拂フヘキ利子額ヨリモ多カルヘキヲ以テ負債ヲ償還スヘキ資本ハ速カニ集マルヘキカ故ニ利子ヲ拂フモ毫モ恐ルヽニ足ラサルナリ

斯ク巨額ノ外債ヲ抵當物ナシニ低利ニテ募集スルコトハ困難ナルヘシ況シテ一私人若クハ許可ヲ受ケタル會社ニテ斯ノ如ク莫大ノ金額ヲ募集シ得ルコトハ余カ甚タ疑惑スル所ナリ故ヲ以テ余ハ政府カ利子ヲ保證スルコトハ必要缺ク可ラサル事ニシテ且ツ私立會社カ外債ヲ募集スルトキハ其利子ノ割合ハ政府カ自ラ事業ヲ管理スル時ヨリモ高キヤ必然ナリト信ス

斯ノ如ク政府カ鐵道ヲ管理スルニ於テハ五千七百萬圓ノ鐵道株金ニ對シテ參百萬圓ノ拂込ヲ了シタル株主等ハ既ニ過半敷設ヲ終ヘタル二三ノ小鐵道線ヲ讓リ受クル協議ヲ遂ケ此線路ヨリ其拂込ミニ對スル利益ヲ收ムルヲ良策トス

政府カ現今困難ヲ受ケタル他ノ企業ニ對シテ關涉ヲナス可ラサルハ明白ナリト云フヘシ彼ノ工業的若クハ商業的ニ屬スル企業ハ一私人ノ事業タルヤ疑ヒナシ假令ヒ商業的企業ハ拂込金小額ナルモ其拂込金丈ケニテ容易ニ適宜ニ企業ヲ實行スルヲ得ヘキヲ以テ最モ容易ニ新拂込

ヲ中止スルヲ得ヘシト雖モ工業的企業ニ至テハ單ニ小數ノ場合ニ限ルコトハ余カ前ニ既ニ述タル所ナリ去レハトテ政府ノ外債ハ其管理ニ屬スヘキ鐵道ニ向テ殆ト全ク使用セラルヘキヲ以テ工業的企業ヲ補助スルコト能ハサルヘシ然ルニ工業的企業ハ少ナクトモ日本ニ於テ駸々乎トシテ進歩スル經濟竝ニ之ニ由テ最モ利益ヲ蒙ムルヘキ勞力者ノ爲メニ中絶セシムヘカラサル企業ナルヲ以テ之ニ有用ナル補助手段ヲ供給スル爲メニ他ノ方法ヲ案出セサル可ラス

乙　外國人ノ內地雜居ヲ許シ之ヲシテ自ラ業務ヲ管理セシメ且ツ其資本ヲ放下スルヲ許可スルコト

外國人ノ內地雜居ハ日本國民ノ偏見ノ爲メ既ニ條約ニ由テ拒絶セラルヽヲ以テ之ヲ許可スルコトハ決シテ問題トナルコトナカルヘシ然ノミナラス外國ノ經驗家ヲシテ日本ニ要用ナル新事業ヲ監督セシメ若クハ斯ノ如キ經驗家自己ヲシテ事業ヲ支配セシムルコト能ハサルヲ以テ外資モ決シテ斯ノ如キ事業ノ用ニ供スルコト能ハサルヘシ而シテ工業的企業竝ニ商業的企業ノ多數ハ其事業ノ指揮如何ニ由テ盛衰スルヲ以テ今日ノ如ク外國人ヲ拒絶スルニ於テハ直接ニ外資ヲ得ル能ハサルハ勿論ノ事ナリトス

然レトモ第三種ノ企業卽チ鐵道ハ大ニ之ニ異ナリ若シ此鐵道線路カ交通繁多ナル地方ヲ經過シ且ツ其敷設ノ實行及ヒ企業ニ要スル材料ノ供給モ極メテ便利ナルトキハ利益ヲ生スルハ必然ナルヲ以テ時宜ニ應シテ處分スルカ如キ業務上ノ技倆ハ此等ノ企業ノ利益上ニ關シテ殆ト影響ヲ及ホスコトナシ

丙　外國市場ニ鐵道株ヲ賣却スルコト

以上ノ理由ナルヲ以テ今日ノ有樣ニテハ外國市場ニ鐵道株ヲ賣却シテ外國資本ヲ日本ニ利用スルヲ得ヘシ余カ聞知スル所ニテハ鐵道ニハ政府ヨリノ利子保證アリ且ツ其收入ハ甚タ確實ニシテ歐米諸國ニ比スルモ割合ニ多キモノトス殊ニ此事業ハ經濟上著シク信任ヲ惹起スルニ足ルヘキモノナルヲ以テ外國ノ資本家ヲシテ此事業ノ確實ナルヲ信用セシメ且ツ其利益ノ割合多額ナルニ誘惑シテ鐵道株ヲ購買セシムルニ足ルヘシ

又外國人カ斯ノ如ク鐵道株ヲ所有スルコトヲ許可スルニ於テハ外國人ニ日本ノ事情ニ關係スル機會ヲ支フルノ憂ナクシテ容易ニ外國ノ全市場ヲシテ之ヲ購買スルニ至ラシムヘシ

斯ク鐵道株ヲ都合能ク賣却スルトキハ一私人竝ニ銀行モ其資本ヲ尙ホ一層利益アル內國ノ企業ニ容易ニ放下スルヲ得ヘシ而シテ利子ノ割合ヲ引上ケテ抵當貸付ヲ制限スルノ必要ナキニ至ラン

工業的企業株竝ニ商業會社株ノ信用ハ甚タ微弱ナルカ故ニ之ヲ以テ外資ヲ輸入スルコト殆ト能ハサルハ余カ既ニ述タル所ナリ是ヲ以テ鐵道株ノ賣却ニ由テ得タル資本ヲ以テ困難ヲ受ケタル工業的企業ヲ保護セサルヘカラス

公債證書モ亦外國ニ賣却スルヲ得ヘキハ疑ヲ容レサル所ナレトモ若シ該證書カ前記鐵道敷設ノ爲メニ發行スヘキ新公債ト等シク其利子ノ低廉ナルトキハ自カラ其得意先ノ區域モ狹隘ナルニ至ルヘシ

日本カ近年ニ及ヒテ益〻外國ノ金融市場ニ手ヲ展ハシタルト從來ノ條約面ニ幾分ノ變更ヲ加ヘタルカ爲メ若シ日本國ニ於テ興起シタル新企業カ確實ニシテ其利益モ割合ニ多キヲ見ルニ至

ラハ外人ハ悅ンテ之レニ其資本ヲ投スルニ至ルヘシ抑〻外資輸入ノ事項タル余輩カ今日遭遇スル資本ノ恐慌ニ依テ後來ヲ察スルトキハ日本ノ發達ノ爲メニ資本ヲ要スルコトニ愈〻其必要ヲ感スルヤ疑ナシ是レ日本ニ於テハ經濟上假令ヘ資本ノ必要ヲ感スルモ速カニ之ヲ募集スルノ途ナキヲ以テナリ夫レ今日ノ資本恐慌タル(曩ニ企業ニ免許ヲ交付スルニ方リ大ニ將來ノ爲メニ慮ル所アリタルニ關セス)全ク豫想外ニ出タルモノニシテ今日、日本國カ他ノ開明諸國ト對等ノ地位ヲ占メンカ爲メ前記收益ノ見込アル新企業ヲシテ必ラス其成效ヲ告ケシメントスレハ素ヨリ之ニ資本ヲ要スルハ論ヲ俟タサルナリ而シテ之ヲ內國ニ募ラントスルモ到底緊急ノ需要ニ應スル能ハサルヲ以テ勢ヒ外資ヲ仰カサルヲ得サルナリ若シ此方法ニ依ラサルトキハ日本國ニ於テ稍ヤク萠芽シタル經濟的ノ發達モ爲メニ息止スルカ又ハ退歩スルヨリ外アラサルヘシ

余ノ聞クカ如キハ私立鐵道中獨リ北陸鐵道ノミ政府ヨリ利子保證ヲ與ヘラレタリト而シテ此利子保證アル鐵道株券ト既ニ著手中ノ鐵道株券トヲ外國ニ賣却シテ日本ノ爲メニ資金ヲ調達セントスルモ尙ホ其資金ニ不足ヲ告クルトキハ更ニ左ニ掲クル所ノ株券ヲ外國市場ニ賣却スルヲ可トス

日本郵船會社株券(以前ノ如ク每年政府ヨリ利子保證ヲ與ヘラルヽトキ)

日本銀行株券(特ニ收益ノ多キ紙幣發行權アルヲ以テ)

其他正金銀行、東京馬車鐵道會社等ノ株券

是ヲ以テ困難ヲ受ケタル工業ノ資本ハ前記諸會社ノ株券ヲ外國金融市場ニ賣却シテ之ヲ調達シ又鐵道ノ資本ハ前記ノ如ク政府ニ於テ之ヲ負擔シテ以テ其工事ノ困難ヲ救濟スヘシ

第六章 結論

以上論述シタル各事項ハ實際ニ方テ如何ニ之ヲ施行スヘキヤ否ヤノ點ニ至テハ外國人ハ一ニ之ヲ內國人ニ放任セサルヘカラス而シテ余カ意見ヲ以テスレハ今日尙ホ不足ヲ告クル所ノ資本ノ缺乏ヲ補充セントスルニハ第五章ニ示シタル救濟法ヲ實施スルニ先タチ第四章ニ掲ケタル方法ニ依テ特ニ企業ニ制限ヲ加ヘ其區域ヲ狹小ナラシムルヲ最モ肝要ト認ムルナリ又政府ト雖モ今日ノ如キ切迫ノ場ニ臨ンテハ斷然以上ノ救濟法ヲ行フモ(放任主義ノ流行スルニ拘ハラス)恐ラクハ民間ニ在テ之ニ對シテ異議ヲ唱ソルモノナカルヘシ

次ニ後者卽チ日本興業銀行及農業銀行條例草案ニ就テノ意見ヲ見ルニ左ノ如シ

甲 一般ノ企業法

夫レ諸外國ニ於テ夙ニ興業及ヒ農業銀行ノ類ヲ設置スルニ至リシハ重ニ百三十年來獨逸國ニ興起シタル大ナル組合的ノ信用機關ノ發達ト當世紀ノ中葉後ニ及ンテ頻リニ勃興シタル資本的ノ銀行若クハ株式銀行ト竝ニ小ナル農業的及ヒ工業的信用機關ニシテ此等ノ信用機關カ互ニ相聯合シテ各自ノ獨立ヲ旨トシ特ニ其組合員ノ聯帶責任ニ依リ其信用ヲ博セシニ因ルナリ」大ナル信用機關所謂「ランドシャフテン」ハ日本ノ農業家カ現時ノ如キ狀況ナレハ之レカ必要ヲ感スルコトナカルヘシ然レトモ現今日本ニ散在セル原野及ヒ北海道ノ如キ地方ニ於テ大ナル土地ヲ作ルコトヲ企圖シ以テ大地主ノ組合ヲ設ケテ生產的信用ヲ博セントスレハ此「ランドシ

ヤフテン」ヲ缺ク可カラサルニ至ルヘシ

故ニ農業的信用銀行ノ條例草案ハ「ランドシヤフテン」ト全ク其關係アラサルヘシ

然レトモ右條例草案ニ於テ各自ノ獨立ト對人信用トヲ目的トスル小信用機關ニ著目セサルニ至テハ予ハ之ヲ以テ最モ誤レルモノトスルナリ特ニ日本人ハ昔時ヨリ結社ヲナスノ精神ニ富ムモノニシテ夙トニ二宮金次郎氏カ報德社ヲ設置セルカ如キハ是レ其適例トス實ニ此報德社ハ從來國內ニ於テ目擊セサル外國ノ諸信用機關ニ倣フテ此ノ如キ機關ヲ內國ニ設置シ更ニ當時ノ情況ヲ酌量シテ之ヲ改良スヘキコトヲ切論セリ而シテ予ハ此說ニ依テ組織スヘキ組合ノ方法ト今回ノ農業銀行條例草案トハ其間ニ若干ノ相違アルヤヲ後章ニ至テ說明センヽス

今夫レ前記ノ如キ組合ヲ設立セントスルモ一ニ其株券募集法ノ如何ニ在ルカ如シ而シテ其募集法ニ至テモ金融市場今日ノ如ク切迫セルニ之レニモ拘ハラス各種ノ新企業ハ其資本ヲ要求スル日一日ヨリ太タシキ場合ニ於テ如何ニ之ヲ實施スルヤノ點ニ至テハ予ハ到底斷予タル判定ヲ下スヲ得サルナリ是レ日本國民資本所有ノ關係ヲ見ルコトハ外國人ノ眼ニハ到底內國人ノ眼ニ及ハサルヲ以テナリ故ニ予ハ此等ノ點ニ付テ全ク正當ナル意見ヲ有セサルナリ然レトモ予ハ當大藏省ニ於テ取調ヘタル金融逼迫ノ調査ニ依リ聊カ予カ意見ヲ立ルヲ得タリ雖モ尙ホ之ヲ救濟スヘカラント信スルナリ而シテ計畫ノ大ナル企業新設ニ係ル許多ノ銀行竝ニ講述セントスル銀行ノ如キハ金融市場ニ就テ頗ル其資本ノ必要ヲ見ルモノニシテ殆ント內國ニ於テ漸次ニ增殖シタル資本ノミニ依テハ殆ント其各般ノ要求ニ應スル能ハサルカ如シ玆ニ述フル處ノ農業銀行ト雖モ唯其設立ニ要スル株式資金ノミナレハ其多額ヲ必要トセサレトモ地債

證券若クハ抵當證券ヲ發行シテ大ヒニ土地信用機關ノ運轉ヲ圓滑ナラシメントスレハ更ニ多額ノ資本ヲ要スルモノトス

予ヲ以テ之ヲ見レハ前記抵當證券發行等ノ事ニ就テハ今回ノ條例草案中ニ於テ詳カニ之ヲ知ルヲ得サルカ如シ然レトモ全體農業上ノ信用ニ關スル各般ノ銀行ノ目的ハ假令ヒ銀行カ組合的ニ組織セラルヽト又ハ從來日本國ニ設置シアルモノヽ如ク株式組織ナルトニ拘ハラス一ニ永期ノ償還期限ニテ市場ニ流通スル所ノ抵當證券ニアルカ如シ而シテ株式資本ハ抵當證書購求者ノ爲メニハ其準備基金トナルモノナリ現ニ佛國ノ「クレヂーホンセー」(興業銀行ノ義)ノ如キハ「クルトアー、フヒス」氏ノ說ニ據レハ千八百八十一年ニ於テ其資金僅カニ一億三千萬法ヲ有スルニ過キサリシト雖モ流通ニ充テタル抵當證券ノ金額ハ殆ント一億三千萬法ノ十四倍卽チ十七億萬法以上ニ達セリ夫レ此等ノ割合ヲ以テ觀ルトキハ日本興業銀行ノ株式資金高僅カニ千萬圓ヲ以テシテハ金融市場ニ於ケル各般ノ要求ヲ充タシ能ハサルハ勿論尙ホ抵當證書ヲ流通セシムルニ方テハ更ラニ其資本ニ數倍スル金高ヲ要スルコトハ自ラ明瞭ナルヘシ實ニ其多額ノ資本金高ハ內國ノ金融市場ニ於テ之ヲ調達スルニ足ルヤ否ハ予ノ大ニ怪シム所ナリ加之ノミナラス金融市場ニ於テハ國內ノ各地方及ヒ各縣ニ於テ設立スヘキ農業銀行竝ニ固有ノ資本ヲ有スル許多ノ附屬銀行ヲ必要トスル動產銀行ヨリモ其資本金ノ要求ヲモ受クルニ至ルヘシ

夫レ斯ノ如ク金融市場ハ新企業ニ對シテ生スル所ノ各種ノ困難アルニモ拘ハラス予ハ素トヨリ日本興業銀行及ヒ動產銀行ニ限リテハ今日ノ如キ場合ト雖モ株券ニ依テ資本ヲ募集スルノ方法之レアルヘシト信シ又農業銀行ニハ各銀行ノ聯合法ヲ適用スルヲ可トスルナリ而シテ此

聯合法ハ後章ニ述ヘントスル勧産銀行附屬ノ小營業銀行ニモ之ヲ必要トス

乙　日本興業銀行

第一　今回ノ興業銀行條例草案ニ就キ

今回ノ條例草案ニ據リ興業銀行ニ負擔セシメタル職務ノ權限ハ予ヲ以テ之ヲ見レハ其區域極メテ廣大ナルカ如シ該草案第一條ニ據レハ興業銀行ニハ左ノ事項ヲ實施スルヲ得セシムルナリ

(イ)土地ノ開墾及ヒ改良(ロ)工業ノ進歩及ヒ改良(ハ)府縣等ノ工事ヲ貸付金ニ依テ進歩セシムルコト(ニ)條例草案第三十四條ニ據レハ興業銀行ハ其自己ノ負債證券ヲ以テ農業銀行ノ負債證券ト交換シ得ルカ故ニ小ナル農業的信用機關ニ於テ該負債證券ト同種ノ抵當證書ヲ發行及ヒ流通スルニ方リ興業銀行ハ此等信用機關ニ對シテ一種ノ中央部トナルコト(ホ)第十八條第二項及ヒ農業銀行條例草案第三條ニ從ヒ興業銀行ハ農業銀行ニ對シ該農業銀行ニ屬シタル株金ノ五倍以下ノ金高ヲ貸付セサルヘカラス又貸付スルヲ得ルコト

興業銀行ニハ株式資本ヲ有スルノ他ニ抵當證券否ナ地債證券トモ稱スヘキ負債證券ヲ發行スルノ權アリ故ニ該銀行ハ土地ニ對シ其價格(地券面價格ナルカ)ノ五割以下ニ當ル各種ノ貸付金ニ對シテハ此負債證券ヲ發行スルヲ得ルモノナリ而シテ府縣市町村並ニ農業銀行ニ於テ資本借受人トナリタル場合ニ於テハ別ニ其抵當品ヲ要セス

各種ノ不動產信用機關ニ於テ其業務如何ニ頻繁ヲ極メ隨テ多額ノ費用ヲ要スルモ又之ニ如何ナル理由アルモ其株式資本ヲ以テハ諸般ノ要求ニ應スル能ハサルモノニシテ此等各種ノ銀行ハ組合的ニ組織セラル、ト又ハ株券ヲ以テ設立セラル、トニ拘ハラス之カ抵當證券ヲ販賣シテ其必要ナル財源ヲ作ルナリ而シテ株式資本ハ常ニ抵當證書ニ對シテハ一種ノ保證金若クハ準備基金ニ過キサルモノナレトモ日本ニ於テハ金融市場ニ於テ抵當證券ノ取引ヲナスニ至ルマテ先ツ直接ニ其株式資本ヲ運用セサルヲ得サルヘシ而シテ該金融市場モ日本興業銀行株券ノ取引ヲナスハ一般ニ必ラス內國市場ニ限ラサルヘカラス尤モ此等ノ事項ニ關スル特別規程ハ法律ニ之ヲ掲載スルヲ必要トス

今回ノ條例草案中ニハ(第一)ニ不動產抵當銀行ノ職務特ニ農業並ニ工業ニ關スル事項ヲ記入シ(第二)ニハ土地改良銀行ノ職務ヲモ包含セリ是レ土地改良ハ個人並ニ政事的團體ニテ永久ニ亘ル企業ヲ計畫スルトキハ之ニ其資本ヲ貸付ルニ由ルヘシ而シテ其所謂政事的團體中ニハ森林、道路、疏水、灌漑及堤防會社等ノ如キ經濟的及ヒ收益的ノ聯合ヲモ算入スヘシ(第三)ニハ興業銀行ハ該條例草案ニ據ルトキハ農業銀行ニ對シテ資本ノ貸付ヲナスモノニシテ此際興業銀行ハ中央信用機關トナリテ農業銀行カ其發行シタル抵當證券ヲ以テ單ニ其融通ヲナストキハ興業銀行ハ其固有ノ抵當證券ヲ以テ之ト交換スルヲ得ルモノトセリ

第二　興業銀行條例草案全體ニ就テノ評論

前記日本興業銀行ノ職務中ニ不動產信用銀行及ヒ土地改良銀行並ニ農業銀行ニ關スル三個ノ事項ヲ含有セシムルハ其職務ノ範圍太タ廣キカ如シト雖モ別ニ之カ爲メニ危險ヲ釀スノ憂ナキ以上ハ予ハ條例草案中ニモ井然其區域ヲ區劃シテ之ヲ明瞭ニ規定セサルヘカラスト思惟スルナリ又負債證券ノ發行ニ就テモ亦其事務執行ニ關シテ特ニ明示セサルヘカラス

興業銀行ハ其(第一)ノ職務卽チ不動產信用機關トナリテハ其貸付スヘキ資本ニ對シテ抵當證券ヲ發行スルハ素ヨリノ事ニシテ之ニ關スル特別規定ハ專ラ工業上ノ發達ニ關シテ必要ナルカ如シ而シテ其不動產信用機關トナリテ尙工業的ノ企業ニ對シテ貸付ヲナスニ方リテハ其不動產卽チ家屋製造場ヲ抵當ニ取リ之ニ貸付ヲナスヲ得ルモノナリ尤此際ニ於テハ專ラ其貸付方ニ制限ヲ立テ確實ニ確實ヲ加ヘ其貸金高ヲ不動產評價ノ五割以上ニ達スルヲ許サヽルハ勿論ノコトヽス夫レ歐洲ニ於テハ斯ノ如キ場合ニ至レハ家屋ノ火災保險價格ヲ標準トシテ其最モ低廉ナル割合ヲ以テ貸付ヲナスナリ又農業地ハ如何ナル場合ニ於テモ殆ント其價格ヲ失フコトナシト雖モ之ニ反シテ製造場ハ其場內ニアリテ製造業若クハ之ト類似ノ營業ヲナス間ニ限リ其價値ヲ保有スルニ過キサルナリ之ト一樣ニ工業上ニ供スル不動產、鑛山業等モ甚タ危險ナルヲ以テ之ニ對スル資本ノ貸付方ハ成ルヘク低廉ナル割合ヲ以テ之ヲ爲スヘシ尤モ此種ノ企業ニ關スル會社カ特ニ株式會社ニ組織セラル、トキハ其株券ヲ動產銀行ニ質入レスルヲ得ルカ故ニ此法ニ依ルトキハ蓋シ該企業カ其資本借受程度ノ低キカ爲メニ生スル所ノ必迫ヲ救濟スルヲ得ヘシ

其他日本ニ於テハ特ニ火災ノ憂大ナルヲ以テ火災保險法ニ依テ其憂ヲ除クニ至ラハ亦住居ニ就テモ貸付ヲナスヲ得ヘシ果シテ此種ノ貸付ヲナスノ場合ニ及ハヽ其住居ノ位置ニ依リ其價格ノ五割以下若クハ少シク其以上ヲモ貸付クヘシ又其貸付ノ際器械器具材料及ヒ物品貯藏所等ニモ注意スヘキヤ否ハ特ニ能ク之ヲ確定セサルヘカラス而シテ不動產信用銀行ニ於テ此種ノ貸付ヲナスコトハ素ト該銀行ノ職務內ニ屬セサルモノトス

予ハ曩ニ單ニ土地改良銀行ノ職務ト記載シタル(第二)ノ職務ハ殆ント工業銀行ノ本職トモ稱スヘキモノナレハ予ノ意見ヲ以テスレハ條例草案中ニ於テ大ニ之ニ變更ヲ加フルヲ必要トス

各個人及ヒ政府ノ政事的團體(府縣等)カ土地ノ改良竝ニ工事ヲ企テ該團體永久ノ利益トモナルヘキトキハ之ニ資本ノ貸付ヲナサヽルヘカラス

各個人若クハ其團體ニ關シテハ興業及ヒ農業銀行ノ職務上ニ就テ井然區劃ヲ立ルヲ良トス而シテ農業銀行ハ其條例草案第八條ニ依リ個人ニ於テ土地ノ改良開墾灌漑疏水及ヒ堤防築造等ヲナストキハ之ニ資本ノ貸付ヲナスモノナレトモ此等ノ企業ハ到底個人ニ於テ爲シ能ハサルモノニシテ必ス或組合、町村團體等ヲシテ之ヲ爲サシメサルヘカラス且ツ多クノ場合ニ於テハ此種ノ企業ヲ施行スルニ方テハ興業銀行條例草案第一條ニ據リ政事的團體(府縣等)ヨリ要求アレハ之ニ資本ノ貸付ヲナス處ノ工業ヲモ併セテ施行スヘシ大ナル道路、河岸、堤防ノ築造及ヒ山林開築等ハ此等大ナル團體ノ負擔ニ屬スルト雖モ町村ハ其區域ヲ限リテ此等ノ職務ニ從事スルモノナリ加之ノミナラス町村若クハ稍之ヨリ大ナル團體中ニ在テハ更ニ同業組合ヲ組織スルコトアリ而シテ此組合ハ町村全體ヲ含有スルコトナケレトモ其連帶責任ヲ以テ資本貸付ノ要求ヲナシ得ルモノナリ所謂此組合ナルモノハ予ハ專ラ一定ノ區域內ニ住在スル多數ノ地主カ入會スル組合ヲ指定スルモノニシテ卽チ茶業組合蠶業組合竝ニ同一ノ方法ヲ以テ同種ノ麥種ヲ植付ケ以テ麥酒釀造ニ極メテ必要ニシテ且ツ成ルヘク同種ノ麥粉ヲ得ンコトヲ目的トスル麥粉製產家ノ聯合等是レナリ而シテ今日、日本ノ如ク小ナル土地ノ散在シ小地主ノ存在スル地ニ在テハ此種ノ組合聯合ニ就テ常ニ大ニ信任ヲ置カサルヘカラス若シ此組合聯合ニシテ殆

ント全縣内ニ波及シタルモノニ於テ保證ヲナストキハ此價値タル貧弱ナル町村ノ保證ニ比スレハ遙カニ大ナルヤ疑ヲ容レサルナリ

前記ノ組合ト其趣ヲ異ニシ從來不毛ノ地ヲ大ナル計畫ニ依テ開拓セント企ツルモノ、如キハ日本ニ於テ將來ニ及ンテ其設立ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ此ノ如キ組合ハ或ハ資本ヲ運轉シテ利益ヲ得ントスルノ點ヨリ興起スルコトアリ故ニ此組合ノ目的トスル所ハ今日ノ如キ狹隘ナル耕地ノ區域ヲ擴張シテ各個ノ小地ニ分劃シ以テ之ヲ農業家ニ賣却若クハ賃貸スルニ在ルナリ或ハ其組合ハ大ナル土地ヲ造設セシカ爲メ自己ノ見込ニ依リ土地ノ開拓ヲ計畫スル有志者ノ集合ヨリ成立スルコトアリ而シテ前記二種ノ目的ヲ以テ組合ヲ設立スル場合(一個人ニシテ大ナル土地ノ開拓及ヒ造設ニ著手スル者ヲモ此内ニ含有ス)ト雖モ必ラスヤ銀行ノ補助ヲ受クルニアラサレハ其資金ノ調達ヲ爲シ能ハサルモノナリ然レトモ興業銀行若クハ農業銀行ハ果シテ此際ニ方テ其要求ヲ滿足セシムヘキヤ否ヤハ大ニ疑念ヲ免カレサル所ナリ尤モ農業銀行ハ割合ニ少額ノ資本ヲ運轉スルニ止マルコトナレハ必ラスヤ相當ノ資本ヲ有スル興業銀行ニ就テ其要求ヲナスコトアルヘシ夫レ斯ノ如ク興業農業兩銀行ノ業務ハ自ラ其間ニ差異アルコトナレハ條例草案ニ於テモ此兩銀行ノ職務區域ヲ設ケ以テ其貸付金高ヲ確定セサルヘカラス予ハ農業銀行ニ就キ後章ニ於テ詳細ニ之ヲ說明セントス

夫レ資本ヲ要スル企業ノ種類ヲ增多スレハ其資本ヲ興業銀行ニ要求スルコトモ隨テ頻繁ヲ極ムルハ勢ノ免レサル所ナリ是ヲ以テ條例草案第四十三條ニ從ヒ該銀行ヨリ貸付シタル資本金高ニ基キ發行スヘキ負債證券(卽チ抵當證券)ノ最多額ハ拂込株金高ノ十倍ト定メラレタリ而シテ予ノ意見ヲ以テスレハ條例草案ニ於テ抵當證券(卽チ負債證券)ノ發行區域ヲ太タ廣大ナラシムルハ其當ヲ得タルモノニアラス總テ抵當證券ハ何等ノ場合ニ於テモ之ヲ交付スルハ一定ノ抵當品アル時ニ限ルモノニシテ此抵當品タル日本ニ於テハ悉ク不動產ナルカ故ニ之カ運轉ヲナスハ一ニ抵當證券ニ依ルモノナリ然レトモ府縣等ニ於テ永久ノ利益ヲ目的トスル工事ノ類ニ貸付スル資本ニ就テハ此等抵當品ヲ必要トセス尤モ興業銀行條例草案ニ於テモ第十八條ニ據リ斯ノ如キ場合ニ於テハ抵當品ノ差入レヲ免除セリ而シテ此ノ如ク抵當品ナキニモ拘ハラス條例草案ニ據レハ凡テ此種ノ貸付資本ハ負債證券ヲ以テ之ニ代用シテ其融通ヲ爲スヲ得セシメ此等ノ處置素ヨリ正當タルヘシ而シテ動產銀行ノ定款ニ就キ其起草者カ一々譯述セラレタル所ヲ見ルニ町村負債媒介ノ事タル彼ノ地債證券ヲ特ニ賞金付償還ノ方法ヲ以テ發行スル所ノ土地信用銀行ニ之ヲ限ラシメタリ日本ノ條例草案ハ銀行ニ於テスル此負債媒介ノ業務ヲ汎ク政府ニ隸屬スル各部卽チ府縣ニマテ及ホサシメタリ然レトモ府縣ハ稍大ナル各町村ト共ニ漸次時ヲ經ルニ隨テ自ラ獨立シテ債券ヲ發行スルノ權ヲ有スルニ至ルヘシ現ニ東京ニ於テハ水道築造等ノ目的ノ爲メニ債券ヲ發行セントスルカ如シ是ヲ以テ將來ニ至ラハ唯小ナル町村ニ限リ金融市場ニ於テハ土地信用銀行ノ補助ヲ得テ初メテ資本借受トナリ而シテ信用アル銀行モ之カ爲メニ其保證ノ勞ヲ取ルニ至ルヘシ夫レ此ノ如ク大ナル政事的團體ハ獨立シテ債券ノ發行ヲ爲スカ故ニ從來銀行ノ此等ニ關スル責任ハ漸次ニ解放セラルヽニ至ルモノナリ尤モ此等必要ノ事項ハ獨逸方式ニ模倣シテ編纂シタル町村制中ニ掲載シアルヘシ(予大學ニ於テ實地上又ハ特ニ學理上ノ講義ヲナスニ方リ日本ノ町村制竝ニ新制ノ商法カ極メテ必要ヲ感ス

ルト雖モ惜ムラクハ予未タ此等ノ法律制度ニ通曉セサルコトヲ(其他土地信用銀行カ確實ナルニ隨テ株式資金募集竝ニ彼ノ負債證券發行ノ途ヲ擴張スルコトモ該銀行資本ノ安固ナルカ爲メ愈〻容易ナルニ至ルヘシ

而シテ予ハ興業及ヒ農業兩銀行ノ條例草案ハ土地改良ノ目的ニ關シテハ尙ホ佛國ノ同條例ヨリモ一層注意ヲ加ヘンコトヲ希望スルナリ彼ノ佛國ノ「クレヂー、ホンセー」ノ組合員ニ就テノ勅令「ツユベルジー」氏法律類纂中千八百五十二年ノ法律類纂二百八十五頁竝ニ「クレヂー、ホンセー」ニ關スル法令(千八百五十二年三月二十八日及ヒ四月九日ノ同法律類纂二百九十七頁)ニハ銀行ノ目的上ニ就テハ專ラ不動產ヲ抵當ニ取ルコト竝ニ土地所有主ノ負債ヲ償還スルコトノミヲ記載セリ而シテ佛國ニ於テモ「クレヂー、ホンセー」ヲ設立スルニ方テヤ恰モ往時李國ニ於テ「ランドシヤフテン」ヲ創立スル時ノ如ク土地所有主ニ永年ノ間償還期限ノ逼迫セサル資本ヲ貸付シ一ハ之ヲ以テ其切迫セル舊債ヲ拂ハシメ一ハ之ヲ以ヲ生產上ノ目的ニ供セシメント勉メタリ又佛國ノ農業上ノ狀況ハ他ノ歐洲諸國ト別ニ異ナルコトナカリシト雖モ土地ノ賣買自由ナリシニ由リ其價格ノ極メテ大ナル所有地ハ隨テ不相當ノ負債ヲ有シ且ツ債主ニ於テハ隨意ニ其銷却期限ヲ定メシヲ以テ遂ニ其負債主タル所有主ヲシテ非常ナル困難ヲ受ケシメシコト往々之レアリ加之ノミナラス歐洲ニ於テハ分派相續法ノ行ハル、ヲ以テ概ネ之カ爲メニ負債ヲ起シ實ニ農業家ニ取テハ其最モ大ナル困難ヲ受ルノ基トナリシナリ夫レ此ノ如キヲ以テ常ニ銷却期限ノ逼迫スル抵當物ニ就テハ其負債主タル土地所有者ニ於テ永年ノ間銷却スヘキ資本ヲ借受ケ之カ取戻ヲナシ之ニ改良ヲ加フルノ必要ヲ感シタリト雖モ如何セン農業家ハ其借受ケ

タル資金ヲ以テ更ニ土地改良ノ爲メニ之ヲ應用セントシタルモ到底之ヲ爲シ能ハサルコトヲ而シテ予ハ曩ニ詳述セシ如ク日本ノ農業家モ逼迫セル負債ヲ有スルハ爭フヘカラサルコトナレトモ其狀態歐洲ノ農業家ト大ニ其趣キヲ異ニスルカ如シ卽チ非常ナル農業上ノ改良耕地ノ大ナル擴張及ヒ新規ノ耕作法ノ實施卽チ現時日本ニ於ケル農業上ニ取テ此等必要ノ諸件ノ如キ佛國ニ於テ土地信用銀行ヲ設立セシ時日本ニ比スレハ其必要ヲ見ル甚タ少ナキモノニシテ李國ニ於テ「ランドシヤフテン」ヲ設立シ又當世紀ノ中葉ニ及ヒテ其他ノ歐洲諸國ニ於テモ一般ニ株式土地抵當銀行ヲ設置セシ時稍〻前記諸件ノ必要ヲ感スルニ至レルモノナリ然レトモ日本ニ於テハ斯ク其必要ヲ感シ遂ニ土地信用銀行設立ノ氣運ニ傾キシモノハ抑モ別ニ特殊ノ理由アリテ然ルモノトス千八百五十二年二月二十八日ノ佛國法律第一條第一項ニ於テハ不動產所有主ハ長期ノ銷却法ニ依リ其負債ノ義務ヲ解除スルヲ得ト記載シアルヲ見レハ「クレヂー、ホンセー」ノ組合員カ斯ノ如キ方法ヲ以テ其負債ヲ銷却セントノ目的ヲ有セシヤ明カナリ而シテ此理由アルヨリ同法律第四ニ於テハ不動產抵當ノ義務ヲ解除スルコトニ就テハ全ク特別ニ取扱ヲナスコト、セリ是ヲ以テ土地信用銀行ヨリ借受タル資本ヲ以テハ他ニ入置キタル抵當品ノ取戻ヲナスカ故ニ該資本ハ第一債主タル地位ヲ占ムヘキハ敢テ論辯ヲ俟タサルナリ故ニ日本ノ興業銀行條例草案ニ據ルモ該銀行カ資本ノ貸付ヲナストキハ右ニ均シク第一債主ノ地位(興業銀行條例第十九條及ヒ農業銀行條例第九條)ヲ得ルヲ以テ銀行ハ別ニ資本借受人ノ紹介アラサルモ夙トニ其不動產ヲ抵當ニシテ借受ケタル負債ヲハ直接ニ該銀行ノ手ヲ以テ其舊債主ニ之ヲ返辨セサルヘカラス然レトモ實際ニ在テハ大ニ其趣キヲ異ニスルモノニシテ時ニ過分ノ

負債ヲ有スル小土地ニ在テハ之ヲ抵當ニ取リ銀行ニ於テ貸付タル現價五割ノ金高ヲ以テシテハ到底償却期限ノ切迫セル舊負債ヲ償還シテ其抵當品ノ取戻ヲ爲シ能ハサルカ如キコト往々之レアルナリ是ヲ以テ興業及ヒ農業兩銀行ニ就テハ其固有ノ職務特ニ土地ノ開墾森林ノ開拓等ニ關スル事項卽チ撒孫國土地改良銀行ニ於テ特別ノ職務ト看做ス所ノ事項ヲ實施スヘキコトハ到底之ヲ望ムヘカラサルナリ

夫レ然リ故ニ日本ニ於テハ佛國法律ト雖モ直チニ移シテ之ニ倣フトキハ全ク其利アラサルヲ見ルナリ故ニ予ハ宜ク國內ノ事情ヲ顧ミ實際ニ臨ミテ各般ノ問題ヲ決定スルコトヲ忘却スヘカラサルコト、思惟スルナリ實ニ佛國法律ハ日本ノモノトシテ殆ント其用ヲナサヽルコト敢テ他ノ諸國ト異ナルナカルヘシ而シテ外國法律ノ如キハ彼ノ農業上ノ問題卽チ一回一定ノ方式ヲ立ツルトキハ容易ニ變更又ハ俄然補緩シ得サルモノニ之ヲ採用スルヨリハ寧ロ新タニ財政ノ組織ヲ爲シ若クハ時宜ニ適應スル行政法ヲ設ケ特ニ大法典ヲ編纂スルニテ之ヲ採用スル却テ其益ノ大ナルヲ知ルナリ予以爲ラク外國ノ方式ニ模倣セントスレハ專ラ日本ノ現情ニ適合スル箇條ノミヲ撰擇スルニ如カザルナリト

日本ニ於テハ今日實際ノ農業問題ニ關シテハ以下揭クル二個ノ事項ニ著目セサルヘカラス卽チ(第一)小農民ノ負債ヲ減却及ヒ償還スルノ方法(第二)農業ヲ適宜ノ信用機關ニ依テ興起セシムルノ方法是レナリ而シテ其第一ノ事項ニ就テ特ニ注意ヲ加ヘサルトキハ土地信用銀行ヨリ資本ヲ借受クルモ單ニ其負債ノ一部ヲ償却シ得ヘキニ過キスシテ土地改良等ノ爲メニハ毫モ其用ヲナサヽルニ至ルヘシ

吾人ハ工業ノ進歩ヲ目的トスル銀行ニ就テハ前記ノ考案ヲ實施スルヲ得サルモノニシテ實ニ工業銀行ノ如キハ年ノ經過中漸次蓄積シタル舊債ヲ償却セシムルノ目的ヲ有セサルモノナリ而シテ農業地ハ他ノ農業上ニ供セサル所有地ニ比スレハ從來ヨリノ經歷上ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ其徵證ハ農業地ハ一般ニ書入レヲナシ負債ヲ有セサルモノナキヤヲ見テ知ルヘシ

予ハ素ヨリ農業上ノ信用機關ヲ設置スルト同時ニ亦小地主ノ負債ヲ償還セシムルノ規程ヲ設クルヲ以テ極メテ必要ト認ムルナリ予ハ此事ニ關シテ反覆熟考ヲ遂ケタル後日本ノ土地改良ト題シタル予カ著書中業ニ已ニ之ヲ論述シタリ而シテ土地改良銀行若クハ興業銀行ノ如キモ唯其名ノミニテ之カ本來爲スヘキ目的ニ就テハ殆ント其用ヲ爲サヽルモノニシテ該銀行ヨリ貸付スル資本ハ土地改良ノ爲メニハ一モ其用ヲ爲スニ遑マアラスシテ更ニ該資本ヲ轉シテ全ク不動產ニ係ル負債ヲ償却スルノ途ニ使用セサルヲ得サルカ如シ

前記不動產ニ係ル負債ノ償却ハ如何ナル方法ヲ以テスレハ最モ之カ便宜ナルヤハ予カ著書(卽チ日本ノ土地改良)中十七頁乃至二十頁ニ之ヲ揭載セリ若シ此法ニ據テ負債ノ償還ヲナストキハ政府モ夥多ノ金高ヲ支出スルニ窮スルコトナク納稅者モ其負擔ノ重キニ苦シムカ如キコトナカルヘシ

予ハ既ニ前章ニ陳述セシ如ク興業(農業兩銀行條例草案ノ目的ハ專ラ農業ヲ促進セシムルニ在リ而シテ此目的ヲ達スルニハ當初撒孫國ニ設置シタル土地改良銀行ヲ可トス今此銀行ヲ日本ニ設立セントスレハ該銀行ニ倣フテ設立シタル諸國ハ一般之ヲ政府ノ信用機關トナスヘシ而

シテ政府ノ資本ハ土地改良ヲ爲サシムル爲メ不動產ヲ第一抵當ニ取リタル上之ヲ貸付スルモノニシテ廣義ノ解釋ヲ加フレハ一私人町村及ヒ組合(河川開鑿道路改良森林開拓組合)等ニモ該資本ヲ貸付スルコトアルヘシ

日本ニ於テ前記政府ノ信用機關ヲ設立スルトスルモ予ヲ以テ見レハ其信用機關トシテハ未タ完全ナル方法手段ヲ得サルモノナリ予ハ興業銀行條例草案ニ掲載シタル方法卽チ株式及ヒ抵當證券ニ依テ資本ヲ募集スルコトハ現時ノ情勢ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキモノト信シ且ツ予ハ此等ノ方法手段アルニモ拘ハラス政府ハ日本ノ爲メニ其資本ノ負擔ヲナサンコトヲ望ム又予カ意見ヲ以テスレハ興業銀行ニハ前記資本募集ノ職務ヲ實施セシメ而シテ興業銀行ト密著ノ關係アル農業銀行ニハ條例草案中ニ掲載シアルヨリモ一層獨立セル動作ト別種ノ組織ヲナサシムルヲ必要トス尤モ此組織ノコトニ就テハ特ニ後章ニ於テ陳述セントス

前記ノ理由アルニ依リ予ノ思惟スル所ヲ以テスレハ農業ニ關スル重要ナル職務ハ興業銀行之ヲ負擔スルモノナリ而シテ該銀行ニ於テ株式資本ヲ募集スルニ方テ政府其幾分ヲ負擔スルコトハ啻ニ該銀行維持ノ爲メニ必要ナルノミナラス興業銀行カ農業銀行ニ貸付スヘキ諸般ノ補助金貸付スヘキ資本ノ利率ノ規定竝ニ抵當證書ニ關シテモ特ニ其必要ヲ見ルナリ又興業銀行ノ業務カ繁榮ニ趨クトキハ農業銀行ハ該銀行ヨリ獨リ長期ノ償却期限ヲ以テ資本ノ借受ヲナシ得ルノミナラス隨テ土地改良ノ目的ノ爲メニ低利ノ資本ヲ借受クルニ便ナリトス然レトモ單純ナル株式銀行ニ在テハ一割乃至一割五分以上ノ利子ヲ付スル資本ニアラサレハ之ヲ貸付スルヲ得サルヘシ故ニ此ノ如キ高利ノ資本ハ到底土地改良ノ目的ニ供スル能ハサルナリ而シテ政府ハ銀行ノ目的トスル處全ク公衆ノ利益特ニ農業ノミニ限ラス尙ホ興業ヲモ直接ニ裨補スル點ニアレハ其資本ノ負擔ヲ承認スルモノナレトモ若シ然ラスシテ銀行カ各營業社會ノ一方ニ偏シテ之ニノミ裨益ヲ與フルカ如キコトアラハ其承認ヲ許サヽルナリ尤モ政府ニ於テ保護ヲ與フルノ方法ニ就テハ宜ク其規程ヲ設ケ以テ政府ハ一定ノ利子保證ヲナスカ若クハ銀行ニ極メテ低利ヲ以テ貳參百萬圓ノ資本ヲ貸付スヘシ此ノ如クスルトキハ政府ハ啻ニ利率ノ標準ヲ勉メテ低落セシムルノ權力ヲ有スルノミナラス尙ホ銀行ニ於テ公益トモナルヘキ企業ヲ計畫スルニ方テ大ニ之カ監督ヲナスノ權ヲ有スルモノナリ又抵當證券ノ如キハ之ヲ發行流通スルハ各土地信用銀行ノ職權內ニ屬スレトモ間接ニ此等業務ノ實施ヲ便ナラシムルハ皆政府ノ力ナルヘシ如何トナレハ政府ハ其抵當證券ヲ以テ公ケノ貨幣各種ノ保證金裁判上ノ費用貯金及ヒ預金等ニ代用ナサシメ且ツ適宜ナル價格ト及ヒ極メテ確實ナル政府發行ノ有價證券ト同一ノ利率トヲ以テ之ヲ政府ノ銀行(日本銀行)ニ書入レスルコトヲ許スヲ以テナリ蓋シ此ノ如クシテ適當ナル價格ノ割合ト利率トヲ以テスレハ興業銀行カ特ニ其得意先キト認ムル町村モ隨テ該銀行ニ就テ其負債ヲ起スニ至ルヘシ其他政府ハ抵當諸券ヲ高價ヲ以テ抽籤スルコトノ保證ヲ爲スカ故ニ自ラ抵當證券ノ金融市場ニ於ケル取引ヲシテ自ラ活潑ナラシムルヲ得ヘシ故ニ政府ハ新タニ發行セル抵當證券ニ就テハ千八百五十二年二月二十八日ノ佛國法律第五條ニ示定スルト同一ニ直接及間接ノ保證ヲ與フルモノナリ

從來土地改良銀行ノ設ケアル地ニ在テハ政府之ニ必要ナル資本ヲ投スルナリ故ニ予ノ意見ヲ以ナスレハ日本ニ於テハ政府其資本ヲ下付スルノ力ニ自ラ限リアリトスルモ又資本ニ富裕ナ

ル米國ト雖モ如何ナル故カ公然土地改良銀行ノ設立ヲ贊助スルノ意ナカリシコト例アリトスルモ日本政府ハ之ニ拘ハラス予カ已ニ簡單ニ略述シタル規程内ニ在テ其幾分ノ資本ヲ負擔スヘキハ勿論ノコトタルノミナラス苟モ内國ノ利益ヲ計ルカ爲メニ其不用ニ屬シタル財源ヲ更ニ開發シ且ツ二十年以來實施シタル農業上ノ改良ヲシテ著々其歩ヲ進マシメント欲セハ必ラス此法ニ由ラサルヲ得サルヘシ

右ノ理由ニ依リ興業銀行及ヒ之ニ附屬スル農業銀行ハ負債義務解放銀行竝ニ資本貸付銀行トモナリテ農業上ノ改良ヲナスヘキ此二樣ノ目的ヲ達スルヲ得サルモノナリ而シテ農業家ニ就テ見ルモ其過半ハ假令ヒ資本ノ貸付アルモ前以テ負債ニ一定ノ割合ヲ定メテ之ヲ償却スルコトヲ爲サス唯之ヲ以テ眼前切迫シタル高利ノ負債ヲ除クニ過キサルヘシ特ニ今日農業上ニ取テ缺クヘカラサル彼ノ土地改良、森林開拓等ノ目的ニハ毫モ之ヲ供スルコト能ハサルヘシ又土地所有者ノ如キハ一ニ其書入質ノ流ルヽヲ恐ルヽカ故ニ新ニ民間ヨリ期限ノ切迫セル資本ヲ借受ケ必ラスヤ之ヲ以テ其究迫セル高利ニ充ツルナルヘシ夫レ斯クノ如クシテ高利ヲ拂フニ至テハ到底農業ノ改良ヲ期スヘカラサルナリ

前記ノ事アルニモ拘ハラス予カ著書(即チ日本ノ土地改良)ニ揭ケタル負債償還法及ヒ大小兩種ノ土地信用銀行ノ設置モ直チニ之ヲ實行シ得ルモノニシテ此等ノ土地信用銀行ノ如キハ各般ノ組合及ヒ町村ニ於ケル目的ノ爲メニハ最モ其效力アルヘシ而シテ該銀行ニ就テハ負債ヲ有セサルカ若クハ僅カノ負債ヲ有スル土地所有者ト雖モ尙ホ該銀行ノ保護ヲ受クルヲ得ルノ例アルカ故ニ多額ノ負債アル土地所有者ハ此例ニ倣ラヒ之カ先ヲ爭フテ該銀行ニ就キ以テ其餘

澤ヲ受クルナルヘシ而シテ銀行實際ノ點ヨリ云フモ其開業ノ當日ヨリ非常ナル多額ノ要求ニ應セサル上ハ必ラス其利益ヲ收ムルナルヘシ又銀行職務ノ範圍内ニ在テ發行スル夥多ノ抵當證券即チ地債證券ノ如キハ其當初ニ在テハ銀行預金ノ少額ナルト其證券ノ新規ナルトニ依リ直チニ金融市場ニ於テ其價値ヲ博セサルヘシト雖モ將來ニ至テハ必ラス世ノ嗜好ニ適スル一ノ有價證券トナルハ毫モ疑ヒヲ容レサル所ナリ

曩ニ記載シタル興業銀行ノ(第三)職務即チ興業銀行ハ農業銀行ニ對シテハ資本ノ貸付所トナリ而シテ農業銀行ニ於テ發行シタル抵當證券即チ地債證券ヲハ興業銀行固有ノ同證券ト交換シ得ルトノ事項ニ就テハ予ニ於テ未タ其要ヲ盡サヽル所アリト信スルナリ

當初農業銀行ヲ設立スルニ其數若干ヲ要スルヤノ點ニ至テハ未タ決定セサル所ナリ然レトモ其數ヲ僅少ニスルハ到底望ムヘカラサルコトナルヘシ尤モ農業銀行ニ於テ管理スル金高ノ寡少ナルヲ以テ隨テ其業務ノ區域モ狹隘ナルニ相違ナカルヘシト雖モ其業務ノ範圍ニハ自ラ一定ノ程度アルヘシ是ヲ以テ農業銀行ハ各縣内ニ設置スヘキ乎若クハ數縣相合シテ其内ニ設置スヘキ乎ニ至テハ大ニ熟考スルヲ要ス今回ノ草案ニ據テ見ルトキハ農業銀行ハ各縣ノ資本要求ニ應スヘキヲ以テ恐ラクハ其要求事件カ極メテ多カルヘシト信ス

其他興業及ヒ農業兩銀行ノ業務上ノ範圍ニ就テハ井然之カ區劃ヲ立ツルヲ必要トス實ニ今回ノ兩銀行條例草案ニ據テ見レハ其間ニ判然タル區劃アラサルヲ以テ其業務上ニ生スル衝突ハ到底免カレサルヘシ

又興業銀行ハ農業銀行ノ爲ノニハ一種ノ中央機關トナリテ之ニ資本ノ補助ヲナシ且ツ特ニ兩

行一致ノ抵當證券卽チ地債證券ヲ流通セシムルノ所タルヘシ又此ノ如キ所タラサルヲ得サルナリ而シテ農業銀行ノ數增多スレハ其抵當證券ヲ一致シテ流通スルコトモ隨テ頻繁ナルニ至ルヘシ

以下農業銀行草案ニ就キ明細ニ意見ヲ加フルニ至ラハ前記不明ノ點ヲモ併セテ陳述セント欲ス

丙　農業銀行

第一　今回ノ農業銀行條例草案ニ就テ

農業銀行ノ業務ハ其名稱ノ通リ唯農業經濟ヲ進捗セシムル事ニ限ルモノトス其營業ノ範圍ハ勿論地方ニ限ルモノニシテ條例草案第四條ニ據テ規定セラルヽモノトス而シテ第二條ニ據レハ其資本ハ五萬圓以上ナラサルヘカラストアルヲ以テ見レハ其營業ハ甚タ狹少ナルヽシ又其營業業務ハ之ヲ第八條ニ確定シアリテ土地改良ヲ進捗スルヲ以テ其任トスル彼ノ興業銀行ト或ル點ニ於テハ全ク同一ノモノナリ第八條ニ據レハ農業經濟ニ於ケル小需要卽チ種子、農具、肥料及ヒ農用ノ船車牛馬等ノ如キ小需要品ヲ供給スルハ是農業銀行ノ特殊ノ事務タルヲ知ルヘシ但シ第八條ノ一二項ニ據レハ之レヨリ一層弘大ニシテ興業銀行ノ營業範圍ニ屬スル企業モ亦取扱フコトアルモノトス農業銀行ハ興業銀行ト同一ノ方法ヲ以テ其貸付ニ對シ地債證券ヲ發行ス然レトモ其額面ハ第二十七條ノ二項ニ據レハ拾圓ヨリ貳百圓マテノモノナラサルヘカラサルモ興業銀行ハ第四十一條ノ二項ニ據テ貳拾五圓乃至貳百圓ノ債券ヲ發行スルヲ得ルモノスト故ニ農業銀行券ヲ以テ興業銀行券ト交換スルニ方リ興業銀行ヨリ兩銀行ノ連帶負債證券ヲ發行セサルニ於テハ農業銀行ハ其交換ニ就キ少シモ顧慮スルヲ要セス又興業銀行ハ其株金ノ十倍迄債券ヲ發行スルヲ得ルニ農業銀行ハ第二十九條ニ據テ其株金ノ五倍丈ヲ發行スルヲ許サル其他第十三條ニ據レハ興業銀行ノ貸付期限ハ五十箇年ニ亘ルヲ得ルモ農業銀行ノ貸付ハ唯十五箇年ノ期限ヲ許スノミ諸府縣等ニ貸付クル事ニ就テハ草案中別ニナキ所ナリ勿論之レハ取除キタルモノニシテ唯一個人ニ貸付クル場合ヲ記スルモノナリ抑モ興業銀行ハ下文ニ陳フル如ク農業銀行ニ對シテ中央地債證券ヲ發行シ且ツ又資金ヲ以テ農業銀行ヲ幇助ス而シテ其幇助ハ貸付ノ姿ニテ之ヲ爲シ其貸付ノ額高ハ第三條ニ據レハ農業銀行ノ拂込資本額ノ五倍ヲ超過スルヲ得サルモノトス然ルニ第二十九條ニ農業銀行ノ負債證券ハ興業銀行ノ貸付額(卽チ其最高額ハ農業銀行ノ拂込資本ノ五倍ナリトス)ニ超過スヘカラスト規定セルハ債券發行ノ制限少シク嚴酷ニ過クルヲ見ルヘシ是ヲ以テ農業銀行ハ興業銀行ヨリ貸付ラレテ其資力ヲ得サル以上ハ獨立ニ自己ノ土地抵當負債券ヲ發行スルヲ得スト論スル者アレトモ是レ恐ラクハ草案者ノ目的ニ非サルヘシ然レトモ此重要ナル點ハ原來不明ニ屬スルヲ以テ若シ債券ノ發行上記ノ如キニ過キサルトセンカ農業銀行ハ唯興業銀行ノ一種ノ　店タルニ過キサルヘク然ルトキハ農業銀行ノ地債證券ト興業銀行ノ地債證券トノ　換ハ太タ易々タルモノニシテ別ニ論述ノ必要ナカルヘキナリ然リ而シテ農業銀行モ夫ノ興業銀行ニ對スル規程ニ類スル一ノ義務ヲ負フ殊ニ第九條ノ二項ニ據レハ農業銀行ハ借受人カ其舊債ノ銷却ニ充ツル爲メ借受ケル金額ヲ該借受人ニ仕拂ハスシテ直接ニ舊債主ニ仕拂フヘキ義務ヲ負フモノトス

第二　條例草案全體ニ關スル評論

興業銀行カ不動産ヲ抵當ニシテ貸付ヲ爲シテ工業ニ興フル幇助ヲ除ケハ興業農業兩銀行ノ目的ハ農業經濟上共ニ同一ナリ卽チ農業銀行ハ小範圍ニ於テ小規模ノ興業銀行ト見做スヲ得ヘシ故ニ細密ニ兩銀行營業區域ノ境界ヲ立ツルハ最モ必要ノ事ナルカ第八條ノ一二項ニ於テ農業銀行ノ職務ヲ規定シタルニ由リ益〻其營業範圍ヲ定ムルノ必要ヲ感セリ而シテ此等境界區別ヲ立ツヘキ基線ヲ定ムルニハ一方ニ於テハ貸付金ノ額高ヲ以テ之レヲ定メ或ハ一個人ヘノ貸付金ニ由テ之ヲ定メ又他ノ一方ニ於テハ興業銀行ニ於ケルカ如ク農業銀行カ地方ノ組合及ヒ營業組合ヘ與フル貸付ニ由テ之ヲ定ムルヲ得ヘシ然レトモ興業銀行カ能ク直接ニ貸付ヲ爲シ得ルカ如キ一個人ニ係ルモノハ貸金ノ額高及ヒ其之レヲ用フル方法如何ニ注意セサルヘカラス顧フニ一個人カ大土地ヲ需ムルニ關シ興業銀行カ之ニ貸付金ヲ爲スハ之ヲ禁スルヲ善シトス、之ニ反シテ農業銀行ハ新開墾ニ就テモ中農者及小農者ニ貸付ヲ爲スヲ得然レトモ此場合ニ在テハ他ノ疑ヲ避クル爲メ明細表若クハ大報告ヲ要ス而シテ貸付期限ニ就キ兩銀行ニ各〻特殊ノ規程アルヲ以テ今ヤ此別異ヲ正サヽルヘカラス卽チ大規模ノ殖民及ヒ新開墾公益ノ事業或ハ營業組合ノ事業等ニ對シテハ小規模ニシテ漸々ニ行フ耕地ノ擴張、種子、肥料、農具等ノ備ヘ付ニ對スルヨリモ貸付ノ期限長カラサルヘカラス、蓋シ貸付ノ期限長キニ由リ隨テ日本小農ノ家計上ニ關スル勸業及教育ノ點ニ漸々改良ヲ來スニ至ルヘシ

然リト雖モ此種ノ問題ハ之レヲ此等ノ小農業銀行ノ組織問題ニ比スレハ遙ニ第二位ニ落ツルモノニシテ余ハ既ニ此覺書ノ第一頁ニ於テ余カ私見トシテ此等小銀行ノ爲ニ現今モ尙ホ地方ニ盛ナル彼ノ結社心ヲ喚發シ或ハ此結社心ノ片影トモ云フヘキ彼ノ報德社ノ如キモノニ其ノ

關係ヲ連ヌルハ最モ策ノ宜シキモノナリトノ旨ヲ說キタリ

余カ此覺書ノ九頁乃至十頁ニ於テ單簡ニ述ヘタル如ク又余ノ日本土地改良ト題セシ著作中ニ於テ詳細ニ論述セシ如ク小地主ニシテ一旦其負債減少及ヒ負債銷却ヲ行ヒシ後ハ其資本ノ需要ハ復タ格別ノ高度ニ騰ラサルヘク爾後ノ需要資本ハ其之ヲ土地改良及ヒ開墾等ニ用フルノ外ハ重ニ種子、肥料、農具等ヲ得ル爲メニ用フルノミ故ニ每町村或ハ接近ノ町村每ニ一ノ農業銀行ヲ設立スルハ實際不要ノ事タリ余ヲ以テ見レハ一縣每ニ一銀行ヲ以テ足レリトス而シテ一方ニ於テハ「縣農業銀行」ニ從屬連結セル小規模ノ貸付銀行及ヒ組合ヲ小區域ノ地方ニ組織シ以テ一般ニ種子、肥料、農具其他ノ需要ニ充ツルノ業ヲ營マシムヘシ尤モ此等ノ需要ト雖モ小額多ヲ要スルトキハ之ヲ「縣農業銀行」ニ向テ求ムルヲ得ルモノトス然レトモ此場合ニ於テハ專ロ小地方組合ノ組合員ニシテ互ニ相知リ且ツ互ニ相監督視察スル者ノ連帶義務ニ對シ其需要高ニ隨テ之ヲ此小地方組合ニ交付スルヲ宜シトス

此等小地方組合ヲ興スニハ組合員ノ小額ナル負擔株券ヲ以テ其基礎トスルヲ得ヘシ其拂込ハ數回ノモノニシテ一反ノ耕地每ニ平均參圓乃至五圓ナリトス而シテ地方銀行ハ其社員ノ利益ノ爲メ概シテ一種ノ貯蓄銀行ト聯結スルヲ善シトス但此場合ニ於テハ勿論他人ト雖モ其利益ヲ享有スルヲ得ルモノトス然リ而シテ此地方小銀行ニ加入セシムルコトハ政府カ之ヲ命令的ニ强ヒ得ルモノナルニ因リ若シ政府ニシテ負債ニ沈メル農夫ニ强ヒテ此銀行ニ加入セサルヘカラサルノ義務ヲ負擔セシメハ日本ニ於ケル農業經濟ノ改革ヲ爲スニ先チ第一ニ行ハサル可ラサル彼ノ負債償却ハ政府自己ニ引受ケテ之ヲ爲サヽル可ラス然ルトキハ農夫カ其負債償却

ノ爲メ年々仕拂フ少許ノ金額ハ之ニ因テ不用トナルヲ以テ一反ノ耕地毎ニ數圓ツヽ其所有トナスヲ得ヘシ此方法ニ由ルトキハ地方銀行ニ要スル小基金モ容易ニ且ツ迅速ニ成立シ各組合員モ政府ノ强迫手段ニ由テ銀行ニ加入スルコトナク眞ニ自ラ地方銀行設立ノ必要ヲ認メテ之ニ加入スルニ至ラン

右ノ如ク地方銀行ノ管理ニ屬スル基金ハ組合員カ一時金錢上ノ困難等ヲ免レントシ或ハ土地改良新地開拓等ヲ企ツルトキニ貸付スヘキモノナリ尤モ此場合ニ於ケル貸付金ハ概ネ小額ニシテ組合員數名ノ保證ヲ要ス然レトモ彼ノ土地改良新地開拓等ノ場合ニ於テハ貸付金額モ稍〻大ナルヘキヲ以テ借受人ノ土地組合員ニシテ該借受人ヲ充分監督スル者ノ信用及ヒ組合員數名ノ保證ハ此貸付金額ニ對スル抵當トナルモノナリ而シテ地方銀行ハ漸次ニ小貯蓄銀行ノ姿トナリテ他ヨリ金錢ヲ吸收スルニ至ルヘキヲ以テ土地改良、森林改築、灌漑事業、堤防築造等ニ關スル小地方組合モ將來此ノ如キ地方銀行ノ貸付金ニ由テ其組合事業成功シ又耕作ノ擴張ニ要スル高價ノ農具假令ハ蒸汽脱穀器械ノ如キモ組合員相互ノ便利ノ爲メ購入スルヲ得ルニ至ラン斯ク農業改良ノ手段整頓スルニ於テハ二三ノ小地方銀行ハ低廉殊ニ善良ナル肥料、種子、器具ヲ一般ニ供給スルヲ得ヘク又縣農業銀行ハ地方銀行ニ該肥料等ヲ供給シ若クハ其目的ノ爲メ地方銀行ニ對シテ資本ヲ貸付スルヲ得ヘシ

縣農業銀行ハ此等小地方銀行ノ中央銀行トナリテ急ニ使用ノ目的ナキ資金ヲ保管シ又縣農業銀行ハ之カ爲メ其金融手段大ニ擴張セルヲ以テ地方ノ金融不充分ナル場合ニ當テハ貸付等ヲナシテ地方組合ニ保護ヲ與フルヲ得ヘシ而シテ非常ノ不幸ナル場合ニ於テハ地方ノ土地改良

擴張事業、灌漑、疏水、堤防、水岸ノ築造、森林開拓竝ニ地方組合上ノ新地開墾擴張等ニ就キ備荒儲蓄金ヨリノ補助ノ外尙ホ貸付ヲナスヲ必要トス然レトモ此ノ如キ場合ニハ農業銀行ノ僅少ナル株金ニテハ常ニ不充分ナルヲ以テ縣農業銀行ハ條例草案ニ規定セル地債證券ヲ發行シテ其金融逼迫ヲ救濟セサル可ラス尤モ關係ノ地方組合ハ農業興業ノ兩銀行ト共ニ此地債證券ニ對シ連帶責任ヲ有セリ而シテ該地債證券ヲシテ能ク流通セシムル爲メ興業銀行ノ同意ト名義トヲ以テ農業銀行ヨリ發行スル證券ヲ市場ニ出スモノトス余ノ意見ニ據レハ地債證券ハ農業銀行ノ證券若クハ興業銀行ノ證券トシテ發行スルコト農業銀行ノ爲メニ最モ善良ナラント思考ス故ニ寧ロ興業銀行ハ一ノ中央土地信用機關トシテ總テノ地債證券ヲ發行スルヲ可トス尤モ農業銀行ハ其資金ニ應シ該證券ニ對シテ特別ノ責任ヲ有スルハ勿論ノ事ナリ斯ク一箇所ヨリ地債證券ヲ發行スルトキハ最モ容易ニ金融市場ノ信用ヲ得ルニ至ルヘシ故ニ此場合ニ於テハ興業銀行ノ地債證券發行ニ關スル權限ハ擴張セサル可ラス條例草案ニ據レハ興業銀行ハ其株金十倍ノ地債證券ヲ發行スルヲ得ルニ過キサルヲ以テ其外尙ホ之ヲシテ縣農業銀行ノ資產ニ屬スル株金五倍ノ地債證券ヲ發行セシムルヲ可トス彼ノ佛國興業銀行(千八百八十三年巴里出版ニ係ル「アルフ、ユルトワ、フイス」氏ノ公共基金提要ト題スル著書ノ第二百十二葉)ニ於テ發行スル地債證券額ハ其拂込株金ノ二十倍ニ達セリ

故ニ日本興業銀行ノ地債證券發行ニ關シテモ既ニ述ヘタル如ク改正シテ其發行額ヲ增加スレハトテ決シテ過多ナリト云フヲ得ス何トナレハ興業銀行ハ其資金ノ外尙ホ各縣農業銀行ノ總テノ資金ヲ包有スルニ至ルヘキヲ以テナリ

此等ノ改正方案採用セラル、ニ於テハ農業銀行條例草案中ニ於テ該銀行ヨリ發行スル地債證券ノ流通期限ヲ十五箇年ナリトスルノ規定ハ除去セサル可ラス是世上ニ流通スル總テノ地債證券ヲ平等ナラシムル爲メニハ其流通期限モ同一ニセサル可ラサルヲ以テナリ故ヲ以テ佛國興業銀行條例中ニ於テ地債證券ノ流通期限ハ五十年ニ過ク可ラス又二十年以下ナル可ラストノ規定ヲ玆ニ採用スルヲ可トス

地債證券(其利子ノ割合竝ニ其抽籤償還方法ハ一定ノモノニシテ償還ノ際ニハ賞金ノ設ケアリ)ノ發行ヨリ生スル利益金ハ一定ノ割合ニテ興業農業ノ兩銀行間ニ分配スヘキモノニシテ此營業利益金アルカ爲メ銀行ノ株主ヲシテ銀行ニ其資金ヲ投スルノ感情ヲ生セシムルニ至ルヘシ

結論

以上陳述シタル方法ニ據ルトキハ農業的ノ信用機關ヲ設立シ之レト有機的ノ關係ヲ有スル支部機關ヲ置キ之ヲシテ一定ノ營業範圍内ニ於テ其善良且ツ必要ナル業務ヲ日本全國ニ行ハシムルヲ得ヘシ而シテ是レ興業、農業ノ兩銀行條例草案ニ於テ見サル所ナリ實ニ余ノ發議ニ係ル小地方信用組合(即チ小地方銀行)ト其組合カ縣農業銀行竝ニ日本興業銀行ニ對スル密接ノ關係トニ由テ此等ノ農業的信用機關ノ根本カ各町村ニ蔓延シ而シテ其各町村ハ大ナル組合(小地方銀行ノ如キモノナラン)縣組合(縣農業銀行ノ如キモノナラン)及ヒ帝國組合(日本興業銀行ノ如キモノナラン)ト密接ナル連帶責任ノ關係ヲ有スルニ至ルモノナリ故ニ此ノ如キ信用機關ヲ設立スルニ當テハ此等ノ政治上重要ナル目的ハ余ノ發議ノ結果トシテ自然ニ生スルヲ以テ瞬時モ其目的ヲ忘却ス可ラス現時ノ營業方法ニ於テ各地方竝ニ各個人ヲシテ愈獨立セシメントセハ

國民ノ感情ト教育トノ外ニ尚ホ同一ノ義務ニ從事スル各個人ヲシテ總テ經濟上實利的ニ結合セシムル組合ノ設立愈必要ナリトス

是迄ノ陳述ニ於テ余ハ單ニ條例草案ノ大要ニ就テ評論シタリ然レトモ余ノ陳述カ充分ニ了解セラル、ニ於テハ此ノ如キ信用銀行ニ關スル諸般ノ問題ヲ實際的ニ解明スルコト蓋シ容易ナルヘシ

終リニ臨ンテ余ハ一般ノ負債償還ノ事ニ就テ一言セサル可ラス余ノ意見ニテハ前ニ陳述シタル種類ノ信用機關ヲシテ其目的ヲ達セシムルニハ先ツ以テ農民ノ負債ヲ償還スルヲ必要トス彼ノ土地改良、耕作事業ノ變更、耕作地ノ擴張等ハ目下日本ノ經濟社會ニ最モ必要ナルモノナリ然レトモ先ツ以テ農民ノ重キ負債カ減少若クハ全ク償還セラル、ニアラサレハ信用機關ヨリ農民ニ貸付スル金圓ハ全ク負債ノ償還ニ充用セラレ彼ノ生產的ノ目的ニ向テ之ヲ投セントスルモ最早餘金ナキニ至ラン

土地ニ對スル負債ヲ一定ノ程度ニマテ償還スルコトハ農事的信用機關ヲ設立スルニ就テ重ナル助ケトナルヘシ余ノ「土地改良」ト題スル著書ニ於テ主張セル償還法ニ從フトキハ債主ハ政府ノ保證ニ係ル年金ニテ其貸付ケタル資本額ヲ受取ルモノトス然レトモ此ノ如キ低利ノ年金若クハ其代リトシテ日本興業銀行ノ地債證券ヲ受取ルモ債主ノ勝手タルヘシ而シテ此地債證券ハ年金ヨリモ稍高利ナルヘキハ勿論ノ事ニシテ且ツ其抽籤償還ノ時ニ賞金アルヲ以テ許多ノ資本家ヲシテ地債證券ニ其資本ヲ投スルノ心ヲ喚起セシムルニ足ルモノナリ然ノミナラス此等ノ興業銀行地債證券ハ稍低廉ナル發行方法ニテ現時ノ債主ニ交付スルヲ得ヘシ而シテ農民

カ其舊來ノ私債ニ對シテ政府若クハ日本興業銀行ニ仕拂フヘキ償還金ヲ以テ銀行ノ正當ナル資本トナスニ於テハ其地債證券ハ通常ノ方法ニ由テ發行スル證券ヨリモ一層速カニ一般ノ信用ヲ受クルニ至ルヘシ此方法ハ現時ノ如ク金融逼迫ノ時ニ際シテ適用スルニ於テハ其結果必ス善良ナラン何トナレハ土地信用機關設立ノ爲メ之ニ對スル株金カ金融市場ノ大ナル需要ニ應スルノミナラス地債證券ノ發行ハ此機關ノ有益ナル業務ヲ擴張スルノ基礎トナルモノニシテ尙ホ一層ノ需要ニ應スルヲ得レハナリ

是ヲ以テ農民ノ負債償還ハ土地信用機關ノ設立ト同時ニ計畫スヘキモノニシテ斯ク償還スルコトハ農民ヲシテ該機關ヨリノ貸付金ヲ經濟的ノ目的ニ使用スルヲ得セシムルノミナラス尙ホ又該信用機關モ其貸付金カ斯ク經濟的ノ目的ニ使用セラルヽヲ以テ其地債證券ヲ永ク需用スルノ市場ヲ得ルニ至ルヘシ

斯クテ明治二十七年ニ至リ大藏大臣ハ官房第三課長添田壽一ニ命シ更ニ從來ノ條例草案ヲ修正シ之ヲ日本興業銀行法案ト名ケ閣議ニ提出シテ其議決ヲ經タリ然ルニ會〻日清ノ戰役ニ際シ兵馬倥偬新ニ事ヲ興シ業ヲ創ムルノ時ニアラサルヲ以テ政府ハ右法案ヲ帝國議會ニ提出スルニ至ラスシテ止メリ

既ニシテ皇師連捷明治二十八年五月ニ至リ媾和漸ク調ヒ局面茲ニ一變シテ戰後經營ノ聲上下ニ高ク經濟政策上ノ問題翕然トシテ一世ノ耳目ヲ聳動スルニ至レリ卽チ大藏大臣ハ正ニ其時機ナルヲ思ヒ再ヒ同法案ヲ閣議ニ呈出セリ其理由卽左ノ如シ

日本興業銀行ハ農業工業ノ改良發達ヲ計ルノ目的ヲ達スルカ爲メニ不動產ヲ抵當トシ低利ニ

シテ長期ノ貸付ヲ爲スヲ主業トスルモノナリ今ヤ本邦ノ實況ヲ察スルニ農工業ノ發達未タ完カラス是レ不動產ノ信用薄クシテ資財ヲ得ルノ途未タ開ケサルニ職由スルヤ疑ヲ容レス凡ソ物產ノ增殖ヲ求メ農工事業ノ振興ヲ謀ランニハ開墾治水ノ業ヲ進メ灌漑疏通ノ便ヲ開キ耕作ノ方法ヲ改良シ肥料ノ供給ヲ自由ニシ機械ヲ精巧ナラシムル等其地方團體ニ於テスヘキト各個人ノ爲スヘキトヲ問ハス必要ノ事項擧ケテ數フ可ラス而シテ其事業ニシテ功ヲ奏シ利益ヲ生スルハ實ニ十年乃至數十年ノ後ニ在リテ彼ノ商業資本ノ朝夕ニシテ收利ヲ得ルカ如ク迅速ナルコトヲ得ス故ニ商業ヲ媒介シ物貨ノ運轉ヲ掌ル所ノ資本及ヒ機關ノ組織ハ殖產興業ノ用ニ適セスシテ殖產興業ノ用ニ供スヘキ資本ハ自ラ利息ヲ低クシ其償還期限ヲ延長セサルヘカラス而シテ其機關ハ又商業信用機關ノ如ク運轉敏捷ナル能ハサルナリ然ルニ今ヤ殖產興業ニ使用スヘキ資本供給ノ機關具備セサルカ爲メ農業、工業家ハ不動產ノ確實ナル抵當物ヲ有スルモ信用ヲ利用スルノ途ナク其實資本ハ缺乏スルニアラサルヘキモ殆ント然ルカ如キ觀アリ故ニ殖產興業ノ實ヲ擧ケント欲セハ不動產ノ信用ヲ增進シ農工ノ事業者ト資本家トヲ媒介シテ互ニ氣脈ヲ通セシメサルヘカラス興業銀行ハ實ニ之カ機關タリ其債券ヲ發スルヤ之ニ對シテハ確實ナル土地抵當ノ擔保アルノミナラス自己資本金ノ第二ノ擔保タルヘキモノアリ且監督ヲ嚴ニシテ其發行額ヲ制シ元利仕拂ノ期ヲ誤ラサルトキハ其信用益〻堅ク隨テ資本ヲ得ルノ區域亦愈〻擴張スルコトヲ得ヘク貸付金ノ利ヲ低クシ其期限ヲ長クスルモ敢テ損失ヲ招クノ憂ナカルヘシ然リ而シテ興業銀行ハ全國興業信用ノ中心トナリ廣ク眼ヲ國中全般ニ注キ其規模稍〻大ナル所ノ殖產興業ヲ目的トスルヲ以テ其便益必ス〻シモ各地方ニ普キヲ得ス故ニ各地ノ情況

ニ應シ農業銀行ヲ設置シ二者相提携シ以テ大ニ國富ノ發達ヲ計ルハ實ニ目下ノ急務ナリ然リト雖農業銀行ハ其營業一地方ニ限リ其規模亦大ナルヲ得ス隨テ信用厚カラス資財ヲ得ルノ途亦廣カラサルハ勢ノ已ムヲ得サルモノナリ果シテ然ラハ農業銀行ノ資金ヲ得ルニ困難ナル場合ナキヲ保セス故ニ興業銀行ヲシテ農業銀行ノ債券ヲ引受ケシメ以テ容易ニ資金ヲ得ルノ途ヲ與ヘ興業銀行ハ其引受ケタル債券ヲ擔保トシテ債券ヲ發行スルモノトセハ廣大ノ信用ヲ以テ狹少ノ信用ヲ援助シ得ヘク各地農業者ノ爲メ便益ヲ與フルコト決シテ鮮少ナラサルヘシ故ニ宜ク速ニ興業銀行ヲ設立シ土地ノ信用ヲ開通シ殖產興業用ノ資本ヲ增殖シ以テ國力ノ培養セサルヘカラス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

以テ政府ノ眞意ヲ窺フニ足ルヘシ尙ホ大藏大臣ヨリ同法案ニ添付シテ提出シタル日本興業銀行設立主旨說明書ヲ示セハ左ノ如シ

日本興業銀行設立主旨ノ說明

第一　總旨趣

日本興業銀行ノ目的ハ全國農業工業ノ改良發達ヲ計リ地方ノ公益ニ係ル土木工事ノ振起ヲ助クルニ在リ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メニ日本興業銀行ハ土地其他ノ不動產ヲ抵當トシ低利ニシテ且ツ長期ノ貸付ヲ爲スヲ業務トス唯恐ル規模稍廣大ニシテ其利益農家一般ニ普及セサルコトヲ故ニ各地方ノ狀況ニ應シテ農業銀行ノ設立ヲ許シ專ラ其地方ノ區域內ニ於テ農業ノ改良發達ヲ計リ土地所有者ノ爲メ土地ヲ抵當トシ低利ニシテ長期ノ貸付ヲナサシメントス日本興業銀行ハ全帝國興業ノ中心トナリ農業銀行ハ各地ニ散在シ俱ニ共ニ國富ノ發達ヲ計ルハ

國家永遠ノ計ニシテ之カ基礎ヲ定ムルハ實ニ目下ノ急務ナリトス曩ニ政府ハ日本銀行ヲ設立スルノ際豫メ計畫スル所アリシモ當時機未タ熟セサルヲ以テ其設立ヲ猶豫セリ然ルニ今ヤ我國事業ノ勃起スルモノ亦昔日ノ比ニアラス乃チ時機既ニ熟セルト云フヘシ宜ク日本興業銀行及ヒ農業銀行ノ設立ヲ希圖スヘシ請フ其意見ヲ開陳セン

本邦ノ地タル土壤肥沃氣候中和特ニ山海ノ物產ニ富ミ實ニ天府ト稱スヘシ而シテ今ヤ農工商百般ノ事業將ニ長足ノ進步ヲ試ミントシ地方自治ノ體亦將ニ成ランス其之ヲ幇助スルモノナキヲ得サルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ加フルニ四境環海船舶ノ利ハ五州ニ通スヘシ是實ニ水土氣候ノ美天產品類ノ饒ノミナラス船舶往來ノ便亦歐洲各國ノ企テ及ハサルモノアリ且ツ夫レ氣運夙ニ開ケ人智大ニ進ミ工藝美術ニ至リテハ宇內先進ト稱スル諸國ト雖モ或ハ數步ヲ讓ラサルモノナシトセス本邦天府ノ富人智ノ敏之ヲ史籍ニ徵シテ宇內比類罕レナリト云フト雖敢テ溢美ニアラサルヘシ然レトモ我國往時鎖國ヲ以テ國是トシ外ニ通セサルコト數百年加フルニ封建ヲ以テ天下ヲ治メ區々トシテ自ラ劃リ卽チ此天府アリ此人智アリト雖モ未タ大ニ之ヲ啓發養成シテ以テ公同永遠ノ利益ヲ計ルヲ知ラス遂ニ我國ノ文明ヲシテ海外諸國ノ後ニ瞠若タラシムルモノハ蓋シ時勢ノ止ムヲ得サルモノアリト雖夙ニ我政府ノ遺憾トスル所アリ於是乎政府ハ此天府ト人智トヲ利用シ以テ萬國對峙ノ策ヲ講シ大ニ敎化ヲ布キ智識ヲ開ヤ全國公益事業ノ振起ヲ促シ物產繁殖ノ道ヲ開キ全力ヲ盡シテ富國强兵ノ策ヲ講シ二十有餘年孜々勵精一日ノ如ク兵制法律驛政運輸電信鐵道ヨリ以テ諸般ノ事物ニ至ルマテ苟モ富强ノ實ヲ擧ケ文明ノ觀ヲ添フルモノハ日ニ新ニシテ月ニ進ミ駸々乎トシテ長足ノ進步ヲ爲シ其速ヤナル

實ニ四海ノ耳目ヲ驚カセリ然レトモ國家永遠ノ計固ヨリ至難一朝ニシテ能ク其功ヲ全フスル能ハサルモノアルハ亦勢ノ免ル能ハサルトコロ、今日事尚ホ其形已ニ具ツテ其效或ハ擧ラス其實アリテ其形未タ全カラサルモノアルハ蓋シ維新ノ初年一朝海外ノ文物ニ接シ彼ヲ知リ己ヲ識リ長ヲ取リ短ヲ補フノ際或ハ虛名ニ蔽ハレテ其實ヲ擇ハス或ハ外形ヲ具フルニ急ニシテ其效ヲ擧クルニ遑アラス或ハ其實存スト雖改良進歩ノ法律未タ慣習ニ染ムノ暇ナク其餘澤保護ヲ受クルニ至ラサルノ爲ス所ニシテ今日文明ノ象榮然視ルヘキモノアルモ富强ノ實尚ホ遺憾ナキ能ハサルモノハ職トシテ之ニ由ラスンハアラサルナリ

今夫レ國事ヲ說ク者農工ノ宜シク勸誘振作スヘキヲ唱ヘ曰ク農業補助セサルヘカラス工業振作セサルヘカラス農工興ラサレハ物產繁殖セス物產繁殖セサレハ國力益〻萎靡シテ輸出入ノ權衡得テ保持スヘカラスト苟モ世務ヲ談スルモノ日トシテ之ヲ筆ニセサルハナク啻ニ口之ヲ說キ筆之ヲ述フルノミナラス奮然自ラ起テ之カ實行ヲ試ミル者ナキニアラスト雖今退テ全國ノ景狀ヲ視ルニ野ニ未タ收メサルノ遺利アリ民ニ未タ盡サ、ルノ餘力アリテ彼ノ天府ト人智トヲ以テ空シク之ヲ委棄スルモノナキヲ得ス所謂殖產興業ノ道ニ於テ大ニ遺憾ナキ能ハサルハ何ソヤ是其源ヲ開キ流ヲ通スルノ法ヲ究メサルニアルノミ然レハ則チ其源ヲ開キ流ヲ通スルノ道果シテ如何曰ク本邦天府ノ富人智ノ敏固ヨリ此ノ如シ而シテ患フル所ノモノハ獨リ資本ノ得難キニアリ蓋シ全國資本ニ乏シキニアラス其缺乏ノ觀ヲナスモノハ農工者ト資本者ト相接シ相助クルノ道ニ於テ未タ盡サ、ル所アルニ由ルナリ故ニ今此天府ト人智トヲ利用シテ以テ殖產興業ノ實ヲ擧ケント欲セハ須ラク農工者ト資本者トヲ媒介シテ氣脈相接セシムルノ機具ヲ設ケサルヲ得ス是興業銀行及農業銀行設立ノ說起ル所以ニシテ蓋シ勢ノ已ムヲ得サル所ノモノタリ然リト雖興業銀行農業銀行モ亦一機具ノミ若シ徒ニ機具ヲ設クルニ止リ大ニ其實力ヲ發動スルコト能ハスンハ是唯外形ノ觀美ヲ求ムルニ過キスシテ殖產興業ノ實又擧クル能ハサルナリ然リト雖モ正義竊ニ之ヲ既往ニ徵シ將來ニ察シ熟〻之ヲ講究スルニ今日ノ處務順序ハ到底先ツ形體ヲ具ヘテ而シテ其實用ヲ擧クルノ手段ニ出テサルヲ得ス蓋シ形體未タ具ハラスシテ徒ニ之カ實用ヲ擧ケント欲スルハ譬ヘハ尙ホ時夜ヲ鷄卵ニ望ムカ如ク決シテ得ヘカラサルノミナラス殖產興業ノ說將ニ又座上ノ空談ニ止ラントス今日ニ於テ日本興業銀行及農業銀行設立ノ方案ヲ提出スル所以ナリ形體一タヒ具ラハ組織ノ完全ナルト施設ノ宜ヲ得ルヲ力ムルトキハ敢テ難キニアラス進ンテ其實ヲ擧クル亦敢テ至難ノ業ニアラサルナリ

抑モ農工ノ爲メ所靜ノ資本ヲ處理スルノ銀行制度ヲ設立スルハ我國ノ史上今回ヲ以テ始トス從來銀行會社又ハ一個人ニシテ地所家屋等ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノナキニアラスト雖モ是レ尋常貸付ノ事業ニシテ固ヨリ特ニ興業ノ信用ニ由リ資本供給ヲ主業トスル興業銀行農業銀行ノ事業ト同日ニ論スルヲ得ス年賦償還ノ貸付負債證券ノ發行ノ如キ皆我國ノ未タ曾テ經驗セサル事業ナリ然レハ則チ今日之ヲ設立センニハ我國風土人情ヲ觀察シ以テ我國情ニ適應センコトヲ求ムヘキハ固ヨリ言ヲ俟タスト雖モ其組織方法ノ如キハ宜シク之ヲ數十年來實驗ヲ經タル歐洲諸國ノ制ニ求メサルヘカラス蓋シ興業銀行及ヒ農業銀行ノ制タル歐洲諸國ニ行ハル、既ニ久シク其最モ舊キモノハ已ニ百數十年ヲ經其短キモ各〻數十年ノ經驗ヲ積ミ其間改正釐革一ニシテ足ラス以テ今日ノ盛況ヲ致セリ其組織方法蓋シ完全ナリト謂フヘシ今我興業

銀行及農業銀行モ其模型ヲ彼ニ取リ折衷スルニ我國固有ノ慣習ト經濟上ノ狀況トヲ以テセハ組織其全キヲ得施設亦宜キヲ得ルハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

今歐洲諸國興業銀行ノ起原ヲ案スルニ其最モ古キモノヲシユレヂヤノ土地抵當銀行トス彼ノ七年ノ役僅ニ終ルヤ普國人民戰亂ノ餘弊ヲ受ケ創痍未タ癒ヘス積弊相倚リ物價低落シ金利昇騰シ一割以上ニ達シ金融閉塞地主等負債ノ辨償ニ苦ミ終ニ政府ニ請フテ三年ノ償還延期ヲ得ルニ至レリ時勢ノ急土地抵當銀行設立ノ要ヲ告ケ政府三十萬「ターレル」(我貳拾貳萬五千圓)ノ補助金ヲ附與シ終ニ一土地抵當銀行ヲ設立セリ是レ實ニ西暦千七百七十年ニシテ今ヲ去ル凡ソ百二十年ナリ之ヲ興業銀行ノ嚆矢トス尋テポムメルンバヴイエールウルテンベルヒハノヴエルガリシーヤメツクレンブールクザクズエン等ノ諸州ニ於テ興業銀行相接シテ起リ或ハ政府自ラ其事業ヲ統理シ或ハ會社ニ付シテ政府之ヲ監督シ力メテ其信用ヲ鞏固ナラシム故ニ國家非常ノ事變ニ遭遇スルモ該銀行發行ノ負債證券ハ他ノ會社株券等ニ對シテ常ニ高價ヲ保持スルヲ得タリ

佛國興業銀行ハ獨逸ノ制ヲ折衷セシモノナリ蓋シ農工ニ從事スルモノニシテ低利ヲ以テ資本ヲ得ルノ難キト借用期限ノ短促ナルカ爲メ其償還ニ困ムハ各國ノ通觀ニシテ佛國亦之ヲ免カル、能ハス是ヲ以テ土地抵當ノ負債ハ日ニ增加シ殆ト停止スル所ヲ知ラス現ニ當時佛蘭西全國ノ不動產價格ハ五百六十億法(貳億百拾萬圓)ニシテ其負債ハ殆ント八十億法(我國六億萬圓)ニ昇リ其利子年七分トシテ五億六千萬法(壹億千貳百萬圓)ヲ支拂ヒ之ニ加フルニ地租二億四千萬法(四千八百萬圓)ヲ以テスレハ全國土地ノ收益ハ唯一タヒ農家ノ手ヲ經過スルノミニシテ盡ク地租ト利子トニ吸收セラル、ノ有樣ナリキ(佛國興業銀行條例審査委員ノ報告書ニ據ル)是佛國政府カ西暦千八百五十二年ニ於テ興業銀行條例ヲ制定シタル所以ナリ其他墺魯伊等皆農工ノ爲メ特ニ銀行ヲ設ケ或ハ特別ノ貸付方法ヲ設ケサルナシ其原因或ハ亂餘ノ疲弊ヲ醫スルニ出テ或ハ農家ノ舊慣ヲ償ハシムルニ出テ或ハ低利ヲ以テ起業資本ヲ得セシムルニ出テ國其情ヲ異ニシ時其勢ヲ同シフセスト雖要スルニ皆同一ノ目的ニ出テサルナシ抑モ土地抵當ハ尋常資本家ノ好マサル所ナリ故ニ地主强テ資本ヲ得ント欲スレハ必ス高利ヲ拂ハサルヲ得ス而シテ尋常貸付ハ多ク其期限短促ナルニ由リ土地ノ收益以テ之ヲ償還スルノ餘力ナシ土地所有者カ永ク困厄ニ沈淪シテ其生產力ヲ發達スル能ハサル所以ノモノハ皆此ニ在リ是地主ト資本家トノ間ニ立チテ以テ雙方ノ利益ヲ謀ルノ一銀行ヲ設クルノ要アル所以ナリ今ヤ彼ノ諸國物產繁殖シ工業隆起シ文明ノ觀アルノミナラス興ニ富强ノ實アルモノハ工業農業ノ爲メ此便ヲ開キタルノ功蓋シ尠ナシトセス我國風土人情固ヨリ彼ト異ナリト雖其土地抵當ノ常ニ資本者ニ厭忌セラレ貸付期限ノ短促ナルヨリシテ農工者ノ不便ヲ感スルハ前記ノ數國ト殆ト同一轍ニ出ツ夫同一ノ原因アリテ而シテ同一ノ結果ナキハ天下未タ之アラス我國維新以來百事緒ニ就キ農工業ノ如キモ之ヲ往日ニ比スレハ固ヨリ進歩ノ觀ルヘキ者ナキニアラスト雖モ其緩慢徐遲ナル殆ト停滯ノ狀ヲ呈ハシ頗ル人意ニ歉ラサルモノアルハ農工者カ十分ニ資本ヲ利用スルノ餘力ナキニ職由スルヤ疑ヲ容レサルナリ蓋ハ方今ノ景狀ヲ察シ將來ノ目的ヲ定メ速ニ日本興業銀行及農業銀行ヲ設立シ漸次歩ヲ進メ專ラ殖產興業ノ實ヲ擧クルヲ主トシ以テ彼國今日ノ盛ヲ他日我邦ニ見ルニ至ランコト是正義カ切ニ希望スル所ナリ